

# 演習林年報

2020 年度活動報告等

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林  
2021.9



はじめに

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林は、森林を対象とした教育・研究の場を提供するために設置された研究科附属施設です。130年近い歴史を有し、学内のみならず、広く国内外の教育・研究機関から学生実習や多様な研究のフィールドとして利用されています。目的に応じて、千葉、北海道、秩父、田無、愛知、富士、伊豆の7箇所に設置された地方演習林の合計面積は、約32,300 haで、東京23区の面積の約半分に相当し、東京大学が管理する土地の99%にも達します。地方演習林と弥生キャンパスには計24名の専任教員、約70名の事務職員・技術職員、さらには研究員や非常勤職員など多くのスタッフが在籍し、森林の維持管理のみならず、宿泊施設、固定試験地、長期データの蓄積等の豊富な研究基盤を支え続けています。

2020年度は演習林「教育研究計画2011-2020」（2010年度策定、2015年度見直し）の最終年度にあたります。本来ならこの計画の集大成となるべき年度でしたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、学生実習、公開講座、国際交流事業等の多くが中止、オンライン実施となり、制約の多い1年となってしまいました。そのような中でも、各常置委員会やセンター、地方演習林ごとにさまざまな活動が実施され、この年報にまとめられたような教育・研究上の成果をあげています。また、2019年の台風によって被災した千葉演習林、秩父演習林では、多額の寄附を賜ったこともあって復旧が進み、演習林としての機能を災害以前の状態へと回復しつつあります。

2021年度からは新しい10年計画である「教育研究計画2021-2030」がスタートします。この計画ではいくつかの委員会やセンターを再編し、演習林の教育・研究機能をさらに高めていくことを目指しています。今後とも演習林へのご支援をよろしくお願いいたします。

2021年6月

東京大学大学院農学生命科学研究科  
附属演習林長 久保田耕平



# 目次

はじめに

## I 演習林の概要

1. 組織	2
2. 全演での取り組み	4
3. 演習林活動の統計	9

## II 演習林の活動

1. 常置委員会	
1) 基盤データ整備委員会	12
2) 研究推進委員会	22
3) 教育推進委員会	23
4) 環境安全管理委員会	25
5) 広報情報委員会	26
6) 国際交流委員会	27
7) 森林病虫害委員会	28
8) 「東京大学の森」育成資金委員会	29
2. 地方演習林	
1) 千葉演習林	30
2) 北海道演習林	33
3) 秩父演習林	36
4) 田無演習林	39
5) 生態水文学研究所	41
6) 富士癒しの森研究所	44
7) 樹芸研究所	46
3. 教育研究センター	49
4. その他の活動	
1) 演習林技術職員等試験研究・研修会議	51

## III 資料

1. 教育	
1) 大学院講義等	54
2) 学部講義等	56
3) 他大学の非常勤講師	60
4) その他の講義・実習対応	61
5) 4研究室の所属メンバー	64
6) 所属学生の学位論文	65
7) 森林生態圏管理学大講座ゼミ	66
8) 演習林教育研究センターゼミ	70
9) 実習等	72

2. 研究	
1) 教職員の論文等	75
2) 学会発表等	84
3) 著書	92
4) 演習林を利用して行った論文等	93
5) 受賞・特許等	107
6) 外部資金によって行われた研究	108
3. 社会連携	
1) 学外各種委員会等委員	111
2) 小中高等学校への対応	115
3) 公開講座・セミナー等	116
4) 学会・研究・市民教育等における講師等（招待講演を含む）	119
5) 演習林報告・演習林	123
6) 科学の森ニュース	124
7) 新聞・雑誌・放送等	126
4. 環境安全管理	
1) 安全・防災のための講習会等	128
2) 資格取得のための講習等	129
3) 災害発生状況・山火事予防活動	130
5. 国際交流	
1) 交流事業・国際シンポジウム・国際共同研究	131
2) 海外渡航	132
3) 外国人研究者・学生等の来訪	132
6. 管理	
1) 管理面積集計表・林相別蓄積集計表・植栽樹種	133
2) 立木伐採量	135
3) 育林実行量	136
4) 素材生産総括表・土木実行総括表・道路現況	140
5) 運営費予算配分額，収入，外部資金	141
6) 演習林林産物収入細分表	141
7. 研修	
1) 技術職員	142
2) 事務職員	142
8. 組織図	
1) 千葉演習林	143
2) 北海道演習林	144
3) 秩父演習林	145
4) 田無演習林	145
5) 生態水文学研究所	146

6) 富士癒しの森研究所	146
7) 樹芸研究所	147
8) 企画部・教育研究センター	148
9. 人事	150
10. 委員会・会議等	
1) 演習林規則に則って開催された委員会・会議	151
2) その他委員会・会議	151
11. 利用状況	
1) 千葉演習林	152
2) 北海道演習林	159
3) 秩父演習林	162
4) 田無演習林	172
5) 生態水文学研究所	178
6) 富士癒しの森研究所	183
7) 樹芸研究所	190
12. 各演習林所在地および連絡先	191



# I . 演習林の概要

- 1 . 組織 … 2
- 2 . 全演での取り組み … 4
- 3 . 演習林活動の統計 … 9

## I. 東京大学演習林の概要

### 1. 組織

1890年に東京農林学校が帝国大学と合併して農科大学となり、1894年にはその附属施設として日本で初めての大学演習林が房総半島の南東部に位置する清澄に設けられた。これが、今日の東京大学千葉演習林の始まりである。引き続いて、教育研究目的や森林の生態的な特性を考慮しながら、北海道演習林(1899年)、秩父演習林(1916年)、生態水文学研究所(1922年)、富士癒しの森研究所(1925年)、樹芸研究所(1943年)、田無演習林(1929年(演習林への移管は1982年))が設置され、さまざまな森林帯にわたる約32,000haの広大な面積の、世界的にも貴重で多様な森林資源を守り育ててきた。さらに、2000年度には大学院重点化が行われ、従来から関係の深い森林科学専攻ならびに関連分野の研究者との教育・研究協力関係を一段と発展させながら、大学院農学生命科学研究科のほかの附属施設(農場、牧場、水産実験所、動物医療センター、緑地植物実験所)とともに生圏システム学専攻の協力講座として新たなスタートを切り、大学院教育にも主体的に参画している。現在、東京大学演習林は7つの地方演習林と企画部・教育研究センターで構成されている。各地方演習林は、演習林全体としての共通理念に立脚しつつ、独自の教育研究計画に基づいて活動を行っている。

千葉演習林は、暖温帯に位置する総面積約2,200haの日本で最初の大学演習林である。スギ、ヒノキ、マツ類などの主要造林木の育成技術と持続的森林施業に関する試験を120年余にわたって実施してきた。また、モミ、ツガや広葉樹からなる貴重な天然林を有し、学内外のさまざまな分野の研究・教育に大きく貢献している。近年では、特に自然史や生態系に関する調査・研究を幅広く行っている。

北海道演習林は、亜寒帯に位置する総面積約23,000haの、東京大学では2番目に古い演習林である。択伐施業の実証的・理論的研究によって、林学と北方林業の発展に寄与してきた。各種の試験林が造成される一方、奥地天然林には11,000haの鳥獣保護区が設けられるなど北海道の森林動植物に関する各種の調査・研究に利用されている。特に1958年以降、北海道演習林の天然林全域を対象として、北方林の持つ環境保全機能と木材生産機能との調和を図る一大森林施業実験「林分施業法」を実施しており、その成果は国内外から高い評価を受けている。

秩父演習林は、冷温帯に位置し、総面積約5,800haと東京大学では2番目、青森県以南の大学演習林では最大の面積を有する演習林である。険しく多様な山岳地形の中にあるため、森林植生は変化に富み、生物相も多様である。大面積にわたる貴重な天然林を対象に森林生態系に関する調査・研究を数多く行っている。また、急傾斜の山岳林における人工林施業法、映像情報による森林情報の収集・蓄積・利用などに関する研究も行っている。

田無演習林は、本学農学部にも最も近い西東京市に設けられている総面積約9haの演習林である。アクセスの良さや、土地が平坦なことから、圃場を中心とした造林学実験、森林動物学実験、フィールド農学応用実習、緑地環境実地実習といった生物系の実習や、都市林であることを生かした教養学部前期課程学生向けの全学ゼミナールに利用されている。樹木生理や解剖観察、微生物培養、DNA分析などのための実験設備も整備している。

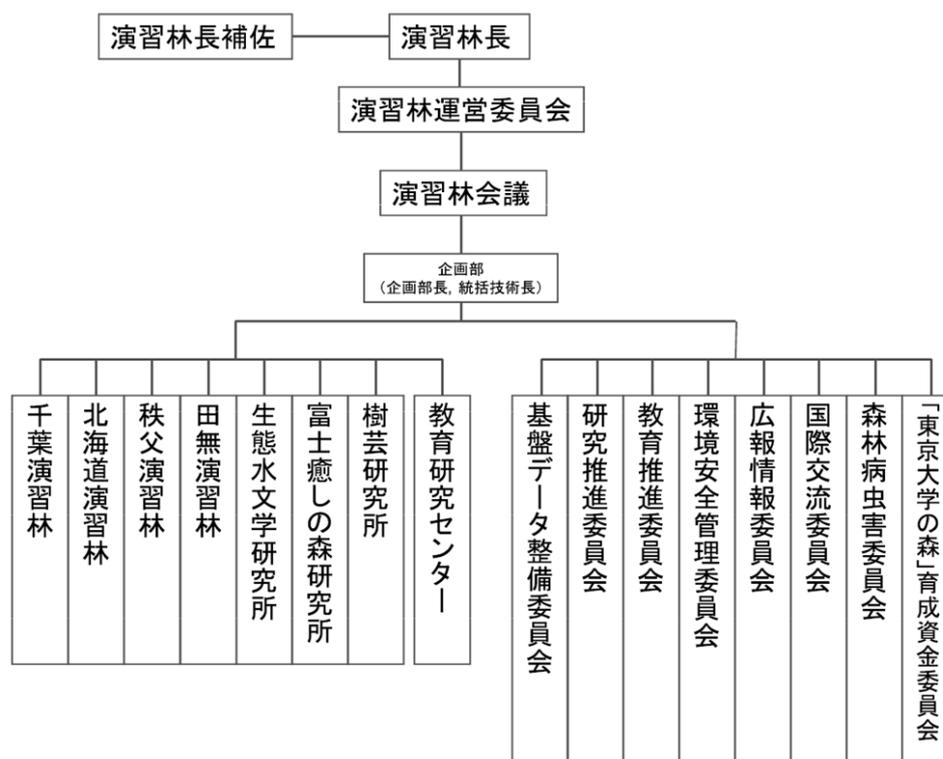
生態水文学研究所は、愛知県の尾張東部・北部丘陵に位置する総面積約1,300haの演習林である。林種は、荒廃山地(ハゲ山)から砂防植栽等により回復し、遷移した天然生林(76%)

とヒノキやスギの人工林（24%）となっている。1922年の設置後まもなく、演習林内の山地流域からの水流出量の観測が順次開始され、3流域については現在まで観測が継続している。それらの長期水文データを基礎として、森林生態系に流入・循環・移動・流出する水、栄養塩、炭素、土壌、土砂、エネルギーの収支や時間変化、プロセス、メカニズムに関するさまざまな研究が行われている。また、森と水の自然科学教育、森と水と人の関係についての人文・社会科学教育の拠点となっている。

富士癒しの森研究所は、富士山麓山中湖畔に位置する総面積約40haの演習林である。立地条件を生かして森林の保健休養機能の解析や景観評価、環境教育に関する研究を行っている。また、演習林の一部には東京大学の学生・教職員の休養施設が設置され活用されている。

樹芸研究所は、伊豆半島南端の温暖な地にある総面積約250haの演習林である。樟脳生産のために1900年初頭に植栽されたクスノキ林と1980年代に現地適応試験のために植栽されたユーカリ属70種の生き残りが特徴の一つである。一方、組織の大きな特徴はエフォートの50%を教育に割くことである。教養学部前期課程の1,2年生向けの全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ」と国際開発農学専修3年生向けの森林実習を担当している。どちらも興味の中心が必ずしも森林ではない学生に対して、森林・林業のことを自分事として捉えるキッカケを与えることを大切に考えている。ユーカリとクスノキはそれらの重要な教材となっている。

農学部（弥生）キャンパスに設置されている企画部・教育研究センターは、東京大学演習林の教育研究活動をつなぐ拠点として、演習林全体の試験研究計画の円滑な実行を支援している。さらに、多方面の演習林利用希望者の便宜をはかること、共同研究の企画調整、各地方演習林の気象等観測結果のデータベース化と観測・研究成果の公表の場としての「演習林報告」および「演習林」の編集・発行、インターネット等を利用した情報公開促進・広報等、東京大学演習林全体に関わるさまざまな役割を担っている。



## 2. 全演での取り組み

2020年度は東京大学演習林の「教育研究計画 2011-2020」後半5年間の5年目、最終年度にあたる。2015年度に実施した外部評価の結果を踏まえて上記計画の部分的な見直しを行い、次期教育研究計画をも視野に置いた活動をスタートさせた。見直し結果の詳細は演習林 59号に報告しているが、このうち「全演的な取り組み」に関する「見直しの基本方針」は表1に示した通りである。

表1 「教育研究計画 2011～2020」後半に向けての修正（全演の取り組み）

項目	見直しの基本方針等
全体	<p>「基本的な理念」に掲げたミッション、キーワードを演習林運営の基本的な姿勢として後半5年間も堅持する。7演習林体制を基礎に全演横断的な活動を常置委員会を中心として行っていく体制を後半5年間も維持する。</p> <p>【基盤データ委員会水文・水質部門】2011～2020年計画にのっとり水文・水質部門の基盤データ整備を行ってきた。後半5年間も計画に沿ってデータ取得、整備を進める。</p> <p>【基盤データ整備委員会気象部門】組織、バックアップを含む機器といった観測体制については整備が進んでいる。今後は、部門で確認した「気象観測指針」に基づき観測、機器および露場のメンテナンスを確実に実行し、精度の維持・向上を図る。また、データ保存状況を確認し、保存、公開、修正の体制を整える。</p> <p>【広報情報委員会】外部向けの発信力を高めるために、全演ホームページをさらに充実させる。また、研究科や大学本部の広報とも連携し、速報性のある情報をより外部に発信できる仕組みを検討する。演習林の活動をよりアピールするため、演習林年報の構成を変え、前半に当該年度の演習林全体のトピックス、視覚的な統計データなどが見えるようにする。</p>
教育	<p>これまで積極的に取り組んできた教養学部前期課程の全学体験ゼミナールや全学的に実施されている学生の体験活動プログラム等のフィールド体験教育を今後も推進する。</p> <p>【教育推進委員会】全国大学演習林協議会が行っている「公開森林実習」について、7番目の項目として位置づけ、企画部・教育研究センターと連携しつつ取り組む。アジア大学演習林コンソーシウムに参加している大学の学生等を対象とした国際トレーニングワークショップ、若手研究者育成プログラム等の企画・実施について、8番目の項目として位置づけて取り組む。</p>

項目	見直しの基本方針等
研究	<p>教員の研究活動の活性化に向けエフォート管理の充実やサバティカル制度の活用について検討する。地方演習林がその役割分担を果たすべく核として行っている研究活動への全演的なバックアップ体制について検討する。</p> <p>【国際交流委員会】国際交流への取り組みを積極的に進める。具体的にはアジア大学演習林コンソーシアムや台湾大学とのパートナーシップ強化などこれまで進めてきた国際交流活動をより活性化させ共同研究へと結びつけていく。また新たな国際共同研究のパートナーの開拓や共同研究者の受け入れ等の活動も他の業務とのバランスを考慮しつつ積極的に取り組んでいく。</p> <p>【広報情報委員会】ホームページ等で研究成果を早く、アピールするための仕組みを検討する。</p> <p>【基盤データ整備委員会生物部門】昆虫分野については、当初は2008年度から2010年度までの3年間で公表する予定となっていたが、同一地点での採集を2012年度まで5年間続けているため、5年間でリストを公表することにした。しかし、現在のところ、後半2年分の同定が済んでおらず、同定終了後に公表する予定である。</p> <p>【研究推進委員会】研究推進委員会の活動方針を明文化する。</p>
社会連携 ・貢献	<p>研究成果の社会への発信を含め広報活動をより活発化させる。特に学外向けの広報には新たなメディアの開拓を含めコスト増をおさえつつ効果を上げられる広報活動を検討する。</p> <p>【広報情報委員会】科学の森ニュース編集委員会の役割を明確にし、より魅力的な記事が掲載できる仕組みを作る。利用実績の集計について検討を行い、よりの確なデータを効率的に取得できるようなシステムを構築する。</p>
管理・運営	<p>「技術職員削減」への対応についても附属演習林の任務を果たすために必要なポストや人材の確保に取り組んでいく。特に安全衛生管理面からは必要不可欠な人員の確保に取り組んでいくとともに、災害を防ぐための活動をこれまで以上に進めていく。</p> <p>【基盤データ整備委員会水文・水質部門】観測精度維持のため、観測機器の定期的な更新や、観測方法の講習を検討する。</p> <p>【環境安全管理委員会】今計画期中に千葉演習林で死亡事故が発生した。このことからこれまでの安全管理体制が完全なものではないことが明らかとなった。研究科環境安全管理室との連携の下、再発防止を含めたリスク管理の検討を行った。フィールドには危険があること、どういう所にどういった危険があるかについて演習林は利用者に対して注意喚起する責任があることが確認された。</p>
その他	<p>【教育推進委員会】教員総会に関する記述について、計画当時とは位置づけが変更されているので、必要な修正を行う。</p>

これに加え、2020年度の特異要因として、新型コロナウイルス感染症に関連する対応が挙げられる。附属演習林は、2020年度を通じて、新型コロナウイルス感染防止のための活動制限レベルを踏まえた全演的な取り組みを行ってきた。新型コロナウイルス感染症に関連する対応と、表1に関連した2020年度の主な全演的な取り組みを以下に挙げる。

**(1) 新型コロナウイルス感染症に関連する対応**

2020 年 3 月 30 日に研究科長から、「新型コロナウイルス感染拡大防止のための東京大学の活動制限指針」(4 月 3 日発表) の案に基づき、研究科として制限レベル 1 (制限一小) の対応を取ることが示された。その後、4 月 6 日に全学の制限レベルがレベル 2 (制限一中) に引き上げられ、同日、政府の緊急事態宣言予告、および東京都の緊急事態措置案が発表されたことを受け、翌 7 日に制限レベルがレベル 3 (制限一大) に引き上げられた。その後、7 月 13 日に活動制限レベルが 0.5 に緩和されたが、国が首都圏(一都三県)等に対して緊急事態宣言を 1 月 7 日に発出したことを受け、同日付で制限レベルがレベル 1 (制限一小) に引き上げられた。

各地方演習林については、研究科長の指示により、所在地の状況を勘案の上、演習林長が地方演習林ごとに制限レベルを設定することとなった。地方演習林ごとの制限レベルは以下のよう

運用開始日	2020年														2021年					
	4/1	4/6	4/8	4/9	4/10	4/17	4/20	5/18	5/26	5/27	6/8	9/14	9/28	1/8	1/13	1/18	3/1	3/22	3/24	
地方演習林名																				
千葉演習林	0.5	0.5	1	1	1	1	1	1	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1	1	1	1	0.5	0.5	
北海道演習林	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1	1	1	1	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	
秩父演習林	0.5	1	2	2	2	2	2	2	2	1	1	0.5	0.5	0.5	1	1	1	1	0.5	
田無演習林	1	1	1	3	3	3	3	3	3	3	2	2	1	1	1	1	1	1	1	
生態水文学研究所	0.5	0.5	0.5	0.5	1	1	1	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1	0.5	0.5	0.5	
富士癒しの森研究所	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	
樹芸研究所	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	

なお、弥生地区に所在する企画部及び教育研究センターには、全学および研究科の制限レベルが適用されたが、1 号館改修工事に伴う医学部附属病院への一時移転の計画は、制限レベルの大小にかかわらず予定通り実行された。その結果、制限レベル 3 (制限一大) であった 5 月 25、26 日に弥生地区から附属病院地区への、また制限レベル 1 (制限一小) であった 1 月 21～27 日に附属病院地区から弥生地区への引越し作業が行われ、事前の荷造り等の準備と事後の荷ほどき作業のため、企画部及び教育研究センターの教職員や学生が附属病院及び弥生地区に出向いて作業にあたった。

地方演習林では、宿泊を伴う農学部の学生実習や教養学部前期課程の主題科目、主に体験活動プログラムが予定通り実施できなくなったことが最も大きく影響した。一部の科目ではオンライン実習を試みたほか、A セメスターでは日帰りの対面フィールドワークが条件付きで許可されたことから、宿泊実習を日帰り実習に切り替えて実施した科目もあった。

演習林会議は、弥生地区の制限レベルが 0.5 の際にはオンサイトとオンラインでのハイブリッドで、制限レベルが 1 以上の場合はオンラインで開催した。その他の会議はすべてオンラインで開催した。また演習林ゼミや教育研究センターゼミも、卒業・修了する学生の間接発表など一部を除き、オンラインで開催した。

**(2) 2020 年度東京大学デジタルアーカイブズ構築事業**

東京大学学術資産等アーカイブズ委員会によって推進されている「東京大学デジタルアーカイブズ構築事業」に 2020 年度は研究科から「研究室・附属施設が保有する画像資料のデジタルアーカイブズ化」を応募し、採択された。附属演習林が所蔵する大判図面 88 枚(北海道演

習林 (22 枚), 秩父演習林 (30 枚), 田無演習林 (11 枚), 樺太演習林 (10 枚), 生態水文学研究所 (14 枚), 富士癒しの森研究所 (1 枚)) をデジタル化した。これらの資料を農学生命科学研究科ホームページに「農学コンテンツ」として公表する作業が現在進行中である。

北海道演習林の図面は、開拓の歴史、開拓前・開拓地農地解放前の施業状況を研究するうえで貴重な資料であり、開拓火入れに伴う山火事対応の様子や、森林再生の対応の歴史、林分施業法導入前の森林経営ポリシーを知る上で重要である。秩父演習林の図面は、大学演習林の経営、管理の状況を裏付ける資料として価値が高く、昭和 25 年から現在に至る秩父演習林の林相の変遷を知ることができることから、実習での紹介、研究利用に提供が可能である。田無演習林の図面は、昭和初期の建築物における木材利用、田無周辺における土地利用の様子を把握できる資料であり、学術的・社会的価値共に高く、案内看板に既に使用するなど、教育における利用可能性も十分に見込まれる。樺太演習林の図面は、1914 年、南樺太の 21,000ha の面積に設置された植民地演習林の森林経営管理方針を知ることができる貴重な資料であり学術的価値が高い。生態水文学研究所の図面は、はげ山が緑化再生されたという点で近代と現代において環境の変化が劇的に生じた地域における、当時の演習林や周辺環境を知るための資料として、また、どのように砂防(緑化)工事を施されたのかを明らかにするための資料として学術的価値が高い。富士癒しの森研究所の図面は、戦前に行われた野心的なフィールド研究の一端を知ると同時に、そうした研究が着想された社会的背景を伺うことができる貴重な資料である。ここに挙げた図面はほぼすべて、林学および造園学、観光学などの視点から研究史をたどる史料となりうる、手書きで描かれたオリジナルの唯一の図面であるが、明治・大正・昭和初期の図面の中には損傷のはげしいものもあり、保存の緊急性が高い。これらの資料をデジタル化し、研究科として公表できたことは、今年度の特筆すべき成果として挙げられる。

なお、2021 年度東京大学デジタルアーカイブズ構築事業には研究科から「附属施設(演習林)が保有する明治大正期の写真および大判図面のデジタルアーカイブズ化」及び「森林成長に関する長期観測資料のデジタルアーカイブ化」の 2 件を応募した。

### (3) 戦略的パートナーシップ大学プロジェクト

演習林は、戦略的パートナーシップ大学プロジェクトに、国立台湾大学およびソウル国立大学として参画している。今年度は国立台湾大学がサマースクールを企画し、東京大学の学生が参加する予定であったが、実施できなかった。また概ね 2 年に 1 回、東京大学、国立台湾大学およびソウル国立大学の持ち回りで開催しているアジア大学演習林コンソーシウム第 9 回シンポジウム(SAUF)C) の開催を予定していたが、国立台湾大学と協議の結果、これを 2021 年度に延期することとした。

### (4) 施設整備費補助金概算要求事業

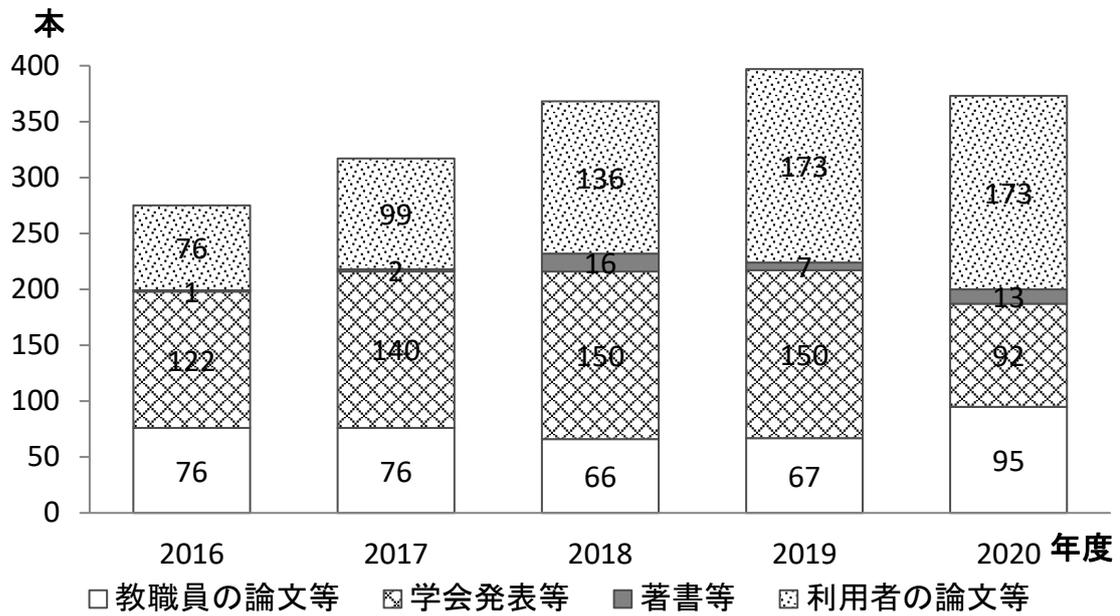
2021 年度の施設整備費補助金概算要求事業で「森林生物多様性国際教育研究ミュージアム」として提案した秩父演習林影森地区の教育研究施設の新築要求については、採択には至らなかったが、2022 年度の概算要求でも同名で要求を提出した。応募の際にはコロナウイルス感染症対策として、オンラインミュージアムとしての機能を盛り込んだ。

#### **(5) 次期計画策定委員会**

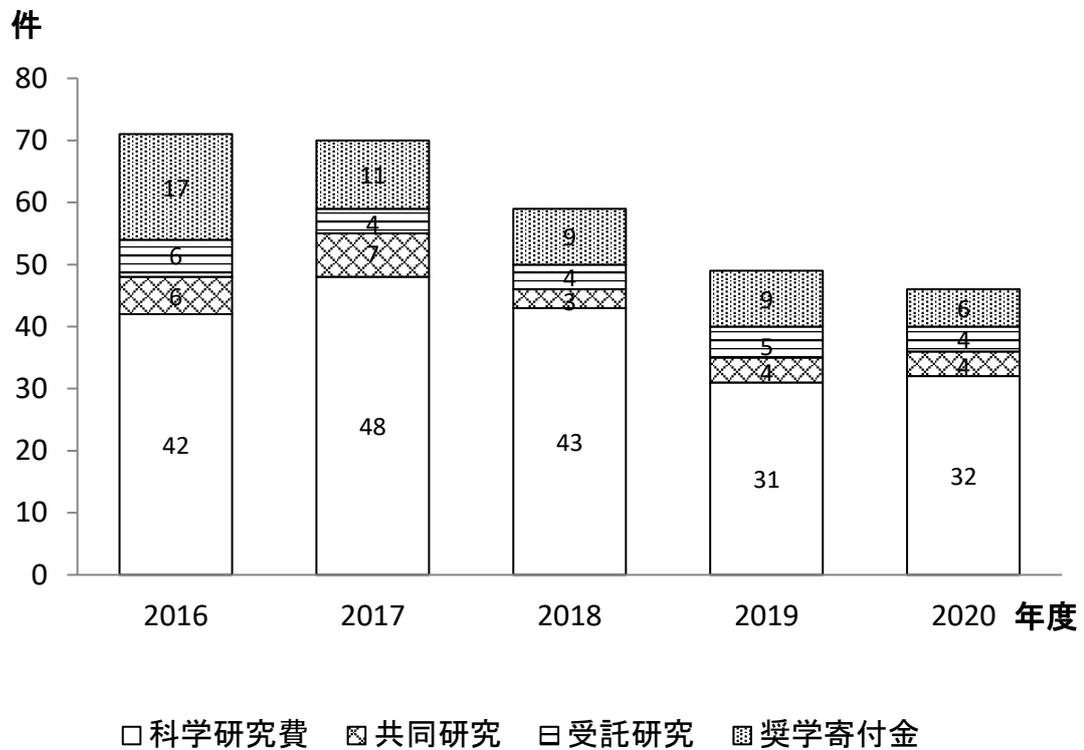
現在の教育研究計画は 2020 年 3 月までの計画であり、2021 年 4 月から次期計画期間となる。次期計画を策定する作業を進めるため、2018 年度に次期計画策定委員会を立ち上げた。メンバーは林長（委員長）、企画部長、統括技術長、地方演習林長、常置委員会委員長、教育研究センター技術主任である。2020 年度は 2019 年度に引き続き、4 月、5 月（臨時会議）、6 月、10 月、12 月の 5 回、会議をいずれもオンラインで開催し、2018 年度から通算して 15 回の会議を開催した。このうち 6 月の会議は教員総会と合同で行い、次期計画策定プロセスへの全教員の参画を試みた。また演習林の利用者を主たる対象者として 6 月 16 日に「演習林教育研究計画 2021～2030」説明会・意見交換会を開催し、策定中の次期計画（案）について説明し、利用者の立場からご意見をいただいた。地方演習林の計画策定に際しては研究科内外の関係者からそれぞれ数名を選定し、計画（案）に対するアドバイスをいただいた。

### 3. 演習林活動の統計

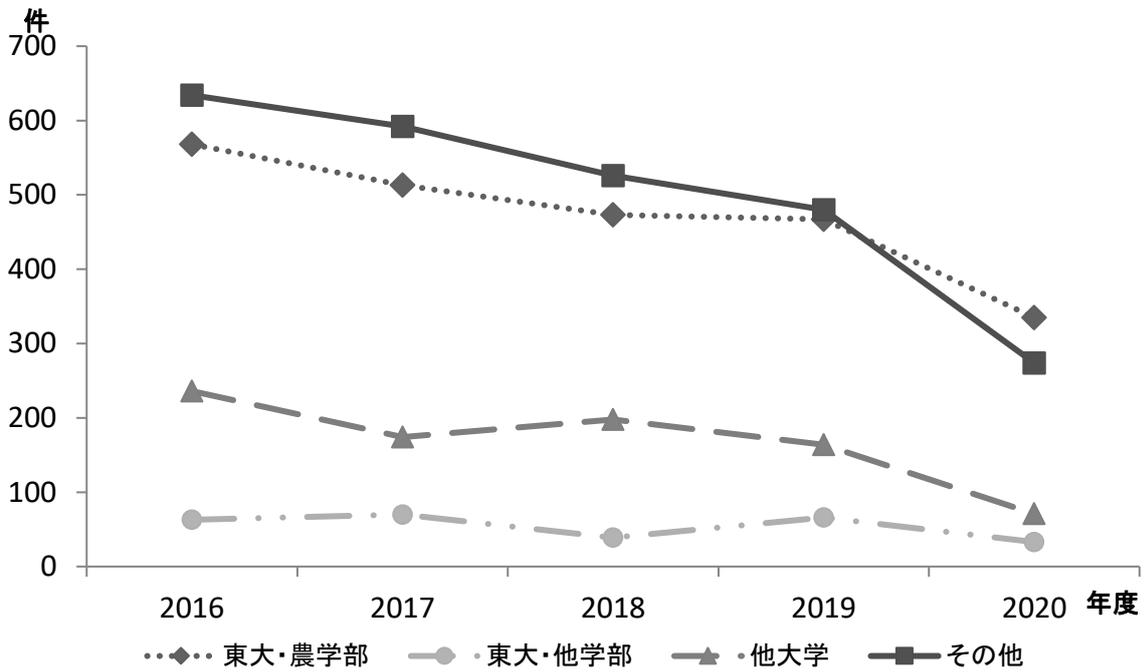
#### 1) 教職員の論文・学会発表・著書等の本数



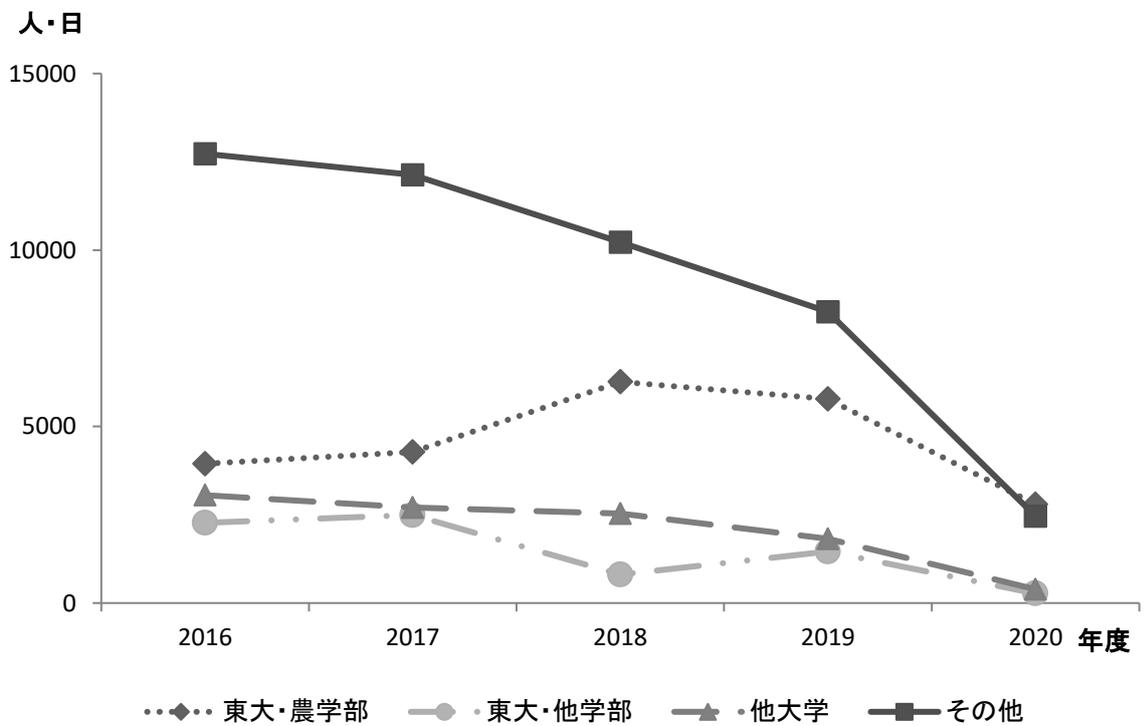
#### 2) 外部資金獲得数



3) 利用件数



4) 利用者のべ人数



## Ⅱ． 演習林の活動

1. 常置委員会 …12
2. 地方演習林 …30
3. 教育研究センター …49
4. その他の活動 …51

## II. 演習林の活動

### 1. 常置委員会

#### 1) 基盤データ整備委員会

##### <気象部門>

東京大学演習林では、これまで最長で 100 年を超える期間、気象観測を継続してきた。現在の観測システムは 2001 年から稼働し、7 地方演習林を網羅する合計 17 か所の観測地で観測を続けてきた。

2012 年 1 月 1 日からは「教育研究計画 2011-2020」に基づいた新体制の下での観測を継続している。すなわち、基盤データ整備委員会気象部門で責任をもつ I 種観測地は札郷（千葉）、前山（北海道）、小赤沢（秩父）、白坂（生態水文）、青野（樹芸）の 5 地点、観測項目は気温、湿度、降水量、日射量、風速、風向である。I 種以外の観測地は II 種として各地方演習林の裁量で観測や全演でのデータ公開を行っているが、気象部門として各地方演習林で対応が困難な案件についてのサポートは継続している。

本年度は、長期メンテナンス計画に基づいて定期的・計画的に行っている前山、白坂、青野の転倒マス雨量計の交換を行った。

観測データは演習林ホームページで観測の翌々月には公表している。2019 年のデータは観測体制とともに「演習林」63 号（2021 年 3 月発行）に 2019 年気象年報・月報として掲載した。「演習林」の投稿規定に従い、月報はレポジトリのみの公表となる。

2018 年度から大学院農学生命科学研究科が推進している「農学コンテンツの情報化のためのプラットフォーム構築」事業との関連で、過去に「演習林」で公表されているがデジタルデータを公表していないデータに関して、デジタルデータを作成し、公表する作業を進めた。

表 2020 年度 各地方演の観測地と観測項目

演習林名	千葉演			北海道演				秩父演				田無演	生態水文学研			樹芸研		
	I	II	II	I	II	II	II	I	II	II	II	I	II	II	I	II		
I種とII種の別																		
観測地	札郷	清澄	新田	前山	山部	山部事務所	山部(新)	小赤沢	栃本	大血川	ワサビ沢	第一苗畑	白坂	東山	穴の宮	青野	加納	
観測項目	気温	〇(〇)	〇(-)	〇(-)	〇(〇)	〇(-)*	〇(-)**	〇(〇)	〇(〇)	〇(〇)	〇(〇)	〇(〇)	〇(〇)	〇(〇)	〇(-)	〇(-)	〇(〇)	△(△)
	地温								〇(-)				〇(-)	〇(-)				
	湿度	〇(-)	〇(-)	〇(-)	〇(-)	〇(-)*	〇(-)**	〇(-)	〇(-)	〇(-)	〇(-)	〇(-)	〇(-)		〇(-)	〇(-)		
	降水量	〇(〇)	〇(〇)	〇(-)	〇(〇)	〇(-)*	〇(-)**	〇(〇)	〇(〇)	〇(〇)	〇(〇)	〇(-)	〇(〇)	〇(〇)	〇(〇)	〇(〇)	△(-)	
	日射量	〇(-)	〇(-)	〇(-)	〇(-)	〇(-)*	〇(-)**	〇(-)	〇(-)		〇(-)		〇(-)	△(-)	△(-)	〇(-)		
	風速	〇(-)		〇(-)	〇(-)	〇(-)*	〇(-)**	〇(-)	〇(-)				〇(-)	〇(-)	〇(-)	〇(-)		
	風向	〇(-)			〇(-)	〇(-)*	〇(-)**	〇(-)	〇(-)				〇(-)	〇(-)	〇(-)	〇(-)		
	降雪						〇(-)											
	積雪						〇(-)*	〇(-)**										
	降雪深						△(-)*	△(-)**										
	積雪深						〇(-)*	〇(-)**	〇(-)									

\* 「山部」および「山部事務所」での観測は 2020 年 12 月まで

\*\* 「山部(新)」での観測は 2021 年 1 月から

## ＜生物部門＞

### ○植物分野

演習林内に生育する維管束植物（自生種・導入植栽種）をリストアップし、同時にさく葉標本を1種につき3点作成する。2033年度に全演の植物目録を更新することを目標に資料の収集にあたっている。2020年度は、標本のデータベース入力・確認作業の継続、完全標本作成（標本台紙への貼り付け、ラベルの作成および台紙への貼り付け）を進めている。また、年度末に担当者会議をオンライン開催した。

#### 2020 年度の各演習林の活動

千葉演習林：Ⅰ種の活動は、特に行っていない。Ⅱ種の活動は、過去に千葉県立中央博物館と行った植物相調査のメッシュデータの整理を進めた。

北海道演習林：Ⅰ種の活動は、前年度特殊植物保護区に設定した106林班の追加調査を行った。Ⅱ種の活動は、通常業務として樹木フェノロジー調査を行った。

秩父演習林：Ⅰ種の活動は、標本のデータベースの入力・確認作業と標本整理を行った。Ⅱ種の活動は、行わなかった。

田無演習林：Ⅰ種の活動は表の通り。Ⅱ種の活動は、樹木園において自動撮影カメラによるフェノロジー調査を行った。「田無演習林維管束植物目録(2019年度改訂版)」が演習林(東大)63号に掲載された。

生態水文学研究所：Ⅰ種の活動は、標本データベースの確認作業を行った。

Ⅱ種の活動は行わなかった。

富士癒しの森研究所：Ⅰ種の活動は標本整理2.0日(2人工)行った。通常業務の間に未採分の標本採取を行った。Ⅱ種の活動は行わなかった。

樹芸研究所：Ⅰ種の活動は標本作製および重複標本ならびに欠損標本の整理、標本リストの整理を行った。Ⅱ種の活動は行わなかった。

演習林名	調査日数	調査人員	2020 採取 標本種数	2020 採取 標本点数	2020 年度末 総標本種数
千葉演習林	0	0.0	0	0	926
北海道演習林	1	4.0	0	0	945
秩父演習林	0	0.0	0	0	942
田無演習林	3.0	4.0	4	10	307
生態水文学研究所	0	0.0	0	0	1,202
富士癒しの森研究所	0	0.0	1	1	417
樹芸研究所	0	0.0	0	0	628

### ○脊椎動物（鳥類を除く）分野

本年度も脊椎動物のリスト化を目的として、以下に示すⅠ種およびⅡ種の各調査を実施した。Ⅰ種調査のうち、自動撮影カメラ調査では北海道のアライグマ（特定外来生物）撮影数が過去最多を記録した。また、生態水文のニホンジカ撮影数が二年連続で増加した。田無と樹芸で実施を予定していたコウモリ捕獲調査は、新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。Ⅱ種である目撃情報記録では、千葉、北海道、田無において確認種数が前年と比べて大幅に増加した。また、生態水文において記録野帳の電子化を試行した。

演習林名	千葉	北海道	秩父	田無	生態水文	富士	樹芸
調査名 Ⅰ種 自動撮影カメラ調査	○ 10	○ 8	○ 12	○ 3	○ 13	○ 12	○ 7
Ⅱ種 目撃情報記録	○ 21	○ 13	○ 7	○ 9	○ 10	○ 5	○ 3
ライトセンサス		○ 6					
自動撮影カメラ調査 (ニホンジカ区画法の代替)	○ ※						

○は実施した調査を、数値は確認種数を示す

※2月実施予定

### ○昆虫分野

#### (1) 全演共通の調査を実施

本年度もピットフォールトラップを用いた地表徘徊性甲虫相調査を実施した。2008年から各地方演習林共通の方法による定期的・定量的採集を行っており、採集された標本は北海道演習林に集められている。調査地は各演内に2ヶ所設定し、5年間隔で移動する。千葉演習林、北海道演習林、秩父演習林、田無演習林、生態水文学研究所、樹芸研究所では、2013年より2017年まで2地点目の調査地で採取を行い、2018年から当初の調査地に戻して実施した。富士癒しの森研究所では別の調査地がないため当初から同じ場所を実施している。2008～2010年の標本については、2011年に同定結果が出ている。2018年に2011～2012年の未同定分について同定を依頼し、その結果が得られた。2008～2012年の同定結果は、雑誌「演習林」へ2021年度中に投稿する。2013～2017年は同定が済み次第、以降は5年毎の公表を目標とする。

#### (2) 各地方演習林を利用した研究論文からの昆虫相のリスト化

各地方演習林を利用した研究論文からの昆虫相のリスト化は各地方演習林で進め、2021年度の公表を目標とする。

#### (3) 担当者会議の開催

分野全体会議を2021年3月5日にWebで開催し、地表徘徊性甲虫相調査の結果と昆虫相のリスト化についての報告の取りまとめ方を検討した。また、標本の作製、管理、送付についての研修を実施した。

## ○鳥類分野

今年度もこれまでと同様に各演習林においてⅠ種、Ⅱ種調査を行った。繁殖期ポイントセンサス調査については、今年度は田無演習林と富士癒しの森研究所で他演習林の調査員を派遣して実施する予定であったが、新型コロナウイルスの影響により中止とした。また、秩父演習林では2019年の台風被害によりポイントセンサス調査地へのアクセスが困難となったため実施できなかった。2020年4月から12月までの確認種数と調査回数は下記表の通りである。千葉演習林、北海道演習林の2演習林で2種を新たに記録した。

2019年2月に開設したWebサイト「東京大学演習林の鳥たち」については、エッセイの追加を行った。今後は同サイトの英語版を公開する予定である。社会貢献活動として、千葉演習林では鴨川市との交流事業「野鳥の巣箱をかけよう！」を11月に開催した。北海道演習林では富良野市立布部小学校の理科学習「冬の野鳥観察」の講師を12月に担当した。生態水文学研究所では犬山市立今井小学校にて6月、11月、1月に開催された探鳥会の講師を担当した。2021年3月には担当者会議をオンライン開催し、今期計画の総括と次期計画での活動について議論した。

演習林名	確認種計		調査回数		調査人員		調査別確認種数	
	科	種	公式調査	任意調査	公式調査	任意調査	公式調査	任意調査
千葉	25	45	8	82	8	86	19	41
北海道	26	66	12	44	24	46	47	46
秩父	27	52	0	43	0	44	0	52
田無	11	14	0	3	0	3	0	14
生態水文	29	55	4	28	6	41	23	51
富士	33	71	3	89	3	89	32	71
樹芸	20	40	4	28	4	28	22	35

確認種の分類は日本鳥類目録改訂第7版（日本鳥学会2012）に従った

確認種数には演習林隣接地域での記録も含む

任意調査とは公式調査（ポイントセンサス）以外の野外業務の際に一時的に任意で行った調査・観察

## ＜水文・水質部門＞

千葉演習林，北海道演習林，秩父演習林，生態水文学研究所，樹芸研究所において，降水量と流出量の観測を行うとともに，降水と渓流水の水質分析をおこなう。千葉演習林での観測・分析は森林理水及び砂防工学研究室（2021 年 4 月より森林生物地球科学研究室に改称されたが，本報告は 2020 年度の活動報告であるため以下では旧名称を用いる）の協力を得ている。2018 年の観測・分析結果を生態水文学研究所に集約し，雑誌「演習林」で公表した。データは各演習林と生態水文学研究所で保管・管理している。今年度の観測体制と観測地点，活動内容の詳細は以下である。

### 1. 降水量・流出量観測

降水量は，新田（千葉演習林），東郷ダム（北海道演習林），ワサビ沢（秩父演習林），白坂（生態水文学研究所），青野（樹芸研究所）で観測した。流量は 袋山沢 A（千葉演習林），丸山沢（北海道演習林），白坂本谷（生態水文学研究所），3 号沢（樹芸研究所）で観測した。これらはそれぞれ日降水量・日流出量へ整理し生態水文学研究所に報告する。秩父演習林バケモノ沢は 2019 年の台風 19 号で被災したため流量観測を中断している。

### 2. 降水・渓流水の試料採取と分析

千葉演習林，北海道演習林，秩父演習林，生態水文学研究所で降水と渓流水を月に 1 度採取して pH と EC を計測し，分析担当者へ送付した。秩父演習林では水試料の pH と EC の計測はサントリーグローバルイノベーションセンター株式会社水科学研究所で行った。降水，渓流水の採取地点は 1 の降水量と流出量の観測地点とそれぞれ同じである。樹芸研究所では，加納観測地点での降水量 1 mm 以上の降水を出勤日毎に採取するとともに，3 号沢の渓流水を月に 1 度採取して pH と EC を計測し，分析に供した。

水試料の分析は次の研究室で行った。千葉演習林の水試料は森林理水及び砂防工学研究室で，北海道演習林と樹芸研究所は樹芸研究所で行った。秩父演習林及び生態水文学研究所の降水試料は樹芸研究所で，秩父演習林と生態水文学研究所の渓流水試料は生態水文学研究所で行った。

分析項目は渓流水については  $\text{Na}^+$ ， $\text{K}^+$ ， $\text{Mg}^{2+}$ ， $\text{Ca}^{2+}$ ， $\text{SO}_4^{2-}$ ， $\text{NO}_3^-$ ， $\text{Cl}^-$ ，pH，EC の 9 項目，降水については，上記 9 項目に  $\text{NH}_4^+$  を加えた 10 項目とした。

分析結果については，千葉演習林については森林理水及び砂防工学研究室から，それ以外の試料については水試料を採取した各演習林の担当者がとりまとめ，生態水文学研究所に報告した。

### 3. 観測結果のとりまとめと公表

日降水量，日流出量，降水と渓流水の水質分析結果を生態水文学研究所がとりまとめた。今年度は 2018 年 1 月～12 月の観測結果を雑誌「演習林 63 号」で公表した。また，とりまとめたデータを図化し，データのクオリティーチェック等に役立てた。

## 4. その他

2020年5月27日に担当者会議を行い、年間計画等について相談した。

北海道演習林丸山沢については、水抜き穴ふた修繕は中止し、今後はポンプ排水して土砂を排出することとした。また、10月にポイントゲージ、ノッチのメンテナンスと流量観測を行った。

生態水文学研究所と秩父演習林の降水採取用ボトルを更新した。機器更新計画に従い生態水文学研究所と樹芸研究所のpH電極を更新した。計画していた樹芸研究所の水位-流量関係確認はコロナのため次年度に延期した。秩父演習林バケモノ沢の土砂撤去や観測機器の復旧は、災害復旧費や国大協保険の保険金等で行った。

表 データ公表進行状況

		○2019年度までに公表済み ●2020年度公表																	
日降水量																			
		2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018		
千葉演習林	新田	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●		
北海道演習林	東郷ダム	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-		
秩父演習林	トウバク沢	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-		
秩父演習林	ワサビ沢	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	●		
生態水文学研究所	白坂	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●		
樹芸研究所	青野	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●		
日流出量																			
		2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018		
千葉演習林	袋山沢A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●		
千葉演習林	袋山沢B	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●		
千葉演習林	袋山沢C	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●		
北海道演習林	丸山沢	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-		
秩父演習林	トウバク沢	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-		
秩父演習林	バケモノ沢	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	●		
生態水文学研究所	白坂(本谷)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●		
樹芸研究所	1号沢	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-		
樹芸研究所	2号沢	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●		
樹芸研究所	3号沢	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	●		
水質(降水)																			
		2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018		
千葉演習林	新田	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	●		
北海道演習林	東郷ダム	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	●		
秩父演習林	ワサビ沢	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	●		
生態水文学研究所	白坂	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●		
樹芸研究所	加納	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	●		
水質(渓流水)																			
		2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018		
千葉演習林	袋山沢A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●		
千葉演習林	袋山沢B	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●		
北海道演習林	丸山沢	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●		
秩父演習林	トウバク沢	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-		
秩父演習林	バケモノ沢	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	●		
生態水文学研究所	白坂南谷	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-		
生態水文学研究所	白坂本谷	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	●		
樹芸研究所	1号沢	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-		
樹芸研究所	2号沢	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●		
樹芸研究所	3号沢	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●		

## <GIS 部門>

本年度は GIS 部門第 5 期活動期間における、①GIS データの整備と活用、②GIS 操作技術の向上、なる 2 つの方針に従い活動を行った。

方針①に関して、タブレット端末を利用した森林資源調査の効率化を進めるため、本年度もタブレット端末 iPad Pro を全演共用機材として購入した上で、樹芸研究所へ配備した。この配備によって、全ての地方演習林が少なくとも 1 台のタブレット端末を利用できる体制が整った（各地方演習林が独自に購入したものを含む）。そしてウェブページ上に公開（内部限定）した全演共用機材のリストを更新し、演習林内で情報共有した。また各地方演習林が保有する GIS データのリスト（研究推進委員会主導のメタデータ）を更新した。千葉演習林では Collector によるナラ枯れ被害発生箇所の現況調査、小型無人航空機（UAV）によるオルソフォトを用いた新植地図面の作成、ArcMap による 2019 年の台風被害箇所や復旧工事関連資料・伐採届・J クレジットの妥当性確認資料の作成を行った。北海道演習林では UAV によるオルソフォトを用いた施業計画立案の資料作成と植栽予定地面積の算定、2012・2015・2017・2018・2019 年度に実施した航空レーザー測量成果による北海道演習林全域の DTM・DCHM・等高線図の作成、過去 10 年間の施業標準地位置情報と調査データの結合による GIS データの作成、Survey123 による動物目撃ノートの作成、固定標準地 2 箇所の樹木位置図の作成、現地検討会や伐採監護への GIS データ閲覧システム（ArcGIS online、タブレット端末と Collector）の活用を行った。秩父演習林では ArcGIS online および Collector による高精度 CS 立体図・DCHM・オルソフォトを活用した林小班界・路網 GIS データの更新、林内における携帯電話各社の電波受信状況の図化を行った。田無演習林では GIS データを活用した小班面積および歩道距離の調査を行った。生態水文学研究所ではレンジファインダによるモニタリングサイト 1000 プロットにおける立木位置図の作成、砂出し時にレンジファインダによる堆積土砂量の測量および ArcGIS Pro による排出土砂量の計算（コンパス測量・手計算に比べて測量時間・人工の大幅削減）、ArcGIS Pro による伐採届の図面作成、ArcGIS online、Survey123、Collector を活用した 74 林班における松枯れ調査および松枯れ木処理に係る業者案内を行った。富士癒しの森研究所では Collector を活用した危険木位置図と伐採届等申請書類の作成、林道・歩道やハザードマップ等の GIS データの作成を行った。樹芸研究所では林小班境界や試験地データの修正・補完、レンジファインダによる長期生態系プロットにおける立木位置図の作成を行った。教育研究センターでは、全演共用機器やそれらリストの保守管理を行った。

方針②に関して、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、当初予定していた田無演習林における研修を中止し、代わりに 2021 年 2 月 12 日に Zoom によるオンライン操作技術・データ整備指導研修を開催した。当該研修では千葉演習林の軽込勉技術専門職員と秩父演習林の原口竜成技術専門職員を技術指導者として、GIS 部門各演担当者およびその他演習林教職員の計約 50 名を対象に、ArcGIS Pro の導入と基本操作、ArcGIS Online の活用事例紹介と Field Maps の基本操作をテーマに研修を行った。また各地方演習林において、UAV 操縦者の養成、ESRI ジャパン・森林 GIS フォーラム等の外部団体が主催するオンラインシンポジウムへの参加やオンライン GIS 操作ウェビナーの受講等が行われた。

その他、2021 年 2 月 12 日に Zoom によるオンラインの担当者会議を開催し、2021 年 4 月以降の空間情報整備・活用に係る組織の紹介、各地方演習林からの活動および要望の報告、予

算要求案の作成を行った。



写真 1. オンライン操作技術・データ整備指導研修：計約 50 名の参加者

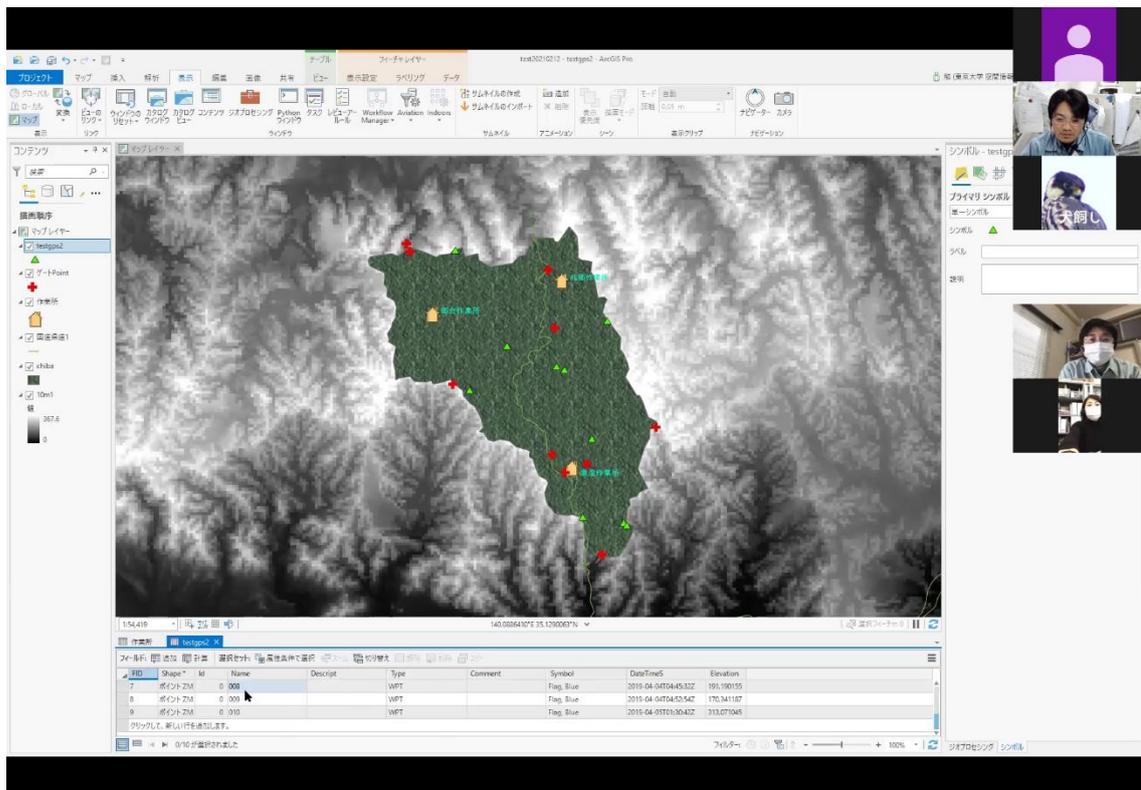


写真 2. オンライン操作技術・データ整備指導研修：ArcGIS Pro の操作指導の様子

### ＜固定試験地部門＞

本年度は、昨年度に引き続き、試験地データベースの整備とそれに向けた各地方演習林の試験地データの整理・紙資料（野帳）の電子ファイル（PDF）化を進めた。千葉演習林・北海道演習林・秩父演習林・生態水文学研究所では、基盤データ整備委員会予算から支出した単純労務謝金による作業補助者の補助によって必要な各種作業を実施した。その結果、約1150回分の調査野帳のPDF化、約160回分の調査データの電子化、約400回分の調査データの入力内容の確認を行った。これら整備したデータのうち、外部公開が可能な情報は、昨年度末に内部公開を開始した公開用データベース UTFEEP（The University of Tokyo Forests Experimental and Ecological forest Plots, 日本語名：「東京大学演習林毎木調査試験地データベース」）に搭載した。UTFEEPは2020年9月に外部公開を開始した。さらに、英語トップページの追加（図2）、トップページ以外の日英併記化、データ中の学名での検索を可能にする等、UTFEEPの改良を2021年1月に行った。来年度のさらなるデータ整備に向けて、東京大学デジタルアーカイブズ構築事業に「森林成長に関する長期観測資料のデジタルアーカイブ化」の事業申請を行った。

全国大学演習林協議会の共同研究課題である「全国演習林の森林調査区データを用いた横断的解析およびデータ公開」の一環で進められているデータベース（通称「森羅」）作成プロジェクトに参画し、当部門の試験地メタデータリストを提供した。また、森羅データベース作成のための参考資料として、当部門作成の内部管理用データベース（FileMaker）の雛形ファイルを森羅プロジェクト事務局に提供した。

当初予定していた部門全体会議は、新型コロナウイルス感染拡大の影響によりオンライン開催とし、2020年12月1日に行った。各地方演習林の当部門担当者から試験地データの整備状況について報告があり、次期計画についての説明や意見交換等を行った。

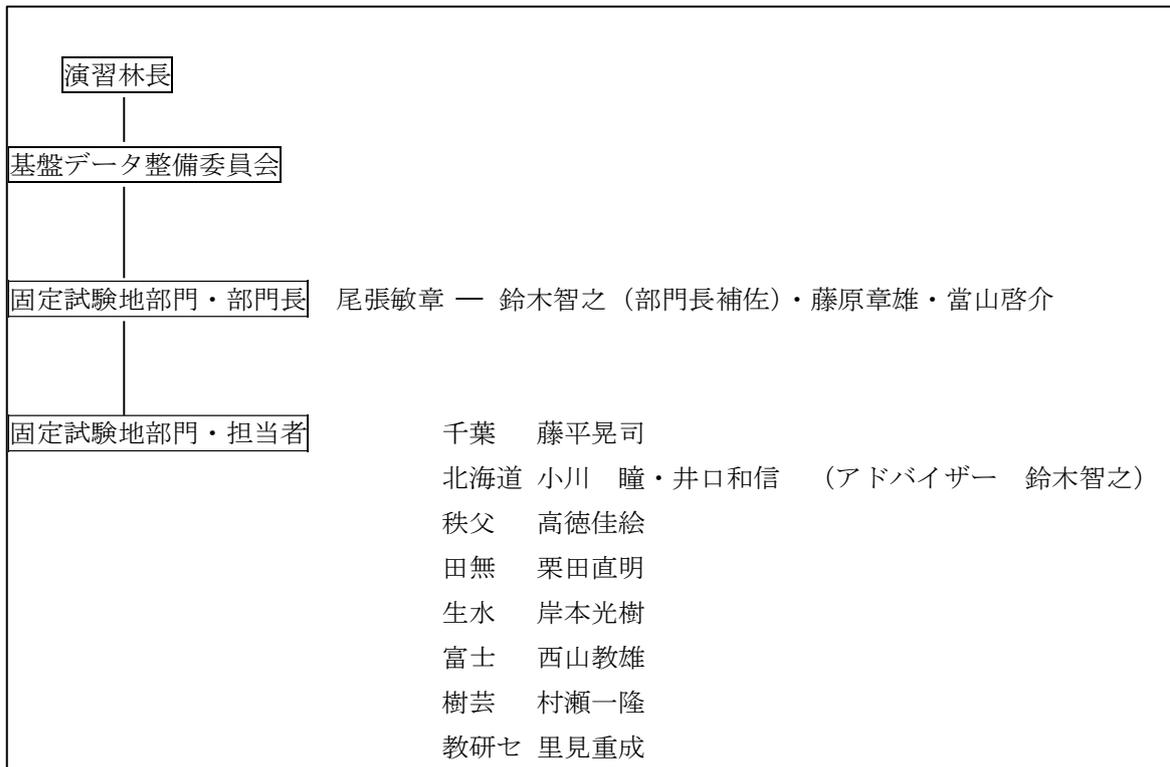


図1 固定試験地部門の構成（2020 年度）

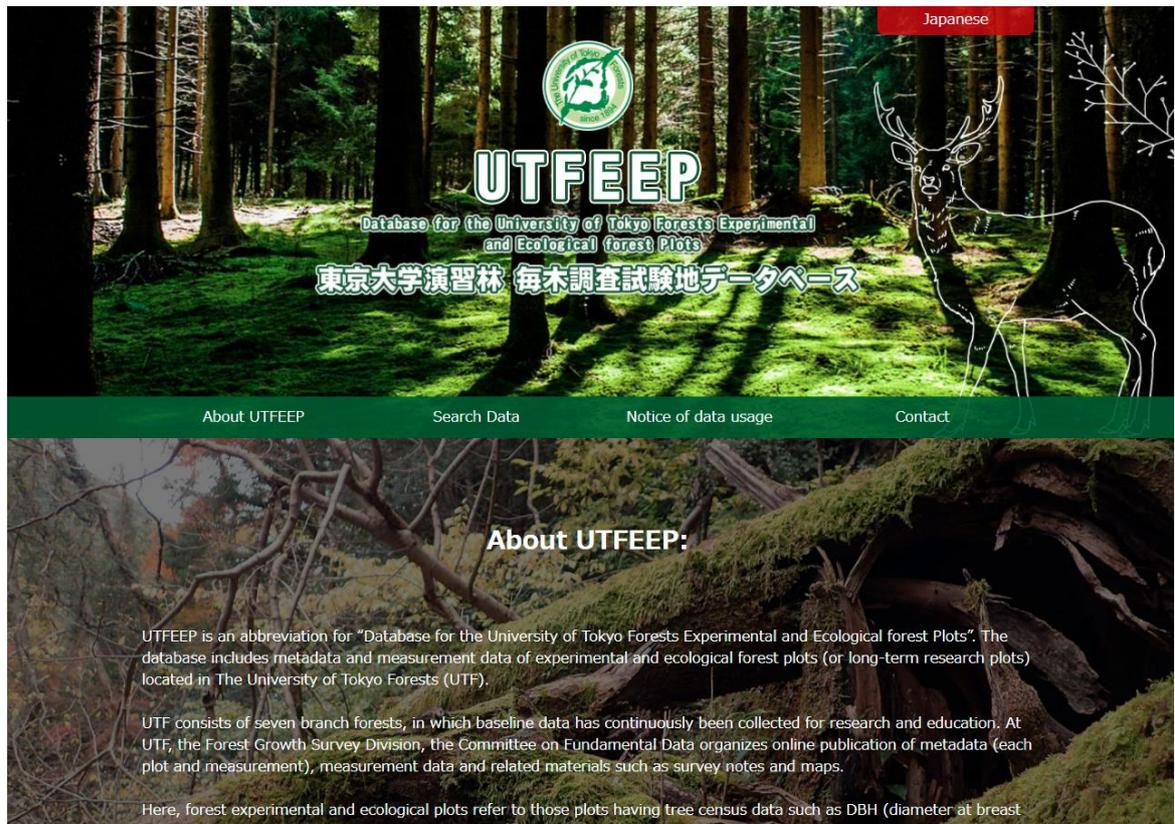


図2 UTFEEP の英語版トップページ（2021 年 1 月末時点）

## 2) 研究推進委員会

第1回委員会を4月17日に開催し、今年度の活動方針と活動体制および前年度の活動報告を確認するとともに、本年度の活動計画について議論を行った。活動方針として、前年度までと同様、PDCAサイクルによる研究推進を掲げ、研究推進方策の企画（研究プロジェクトの企画と外部資金獲得、演習林データの論文文化促進）、および研究等実績の評価と公開（研究業績および外部資金獲得状況の定量的分析、演習林を利用した研究成果の公表）を2本柱として活動を進めることを確認した。

企画班では、前年度に作成したメタデータ（基盤データ整備委員会各部門が収集するデータ、および各地方演習林の試験地等データを対象としたリスト）の定期更新を行い、演習林の教職員・学生向けのホームページよりダウンロードできるようにした。演習林のデータ（主にメタデータに記した基盤データと各演データ）を研究成果に結びつけるための取り組みとして、データ解析研究会の募集を行い、気象データ・動物データを利用したデータ解析研究会の打ち合わせ旅費の支援を行った。また、演習林内の研究活動を促進するための取り組みとして、複数の地方演習林を活用した研究活動のスタート支援を募集し、1件の研究テーマについて現地下見・打ち合わせ旅費の支援を行った。

評価班では、演習林教員の外部資金獲得および論文・学会発表等業績の情報を収集・リスト化し、運営委員会資料や演習林年報に掲載する研究活動資料として企画部に情報提供した。

前年度に引き続き、日本学術振興会（JSPS）研究拠点形成事業（B. アジア・アフリカ学術基盤形成型）において、3つの研究分科会（RG1：水・気候、RG2：生態系・多様性、RG3：持続的管理）にサポート要員を配置した。また、ウェブサイト (<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/c2c-2019/>) の更新・保守等を通じて同事業の実施を支援した。

### 3) 教育推進委員会

#### 1. 委員会の開催

2020年6月19日(金)、10月16日(金)、2021年2月19日(金)の3回開催した。

#### 2. 活動報告

##### 2-1. 教養学部講義の組織的取り組み

演習林では、2006年度より、教養学部における講義の開講に積極的に取り組んできた。近年は、年に30以上の科目が開講され、これらの講義を通じて演習林を訪れ、森林・農山村の現状を学ぶ機会を持った学生は毎年300~400人にのぼる。しかしながら、2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響のため、43科目の開講が計画されていたが、12科目のみの開講となった。受講生は92人と大幅に減少した。

また、教養学部前期課程2年次の学生向けに開講されている農学総合科目および農学基礎科目は、研究科全体で農学部における初年次教育と位置づけられており、これらの講義を担当することは農学部(研究科)全体への貢献として、演習林として組織的に取り組む必要がある講義等に該当すると考えられるので、これらの科目は駒場キャンパスで行う講義に準ずる扱いとすることとした。2020年度は農学基礎科目「森林環境科学汎論」、「森林資源と木材利用」を実施した。

##### 2-2. 教育推進委員会予算

新型コロナウイルス感染症の影響により教養学部前期課程の講義(全学体験ゼミ等)や国際教育プログラムについて中止・規模縮小・オンライン開催といった変更を余儀なくされ、教育推進委員会予算から支弁すべき経費内訳に大幅な変更が生じた。2015年度以降研究科から配分されている学部教育改革経費については例年どおりの金額が配分された。地方演からの要望に合わせて学部教育の向上に資するよう備品・消耗品・謝金等に支弁するとともに、オンライン化や新型コロナウイルス感染防止対策を講じた学部教育を実施するために必要な物品等に支弁した。また、翌年度から新たな附属演習林教育研究計画が始まることを受け、教育推進委員会経費および学部教育改革経費の支出基準や申請手続き方法を改定した。

##### 2-3. 広報情報委員会との連携

演習林ホームページにおいて公開森林実習の情報を発信した。また公開森林実習のポスターを作成し、農学系の大学に送付して広報につとめた。

##### 2-4. 演習林ゼミ

演習林ゼミは、卒業論文、修士論文および博士論文の作成に必要な指導を行うための「特別演習」「特別実験」等の科目の一部として行われている。2020年度は4研究室ごとのアレンジおよび卒論、修論、技術職員の発表で計11回、12月のみ対面とオンラインを並行し、それ以外はオンラインで開催した。

##### 2-5. 学生の確保

教養学部講義担当と協力し、演習林で学ぶためにはどのような学部・専修を選択すればよいかをわかりやすく示した資料として「森林のことを専門的に学ぶには?」を教養学部の講義・ゼミで受講生に配付した。また、進学・大学院受験等のガイダンスの場で「科学の森で学ぼう」パンフレット(PDFで発行)を印刷して配布した。体験ゼミ参加者が進学してきた事例があることから、教養学部講義の実施と合わせ、一定の効果を上げていると評価できる。

## 2-6. 教員総会

今年度の教員総会では教育推進委員会の担当はなかった。

## 2-7. 公開森林実習

全国大学演習林協議会（全演協）では、各大学が持っている演習林相互の有効活用を促進することを目的に教育関係共同利用として「公開森林実習」を実施している。東京大学は、他大学の学生に東大演習林で学ぶ機会を提供するとともに、本学学生に他大学の演習林で行われるさまざまな「公開森林実習」に参加する機会を提供するため、単位の取得にかえて「成績証明書・履修証」を発行することで、全演協の「公開森林実習」に参加している。

2020 年度は、森林系 2 専修およびフィールド科学専修の「森林科学総合実習」および国際開発農学専修の「森林実習」を「公開森林実習」として位置づけ、それぞれ「森林科学総合実習—北海道の天然林生態系とその持続的管理—」、「東京大学伊豆の公開森林実習—人の営みと森林のあり方について—日本の大学生は森のことを知らないままで本当によいのか?」として計画した。しかし、いずれも新型コロナウイルス感染症の影響で「公開森林実習」としての開催を取りやめた。

## 2-8. 国際交流

海南大学サマープログラムと韓国全国大学演習林協議会サマープログラムを北海道演習林で、海南大学における体験活動プログラムおよび台湾大学におけるサマースクールへの学生の派遣について、それぞれ実施を予定していたが、すべて新型コロナウイルス感染症の影響で断念した。海南大学で例年実施している特別講義については、森林圏生態社会学研究室が担当してオンライン講義で 12 月 21 日から 22 日にかけて実施した。海南大学からの連絡では受講者は 250 名程度である。海南大学との学術交流協定に基づく交換留学生 1 名を特別聴講学生として受け入れた。

## 2-9. その他

千葉演習林、北海道演習林、秩父演習林、田無演習林（生態調和農学機構と共同で実施）、生態水文学研究所、富士癒しの森研究所、樹芸研究所、海南大学で予定していた体験活動プログラムはすべて COVID-19 の影響で断念した。

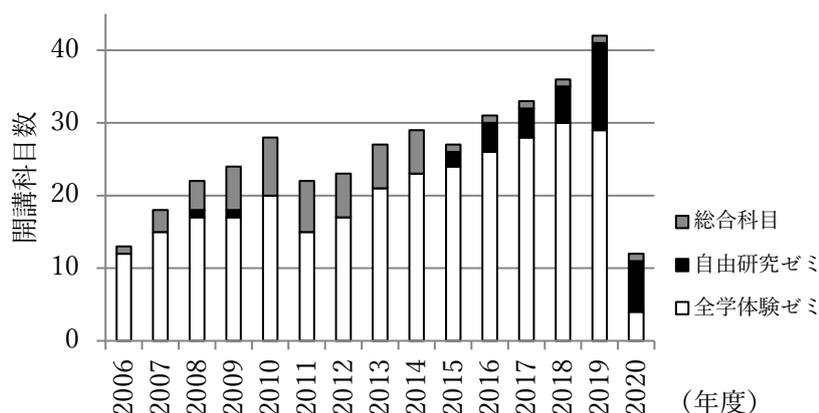


図-1 演習林における教養学部開講科目数の推移

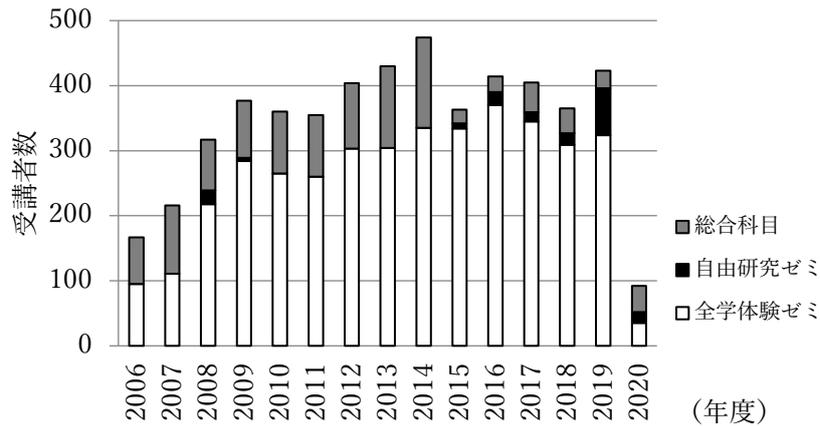


図-2 教養学部開講科目受講者数の推移

#### 4) 環境安全管理委員会

毎月開催される農学部環境安全管理室会議に出席して、情報の収集にあたった。特に共有すべき情報は演習林会議を通して周知した。特定化学物質障害予防規則等の改正への対応など組織で対応すべき事案が多くなっており、弥生キャンパスの研究室とは異なる立場・環境にある演習林の対応について環境安全管理室会議にて質問・説明すること、それらを演習林に持ち帰ることは本委員会の重要な活動の一つである。

教育研究安全衛生マネジメントシステムを2007年度より研究部（現教育研究センター）および各地方演習林をそれぞれユニットとして実施している。2020年度も継続して、各ユニットで安全衛生計画等の作成、定期的なミーティング、リスクアセスメントと対策の検討、安全衛生に関わる各種研修、講習を行った。演習林外部の研修・講習へ職員が参加するとともに、演習林内部でも実施している。教育研究安全衛生マネジメントシステムのまとめや機械等自主検査結果の報告等は各演習林で自律的に実施して、100%の提出率を達成している。100%の提出は当たり前のことではあるが、演習林は常に高い意識を持って安全に配慮していることを示すものである。

2015年度に実施した外部評価を機に、安全への一層の取り組みが必要であることと、人員削減によるリスク増があることから組織的に人材確保に取り組むべきことの重要性が確認された。このことを受けて演習林独自の安全への取り組みの一つとして、地方演習林の安全管理体制の視察を行い、地方演習林職員と職場の安全環境に関する交流を行うこととした。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、地方演習林の視察を行わないことにした。

細心の注意を払っても事故災害は起こり得るので、実際に事故災害が起こった時にしっかりと検証・点検を行って安全性を高めていく努力がとても重要である。

今年度も7件のハチ刺され、2件のダニ咬傷の報告があった。ハチと比較した場合、ダニとの接触のち刺咬に至るまでに時間があることが特徴なので、調査等で山林から帰還したあとにダニチェックを入念に行うことが特に重要である。2019年度にはダニ咬傷に伴ってアレルギー症状出た事例があったように、ハチに比べて危険性が低いということはない。しっかりと情報を共有すべき事案である。

8月26日には北海道演習林で熱中症が2件発生した。熱中症に注意を払い、対策を施しつつ作業に当たったが、午前中に施設構内の環境整備で枝等の集積運搬作業中に1件、午後にも

施設構内の環境整備で刈払い作業後に 1 件と立て続けて 2 件発生したことになる。対策をとっていたにも関わらずに発生しているので、さらに注意深い行動・判断が必要になる。

演習林だけの問題ではないが、新薬品管理システム（UTCIMS）の機能不全が続いている。環境安全管理委員会では薬品管理を、エクセル等を使用して実施する呼びかけを行った。本件に限ることではないが、システムに頼るばかりではない安全意識の向上も重要である。

## 5) 広報情報委員会

- ・演習林会議の前に、図書館会議室の TV 会議システムを利用して 8 回の会議を行い、弥生地区の委員のみで打合せを 3 回行った。6 月、9 月、12 月、3 月には科学の森ニュース編集委員会と合同で会議を行い、科学の森ニュースで取り上げるトピックス等について検討した。

### 【広報活動】

- ・演習林編集委員会と連携して、雑誌「演習林報告」143 号・144 号、「演習林」63 号を編集した。また、科学の森ニュース 90 号～93 号、「科学の森で学ぼう」の編集、印刷、出版と配布を行った。
- ・全演ホームページについて、各種更新を行った。
- ・毎月の専攻長・附属施設長会議に演習林の活動を資料として提出したほか、各地方演習林と協力して、広報誌（学内広報、淡青、弥生など）への原稿の投稿、情報の提供を行った。
- ・2020 年 4 月～2021 年 3 月の演習林出版局の出版物（ポストカード含む）の販売実績は、農学部生協店で 19 冊、生協駒場書籍部で 0 冊、多摩六都科学館ミュージアムショップ 8 冊、神林書店 54 冊、地方演習林合計で 137 冊、全体では 218 冊、合計 146,936 円（消費税込）となった。
- ・公式シンボルマークの利用について地方演習林から問合せがあり、委員会で審議した上で使用内規を制定した。

### 【情報活動】

- ・演習林年報に利用する地方演習林における教育研究活動のデータ収集を支援した。
- ・技術職員等試験研究・研修会議報告について、とりまとめや編集、発行を行った。
- ・広報情報委員会の下部組織である演習林ネットワーク委員会では、メールアカウントの管理業務・演習林サイボウズ・Web/データベースサーバの管理・部局 CERT における担当を行った。
- ・5 月にメールホスティングが g.ecc アカウントに変更するのに伴い、教職員については uf アカウントを維持するが、学生については割り当てられる g.ecc アカウントを利用してメーリングリストへの登録を行うことにした。
- ・コンピュータセキュリティに関する業務、地方演習林のインターネット接続・コンピュータネットワークに対する支援などを行った。
- ・メーリングリストの更新とリスト担当者の役割の議論を行い、「メーリングリスト担当者」を、共通の基準で区分し、担当者を定めた。
- ・7 月のマルチメディア委員会で改めて、作業所等の VPN 化について要望した。その後、

研究科のマルチメディア室と連携を取り、ASANO システムの導入を推進した。

- ・「演習林サイボウズの管理体制」に従ってサイボウズの運用を行った。
- ・地方演習林で発生した情報セキュリティインシデントに対し、地方演習林担当者と協力し、対応に当たった。
- ・UTokyo-CERT 説明会と総務省情報セキュリティ統一研修を受講し、全学の情報セキュリティの動向や管理体制、技術的基盤に関する情報収集を行った。

## その他

- ・次期計画では広報情報委員会の業務は主に、社会連携委員会、管理運営委員会が担うことになるため、来年度の両委員長にオブザーバー参加していただき、内容の確認をお願いした。また、各担当が行っている業務を各自で取りまとめ、スムーズに引継ぎができるように準備を行った。

## 6) 国際交流委員会

演習林国際交流委員会は、おもに、各国の大学演習林との交流計画の作成・実施を任務としている。COVID-19 の影響で海外渡航がまったく行うことができず、渡航を伴う計画はすべて実施できなかった。すなわち、2020 年夏に国立台湾大学で予定されていた SAUFC は 2021 年冬以降に延期となった。2019 年度から採択となった日本学術振興会 (JSPS) 研究拠点形成事業 (B.アジア・アフリカ学術基盤形成型)「環境変動と生態系応答の長期森林観測フィールド研究拠点：データ・知・人材の協創 (代表：鎌田直人教授, 2019-2021 年度)」のシンポジウムをインドネシア国ガジャマダ大学で 2020 年夏に開催する予定であったが、いったん 2021 年春に延期したものの、2021 年度に再延期となった。農学生命科学研究科の外国人教員招聘で来日予定であった中国海南大学の Zhang Hui 教授、アメリカ合衆国コロラド州立大学の Kristin Bunte 教授の来日も延期となった。戦略的パートナーシップ事業では、従来のソウル国立大学、国立台湾大学のグループに加え、2021 年度からスイス連邦工科大学のグループにも新たに参画することとなった。しかし、同様に COVID-19 の影響により、具体的な活動は全く行うことができなかった。インターンシップとしてマレーシアサバ大学から 2 名、ブラジル Universidade Estadual Paulista Júlio de Mesquita Filho (「ジュリオ・ヂ・メスキータ・フィーリョ」パウリスタ州立大学) から 1 名の学生を受け入れた。

## 7) 森林病虫害委員会

森林病虫害委員会は森林管理において支障となる病虫害が発生し各地方演習林で対応が困難な場合に専門的な立場から管理指針を助言することになっている。

ブナ科樹木萎凋病（ナラ枯れ）については、2017 年度に千葉演習林をはじめ房総半島南部でマテバシイを中心に発生が確認され、その後も拡大していった。2019 年度には、被害は埼玉県、東京都、千葉県北部、山梨県でも見られるようになり、富士癒しの森研究所において単木的なミズナラの枯死被害が発生した。2020 年度には、田無演習林、富士癒しの森研究所で相当量の被害が発生し、本委員会としては両地方演習と情報や対応策の共有を図っている。2021 年度の被害発生までに対応が必要である。

マツ材線虫病（マツ枯れ）については、生態水文学研究所 74 林班の海岸林で殺虫剤の地上散布を継続するとともに、生態水文学研究所が調査した被害状況の報告を受けている。2018 年度までは被害は抑えられてきた。2019 年度はやや被害が多くなったが、2020 年度は若齢木を含め多数の枯死被害が発生した（表-1）。そのため、2021 年 1 月に直営で殺線虫剤の予防樹幹注入処理を行った（表-2）。今後も、伐倒駆除、薬剤散布の徹底とともに、樹幹注入を継続することが必要である。2010 年度に実施した樹幹注入試験地（注入木 131 本）については、これまでと同様 2020 年度も枯死木がなかった。

その他に対応が必要な病虫害発生案件はなかった。

表-1 地区別のマツ枯れ枯死被害状況

地区名	枯死木	
	本数	材積 (m <sup>3</sup> )
弁天 I.C. 周辺	70	34.55
住吉公民館周辺	165	8.89
ハマнда (飛地)	8	2.67
合計	243	46.11

表-2 樹幹注入状況

地区名		対象範囲本数	薬剤注入本数	非注入木本数	マツ枯れ枯死本数	使用薬剤瓶数 (本)
民館住吉公 館周辺	住吉公民館	309	107	168	34	178.5
	雇用促進住宅 A	103	38	65	0	68
	雇用促進住宅 B	43	20	23	0	36
小計		455	165	256	34	282.5
弁天 I.C. 周辺		149	28	111	10	117.5
合計		604	193	367	44	400

## 8) 「東京大学の森」育成資金委員会

「東京大学の森」育成資金の目的は以下の通りである。

- 1) 管理作業：教育研究フィールドとして、多様な森林環境を保全管理する。そのために森林管理作業全般を行う。
- 2) 観測・調査：森林の生態や動態に関する科学的データを収集整備し、それらを提供する。そのために、継続的な観測・調査を行う。
- 3) 社会教育：森林・環境に関する理解を深める社会教育の場・機会・プログラムを提供する。

10 万円以上の寄付をした個人と 50 万円以上の寄付をした法人のうち希望者は「記念樹への銘板の設置」「記念樹見学会（以下、寄付者イベント）への参加」という特典が与えられる。また 1 万円以上の寄付をした方には「記念品（ポストカード）」が贈呈される。

2020 年度の寄付は 14 件、1,077,000 円（東京大学基金取り分含む、千葉・秩父支援金を除く、以下同じ）であり、寄付件数は 2019 年度を上回った（なお、2019 年度の年報では、8 件、1,540,000 円と記載していたが、10 件、2,050,000 円に訂正する）。

2019 年の台風 15 号、19 号等による千葉演習林と秩父演習林の被災からの復興支援金は 2020 年度も引き続き受け入れており、累計は千葉演習林が 199 件 6,780,017 円（うち 2020 年度分 2 件 11,000 円）、秩父演習林支援金が 77 件 2,959,000 円（うち 2020 年度分 13 件 573,000 円）だった。これらを合計した 2020 年度の総寄付金額は 1,661,000 円であった。寄付者の方を主たる対象者として東京大学基金との共催により 2020 年 4 月 28 日に「被災演習林の復興に向けた報告会」を開催する予定であったがコロナ禍の影響で中止し、科学の森ニュースに感謝号を設定して被災演習林の復興状況について報告した。

保健体育寮だった下賀茂寮が 2020 年 4 月 1 日から樹芸研究所の宿泊施設になったことに伴い、下賀茂寮 50 周年基金の残高 1,575,146 円を「東京大学の森」育成資金に繰り入れ、下賀茂寮の維持管理のための別枠として管理することとした。

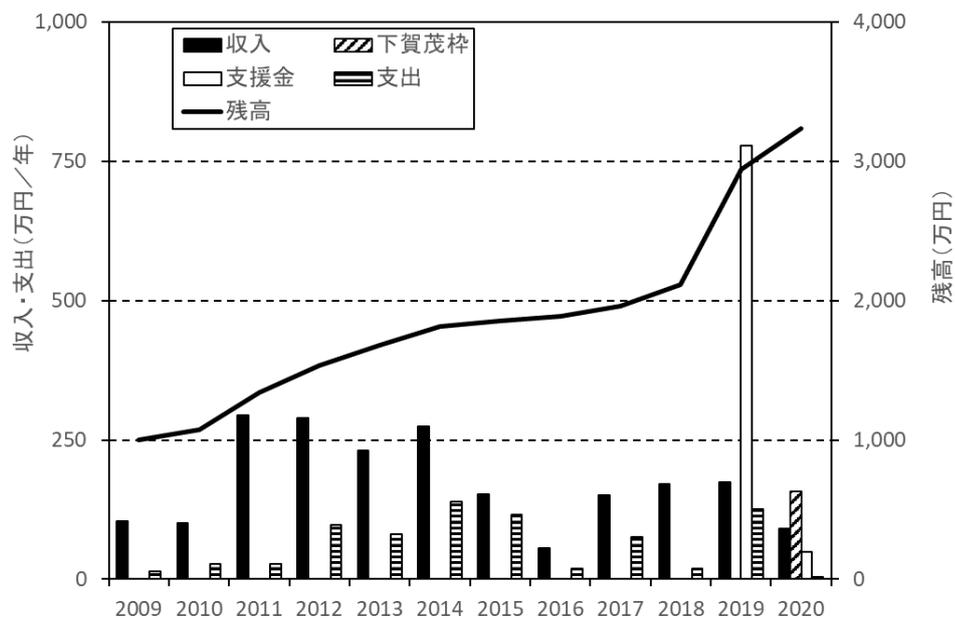


図 寄付金収入、支出、残高

## 2. 地方演習林

### 1) 千葉演習林

本年度は前年秋の台風による林道被害と復旧工事、および新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、年度当初から活動全般が大きな影響を受けた。

#### 【教育】

本年度中に実施が予定されていた実習が中止または規模縮小となった。実習の受入れに際しては、宿泊人数を制限するとともに、十分な感染防止対策を施し、複数回に分けて日帰り開催とするなどの工夫をした。また、現地からの中継によるオンライン授業を実施した。専門教育として、農学部1科目（森圏管理学）、理学部1科目（地球環境科学科野外調査実習I）、大学院農学生命科学研究科1科目（生圏システム学特論）を対面で実施し、のべ127人日の学生が受講した。また、農学部1科目（バイオマス科学実習・森林科学実習）をオンラインで実施し、20人日が受講した。さらに、他大学（千葉大学）の実習1科目で35人日の対面利用があった。教養教育として、全学体験ゼミナール1科目（森のエネルギーを使いこなす）と総合科目1科目（森林環境資源学）を対面実施し、計41人日が受講した。また、農学基礎科目1科目（森林環境科学汎論）をオンラインで実施し、52人日が受講した。さらに、海南大学熱帯林学院の講義としてオンライン中継を実施し、200名以上の学生が聴講した。本年度における対面での実習利用人数は、前年度比で76%減となった。なお、開講中止となった本学の実習科目他は次のとおりである。農学部2科目（森林科学基礎実習I、森林経理学実習）、大学院新領域創成科学研究科1科目（自然環境学野外総合実習）、全学体験ゼミナール5科目（危険生物の知識（春編）、徹底検証・スギ&ヒノキ〜もっと知ろう、木材のこと〜、フィールドで考える野生動物の保護管理、危険生物の知識（秋編）、房総の森と生業（なりわい）を学ぶ）、体験活動プログラム（「東大の森」の教育研究を支えよう！）。学生の研究利用は例年並みであり、卒論研究5件、修論研究10件、博論研究6件の利用があった。安全管理、観測補助、フィールド情報およびデータの提供等の研究支援を行った。

#### 【研究】

研究課題のうち、①「持続可能な人工林経営を实践する理論と技術の高度化」では、成長測定試験地の観測・データ整理・データペーパー等の公表準備と、高齢人工林針広混交化試験地の天然更新状況に関するデータ解析作業を進めた。当演習林所蔵史料に基づく過去100年以上の森林資源推移を論文発表するとともに、人工林作業の安全性向上に関する情報収集と技術普及を行った。②「林木の育種と増殖技術の開発」では、当演習林で選抜した抵抗性クロマツ候補12系統の一次検定を千葉県森林研究所と共同で行い、2系統が合格した。2017年度に一次検定を合格した4系統の二次検定を林木育種センターで行ったが、3系統が不合格、1系統が苗数不足のため未評価となった。本年度実施の一次検定で合格した2系統と二次検定で未評価であった1系統の穂木を、二次検定のため林木育種センターに送付した。マツ類の増殖技術では、ヒメコマツの接ぎ木苗を母樹とした挿し木苗の作出を試みた。また、マツ類の挿し木や育種に関する論文3報を発表した。③「絶滅危惧植物の保全に関する研究」では、千葉県ヒメコマツ保全協議会の活動として繁殖量調査を行い、前年度並みの結実量であることを確認した。

また、天然個体への高芽接ぎ試験を継続し、実生由来の穂木を用いることで活着率が向上することを明らかにした。④「房総丘陵における暖温帯林生態系の保全・管理」では、カメラトラップ法でのシカ生息数調査を実施するとともに、前年度のデータからシカ生息密度は 6.4~8.6 頭/km<sup>2</sup> と推定した。また、暖温帯生態系に関係する過去の調査資料を整理した。2017 年度から発生しているナラ枯れの被害調査を継続し、本年度は調査区内の新規被害発生が減少していることを確認した。被害木の伐倒調査を行い、材内におけるキクイムシの分布や材変色の広がりを中心に明らかにした。当演習林の研究利用は縮小・内容変更を余儀なくされた一方、例年並みの 30 件（学生の研究活動を除く）の利用課題があり、様々な研究支援を行った。また、当演習林独自の基盤データ整備として、生物部門・植物分野では千葉県立中央博物館との植物相調査で得たメッシュデータの整備を進めた。昆虫分野では同博物館と共同で昆虫相調査を行い、県初記録となる甲虫 6 種を採集した。GIS 部門では UAV 空撮画像によりナラ枯れ枯死個体の探索と現地調査の比較結果を報告した。固定試験地部門では長伐期施業試験地の資料等のスキャン・野帳整理・データ入力を行った。

### 【社会連携】

本年度中に実施を予定していた行事の多くが中止され、徹底した感染拡大防止対策の下で開催した一般向けイベントは 2 件のみであった。鴨川市との地域交流協定に基づく共催事業「野鳥の巣箱をかけよう」については、4 月の観察会を中止し、12 月の巣箱作りは規模を縮小して実施した。君津市との地域交流協定に基づく坂畑小学校スクールミュージアム「演習林見学会」を 11 月に実施した。本年度に開催中止としたイベントは次のとおりである。千葉大学海洋バイオシステム研究センター共催事業「高校生のための森と海のゼミナール」、鴨川市立天津小湊小学校 5 年生「総合的な学習の時間」、鴨川市との交流事業「東京大学・小石川植物園見学ツアー」、千葉演独自開催「学内特別ガイド」、「春の一般公開」、「森林博物資料館一般公開」。ボランティア会 Abies の活動は野外 1 件を除き中止（自粛）となった。外部向けのウェブ情報公開を進め、解説記事「地質学と千葉演習林」を掲載し、「公開データ」、「研究論文等一覧」、「千葉演習林所蔵大判資料群データベース」の各サイトを新規公開した。

### 【施業管理】

人工林の保育作業として、地拵え・新植 0.29 ha、下刈り 0.63 ha、除伐 0.50 ha、保育間伐 0.46 ha を実施した。なお、実習による保育作業の実施はなかった。2018 年度に主伐を行った 10 林班 C4 小班においてスギを植栽した。また、10 林班 C4 小班の 117 年生スギ立木 4 本について直営での素材生産を試行し、計 2.7 m<sup>3</sup> を市売りした。TSCP 促進事業の J-クレジット認証プロジェクトについて、本年度はクレジット取得の条件となっている森林経営計画を策定するとともに、TSCP 室を通じてプロジェクト登録申請を行った。次年度からの第 14 期教育研究計画策定にかかる森林現況調査を行った。前年度の台風による森林被害調査を実施し、計 41 小班、79 箇所風倒木の被害が確認された。

【その他】前年度の台風によって被災した林道路線の復旧作業を進めた。郷台林道南房総線区間の災害箇所は鴨川市が復旧工事を行った。その他の被災路線（郷台、本沢、猪ノ川、一杯水林道）は文科省災害復旧費により本年度末までに復旧工事が完了する予定である。事故災害報

告は 3 件（ダニ刺され 1 件，ハチ刺され 2 件）であった。4 月と 12 月に特任専門職員を各 1 名採用した。本研究科の施設整備準備金により清澄学生宿舎屋根改修工事を，基盤施設整備事業により清澄作業所トイレ改修工事と清澄職員宿舎 3 号改修工事をそれぞれ実施した。また，市町村交付金相当額により，本沢林道坂本橋架け替え工事（測量業務委託），猪ノ川林道ゲート設置工事，天津事務所境界擁壁改修工事を行った。

## 2) 北海道演習林

### 【教育】

学部・大学院の専門教育として、農学部授業科目「森林科学総合実習」(全演協の公開森林実習として公開)を担当実施の予定であったが、COVID-19の影響で中止した。One Earth Guardiansの授業科目1件の研修を受け入れオンラインで指導を行った。卒業論文研究3件(筑波大、北海道教育大、鹿児島大)、修士論文研究8件(東京大、北海道大、名古屋大)、博士論文研究1件(東京大)を受け入れてこれらの実行を支援した。教養教育として、教養学部授業科目「全学体験ゼミナール：雪の森林に学ぶ～北海道演習林」を開講する予定であったがCOVID-19の影響で中止した。体験的な機会の提供として、インターンシップ2名(マレーシア Sabah 大)を受け入れた。ICTを活用したフィールド遠隔教育の取り組みとして、弥生キャンパスで行う農学部授業科目等で1回の遠隔ライブ講義を実施した。初等・中等教育支援として、とわの森三愛高(獣医・理数コース)の研修を受け入れ、指導を行った。技術者教育として、官公署・国有林、林業団体等の研修会・視察見学等計5件を受け入れ、それぞれ指導を行った。

### 【研究】

「汎針広混交林帯における森林生態系の持続的・順応的管理」を課題として掲げ、森林生態、森林経営、森林生態系保全の3分野のもと活動を行った。主なトピックは以下の通りである。

森林生態分野では、大面積長期森林生態系観測に関して、前山プロットのこれまでの測定データをデータペーパーとして公表するとともに、25年間の変化傾向を明らかにした。微生物・昆虫の生態と生物間相互作用に関して、今年度をもって、カラマツハラアカハバチの密度モニタリング調査を終了した。寄主植物20種を餌木とし、穿孔するキクイムシを調査した。野生動物の生態に関して、エゾシカのライトセンサスと自動撮影装置による野生動物モニタリングを継続実施するとともに、コウモリの食性解析を行った。大規模自然攪乱後の森林回復過程に関して、風害試験地と風害復旧試験地における蓄積回復を集計してとりまるとともに、風害後の長期的な森林変化を予測するシミュレーションモデルの構築も行った。さらに、空中写真やLidarデータを用いた風害後の林分回復評価にも取り組んだ。森林生態系の基礎情報の収集に関して、全演基盤データ整備委員会の活動とも連携しながら、気象観測、水文・水質観測、主要樹種のフェノロジー観測、動植物の生物相・分布域など生物情報の収集を継続した。気象観測については、2021年1月から山部(樹木園)の観測地点(II種)を新露場へ移行した。

森林経営分野では、林分施業法の科学的・技術的基盤の強化に関して、各作業級および各林種における13期中の固定標準地データを検証し、年成長率の再査定を行った。前年度に全域で完了した航空機LiDARデータを用いて、全域のDTM、DSM、DCHMを作成した。UAV空撮画像を使った人工林蓄積算定の試みと植栽予定面積の算定を行った。山火再生林における広葉樹高品質大径木育成技術と更新促進技術の開発に関して、ミズナラ大径木育成と更新促進のための強度間伐試験を開始した。多様な人工林施業技術の開発に関して、2019年にヨーロッパトウヒ高齢級人工林内の伐根周辺に植栽したエゾマツコンテナ苗の健全度および生長量測定を行った。広葉樹優良木の管理・育成手法の開発に関して、ミズナラ含有成分の分析と遺伝子解析をサントリーと共同で開始した。蓄積調査の標準地および固定標準地のデータを用いて、

ウダイカンバ・ハリギリの大径木本数の将来予測を行った。安全で効率的な森林作業・土木技術の開発に関して、林況調査において GNSS 測位データをタブレット端末用 GIS アプリ (Collector for ArcGIS) へ直接入力できるシステムを開発・活用した。屋根型盛り土の実践と、シート状の盛り土補強・軟弱地盤安定材の導入などの土木技術の試行を行った。

森林生態系保全分野では、移入種の生息状況把握と管理手法の確立に関して、自動撮影装置によるアライグマの生息実態モニタリングを継続した。森林の炭素固定機能の評価に関して、長期にわたって人為的伐採のない前山保存林の固定標準地において樹木バイオマス変化を解析した。

### 【社会連携】

一般公開事業として、親子向け公開セミナー「空知川の水はどこから来るの？～森と川の関係を知る～」、大麓山ハイキング登山会、および神社山自然観察路一般公開「身近な自然の存在を知ろう」、短時間セミナー「ぶらり 東大の森さんぽ～冬の樹木園を歩こう～」を計画したが COVID-19 流行に伴い全て中止した。代替として、親子向けオンラインセミナー「北海道演習林の動物たち」を開催した。富良野市との地域交流協定に基づき教育委員会が演習林内で展開する森林学習プログラム推進事業に全面的に協力した。2020 年度は市内の計 5 校 (小学校 4 校、中学校 1 校) でプログラムが実施され、計 99 名の児童・生徒および延べ 66 名の森林学習サポーターが参加した。

### 【施業管理】

立木伐採は資材量で 22,160m<sup>3</sup> (天然林 12,722 m<sup>3</sup>, 人工林 9,438 m<sup>3</sup>) を実行し、うち 1,566m<sup>3</sup> について素材生産・販売を行った (直営 924 m<sup>3</sup>, 再生林請負 398 m<sup>3</sup>, 委託販売 244 m<sup>3</sup>)。立木および素材の販売額は合計 88,626,892 円で、立木が 49,042,110 円、素材 (委託販売を除く) が 19,813,300 円、委託販売 (銘木市売) が 19,771,482 円であった。山出苗生産本数は 12,054 本 (トドマツ 4,074 本, エゾマツ 4,817 本, アカエゾマツ 3,163 本), 地拵, 植付, 下刈の実行面積はそれぞれ 22.2ha, 14.4ha, 54.0ha, 林道改良距離は 66.90km であった。森林保護に関して、春期に山火予消防活動 (監視および啓発) を、春と秋に野鼠発生予察調査を、冬期に北海道猟友会富良野支部および富良野市と共同でエゾシカの有害獣駆除 (2 回) を、森林被害巡林調査を計 3 回、それぞれ実施した。特定試験林 (試験地) の測定を計画に則って実行した。

不動産 (土地) については、1 件の土地売却 (道道東山富良野停車場線道路用地 640.11 m<sup>2</sup>) を行った。不動産 (構築物) については、山部事務所屋根の一部を改良した。土地の貸付契約は、新規 1 件 (富良野市コミュニティ FM 放送東山中継局 79.00 m<sup>2</sup>) があった。

### 【その他】

環境安全管理について、事故災害発生件数は 9 件で前年度 (2 件) より増加した。内訳としては、虫刺され災害が 6 件 (ハチ 5 件, ダニ 1 件), 熱中症が 2 件, 車両を構内でバック駐車した際に建物に接触する物損が 1 件であった。今後は天候や周囲の状況, 体調等に注意しながら作業の質や量を見極めることや, 安全装備のさらなる導入についても検討する必要がある。また, クレーン付きトラックの運転中に内輪差を見誤り, カラーコーンに接触したことに気付かなかったヒヤリハットが発生したため, 運転上の注意点の再確認と運転技術の向上のために

トラック運転の実技講習会を実施した。

新型コロナウイルスの対策としては、これまでは職員全員が一堂に会して開催していた月例報告会や安全衛生に関する講習会を、Zoom を用いて各職員の机上の PC から参加する形とした。

### 3) 秩父演習林

#### 【教育】

##### 1. 学位研究の受け入れ

本学の学部課程 2 名，修士課程 6 名，他大学の学部課程 1 名，修士課程 1 名が学位取得のための研究を行い，研究指導，研究計画助言，研究地への送迎，野外調査補助，試験地の維持管理などの協力を行った。

##### 2. 大学実習の受け入れ

教養学部の実習，環境学フィールドワークⅡ（国際環境学コース）を対面で受け入れた。受け入れ予定であった学部の実習，森林科学基礎実習Ⅲ，バイオマス科学実習・森林科学実習（生物素材化学専修・木質構造科学専修），フィールド科学専修森圏管理学実習の 3 件の秩父演習林での現地実習は中止となった。秩父演習林として全学体験ゼミナール「秋の奥秩父を巡る」は現地講義を対面で開講した。開講予定だった「春の奥秩父を巡る」は中止した。

#### 【研究】

##### 1. 冷温帯森林生態系に関する研究

2016 年度で調査を終了したイヌブナ天然林のリタートラップ調査，2018 年度で調査を終了したシオジ天然林のリタートラップ調査のデータ資料を『演習林』に投稿した。定期調査として，人工林固定試験地の毎木調査（入山 11 箇所，28 林班 1 箇所），環境省モニタリングサイト 1000 の調査は，ブナ・イヌブナ林の毎木調査（2019 年の台風 19 号の影響で，リタートラップ調査，地表徘徊性昆虫調査は未実施）を実施した。また，民間企業との連携によるシカ排除柵試験地（30 箇所×内外 2 調査区）の植生・土壌調査，センサーカメラによる哺乳類調査，渓流水の水質モニタリングなど，植生保護・生態系管理に関する実証研究を行った。

##### 2. 情報工学分野との融合研究

前年度に続き，ライブモニタリングシステムによる森林景観と樹木フェノロジーの映像・音声記録，鳥類相の遠隔調査，環境教育教材の開発に関する研究が行われた。

##### 3. 基盤データ整備

気象部門では 2019 年の観測結果と 2003～2018 年の標高別気温観測結果，水文水質部門では 2018 年の観測結果（流出量・水質）をそれぞれ『演習林』に投稿した。過去の気象資料の整理を進めた。GIS 部門では操作技術・データ整備指導研修（オンライン）に講師および受講生として参加した。また，11 期教育研究計画の策定に合わせ既存の GIS データを大幅に整備更新し，その際の情報共有や確認作業にタブレット端末を活用した。生物部門植物分野では標本の整理とデータベース化を行った（I 種）。鳥類分野では通年任意調査を行った。また，バンディング調査実施のための訓練を行った。昆虫分野では例年通りピットフォール調査を行った。埼玉昆虫談話会とのライトトラップ調査は 2019 年の台風 19 号の影響で実施しなかった。脊椎動物分野では自動撮影カメラ調査を実施した。固定試験地部門では試験地のメタデータを整備し，データの電子化を進めた。

#### 4. 利用者ガイダンス・利用者発表会

利用者ガイダンス・発表会は中止したが、利用者に提出してもらった研究概要をまとめた要旨集を作成し、演習林利用についてのガイダンスとあわせて配布した。

#### 【社会連携】

2019年の台風19号による災害復旧工事と新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、安全性の確保の難しさから、例年行っている公開講座2回、影森祭(12月)を中止した。秩父地域の木材業・森林・林業の普及啓発を目的とする「木が香る秩父フェスティバル」(11月、道の駅ちぢぶ)については、屋外でのイベント、密にならない環境であることから、感染防止対策を取りながら参加した。小中高校への対応については、例年受け入れている秩父市中学生社会体験チャレンジ事業(3校)、埼玉県立秩父農工科学高校の樹木採集実習(7月)の実習利用も中止となった。また、秩父演習林ボランティア会「しおじの会」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から9月まで活動中止としたが、10月以降は感染防止対策をとったうえで活動を再開した。シカ防除柵の点検補修、歩道巡視、お土産づくり(木工品)、樹木園保全などの活動にのべ36名(1月31日時点)が参加した。

学外各種委員会では、特別天然記念物カモシカ保護対策事業通常調査指導委員会、埼玉県特定鳥獣保護管理検討委員会、埼玉県環境科学国際センター客員研究員、甲武信ユネスコエコパーク保全活用委員会、秩父地域森林林業活性化協議会・幹事会・分科会、秩父地域鳥獣害対策協議会・幹事会、モニタリングサイト1000検討会、JaLTER運営委員会、同代表者委員会に参加した。

#### 【施業管理】

育林実行量は、獣害対策がクマ剥皮防除樹皮ガード保守管理1箇所(1.28ha)、シカ防護柵保守管理1箇所(1.18ha)であった。土木実行量は車道維持が13,343m、歩道維持が40,445m、モノレール維持が2,265m(2路線)であった。また、民間企業との協定による森林整備で、31林班の2路線の作業道を、それぞれ1,059m、340m延長した。

災害関連では、2019年の台風19号で被災した林道・作業道、モノレール(2箇所)、樹木園防獣柵の復旧工事について、文部科学省より災害復旧費(土地・設備)が予算措置され2020年度内の完成を目指し、工区を3つに分け、先行分を2020年6月、その2を9月、その3を12月に発注した。しかし、2020年9月5日の大雨により入川林道で新たに発生した法面崩壊、また、新型コロナウイルス感染症拡大による影響に伴い、年度内に事業を完了することが困難となり、それぞれ工期を5月31日、6月30日、7月30日に延長、予算を繰越した。一方、国立大学法人総合損害保険で学生宿舎改修、モノレールの一部と量水観測施設の修繕工事を行った。

#### 【その他】

環境安全管理について、今年度は災害復旧工事中の林道でオートバイと自転車による転倒災害が2件あった。6・2月に教育研究安全衛生マネジメントシステム会議、8・1月に消防訓練及び機器点検、12月に公用車自主点検を実施、10月に安全運転に係るウェブトレーニング(日本自動車連盟)の閲覧を推奨した。台風被害に際して「東京大学の森」育成資金(秩父演習林

支援金)に今年度は13件(2019年11月1日からの累計77件)の申込みをいただいた。

なお、新型コロナウイルス感染症対応のため、多くの活動が中止、変更、あるいはオンラインで実施となった。本感染症対策として、本学や農学部の方針に従うとともに、秩父演習林独自の活動制限レベルを設定、「秩父演習林における新型コロナウイルス対応ガイドライン」、「秩父演習林活動制限レベル別利用受入基準」、「利用申込時チェックシート COVID-19 対応」、「新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じたしおじの会の活動実施について」等の指針を策定、それに基づいた対策を講じた。活動制限レベルに対応する勤務体制でローテーションを組んで在宅勤務を実施した。

#### 4) 田無演習林

##### 【教育】

農学部の実習を5件（うち2件はオンライン実習への協力）、他大学の実習を1件、実施した。農学部の実習には連携する生態調和農学機構による実習1件が含まれている。教養学部の実習（全学体験ゼミナール「体験して考える森林ガイドボランティアの現在と未来」）を1件実施予定であったが、関連する「子ども樹木博士」イベントがCOVID-19感染防止対策のため中止となり、全学体験ゼミナールも不開講となった。体験活動プログラムは生態調和農学機構と共同で実施予定であったが、東京大学全体の方針として中止となった。卒業論文研究等では卒業論文2件（うち本学のものはなし）、修士論文7件（うち本学6件）、博士論文3件（うち本学2件）の利用があった。教育利用全体での延べ利用者数は186人（外国人は0人）であった。

##### 【研究】

単回・通年利用を含め34件の申請があり、延べ79人（外国人は0人）の研究利用があった。内容別には生物の生態的特性に関する研究が20件と約6割を占め、樹木生理に関する研究が11件、森林の利活用に関する研究が3件となっている。分野の異なる利用者との交流を深め、研究可能性をさらに広げることを目的とした研究利用者交流会を例年通り6月に実施する予定であったが、COVID-19感染防止対策のため活動制限が全学的に行われていたため開催を見送った。

##### 【社会連携】

年度当初には例年通り小中学生向け講座や休日公開の実施を予定していたがCOVID-19感染防止対策としてすべて実施を見送った。唯一、学内教職員向けとして例年実施している「リース作り体験会」はオンライン形式で12月5日に実施した。ネットワーク回線の負担を軽くするために参加者は10組（10回線）までと制限し事前に抽選を行った。参加者には田無演習林内で収集したクリスマスリース用の材料を体験会前日までに到着するよう宅配便で事前送付し、当日は田無演習林の職員がオンラインで指導をしながらリースを作成してもらった。例年は参加できない遠隔地からの参加もあり今後のオンライン講習会に向けての情報収集も行った。

外部利用者への対応は、4月から7月までは見学利用等の受入を完全に中止した。8月以降は条件付きながら田無演習林で作成した基準に則って個別に許可を与える形で受入を再開した。近隣の小中学校から校外学習の受入依頼が4件あり、COVID-19感染防止対策を十分に行うことなどを条件に受け入れて指導した。例年受け入れていた地元中学校の職場体験ならびに地元の公民館、科学館、非営利団体による利用はすべて中止となった。COVID-19感染防止対策として林内の自由見学（一般公開）は4月から年度末まで中止としたが、今後の再開に備えて、老朽化していた見学者学習用のハンカチノキとヒトツバタゴの説明看板を2月に交換設置した。

このほか、樹木剪定作業により生じた枝葉を花材・園芸資材として東京都板橋市場にて委託販売した。

### 【施業管理】

実習および研究用としてアカマツ、クロマツ、スギ、ヒノキの実生苗の育成を行った。そのほかに、研究者から委託された苗木育成のための苗畑管理（灌水や除草等）を行った。また、試験地として整備されたフィールドの適切な管理を行うため、下草刈り等の作業を行った。

田無演習林では、年間を通して多数の利用者が林内見学を目的として来演する。COVID-19感染防止対策として今年度は一般公開を行わなかったが、いつ再開しても安全に見学利用してもらえるように、散策路沿いや樹木園の休憩場所の枯損木および危険木の伐採を、小径木については直営で、大径木（アカマツ、ポプラ等）については請負で行った。枯損枝、掛り枝についても、スローラインや高所作業車を用いて直営で除去した。

敷地境界からはみ出した枝の処理や境界沿いの小径木の伐採は直営で適宜行った。日照の苦情があった畑地のある西側境界沿いでシラカシ等（9本）、西東京いこいの森公園沿いの越境木（8本）は請負で伐採し、重点的に整備した。伐採した材は、田無本館の床材として提供したり簡易製材機を用いて板に挽いて箸の試作用に提供するなど有効的に活用した。

また、今年度はナラ枯れ被害が初めて田無演習林内で発見され、マツ材線虫病により枯損したマツも増加傾向にあった。枯損木を直営および請負にて伐採し、燻蒸処理等の対策を行った。

昨年度民家と近接する北側部分で実施した老朽化した万年塀撤去およびフェンス設置工事を今年度は西側の民地沿い（92m）で行った。この結果、万年塀は全体の3/4が撤去され新しいフェンスに置き換えることができた。残る万年塀についても今後撤去とフェンスへの置き換えを進めていきたいと考えている。

### 【その他】

今年度は COVID-19 感染拡大に伴い、4月当初から東京大学全体が活動制限レベル3というロックアウトに近い制限下での活動を強いられた。田無演習林では常勤職員4名のうち1名が交代で出勤して事務所の保安管理にあたる他は非常勤職員を含む全教職員が在宅勤務となった。7月以降は活動制限レベルを徐々に下げて、研究、教育、見学等の利用受入を正常化してきているが、いまだ完全に制限をなくすには至っていない。こうした状況下でこれまで続けてきた多くのイベントや社会連携活動が中止されたことは今年度の田無演習林の活動にとって大きな痛手であった。来年度は実施方法を検討しつつイベントや活動を可能な限り再開していきたい。こうした状況の中、幸いにも西東京キャンパス整備は順調に進み、新築された田無本館へ事務所・居室関係の移転が3月22日に終了した。実験室関係の移転も新年度に入っすぐの4月2日に実施される予定である。

また今年度は大きな災害の発生はなかったものの、重機の車庫に保管されていた古い缶からコールドールが漏出する事故が8月に発生した。来年度は田無演習林内の建物の多くが解体される予定であり、この機会にあらためて不要な物品の処理を行う必要性を感じている。また、COVID-19感染防止対策の中で実施できなかった環境整備や防災訓練を来年度は実施できるよう関係各所と連携していきたい。

## 5) 生態水文学研究所

### 【教育】

農学部森林生物科学専修・森林環境資源科学専修の森林科学基礎実習Ⅳの現地実習を、田中を含む引率職員が8月24～27日に実施予定であったが、現地における対面実習は実施できず、オンライン実習となった。受講者は17名であった。

教養学部前期課程Sセメスター総合科目D人間・環境「森林環境資源学」のフィールドワークを代表教員の蔵治教授と共に5月30日～31日に実施予定であったが、実施できなかった。Sセメスター全学体験ゼミナール「人の手で造り管理する森林－林業・風景計画の視点から」を代表教員の石橋教授と共に7月4日～5日に実施予定であったが、開講できなかった。Aセメスター全学体験ゼミナール「ダムと土砂と海」の開講を代表教員の蔵治教授と検討したが、実現に至らなかった。

本学体験活動プログラム「森・水・土砂の長期モニタリング調査体験～世界の水文研究を支える90年を全身で感じてみよう～」についても、実施不可能であった。田中・水内が、農学生命科学研究科の集中講義「森林流域管理学」の現地講義を12月24日～25日に実施予定であったが、オンラインにて行った。水内が、造園学会中部支部との共催でデザインワークショップ「サマースタジオ2020」を企画していたが、実施できなかった。全て、新型コロナウイルス感染症の拡大を理由としている。

### 【研究】

白坂・穴の宮・東山・犬山において気象、水文観測、雨水・渓流水サンプリング、水質分析を継続した。長期生態系プロットにおいて毎木調査、リター調査、種子調査、地上徘徊性昆虫調査、鳥類調査を継続した。研究所に保管されている明治末期から昭和初期の古い地図を対象に、デジタルアーカイブ化を行い、その成果を、「農学コンテンツ」の一部として公表した。白坂の2018年の日降水量・日流出量、降水と渓流水の水質データが、基盤データ整備委員会水文水質部門によって「演習林」に掲載された。白坂小流域南北谷の1957年～1966年の日流出量データが、過去データ管理室メンバーらによって「演習林」に掲載された。

白坂・穴の宮の長期水文データを用いた洪水出水量の予測に関する論文がJ. For. Res.誌（田中）に、犬山研究林の水文データを用いた林相の違いが水文特性に及ぼす影響に関する論文がJ. Hydrol.（アナン・田中・佐藤・水内）に、流出量の低減係数に及ぼす影響に関する論文がSustain. Water Resour. Manag.誌に（アナン・田中・佐藤・岸本）、赤津研究林のナラ枯れの比較研究に関する論文が中部森林研究（井上・澤田・佐藤）に、スギ品種・産地別成長比較試験地の測定データが「演習林」（岸本、澤田、井上）、豊田市内にあるヒノキ人工林を対象として土砂流出と表面流の観測を行い、その空間的ばらつきと観測デザインについて検討した論文がHydrol. Sci. J.誌に掲載された（佐藤、田中、アナン）。この他、利用者によるものとして、赤津研究林の鳥類データを使った研究がJ. For. Res.誌に、74林班（旧新居試験地）を利用した論文がBreed. Sci.誌に掲載された。

技術職員等試験研究・研修会議において、澤田（共著：井上・岸本・梁瀬）が2019年度に実施した森林現況調査のとりまとめ方法を発表した。第10回中部森林学会において、澤田（井上・岸本・梁瀬）が愛知県尾張北部地域の天然林における約20年間の変化について、佐藤（田中・アナン）が豊田市内にあるヒノキ人工林を対象とした土砂流出観測の結果を土壌侵食

モデルに適用に関する研究について発表した。第132回日本森林学会大会において、澤田（佐藤・岸本）が長期生態系プロットのヒノキ球果落下特性について発表した。京都大学防災研究所が助成する研究集会「山地災害に関する研究スキームの革新に向けた現地観測の知と課題の共有」が赤津研究林にて開催され、京都大学防災研究所徳高砂防研究所と筑波大学井川演習林のそれぞれから教員と技術職員が参加し、本研究所の教員・技術職員と共に土砂、水文、気象の現地観測に関する意見交換を行った（12月15日）。

利用者研究集会・尾張東部丘陵自然環境研究者の会を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大を理由として中止とした。データ利用規則に基づき、VU University（Amsterdam, NL）の Sampurno Bruijnzeel 氏、豊田工業高等専門学校の江端高德氏にデータ利用を許可した。

### 【社会連携】

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により例年開催しているイベントの多くが中止あるいは規模縮小となった。犬山市立今井小学校および城東小学校で開催されている「探鳥会」は今井小学校で3回開催し、梁瀬・澤田が講師として参加した。城東小学校の探鳥会はすべて中止となった。東京大学赤津研究林サポーターズクラブ「シデコブシの会」、「犬山研究林利用者協議会」による赤津研究林、犬山研究林での主催行事、見学団体ガイド等がそれぞれ3件、24件行われ、3件、7件が中止になった。市主催のイベントでは、9月に瀬戸市主催の赤津研究林内の見学・講義で15名が利用したほか、11月に犬山市主催の自然観察会で14名が犬山研究林を見学した。犬山市は他に1件の自然観察会と全3回の市民向け講座の開催を中止した。その他に他団体主催で一般向けの公開講座と中高生の実習をそれぞれ1件開催し、1件を中止した。瀬戸市環境審議会に安村が、犬山市環境審議会に石橋前所長が委員として参加した。瀬戸市教育委員会発行の副読本「せと」の執筆に協力した。

### 【施業管理】

第5期生態水文学研究所教育研究計画において4つにゾーニングした研究林を、それぞれの施業方針に従って管理した。愛知県の小規模治山事業（森林機能回復緊急整備）により3.56ha、森林ボランティアにより0.20haの間伐を実施した。2020年度市町村交付金の支援により、危険の未然防止の観点から市道犬山今井中線、市道今井26号線、県道33号瀬戸設楽線などの公道沿いにある危険木の伐採、犬山研究林の看板2ヶ所の更新と2ヶ所の新設、東山林道補修用の砂利購入を実施した。74林班においてマツ枯れ対策として湖西市と協働で地上からの予防散布（5月23日）、年越し枯死木の調査（3月18日に調査、被害本数86本）と、それら枯死木の静岡県によるマツ枯れ被害木の伐採搬出（材積48.4 m<sup>3</sup>）を行った。また2020年度のマツ枯れ枯死木予備調査を11月25日に行ったところ、本数243本、材積55.3 m<sup>3</sup>の被害を確認した。前年度までと比べて大きく被害が拡大したため森林病虫害委員会に報告し、同委員会および他演習技術職員の協力を得て1月5、6、7、29日に計193本のマツにマツ枯れ予防剤の樹幹注入を実施した。

### 【その他】

ダニの被害が昨年は多かったものの、本年はなかった。学生実習時の災害時足止め事例を受

け赤津宿泊施設に薪，炊き出し用ストーブ，釜を用意した。新型コロナウイルス感染症対策関連として食堂の個別間仕切り，宿泊室のパーティションでの個室化を行い，事務所宿泊施設の検温装置，アルコール消毒の配備も充実させた。

## 6) 富士癒しの森研究所

令和2年度は、癒しの森プロジェクトの総括を行い、続・癒しの森プロジェクトを軸とする次期計画を立案するとともに、取り組みを紹介する書籍を出版した。医学部附属病院や村行政との連携をさらに深め、次期計画に移行する準備を整えた。COVID-19で当初予定していた事業の多くが中止となったが、オンラインで実施できる内容を模索し、活発に各種事業を実施できた。

### 【教育】

大学教育はCOVID-19の影響で農学部2件、教養学部5件の実習が中止となった。現地実習として、農学部の実習2件、教養学部2件を受け入れた。ICT講義室を利用したオンライン講義・実習が農学部で4件、大学院で1件実施された。海南大学特別講義がICT講義室からオンラインで実施された。学生体験活動プログラムはCOVID-19の影響で中止となった。「癒しの森プロジェクト」にもとづく教養学部開講科目として、全学体験ゼミ「癒しの森を創る(夏)(冬)」を企画したがいずれも中止となった。1件の他大学実習等を受け入れた。運動会学生との共同作業は中止となった。当研究所を利用した卒業論文研究1件が行われた。

### 【研究】

癒しの森プロジェクトの成果を書籍として出版した。実証林のデータを整理し、次期計画における実証林の取り扱いについて検討した。ナラ枯れ被害木の割材・乾燥試験を実施した。科研費「地域の健康を支える資源としての森林資源のポテンシャルと住民のニーズの把握」について国内学会で1件の発表を行なった。次期共同研究プロジェクトについて検討し、研究助成への申請を行った。フットパスに関する情報収集をした。GISの業務への応用に関する課題について検討し、技術職員等試験研究・研修会議で発表を行った。I林班での気象データの回収、蓄積を行った。キノコ放射性物質調査に参加し、サンプリングを行った。動物センサーカメラ調査、昆虫調査、鳥類調査を実施した。

### 【社会連携】

村との協定に基づき、科研プロジェクトでの村との共同事業として、さらに癒しの森の会の主催企画として、森活で健康癒しの森の朝もや音楽会を実施した。森林環境譲与税を活用した森林整備について2回協議した。ナラ枯れ被害に関する住民説明会を村と共同実施するとともに、村の施策立案に協力した。村の担当者と獣害対策について連携、協議した。地区の山の神祭典に参加した。癒しの森プロジェクトの成果や今後の研究について報告する公開講座を実施した。癒しの森の会の運営を支援し、共同で音楽会の開催や樹木銘板の試作に取り組んだ。やまなし木質バイオマス協議会の活動へ参画した。村内のチェーンソー利用者に対して試行的にチェーンソー講座を実施した。地域住民の団体に対しキノコ講座を実施した。連携団体による研修を受け入れた。ブログの定期的な更新を行なった。ドローンを用いたプロフィール映像を収集した。地元紙において、癒しの森プロジェクトに関する論説を発信した。

### 【施業管理】

森林整備：刈払いは計画通りに実施した。Ⅲ-12 については除伐を行った。建物付近，境界や公道沿いの枯死木の処理と，公道沿い，山中寮～グラウンド・古在ヶ原林道沿いの危険枝の処理を市町村交付金相当額予算で実施した。また，夏に発生したナラ枯れの危険木伐採処理も同予算にて実施した。その他の枯損木，危険木等については，伐採計画に沿って林内全域の伐採作業を完了した。昨年度伐採したⅠ-10 小班のカラマツ林地残存木の搬出処理を市町村交付金相当額予算にて行った。Ⅲ-8 小班の伐採木の搬出作業は今年度中に完了できなかった。危険木の情報収集について，タブレット端末を用いた方法を試行した。

施設整備：歩道，車道共に全線の整備を行った。Ⅱ・Ⅲ林班の碎石敷による林道補修を市町村交付金相当額予算で実施した。講義室周り外灯の LED への交換を行った。また，旧作事場横倉庫内壁の修繕，事務所作事場の外壁塗装工事を全演経費にて行った。コロナ感染症対策として事務所への換気扇設置工事を施設修繕準備金で行った。薪材備蓄を計画的に実施した。パネル式看板はⅡ林班の看板設置を行い，二カ所の庇の作成，設置を行った。林内掲示板の掲示内容を適宜更新した。また，職員交代に伴い境界杭の確認を行った。Ⅰ林班フェンス塗装，物置の新設，Ⅲ林班境界ロープ柵，Ⅲ林班境界沿い刈り払いについては予算獲得がかなわなかった。

### 【その他】

体育チームおよび山中寮との三者打ち合わせを定期的 to 実施した。山中寮周辺の森林整備について，山中寮との共同作業を実施した。附属病院主催のリトリート企画の共同実施，本郷キャンパスでのリカバリープログラムへの参加を通じて医学分野との連携を進めた。東大教職員向け特別ガイドは COVID-19 のため，春・秋・冬のいずれも中止とした。寄付者に研究所活動の報告を送付した。記念樹の銘板を作成した。こまめな情報の更新はできたが，当初予定していた抜本的なウェブサイトの改訂はできなかった。COVID-19 を機に，在宅勤務のノウハウを蓄積した。



## 7) 樹芸研究所

樹芸研究所第4期教育研究計画は大胆なスリム化と資源の集中を念頭において立て、これまで優先して実施してきた事業を更に推進して、教育と研究の特色がきらりと光る組織を目指した。

### 【教育】

第4期教育研究計画において樹芸研究所では教育分野にエフォートを大きく割く(50%)こととした。特に2006年度に開始した前期教養課程の主題科目・全学体験ゼミナールの充実に注力している。全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ」シリーズは、人と自然のつながりや、人と人のつながり、そして現代社会においては見えにくい「プロセス」を、体験を通して気付かせる仕掛けであることを基本としながら、大学受験を終えたばかりの学部1、2年生に「学ぶ」ということの原点を問うことに重きを置く講義である。「体験ゼミ」とは言うものの、考えることを最重視することを強調している。2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、Sセメスターは全学体験ゼミナールを全て中止し、自由研究ゼミナールのみをオンラインで実施した。Aセメスターは全学体験ゼミナールをオンライン版に仕立て直して実施した。

- ・農学部 国際開発農学専修3年生：「森林実習」(新型コロナにより、本郷・弥生キャンパスで実施)
- ・教養学部前期課程1、2年生 主題科目 全学自由研究ゼミナール：「伊豆に学ぶプラス」「ジビエを通して獣害問題と向き合う」「ビントゥバーチョコレート作り体験から学ぶべきこと」(いずれもオンライン実施)
- ・教養学部前期課程1、2年生 主題科目 全学体験ゼミナール：「伊豆に学ぶ(夏)1」「伊豆に学ぶ(夏)2」「伊豆に学ぶ(夏)3」(いずれも中止)、「伊豆に学ぶ—熱帯植物編—」「伊豆に学ぶ3」(いずれもオンライン実施)、「伊豆に学ぶ1」「伊豆に学ぶ2」(いずれも中止)
- ・東京大学体験活動プログラム 「南伊豆という一地域との連携に学ぶ」(中止)

### 【研究】

2019年度でチョコレート会社との共同研究が打ち切りとなったので、今年度は新しい連携先探しを開始した。問い合わせが3件あり、内1件との連携を模索している。バニラの簡便なキュアリング法は開発の途上にあり、品質向上を実現した上で特許申請を目指して今年度も取り組んでいる。2019年度に開始した森林総合研究所の受託研究「国産早生樹種の用材利用に向けた材質・加工特性の解明」では、樹芸研究所産のユーカリを伐採し、材質(密度と強度)等の基礎データを収集した。これと並行して林分単位での生産性を明らかにする目的であらたに植栽試験を進めている。新たに植栽した有望なユーカリたちは非常に好い成長を示し、見学した学生に日本林業の可能性を示し関心を持ってもらう魅力的な教材となっている。この様にデータをとるばかりではなく、見せる「ユーカリ林分」を造成することを重視している。

#### 1. 適応試験で選抜されたユーカリ10種を林業樹種として再検討

- ・ *Eucalyptus robusta* の萌芽再生試験地を設置(木質バイオマス発電向け)
- ・ 2019年度の *E. robusta*, *maidenii*, *bicostata* に加え、今年度は *E. smithii*, *racemosa*, *Corymbia citriodora* を伐採し、物理特性調査・データベース構築に資する(森林総研プロジェクト)

- ・ E. elata, piperita のクローン試験地の成長調査（日本製紙）
  - ・ E. smithii, saligna の実生試験地の成長調査を継続して実施した。
2. 樹芸研究所産カカオ・バニラの利用法の検討
- ・ カカオ・バニラの増殖
  - ・ チョコレート製造・販売。（メリーチョコレートカンパニーと共同研究）
  - ・ バニラのキュアリング新手法の特許申請に向け、改良
3. 油糧植物の植栽地整備と利用方法の検討
- ・ アブラギリの間伐試験を継続。（伝統工芸木炭生産技術保存会と共同研究）
  - ・ 桐油しぼり試験

#### 【社会連携】

南伊豆町との連携協定に基づく交流会を計画したが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から本年度の活動は中止することとした。今年度も昨年度に引き続き、南伊豆町で進められているバイオマス発電事業計画に樹芸研究所は指導的役割を果たした。樹芸研究所が進めてきた早生樹の活用提案はその一つである。また、南伊豆町および加賀市と国産カカオ生産の取り組みについて検討し、南伊豆町・加賀市それぞれのベースで取り組みを進めることを確認した。樹芸研究所単独では手が回らなかった油糧植物アブラギリに関して伝統工芸木炭生産技術保存会と安定供給に関する共同研究を進めている。桐油を絞る取り組みと、磨き炭を焼く取り組みを行った。日本の伝統工芸の一つである漆器・蒔絵に欠かせない研き炭（駿河炭）を供給する取り組みなので、社会連携の意味合いが強い。この磨き炭焼きから発展させた全学の体験活動プログラムを計画したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止した。

以下の市民向け公開講座を予定したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止した。

- ・「チョコレートづくりを体験しよう」
- ・「林業遺産・岩樟園クスノキ林見学会」

#### 【施業管理】

市町村交付金相当額予算を活用して、温室窓自動開閉装置点検修理・町道への土砂流出防止工事・源泉部腐食管撤去改修工事・配湯管取替工事・加納構内車道危険木処理・加納構内車道補修・町道4号線石積み工・加納境界石垣改修工事・水路改修工事を行い、利用者の安全確保、近隣住民への迷惑防止と安全確保を充実させた。

施設修繕準備金によって、下賀茂寮宿泊施設不用物品廃棄処理・下賀茂寮宿泊施設トイレ他改修工事を行った。農学生命科学研究科（樹芸研究所）が管理可能とするために、管理能力を超える物品の整理は不可欠であった。また、長い歴史を経た旧下賀茂寮の老朽化した部分の改修も、施設を利用できる状態に保つために必要不可欠であった。同じく施設修繕準備金によって、下賀茂寮宿泊施設2階廊下他Pタイル改修工事を行った。Pタイルはアスベストを含有したため、研究科に相談して安心安全のために急ぎ対応することになったものである。これにより暴露状態のPタイルに関しては、移管された年度内に対応することができ、利用者と管理者の安全を一定のレベルで確保できた（アスベストが空气中を漂うことはない）。1階部分に被覆された状態のPタイルが残っているのが課題であるが、健康上の問題とはならないとのことである。

**【その他】**

全学の障害者雇用枠で2名を雇用している。

### 3. 教育研究センター

#### 【教育】

週1回のゼミ（演習林ゼミと教育研究センターゼミ）と指導教員との連携による個別指導を通じて、演習林に所属する学生（博士課程学生5名、修士課程学生16名、4年生2名、研究生9名、合計32名）の卒論、修論、博論研究等の指導・支援を行うとともに、学生生活全般のケアを行った。今年度は博士課程で1名、修士課程で7名が修了し、学部課程では2名が卒業した。学部・大学院のガイダンス等で演習林における教育研究の説明を行った。演習林教員で担当している講義のスケジュール調整、教養学部講義、演習林ゼミ等の教育推進に関わる経費管理等を通じて、演習林の教育活動を支援した。今年度は、学部講義はオンラインで行われたが、特にS1・S2に開催された講義では、初めてのオンライン講義が安定的に行えるように細かな検討を行った。3月に行われた卒業式、修了式では、卒業生2名が学部長賞を、博士課程の修了生1名が研究科長賞を受賞した。

広報情報委員会と連携し、地方演習林の教育利用実績を取りまとめた。また、教育目的での演習林利用希望者に対して、当該地方演習林との連絡調整を行い、必要な情報を提供した。

#### 【研究】

演習林編集委員会と連携し、「演習林報告」、「演習林」の編集作業を行った。演習林内の委員会活動が円滑にできるよう、農学系事務との連絡調整を行うとともに、経費執行等の支援をした。

研究目的で演習林を利用する利用者に情報を提供し、全演習林の研究活動を支援した。その他、所属する教員がそれぞれ関連するプロジェクト、および、そのデータ解析に向けた準備を行った。また、各自の科研費、運営費等で、個別テーマの研究に取り組んだ。

#### 【社会連携】

広報情報委員会と連携し、ホームページ、科学の森ニュース、学内広報・弥生等の機関紙を通じて、演習林の社会貢献に関する広報活動を行った。また、各地方演習林の広報活動を取りまとめ、専攻長・附属施設長会議に毎月報告した。

#### 【その他】

新型コロナ対策として、活動制限レベルに応じた対策を試みた。特に、医学部の臨床研究棟西では学生スペースのビニール仕切りなどを設置した。

2020年11月30日に三浦直子助教が富士癒しの森研究所に転出した。2020年12月1日に藤原章雄助教が富士癒しの森研究所から転入した。

弥生キャンパス1号館の改修工事にともない、2020年5月に1号館から医学部臨床研究棟西へと引っ越しを行った。また、2021年1月に医学部臨床研究棟西から1号館に戻った。この際、学生スペースを拡充するとともに、地下倉庫、1階115・116号室の整理を行った。



業者による荷物の梱包



116号室から荷物を運び出す様子



臨床研究棟西で設置中の学生スペース



臨床研究棟西2階倉庫への搬入

## 4. その他の活動

### 1) 演習林技術職員等試験研究・研修会議

日時：2020年12月1日（火）13：00～16：00

場所：オンライン開催

参加者：表-1（地方演習林・センター所属の教員は含まず）

今年度は新型コロナ禍による感染対策として、企画部・教育研究センターがホストとなり、オンラインで発表・参加する形式を試みた。テーマは設定せず自由テーマのみとした。地方演習林の特色を生かした研究や、科学研究費助成金奨励研究で取り組んだ研究課題など8件の報告があった（表-2）。

表-1 参加者一覧

演習林名	参加者
林長・企画部	福田健二・蔵治光一郎・五十嵐勇治
千葉演習林	鶴見康幸・村川功雄・鈴木祐紀・大石 諭・米道 学・藤平晃司 ・軽込 勉・阿達康眞・三次充和
北海道演習林	井口和信・犬飼 浩・廣田善己・笠原久臣・福士憲司・宅間隆二 ・木村徳志・松井理生・大川あゆ子・小池征寛・井上 崇・岡平卓巳 ・中川雄治・高橋功一・小川 瞳・福岡 哲・算用子麻未・及川 希 ・犬飼慎也・遠國正樹・木村恒太・小林徹行・江口由典・平間睦樹
秩父演習林	大村和也・高德佳絵・才木道雄・吉田弓子・千嶋 武・高野充広 ・原口竜成・齋藤俊浩・磯崎靖雄
田無演習林	栗田直明・相川美絵子
生態水文学研究所	澤田晴雄・井上 淳・丹羽悠二・梁瀬桐子・岸本光樹
富士癒しの森研究所	西山教雄・辻 良子
樹芸研究所	渡邊良広・村瀬一隆・辻 和明・千井野聡
教育研究センター	里見重成・近澤静恵

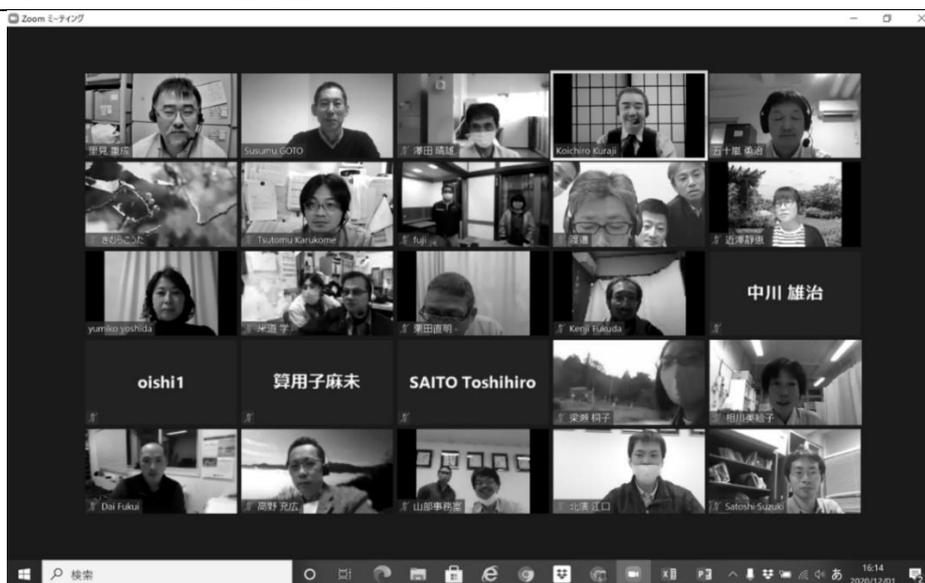


表-2 自由テーマ

試験研究報告	発表者全氏名 (○発表者)
ミズナラが優占する山火再生林における葉節の発生状況	○江口由典・中川雄治・福士憲司・平間睦樹・井口和信・松井理生 (北海道演習林)・丹羽悠二 (生態水文学研究所)
リター・シードトラップ調査における健全種子の選別手法の検討	○吉田弓子・原口竜成 (秩父演習林)
70 年生キヨスミミツバツツジのさし木－迷走の日々と辿りついた先－	○里見重成 (教育研究センター)
田無演習林の枝葉, 木の実類の活用	○相川美絵子・栗田直明 (田無演習林)
樹芸研究所におけるアブラギリの歴史と現状	○渡邊良広・千井野聡・辻 和明・村瀬一隆 (樹芸研究所)
UAV による森林モニタリングの試み－ナラ枯れ被害の現況調査の事例－	○軽込 勉・塚越剛史・村川功雄・鈴木祐紀・阿達康真・米道 学 (千葉演習林)
Collector を使った危険木情報の管理システムづくり奮闘記	○辻 良子・西山教雄 (富士癒しの森研究所)
2019 年度に実施した森林現況調査から調査結果の集計まで	○澤田晴雄・井上 淳・岸本光樹・梁瀬桐子 (生態水文学研究所)

## Ⅲ. 資料

1.	教育	… 54
2.	研究	… 75
3.	社会連携	…111
4.	環境安全管理	…128
5.	国際交流	…131
6.	管理	…133
7.	研修	…142
8.	組織図	…143
9.	人事	…150
10.	委員会・会議等	…151
11.	利用状況	…152
12.	演習林所在地 および連絡先	…191

## 1. 教育

## 1) 大学院講義等

## 生圏システム学専攻修士課程

教 員 名					講 義 名
鎌田直人	後藤 晋	平尾聡秀	鈴木智之	前原 忠	森林圏生物動態学
久本洋子	福井 大				
鎌田直人	後藤 晋	平尾聡秀			森林圏生態学演習
山田利博	鴨田重裕	楠本 大			森林遺伝子機能開発学
山田利博	鴨田重裕	楠本 大			森林生物機能学演習
石橋整司					森林生態圏管理学特論
安村直樹	藤原章雄				森林圏管理システム学
尾張 敏章	広嶋卓也	三浦直子	水内佑輔		持続的森林圏経営論
石橋整司	安村直樹	齋藤暖生			森林圏生態社会学演習
蔵治光一郎	尾張敏章	廣嶋卓也	浅野友子	田中延亮	森林流域管理学
三浦直子	水内佑輔				
蔵治光一郎	尾張敏章	廣嶋卓也	浅野友子		森林流域管理学特別演習
内山憲太郎	深澤圭太	本多親子	深野祐也	菊地 潔	
松崎慎一郎	西廣 淳	尾張敏章	當山啓介	楠本 大	生圏システム学特論
大黒俊哉	内田 圭				
鎌田直人	山田利博	石橋整司	蔵治光一郎	後藤 晋	
鴨田重裕	安村直樹	尾張敏章	平尾聡秀	楠本 大	生圏システム学実験・研究
齋藤暖生	廣嶋卓也	浅野友子			

## 森林科学専攻修士課程

教 員 名					講 義 名
鎌田直人	後藤 晋	平尾聡秀	鈴木智之	前原 忠	森林圏生物動態学
久本洋子	福井 大				
山田利博	鴨田重裕	楠本 大			森林遺伝子機能開発学
安村直樹	藤原章雄				森林圏管理システム学
石橋整司					森林生態圏管理学特論
尾張敏章	広嶋卓也	三浦直子	水内 佑輔		持続的森林圏経営論
蔵治光一郎	尾張敏章	廣嶋卓也	浅野友子	田中延亮	森林流域管理学
三浦直子	水内佑輔				
鎌田直人	山田利博	石橋整司	蔵治光一郎	後藤 晋	
鴨田重裕	安村直樹	尾張敏章	平尾聡秀	楠本 大	森林科学特別実験
齋藤暖生	廣嶋卓也	浅野友子			
鎌田直人	山田利博	石橋整司	蔵治光一郎	後藤 晋	
鴨田重裕	安村直樹	尾張敏章	平尾聡秀	楠本 大	森林科学特別演習
齋藤暖生	廣嶋卓也	浅野友子			
鎌田直人	山田利博	石橋整司	蔵治光一郎	後藤 晋	
鴨田重裕	安村直樹	尾張敏章	平尾聡秀	楠本 大	森林科学セミナー II
齋藤暖生	廣嶋卓也	浅野友子			

**農学国際専攻修士課程**

教 員 名	講 義 名
鎌田直人	森林昆虫生態学 (Forest Insect Ecology)

**生圏システム学専攻博士課程**

教 員 名	講 義 名
鎌田直人 後藤 晋 平尾聡秀	森林圏生態学特別演習
山田利博 鴨田重裕 楠本 大	森林生物機能学特別演習
石橋整司 安村直樹 齋藤暖生	森林圏生態社会学特別演習
蔵治光一郎 尾張敏章 廣嶋卓也 浅野友子	森林流域管理学特別演習
鎌田直人 山田利博 石橋整司 蔵治光一郎 後藤 晋	生圏システム学特別実験・研究
鴨田重裕 安村直樹 尾張敏章 平尾聡秀 楠本 大	
齋藤暖生 廣嶋卓也 浅野友子	

**森林科学専攻博士課程**

教 員 名	講 義 名
鎌田直人 山田利博 後藤 晋 鴨田重裕 平尾聡秀	森林生態圏管理学特別演習 I
楠本 大	
石橋整司 蔵治光一郎 尾張敏章 安村直樹 齋藤暖生	森林生態圏管理学特別演習 II
廣嶋卓也 浅野友子	
鎌田直人 山田利博 後藤 晋 鴨田重裕 平尾聡秀	森林生態圏管理学特別実験 I
楠本 大	
石橋整司 蔵治光一郎 尾張敏章 安村直樹 齋藤暖生	森林生態圏管理学特別実験 II
廣嶋卓也 浅野友子	

## 2) 学部講義等

## 農学部講義・演習・実験実習

教員名			講義名	学部：課程 (専修)等	開講年次・ ターム	備考
白石則彦 仁多見俊夫 堀田紀文 蔵治光一郎	尾張敏章 龍原 哲 古井戸宏通	熊谷朝臣 廣嶋卓也 安村直樹	森林環境科 学汎論	農学基礎科目	2年次・A1- A2	
白石則彦 古井戸宏通	仁多見俊夫 安村直樹	稲山正弘 井上雅文	森林資源と 木材利用	農学総合科目	2年次・A2	
蔵治光一郎、他 11 名			農学リテラ シー	農学共通科目	2年次・W (集中)	
鎌田直人 蔵治光一郎 安村直樹 楠本 大 浅野友子	山田利博 後藤 晋 尾張敏章 齋藤暖生	石橋整司 鴨田重裕 平尾聡秀 廣嶋卓也	森林生態圏 管理学	応用生命科学課 程・環境資源科学 課程	3年次・S1- SP	
古井戸宏通	芳賀和樹	安村直樹	森林政策学	森林生物学専 修・森林環境資源 科学専修	3年次・S1- SP	
丹下 健	益守眞也	後藤 晋	造林学	森林生物学専 修・森林環境資源 科学専修	3年次・S1- SP	
後藤 晋	久本洋子		森林遺伝育 種学	森林生物学専 修・森林環境資源 科学専修	3年次・SP	
福田健二 黒河内寛之 加賀谷 隆 久保田耕平 益守眞也	白石則彦 松下範久 藤原章雄 中島 徹 久本洋子	丹下 健 龍原 哲 竹本周平 楠本 大 當山啓介	森林科学基 礎実習 I	森林生物学専 修・森林環境資源 科学専修	3年次・S1- SP	
仁多見俊夫 熊谷朝臣	田中延亮 吉岡拓如	堀田紀文	森林科学基 礎実習 II	森林生物学専 修・森林環境資源 科学専修	3年次・S1- SP	
福田健二 黒河内寛之 加賀谷 隆 益守眞也	白石則彦 松下範久 久保田耕平 坂上大翼	丹下 健 龍原 哲 中島 徹	森林科学基 礎実習 III	森林生物学専 修・森林環境資源 科学専修	3年次・S1- SP	

教 員 名			講 義 名	学部：課程 (専修)等	開講年次・ ターム	備考
古井戸宏通 芳賀和樹 仁多見俊夫 小田智基	安村直樹 熊谷朝臣 田中延亮 山本清龍	吉岡拓如 中村和彦 堀田紀文	森林科学基 礎実習Ⅳ	森林生物科学専 修・森林環境資源 科学専修	3年次・S1- SP	
古井戸宏通 芳賀和樹	安村直樹	齋藤暖生	森林政策学 演習	森林生物科学専 修・森林環境資源 科学専修	3年次・A1- A2	
鴨田重裕 平尾聡秀	露木 聡	八木信行	森林実習	国際開発農学専修	3年次・SP	オンラ イン+ 弥生・ 本郷で 実施
中村和彦	山本清龍	藤原章雄	森林風景計 画実習	森林生物科学専 修・森林環境資源 科学専修	3年次・A1- A2	オンラ イン
五十嵐圭日子 後藤晋 浅野友子 藤原章雄	齋藤継之 齋藤暖生 當山啓介	石橋整司 久本洋子 安村直樹	バイオマス 科学実習	生物素材化学専 修・木質構造科学 専修	3、4年次・ S2	オンラ イン
五十嵐圭日子 後藤晋 浅野友子 藤原章雄	恒次祐子 齋藤暖生 當山啓介	石橋整司 久本洋子 安村直樹	森林科学実 習	生物素材化学専 修・木質構造科学 専修	3、4年次・ S2	オンラ イン

## 教養学部講義・演習【実施できたもの】

教員名	講義名	開講ターム・ セメスター	備考
鴨田重裕	全学自由研究ゼミナール「ジビエを通して獣害問題と向き合う 20A1」	A	オンライン
鴨田重裕	全学自由研究ゼミナール「ジビエを通して獣害問題と向き合う 20A2」	A2	オンライン
鴨田重裕	全学自由研究ゼミナール「ビントゥバーチョコレート作り体験から学ぶべきこと 20A1」	A	オンライン + 弥生
鴨田重裕	全学自由研究ゼミナール「ビントゥバーチョコレート作り体験から学ぶべきこと 20A2」	A2	オンライン + 弥生
鴨田重裕	全学自由研究ゼミナール「伊豆に学ぶプラス 20A1」	A	オンライン
鴨田重裕	全学自由研究ゼミナール「伊豆に学ぶプラス 20A2」	A2	オンライン
安村直樹 齋藤暖生 當山啓介	全学体験ゼミナール「森のエネルギーを使いこなす」	A	富士,千葉 で現地実習
山田利博 平尾聡秀 浅野友子 坂上大翼	全学体験ゼミナール「秋の奥秩父を巡る」	A	秩父で現地 実習
鴨田重裕	全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ 1」	A2	オンライン
鴨田重裕 井上広喜	全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ_熱帯植物編」	A2	オンライン
鴨田重裕	全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ 2」	A2	オンライン
鴨田重裕	全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ 3」	A2	オンライン
蔵治光一郎 尾張敏章 齋藤暖生 當山啓介 藤原章雄 三浦直子 水内佑輔	総合科目「森林環境資源学：森の最終形、森と癒し」	A	千葉・富士 で現地実習

## 【予定していたがコロナの影響で不開講となったもの】

教員名	講義名	開講ターム・ セメスター	備考
安村直樹 竹本周平	全学体験ゼミナール「体験して考える森林ガイドボランティアの現在と未来」	S1	不開講
石橋整司 安村直樹 齋藤暖生 藤原章雄 當山啓介	全学体験ゼミナール「徹底検証・スギ&ヒノキ~もっと知ろう、木材のこと~」	S2	不開講
鴨田重裕	全学自由研究ゼミナール「伊豆に学ぶプラス S1」	S1	不開講
鴨田重裕	全学自由研究ゼミナール「伊豆に学ぶプラス S2」	S2	不開講
鴨田重裕	全学自由研究ゼミナール「ジビエを通して獣害問題に向き合う S1」	S1	不開講
鴨田重裕	全学自由研究ゼミナール「ジビエを通して獣害問題に向き合う S2」	S2	不開講
鴨田重裕	全学自由研究ゼミナール「ビントゥパーチョコレート作り体験から学ぶこと S1」	S1	不開講
鴨田重裕	全学自由研究ゼミナール「ビントゥパーチョコレート作り体験から学ぶこと S2」	S2	不開講
石橋整司 齋藤暖生 井上広喜 前原 忠 久本洋子	全学体験ゼミナール「危険生物の知識（春編）」	S1	不開講
山田利博 平尾聡秀 浅野友子 坂上大翼	全学体験ゼミナール「春の奥秩父を巡る」	S	不開講
石橋整司 水内佑輔 田中延亮 佐藤貴紀	全学体験ゼミナール「人の手で造り管理する森林ー林業・風景計画の視点ー」	S	不開講
浅野友子 齋藤暖生 藤原章雄 後藤 晋	全学体験ゼミナール「癒しの森と地域社会（冬夏）」	S2	不開講
楠本 大 久本洋子 當山啓介 福井 大 鈴木 牧	全学体験ゼミナール「フィールドで考える野生動物の保護と管理」	S	不開講
鴨田重裕	全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ（夏）1 前編」	S2	不開講
鴨田重裕	全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ（夏）2 前編」	A2	
鴨田重裕	全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ（夏）3 前編」	A2	不開講
鴨田重裕	全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ（夏）1 後編」	A2	
鴨田重裕	全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ（夏）2 後編」	A2	不開講
鴨田重裕	全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ（夏）3 後編」	A2	

## 2020年度 資料

教員名	講義名	開講ターム・ セメスター	備考
鴨田重裕	全学体験ゼミナール「森に学ぶ（ふらの）前編」	A1	不開講
石橋整司 前原 忠 久本洋子 齋藤暖生 井上広喜	全学体験ゼミナール「危険生物の知識（秋編）」	A1	不開講
石橋整司 竹本周平	全学体験ゼミナール「体験して考える森林ガイドボランティアの現在と未来」	A1	不開講
石橋整司 藤原章雄 露木 聡	全学体験ゼミナール「森の魅力をマッピング～GPSを使ったオリジナル地図づくり～」	A1	不開講
石橋整司 安村直樹 齋藤暖生 藤原章雄 當山啓介	全学体験ゼミナール「徹底検証・スギ&ヒノキ～もっと知ろう、木材のこと～」	A1	不開講
齋藤暖生 浅野友子 藤原章雄 三浦直子	全学体験ゼミナール「癒しの森と地域社会（冬）」	A2	不開講
尾張敏章 楠本 大 久本洋子 當山啓介	全学体験ゼミナール「房総の森と生業（なりわい）を学ぶ」	A2	不開講
鎌田直人 広嶋卓也 福井 大 鈴木智之	全学体験ゼミナール「雪の森林に学ぶ～北海道演習林」	A2	不開講
蔵治光一郎 安村直樹 田中延亮 水内佑輔 菊池 潔	全学体験ゼミナール「ダムと土砂と海」	A2	不開講
鴨田重裕	全学体験ゼミナール「森に学ぶ（森林・林業を意識して歩く低山）A1」	A1	不開講
鴨田重裕	全学体験ゼミナール「森に学ぶ（森林・林業を意識して歩く低山）A2」	A2	不開講

### 3)他大学の非常勤講師(委嘱あり)

教員名	講義名	対象学部	学 科 等	学年	大 学 名
石橋整司	環境論	電気通信学部	総合文化講座	1	電気通信大学
鈴木智之	生物環境論	社会情報学部	情報社会学科	2, 3, 4	群馬大学
山田利博	樹木医演習	生命科学部	応用植物科学科	2	法政大学

## 4) その他の講義・実習対応

教職員名	講義名	対象学部等	学科等	学年	大学名	備考
大石諭	総合科目D(人間・環境)「森林環境資源学」(森の最終形、森と癒し)	教養学部	全科類	1,2	東京大学	
大石諭・藤平晃司 西山 教雄・辻 良子	全学体験ゼミナール「森のエネルギーを使いこなす」	教養学部	全科類	1,2	東京大学	
大村和也	全学体験ゼミナール「秋の奥秩父を巡る」	教養学部	全科類	1,2	東京大学	
木村恒太・犬飼慎也・井上崇・遠國正樹・江口由典・小林徹行・平間睦樹・大石諭・鈴木祐紀・鶴見康幸	森林環境科学汎論	農学部	農学基礎科目	2	東京大学	遠隔授業
辻 良子	森林政策学実習	農学部	森林生物学専修・森林環境資源科学専修	3	東京大学	
丹羽悠二・岸本光樹	森林科学基礎実習II	農学部	森林生物学専修・森林環境資源科学専修	3	東京大学	
鈴木祐紀・鶴見康幸	バイオマス科学実習・森林科学実習	農学部	生物素材化学専修・木質構造科学専修	3	東京大学	
栗田直明・相川美絵子	森林科学基礎実習I	農学部	森林生物学専修・森林環境資源科学専修	3	東京大学	田無でオンライン実習用の種子を提供
栗田直明・相川美絵子	森林科学基礎実習III	農学部	森林生物学専修・森林環境資源科学専修	3,4	東京大学	田無で実施
大石諭	生圏システム学特論	大学院農学生命科学研究科	生圏システム学専攻	修士課程	東京大学	
山田利博・千嶋 武	環境学フィールドワークII	教養学部	学際科学科国際環境学	2,3	東京大学	

## 2020年度 資料

教職員名	講義名	対象学部等	学科等	学年	大学名	備考
西山 教雄	森林圏管理システム学 (オンライン)	大学院農学生命科学研究科	生圏システム学専攻・森林科学専攻	修士課程	東京大学	
尾張敏章	Sustainable Forest Management and Forest Certification	School of Environment, Research and Development	Department of Development and Sustainability	修士・博士課程	Asian Institute of Technology	オンライン
當山啓介・藤平晃司	森圏管理学実習	農学部	フィールド科学専修	3	東京大学	
當山啓介・鈴木祐紀・鶴見康幸・藤原章雄・石橋整司・齋藤暖生・陳元君	日本における森林管理と森林利用	全学部	林学院	学部、大学院生	海南大学 (中国)	オンライン
鎌田直人・廣嶋卓也・安村直樹・福井大・松井理生・高橋功一	ワン・アースロジーI	農学部、大学院農学生命科学研究科	One Earth Guardians		東京大学	オンライン
竹本周平	野外生物・農芸演習	最高学部	フィールドサイエンス	3, 4	自由学園	
三浦直子	フィールドインフォマティクス	全学			東京大学	

## 体験活動プログラム（すべて不開講）

応募者	担当者	団体名	活動場所	プログラム名	日程
北海道演習林		北海道演習林	北海道演習林	森が社会に貢献するー持続可能な森づくりへの挑戦ー	2/5～ 2/19
河鱈実之	安村直樹・相川美絵子・栗田直明		田無演習林	都内でも農林作業フィールドワーク体験	S P
安村直樹	相川美絵子・栗田直明		田無演習林	体験活動プログラム「都内でも農林作業フィールドワーク体験」	S P
鴨田重裕		南伊豆湯けむりの会	樹芸研究所	伊豆の体験活動 南伊豆という一地域との連携に学ぶ ジビエ編	A
鴨田重裕		南伊豆湯けむりの会・いしい林業	樹芸研究所	伊豆の体験活動 南伊豆という一地域との連携に学ぶ 林業体験編	A
鴨田重裕		伝統工芸木炭生産技術保存会・笑楽窯	樹芸研究所	伝統工芸木炭生産技術保存会とともに伝統工芸に必要な駿河炭を焼く	A
石橋整司	水内佑輔・田中延亮・佐藤貴紀・澤田晴雄・井上淳・梁瀬桐子・岸本光樹・丹羽悠二	生態水文学研究所	生態水文学研究所	森林・水・土砂の長期モニタリング調査体験～世界の水文研究を支える90年を全身で感じよう～	
尾張敏章	鈴木祐紀・鶴見康幸	千葉演習林	千葉演習林	演習林の教育研究を支えよう！～日本最初の大学演習林で体験する森林作業～	8/25～ 28
石橋整司	石橋整司・齋藤暖生・久本洋子	附属演習林	海南島	中国・海南島の自然保護区管理を知る	8/5～ 13
秩父演習林		秩父演習林	秩父演習林	森林生態系の長期動態モニタリング調査ー不確実・変動環境下における生態系プロセスの解明を目指してー	
藤原章雄	齋藤暖生・藤原章雄・西山教雄・辻良子	富士癒しの森研究所	富士癒しの森研究所	森の人になろうー森と暮らす仕事	8/31～ 9/1 12/19～ 12/20

## 5) 4 研究室の所属メンバー

**森林圏生態学研究室**

教授	鎌田 直人
准教授	後藤 晋
講師	平尾 聡秀
助教	前原 忠
助教	久本 洋子
助教	鈴木 智之
助教	福井 大
博士3年	サイフル・アムリ・サラギー
博士1年	陳 淑芬
博士1年	牧 貴大
修士2年	谷川 鴻介
修士2年	野中 佳祐
修士2年	林 子愷
修士1年	塚本 宝
修士1年	吉田 拓矢
修士1年	パイン・エー・ミヤツ・ミヤツ
修士1年	稲田 涼吾
修士1年	三宮 望
学部4年	竹内 虎輔
学部4年	森川 周
研究生	崔 惟怡
研究生	クリスティアン・アンドレアス・アデ

**森林生物機能学研究室**

教授	山田 利博
准教授	鴨田 重裕
講師	楠本 大
助教	坂上 大翼
助教	井上 広喜
助教	竹本 周平
修士2年	須谷 未菜
研究生	戴 健平

**森林圏生態社会学研究室**

教授	石橋 整司
准教授	安村 直樹
講師	齋藤 暖生
助教	藤原 章雄
助教	當山 啓介
修士2年	陸 黎駿
修士2年	厲 園園
修士2年	劉 立航
修士1年	徐 喬逸
修士1年	陳 田
修士1年	劉 馨遙
研究生	陳 悦如
研究生	蔡 寧馨
研究生	高 涵
研究生	查 世昊
特別聴講学生	陳 方怡

**森林流域管理学研究室**

教授	蔵治 光一郎
准教授	尾張 敏章
講師	廣嶋 卓也
講師	浅野 友子
助教	田中 延亮
助教	三浦 直子
助教	水内 佑輔
特任助教	佐藤 貴紀
博士3年	チョー・トゥー・モー
博士3年	ヴィージェナイカ・パビトラ・ランガニー
博士1/2年	ベイ・フィチン
修士1年	潘 濟楚
研究生	関 樹仁
研究生	イブティサム・ビンティ・ムハンマド・ガウス

## 6) 所属学生の学位論文

## 博士論文

学生氏名	研究課題
Kyaw Thu Moe (チャー・トゥー・モー)	Application of remote sensing and resource assessment techniques for the single-tree management system of high-value hardwood species in northern Japan (高価値広葉樹の単木管理システムにおけるリモートセンシングと資源評価技術の応用)

## 修士論文

学生氏名	研究課題
野中佳祐	ブナの開葉時期の産地間変異がブナカイガラタマバエのゴール形成数に及ぼす影響
林 子愷	台湾中部において餌木で捕獲された養菌性キクイムシの群集構造 ー日本の冷温帯林における既往の結果との比較を中心としてー
谷川 鴻介	ニホンジカによる森林下層植生の衰退が土壌微生物機能の改変を通じて樹木実生に与える履歴効果
須谷 未菜	国産ユーカリの活用に向けた材の物理的特性の評価
陸 黎駿	Accident prevention measures in forest recreation with eating behavior-From an analysis of food poisoning cases caused by natural poisons from plants- (喫食を伴う森林レクリエーションにおける事故防止策ー植物性自然毒による食中毒事例の分析からー)
劉 立航	中国・神農架林区の行政システムと森林管理
厲 園園	森林のリラクゼーション効果を考慮した森林管理のあり方

## 卒業論文

学生氏名	研究課題
竹内 虎輔	太平洋側から日本海側に沿ったミネカエデ類の遺伝的分化と遺伝構造
森川 周	人間活動が森林の中型食肉類の日周性と生息地選択に及ぼす影響

## 7) 森林生態圏管理学大講座ゼミ

第1回 (2020年4月17日(金) 13:00~17:00/森林流域管理学研究室)		
発表者	所属・学年	演題
浅野友子	秩父演習林	秩父山地における蒸発散量の推定に向けて
三浦直子	教育研究センター	時系列 UAV データを用いた半自然草地におけるススキの草丈とバイオマス推定
水内佑輔	生態水文学研究所	空間情報技術を利用した現地調査による明治神宮の風致
佐藤貴紀	生態水文学研究所	ヒノキ人工林斜面における、3年間の表面流、土砂、リター量の経年変化
Anand Nainar	生態水文学研究所	Comparing the baseflow recession curve between a Japanese cypress and mixed-broadleaf forest(ヒノキ林と広葉樹混交林からの基底流出量の低減曲線の比較)
田中延亮	生態水文学研究所	降水シールド付の霧ゲージへの降水の吹込み量
チャー・トゥー・モー	森林 D3	Application of remote sensing and growth modeling techniques for the single-tree management system of high-value hardwood species in northern Japan(リモートセンシングと成長モデリングを用いた高価値広葉樹の単木管理)
第2回 (2020年5月22日(金) 13:00~17:00/森林圏生態社会学研究室)		
発表者	所属・学年	演題
齋藤暖生	富士癒しの森研究所	つくられた「野生」—エノキタケの栽培小史—
安村直樹	生態水文学研究所	北海道における植栽密度の推移
石橋整司	田無演習林	富士癒しの森研究所カラマツ系統別試験地の成長解析
當山啓介	千葉演習林	日本の森林経営の計画の歴史と千葉演習林
第3回 (2020年6月19日(金) 13:00~17:00/森林生物機能学研究室)		
発表者	所属・学年	演題
鴨田重裕	樹芸研究所	国産カカオの取り組み
竹本周平	田無演習林	キバナフジ‘ボッシー’の胴枯病
楠本 大	千葉演習林	房総半島で発生したマテバシイのナラ枯れ

第4回 (2020年7月17日 (金) 13:00~17:00/森林圏生態学研究室)		
発表者	所属・学年	演題
陳 淑芬	生圏・D1	Genomic selection in hybrid larch ( <i>Larix. gmelinii</i> var. <i>japonica</i> × <i>L. kaempferi</i> ): Challenge for early selection of trees with superior wood properties (グイマツ雑種 F1 のゲノム選抜: 材質優良個体を早期選抜する試み)
Paing Aye Myat Myat	生圏・M1	Survival and physiology of <i>Betula ermanii</i> transplanted into warm sites: Implications for response to global warming (温暖地に移植したダケカンバの生存と生理特性: 地球温暖化に対する応答)
三宮 望	生圏・M1	Lidar を用いて定量化した森林垂直構造とコウモリ類各種の生息状況の関係
牧 貴大	生圏・D1	広葉樹二次林と針葉樹人工林でのコウモリの活動量の比較
久本洋子	千葉演習林	千葉演習林における センサーカメラを用いた シカ生息密度調査の紹介
第5回 (2020年9月18日 (金) 13:00~17:00/森林圏生態社会学研究室)		
発表者	所属・学年	演題
徐 喬逸	生圏・M1	中京地域における木材市場変貌のモデル化
陳 田	生圏・M1	竹林拡大対策の地域性に関する分析
劉 馨遥	生圏・M1	江戸の緑地環境の浮世絵からの推定復元
藤原章雄	富士癒しの森研究所	「癒しの森の朝もや音楽会」の報告
斎藤 馨	新領域・自然環境	遠隔自然地を身近にするサイバーフォレストのライブ音/録音と定額音楽配信サービスの考察
第6回 (2020年10月16日 (金) 13:00~17:00/森林圏生態学研究室)		
発表者	所属・学年	演題
鈴木智之	北海道演習林	北海道演習林前山保存林全体で進む落葉広葉樹の増加
福井 大	北海道演習林	大陸スケールでのコウモリにおける真菌感染症の感染パターン
平尾聡秀	秩父演習林	菌類群集のギルド間相互作用の変化が有機物分解に及ぼす影響
後藤 晋	教育研究センター	Large-scale transplant experiment of <i>B. ermanii</i> -Collaborative study of JAUF- (大規模スケールのダケカンバの移植実験-全国演習林協議会の共同研究-)

## 2020年度 資料

第7回 (2020年11月20日(金) 13:00~17:00/森林流域管理学研究室)		
発表者	所属・学年	演題
尾張敏章	千葉演習林	千葉演習林における天然林資源調査
潘 濟楚	森林・M1	Effects of thinning on rainfall partitioning in dense unmanaged Japanese cypress plantation (research progress report)
ヴィージェナ イカ・パビ トラ・ラン ガニー	森林・M3	天然林における多期間および要因別の生存時間解析－東京大学北海道演習林における天然林保護区の事例－
広嶋卓也	北海道演習林	天然林における生存曲線の時間変化－千葉演習林の事例
蔵治光一郎	企画部	富士癒しの森研究所における降水量の推定
第8回 (2020年12月18日(金) 13:00~17:00/修士論文発表・卒業論文発表)		
発表者	所属・学年	演題
陸 黎峻	生圏・M2	喫食を伴う森林レクリエーションにおける事故防止策－植物性自然毒による食中毒事例の分析から－
厲 園園	森林・M2	森林散策におけるリラックス効果を考慮した森林管理のあり方
劉 立航	生圏・M2	中国・神農架林区の森林管理組織
須谷未菜	森林・M2	国産ユーカリの活用に向けた材の物理的特性の評価
野中佳祐	生圏・M2	秩父演習林ブナ産地別試験地における開葉時期の産地間変異がブナカイガラタマバエのゴール形成数に及ぼす影響
林 子愷	森林・M2	台湾中部における餌木に寄生する養菌性キクイムシ群集構造
谷川鴻介	森林・M2	植生衰退が土壤微生物機能の攪乱を介して実生更新に及ぼす履歴効果の解明
竹内虎輔	森林・B4	分布境界におけるミネカエデ類の遺伝構造
森川 周	フィ科・B4	森林において同所的に生息する中型食肉類の日周性と生息地選択の解明
第9回 (2021年2月5日(金) 13:00~17:00/森林生物機能学研究室)		
発表者	所属・学年	演題
坂上 大翼	秩父演習林	暗色雪腐病の発病に及ぼす温度と湿度、光の効果
山田 利博	秩父演習林	樹木の非破壊腐朽診断の検証
井上 広喜	樹芸研究所	バラゴムノキのクローン増殖の試み
梅林 利弘	秩父演習林	苗木において根切りが葉の萎れと幹の透水性に及ぼす影響

---

 第 10 回 (2021 年 2 月 19 日 (金) 13:00~17:00/森林圏生態学研究室)
 

---

発表者	所属・学年	演題
稲田涼吾	生圏・M1	ナラ枯れにより枯死した古いコナラから羽化する甲虫相に影響を及ぼす要因
塚本 宝	森林・M1	ライム病の原因菌であるボレリア菌と媒介者のシュルツェマダニの遺伝構造
吉田拓矢	生圏・M1	花粉 DNA メタバーコーディングによるシカ食害下の植物-送粉者ネットワークの構築
鎌田直人	北海道演習林	系統学的多様性

\*第 8 回は、2 号館化第 3 講義室での対面とオンラインのハイブリット方式で開催された。その他はすべてオンラインで開催した。

## 8) 演習林教育研究センターゼミ

月	日	発表者氏名	発表タイトル
	3	全員	ガイダンス
4	10	全員	通信確認、新入生の自己紹介（前半）
	24	全員	通信確認、新入生の自己紹介（後半）
1		陳 淑芬	Phylogenetic position of Manokami larch based on complete chloroplast genome of Japanese larch ( <i>Larix kaempferi</i> )
		塚本 宝	ライム病の原因菌 ( <i>Borrelia garinii</i> ) を媒介するシェルツェマダニ ( <i>Ixodes persulcatus</i> ) の集団遺伝構造と宿主動物の解明
		劉 立航	中国・神農架林区の森林管理手法
5	8	パイン・エー・ミ ヤツ・ミヤツ	Latitudinal Cline of Morphological and Physiological Traits of <i>Betula ermanii</i> Revealed by Common Garden Experiment
	15	吉田 拓矢	花蜜資源となる木本種が送粉者を介して林床植物ソバナの繁殖に与える影響
		竹内 虎輔	分布境界におけるミネカエデ類の遺伝構造と形態変異の解明
	29	陸 黎駿	野生山菜と茸類の誤食防止手法の検討
	5	牧 貴大 三宮 望	日本の食虫性コウモリ群集における種の共起パターンとそのメカニズム 種の分布モデルを用いた日本におけるコウモリの分布とその形成要因の推定
6	12	野中 佳祐 稲田 涼吾	由来産地に基づくブナ開葉時期の変異がブナカイガラタマバエのゴール形成数に及ぼす影響 カシノナガクイムシが穿孔性昆虫相の樹体内分布に及ぼす影響
		陳 田	竹林拡大対策の地域性に関する分析
		谷川 鴻介	ニホンジカの密度増加が森林土壌微生物群集に与える影響
	26	潘 濟楚	Effects of thinning on rainfall partitioning in dense unmanaged Japanese cypress plantation
		徐 喬逸	中京地域における木材市場変貌のモデル化
		厲 園園	森林がもたらすリラクゼーション効果
	3	須谷 未菜	国産ユーカリの活用に向けた物理的・生理的特性の評価
		林 子愷	台湾中部における 14 木本植物種に寄生するクイムシの群集構造
7	10	ヴィージェナイカ・ パビトラ・ランガ ニー	Survival analysis of a natural forest stand under the effect of wind disturbances -A case study of the preserved forest in Northern Japan-
		森川 周	中型食肉類ギルドにおける種間相互作用と生息地選択の季節的な変動
	31	劉 馨遥	江戸の緑地環境の浮世絵からの推定復元
	4	全員	ガイダンス・研究倫理について
9	11	パイン エー ミヤツ ミヤツ	温暖地に移植したダケカンバの生存と生理特性：地球温暖化に対する応答

月	日	発表者氏名	発表タイトル
9	11	ヴィージェナイカ パビトラ ランガ ニー	Prediction of tree age distribution based on survival analysis in natural forests: a case study of preserved permanent plots in the University of Tokyo Hokkaido Forest, northern Japan
	25	劉 立航	中国・神農架林区の森林管理手法
10	2	厲 園園	森林がもたらすリラクゼーション効果
	9	林 子愷	台湾中部におけるベイト枝に寄生した養菌性キクイムシの群集にに影響する要因
	23	野中 佳祐	由来産地に基づくブナ開葉時期の変異がブナカイガラタマバエのゴール形成数に及ぼす影響
11	5	塚本 宝	ライム病の原因菌であるボレリア菌と媒介者のシュルツェマダニの遺伝構造と宿主動物の種の解明
	13	森川 周	中型食肉類ギルドにおける時空間的な生息地利用
	27	竹内 虎輔	分布境界におけるミネカエデ類の遺伝構造
	27	須谷 未菜	国産ユーカリの活用に向けた材の物理的特性の評価
12	4	谷川 鴻介	Legacy effect of vegetation degeneration on seedling regeneration through the disturbance of soil microbial functions
	4	牧 貴大	日本列島におけるコウモリ類の群集構造 ～生物地理学的観点からの非飛翔性哺乳類群集との比較～
		徐 喬逸	中京地域における木材市場変貌のモデル化
		陸 黎駿	野生山菜と茸類の誤食防止手法の検討
	11	稲田 涼吾	Factors affecting the beetle assemblage emerging from old <i>Quercus serrata</i> trees killed by the Japanese oak wilt
	11	吉田 拓矢	シカ食害下の森林において花蜜資源となる木本植物が送粉サービスの波及効果により草本植物に与える影響
25		潘 濟楚	Effects of thinning on rainfall partitioning in dense unmanaged Japanese cypress plantation
		三宮 望	分布モデルを用いた日本産コウモリ類の分布要因の推定
		劉 馨遙	浮世絵に描かれた江戸の緑地環境
	須谷 未菜	京都府と鹿児島県にみる竹林拡大対策の比較検討	

## 9) 実習等

演習林名	学校名	科目名	学部等	学科等	学年	学生数	実施月	日数
千葉演習林	東京大学	地球環境科学科野外調査実習(1)	理学部	地球環境科学科		17	8月	6
千葉演習林	千葉大学	地質学野外実験II、地殻構造学野外実験I	理学部	地球科学	院生 3・4年	10	9月	4
千葉演習林	東京大学	「バイオマス科学実習・森林科学実習」(オンライン)	農学部	生物素材科学専修・木材構造科学専修	3年	20	9月	1
千葉演習林	東京大学	生圏システム学特論	農学生命科学研究科	生圏システム学専攻	修士課程	18	10月	1
千葉演習林	東京大学	全学体験ゼミナール「森のエネルギーを使いこなす」	教養学部		1・2年	17	10・11月	1 1
千葉演習林	東京大学	森圏管理学実習	農学部	フィールド科学専修	3年	7	11月	1
千葉演習林	東京大学	農学基礎科目「森林環境科学汎論」(オンライン)	農学部		2年	52	11月	1
千葉演習林	東京大学	総合科目D「森林環境資源学」(森の最終形)	教養学部		1・2年	24	12月	2
千葉演習林	海南大学	日本における森林管理と森林利用(オンライン)	林学院			250	12月	1
北海道演習林	東京大学	持続的森林圏経営論(オンライン)	農学生命科学研究科	生圏システム学専攻	大学院生	7	7月	1
秩父演習林	東京大学	全学体験ゼミナール「秋の奥秩父を巡る」	教養学部		1・2年	4	10月	2
秩父演習林	東京大学	全学体験ゼミナール「秋の奥秩父を巡る」	教養学部		1・2年	4	11月	1
秩父演習林	東京大学	「環境学フィールドワークII」	教養学部	学際科学科国際環境学	2・3年	6	12月	1
田無演習林	東京大学	森林科学基礎実習I(オンライン)	農学部	森林系2専修	3年	19	6月	2
田無演習林	東京大学	バイオマス科学実習、森林科学実習(オンライン)	農学部	生物素材科学専修、木質構造科学専修	3年	20	9月	2
田無演習林	東京大学	森林科学基礎実習III	農学部	森林系2専修	3年	9	9月	2
田無演習林	東京大学	森林土壌学実験	農学部	森林系2専修	4年	7	12月	1
田無演習林	自由学園 最高学部 (大学部)	野外生物・農芸演習		フィールドサイエンス	3・4年	4	11月	1
田無演習林	東京大学	緑地環境実地実習	農学部	緑地環境学専修	3年	5	1月	1

演習林名	学校名	科目名	学部等	学科等	学年	学生数	実施月	日数
生態水文学研究所	東京大学	森林科学基礎実習Ⅱ（オンライン）	農学部	森林生物科学専修・森林環境資源科学専修	3年	17	5~7月	4
生態水文学研究所	東京大学	森林科学基礎実習Ⅳ（オンライン）	農学部	森林生物科学専修・森林環境資源科学専修	3年	17	8月	5
富士癒しの森研究所	東京大学	森林科学基礎実習Ⅳ（オンライン）	農学部	森林系2専修	3年	20	8月	1
富士癒しの森研究所	東京大学	バイオマス科学実習、森林科学実習（オンライン）	農学部	生物素材科学専修、木質構造科学専修	3年	25	9月	2
富士癒しの森研究所	東京大学	国際農学実験・実習Ⅰ個別実験	農学部	国際開発農学専修	3年	1	9月	2
富士癒しの森研究所	東京大学	森林風景計画実習（オンライン）	農学部	森林系2専修	3・4年	8	10月	1
富士癒しの森研究所	東京大学	全学体験ゼミナール「森のエネルギーを使いこなす」	教養学部		1・2年	17	10月	2
富士癒しの森研究所	茨城大学	特別野外実習	理学部	地球環境科学コース		47	11月	4
富士癒しの森研究所	東京大学	森林政策学演習	農学部	森林系2専修	3年	8	11月	4
富士癒しの森研究所	東京大学	森圏管理システム学現地講義（オンライン）	農学生命科学研究科	森林科学専攻・生圏システム学専攻	大学院生	6	12月	1
富士癒しの森研究所	東京大学	総合科目D「森林環境資源学」（森と癒し）	教養学部		1・2年	29	12月	2
樹芸研究所	東京大学	全学自由研究ゼミナール「伊豆に学ぶプラスS2」（オンライン）	教養学部		1・2年	5	6-9月	10
樹芸研究所	東京大学	森林実習（オンライン+弥生・本郷）	農学部	国際開発農学専修	3年	22	9月	4
樹芸研究所	東京大学	全学自由研究ゼミナール「伊豆に学ぶプラスA1」（オンライン）	教養学部		1・2年	4	10-11月	5
樹芸研究所	東京大学	全学自由研究ゼミナール「ビントゥパーチョコレート作り体験から学ぶべきことA1」（オンライン）	教養学部		1・2年	2	10-11月	5

## 2020年度 資料

演習林名	学校名	科目名	学部等	学科等	学年	学生数	実施月	日数
樹芸研究所	東京大学	全学自由研究ゼミナール「ジビエを通して獣害問題と向き合う A1」(オンライン)	教養学部		1・2年	2	10-11月	5
樹芸研究所	東京大学	全学自由研究ゼミナール「伊豆に学ぶプラス A2」(オンライン)	教養学部		1・2年	4	12-1月	5
樹芸研究所	東京大学	全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ 熱帯植物編」(オンライン)	教養学部		1・2年	5	1-2月	4
樹芸研究所	東京大学	全学体験ゼミナール「伊豆に学ぶ3」(オンライン)	教養学部		1・2年	16	2-3月	4

## 2. 研究

## 1) 教職員の論文等

発表者全氏名	題目	誌名	巻一号	頁	発行年
Hotta W, Morimoto J, Inoue T, Suzuki SN, Umebayashi T, Owari T, Shibata H, Ishibashi S, Hara T, Nakamura F	Recovery and allocation of carbon stocks in boreal forests 64 years after catastrophic windthrow and salvage logging in northern Japan	Forest Ecology and Management	468	1181-169	2020
Moe KT, Owari T	Sustainability of high-value timber species in mixed conifer-broadleaf forest managed under selection system in northern Japan	Forests	11(5)	484	2020
Taneda H, Funayama-Noguchi S, Mayr S, Goto S	Elevational adaptation of morphological and anatomical traits by Sakhalin fir ( <i>Abies sachalinensis</i> )	Trees	34(2)	507-520	2020
Yoshida T, Igarashi Y, Hirao T	Characterization of the complete chloroplast genome of <i>Betula chichibuensis</i> (Betulaceae), a critically endangered limestone birch	Mitochondrial DNA Part B: Resources	5	2166-2167	2020
Fukui D, Tu VT, Thanh HT, Arai S, Harada M, Csorba G, Son NT	First record of the genus <i>Pleocotus</i> from Southeast Asia with notes on the taxonomy, karyology and echolocation call of <i>P. homochrous</i> from Vietnam	Acta Chiropterologica	22	57-74	2020
Owari T, Im S, Guan BT	Special feature Long-term monitoring and research in Asian university forests: towards further understanding of environmental changes and ecosystem responses	Journal of Forest Research	25(3)	134-135	2020
Lai Y-J, Tanaka N, Im S, Kuraji K, Tantasirin C, Majuakim L, Cleophas L, Mahali MB	Climate classification of Asian university forests under current and future climate	Journal of Forest Research	25(3)	136-146	2020
Kamata N, Igarashi Y, Nonaka K, Ogawa H, Kasahara H	Analyzing the leafing phenology of <i>Quercus crispula</i> Blume using the growing degree days model	Journal of Forest Research	25(3)	147-154	2020
Kamata N, Sanguansub S, Beaver RA, Saito T, Hirao T	Investigating the factors influencing trap capture of bark and ambrosia beetles using long-term trapping data in a cool temperate forest in central Japan	Journal of Forest Research	25(3)	163-173	2020
Hiroshima T, Toyama K, Suzuki SN, Owari T, Nakajima T, Ishibashi S	Long observation period improves growth prediction in old Sugi ( <i>Cryptomeria japonica</i> ) forest plantations	Journal of Forest Research	25(3)	183-191	2020
Asano Y, Kawasaki M, Saito T, Haraguchi R, Takatoku K, Saiki M, Kimura K	An increase in specific discharge with catchment area implies that bedrock infiltration feeds large rather than small mountain headwater streams	Water Resources Research	56	e2019WR025658	2020

発表者全氏名	題目	誌名	巻一號	頁	発行年
Im S, Lee J, Kuraji K, Lai Y-J, Tuankrua V, Tanaka N, Gomyo M, Inoue H, Tseng C-W	Soil conservation service curve number determination for forest cover using rainfall and runoff data in experimental forests	Journal of Forest Research	25(4)	204-213	2020
Sanguansub S, Buranapanichpan S, Beaver RA, Saowaphak T, Tanaka N, Kamata N	Influence of seasonality and climate on captures of wood-boring Coleoptera (Bostrichidae and Curculionidae (Scolytinae and Platypodinae)) using ethanol-baited traps in a seasonal tropical forest of northern Thailand	Journal of Forest Research	25(4)	223-231	2020
Moe KT, Owari T	Predicting individual tree growth of high-value timber species in mixed conifer-broadleaf forests in northern Japan using long-term forest measurement data	Journal of Forest Research	25(4)	242-249	2020
Chen S, Ishizuka W, Hara T, Goto S	Complete chloroplast genome of Japanese larch ( <i>Larix kaempferi</i> ): Insights into intraspecific variation with an isolated northern limit population	Forests	11(8)	884	2020
Sato T, Tanaka N, Nainar A, Kuraji K, Gomyo M, Suzuki H	Soil erosion and overland flow in Japanese cypress plantation: their spatio-temporal variations and a sampling strategy	Hydrological Sciences Journal	65(13)	2322-2335	2020
Miura N, Yamada S, Niwa Y	Estimation of canopy height and biomass of <i>Miscanthus sinensis</i> in semi-natural grassland using time-series UAV data	ISPRS Annals of the Photogrammetry, Remote Sensing and Spatial Information Sciences	V-3-2020	497-503	2020
Tsuyama I, Ishizuka W, Taneda H, Kitamura K, Goto S	Ten years of provenance trials and application of Multivariate Random Forests predicted the most preferable seed source for silviculture of <i>Abies sachalinensis</i> in Hokkaido, Japan	Forests	11(10)	1058	2020
Battuvshin B, Matsuoka Y, Shirasawa H, Toyama K, Hayashi U, Aruga K	Supply potential and annual availability of timber and forest biomass resources for energy considering inter-prefectural trade in Japan	Land Use Policy	97	104780	2020
Moe KT, Owari T, Furuya N, Hiroshima T, Morimoto J	Application of UAV photogrammetry with LiDAR data to facilitate the estimation of tree locations and DBH values for high-value timber species in northern Japanese mixed-wood forests	Remote Sensing	12(17)	2865	2020

発表者全氏名	題目	誌名	巻一号	頁	発行年
Mahali MB, Kuraji K, Kamlun KU, Bidin K, Nainar A, Repin R, Gunsalam G, Cleophas F	Rainfall characteristics in a tropical montane cloud forest, Gunung Alab, Crocker Range Park, Sabah, Malaysia	Transactions on Science and Technology	7(3)	80-89	2020
Sohn JH, Fukui D, Nojiri T, Minowa K, Kimura J, Koyabu D	Three-dimensional and histological observations on male genital organs of greater horseshoe bat, <i>Rhinolophus ferrumequinum</i>	Journal of Mammalian Evolution		10.1007/s10914-020-09525-6	2020
Kiguchi M, Takata K, Hanasaki N, Archevarahuprok B, Champathong A, Ikoma E, Jaikaeo C, Kaewrueng S, Kanae S, Kazama S, Kuraji K, Matsumoto K, Nakamura S, Nguyen-Le D, Noda K, Piamsa-nga N, Raksapatcharawong M, Rangsiwanichpong P, Ritphring S, Shirakawa H, Somphong C, Srisutham M, Suanburi D, Suanpaga W, Tebakari T, Trisurat Y, Udo K, Wongsas S, Yamada TJ, Yoshida K, Kiatiwat T, Oki T	A review of climate-change impact and adaptation studies for the water sector in Thailand	Environmental Research Letters	16(2)	023004	2021
Nainar A, Tanaka N, Sato T, Mizuuchi Y, Kuraji K	A comparison of hydrological characteristics between a cypress and mixed-broadleaf forest: implication on water resource and floods	Journal of Hydrology	595	125679	2020
Ibáñez C, Fukui D, Popa-Lisseanu AG, Pastor-Beviá D, García-Mudarra JL, Juste J	Molecular identification of bird species in the diet of the bird-like noctule bat in Japan	Journal of Zoology	313	276-282	2020
Takagi E, Matsuo K, Suzuki M, Adachi Y, Togashi K	Natural occurrence of oviposition and adult emergence of the seed parasitoid wasp <i>Macrodasyceas hirsutum</i> Kamijo (Hymenoptera, Torymidae) on <i>Ilex latifolia</i> Thunberg in Japan	Taiwania	65(4)	541-543	2020
Shigyo N, Hirao T	Saprotrophic and ectomycorrhizal fungi exhibit contrasting richness patterns along elevational gradients in cool-temperate montane forests	Fungal Ecology	50	101036	2020

発表者全氏名	題目	誌名	巻一號	頁	発行年
Parhizkar M, Shabanpour M, Lucas-Borja ME, Zema DA, Li S, Tanaka N, Cerdà A	Effects of length and application rate of rice straw mulch on surface runoff and soil loss under laboratory simulated rainfall	International Journal of Sediment Research	36(4)	468-478	2020
Chen S-F, Juan C-H, Rossiter SJ, Kinjo T, Fukui D, Kawai K, Tsang SM, Veluz MJ, Sakurai H, Lin H-C, Jang-Liaw N-H, Osawa K, Ko W-Y, Izawa M	Population genetic structure of the insular Ryukyu flying fox <i>Pteropus dasymallus</i>	Biotropica	53(2)	548-559	2021
Parhizkar M, Shabanpour M, Miralles I, Cerdà A, Tanaka N, Asadi H, Lucas-Borja ME, Zema DA	Evaluating the effects of forest tree species on rill detachment capacity in a semi-arid environment	Ecological Engineering	161	106158	2021
Suzuki SN	Acceleration and deceleration of aboveground biomass accumulation rate in a temperate forest in central Japan	Forest Ecology and Management	479	118550	2021
Iwakiri A, Sakaue D, Matsushita N, Fukuda K	New microsatellite markers for the population studies of <i>Racodium therryanum</i> , a causal agent of snow blight in Japan	Forest Pathology	51(2)	e12666	2021
Chang SC, Saitoh TM, Shibata H, Suzuki SN	Recent advances in the understanding of ecosystem processes at eddy covariance CO <sub>2</sub> flux sites in East Asian forest ecosystems: a review	Journal of Agricultural Meteorology	77	52-65	2021
Tu VT, Görföl T, Csorba G, Arai S, Kikuchi F, Fukui D, Koyabu D, Furey N, Bawm S, Lin K, Alviola P, Hang C, Son NT, Tuan TA, Hassanin A	Integrative taxonomy and biogeography of Asian yellow house bats (Vespertilionidae: <i>Scotophilus</i> ) in the Indomalayan Region	Journal of Zoological Systematics and Evolutionary Research	59(3)	772-795	2021
Nainar A, Tanaka N, Sato T, Kishimoto K, Kuraji K	A comparison of the baseflow recession constant ( <i>K</i> ) between a Japanese cypress and mixed-broadleaf forest via six estimation methods	Sustainable Water Resources Management	7(1)	6	2021
Kobayashi K, Masuda K, Haga C, Matsui T, Fukui D, Machimura T	Development of a species identification system of Japanese bats from echolocation calls using convolutional neural networks	Ecological Informatics	62	101253	2021
Nojiri T, Wilson LAB, López-Aguirre C, Tu VT, Kuratani S, Ito K, Higashiyama H, Son NT, Fukui D, Sadier A, Sears KE, Endo H, Kamihori S, Koyabu D	Embryonic evidence uncovers convergent origins of laryngeal echolocation in bats	Current Biology	31(7)	1353-1365.e3	2021

発表者全氏名	題目	誌名	巻一号	頁	発行年
Nojiri T, Fukui D, Werneburg I, Saitoh T, Endo H, Koyabu D	Embryonic staging of bats with special reference to <i>Vespertilio sinensis</i> and its cochlear development	Development Dynamics		10.1002/dvdy.325	2021
Tsuboike Y, Fujii M, Yoshida Y, Kamata N	An Indirect Impact of Sika Deer Overpopulation on Eutrophication of an Aquatic Ecosystem via Understory Vegetation: An Individual-Based Approach Using Nitrate Reductase Activity	Frontiers in Ecology and Evolution	9	626905	2021
小林明・梶野健・石澤伸彰・徳江泉・関敏之・山下香菜・山田利博	サクラ類街路樹の診断検証事例 (町田市)	樹木医学研究	24(2)	98-99	2020
徳江泉・滝川正義・佐々木良典・高村聡・清水隆行・山田利博	高圧圧縮空気を用いた土壌改良システムの開発Ⅱーシステムの実践事例の紹介と効果観察ー	樹木医学研究	24(2)	102-103	2020
梶野健・石澤伸彰・徳江泉・関敏之・山下香菜・山田利博・小林明	町田市におけるサクラ類街路樹のレーダによる診断検証	樹木医学研究	24(2)	122-123	2020
東原貴志・蔵治光一郎・井上真理子・大谷忠・荒木祐二・伊神裕司・渡邊英二・小西伴尚	中高生を対象とした森林の保水力に関する教育プログラムの開発	水利科学	372	138-152	2020
米道学・塚越剛史・軽込勉・久本洋子・大森良弘・練春蘭・佐藤光彦・佐々木崇徳・松尾歩・陶山佳久・後藤晋	クロマツ×アカマツ推定雑種から得られた実生苗の耐塩性ー海岸林再生に用いる材料としての利用可能性ー	日本森林学会誌	102(2)	101-107	2020
萩原謙・後藤晋	コナラの伐採時林齢と伐採株の状態が萌芽枝の発生と成長に及ぼす影響	日本森林学会誌	102(2)	115-119	2020
松村ゆかり・伊神裕司・児嶋美穂・鴨田重裕	国産ユーカリの鋸断特性と製材品品質	木材工業	75(4)	156-161	2020
澤田晴雄・辻良子・渡邊良広・千井野聡・井上広喜・辻和明・小林徹行・鎌田直人	伊豆半島南部暖温帯二次林におけるスダジイのナラ枯れ実態	中部森林研究	68	43-46	2020
井上淳・澤田晴雄・佐藤貴紀・村瀬一隆・鴨田重裕・松井理生・鎌田直人	暖温帯二次林におけるコナラのナラ枯れ実態ー愛知県瀬戸市と静岡県南伊豆町の比較ー	中部森林研究	68	47-50	2020

## 2020 年度 資料

発表者全氏名	題目	誌名	巻一号	頁	発行年
丹羽悠二・五十嵐洋治・後藤晋	ミトコンドリア DNA の塩基配列データから明らかにされた荒川源流域に生息するサンショウウオの種構成	爬虫両棲類学会報	1	35-41	2020
山田利博	これからの樹木の診断と管理	森林技術	938	2-6	2020
尾崎煙雄・村川功雄	東京大学千葉演習林におけるカエントケの記録	千葉生物誌	70(1)	10-14	2020
岩切鮎佳・坂上大翼・松下範久・福田健二	北海道の針葉樹苗畑における暗色雪腐病菌 ( <i>Racodium therryanum</i> ) のジェネット分布	樹木医学研究	24(3)	153-159	2020
徳江泉・関敏之・梶野健・石澤伸彰・山下香菜・山田利博・小林明	町田市におけるサクラ類街路樹のドクターウッズによる診断結果の検証	樹木医学研究	24(3)	160-161	2020
太田祐子・関敏之・金子久美・石澤伸彰・山下香菜・山田利博	鹿島神宮におけるスギとイチョウの腐朽診断検証事例	樹木医学研究	24(3)	162-163	2020
橋谷拓武・太田祐子・井道裕史・山下香菜・服部力・山田利博・柳澤賢一・戸田堅一郎・西岡泰久	カラマツカタワタケにより腐朽したカラマツ心材の生材状態における曲げ強度特性	樹木医学研究	24(3)	168-169	2020
鎌田直人	東京大学北海道演習林の概要と沿革・現状と課題	北方林業	71(3)	1-6	2020
広嶋卓也	林分施業法のこれまでとこれから	北方林業	71(3)	7-10	2020
笠原久臣・広嶋卓也・岡村行治・犬飼浩・福士憲司・松井理生	東京大学北海道演習林が生産する優良丸太の銘木販売	北方林業	71(3)	11-15	2020
福井大	北海道演習林における長期観測	北方林業	71(3)	22-25	2020
尾張敏章	林分施業法における航空機 LiDAR と UAV の利用可能性	北方林業	71(3)	26-29	2020
鈴木智之	東京大学北海道演習林の天然林継続観測の概要	北方林業	71(3)	96-101	2020
後藤晋	北海道演習林の標高別試験地とその利用	北方林業	71(3)	110-113	2020
安村直樹	熊本県の苗木生産に関する近年の動向と今後の課題：特にコンテナ苗に注目して	木材情報	350	5-9	2020

発表者全氏名	題目	誌名	巻一号	頁	発行年
小野良平・渡辺貴史・秋田典子・水内佑輔・根岸勇太・大石菜由佳・寺田徹	座談会「地図」と「書店」から考える論文レビューの方向性	ランドスケープ研究	84(2)	82-85	2020
斉藤明子・村川功雄	東京大学千葉演習林の昆虫相の追加と訂正その4	房総の昆虫	66	36	2020
米道学・軽込勉・塚越剛史・久本洋子・楠本大	マツ材線虫病抵抗性アカマツの挿し木床環境が根系に及ぼす影響	日本緑化工学会誌	46(1)	99-102	2020
高山範理・藤原章雄・横山勝樹・齋藤暖生・下田倫子・後藤晋	ダイバーシティを高めた状態での共同作業がもたらす意識変容傾向とその過程ー山中湖村演習林を対象とした東京大学と女子美術大学の合同演習における調査ー	森林総合研究所研究報告	19(2)	137-151	2020
齋藤暖生	富士山北側の植生環境：「貴重な自然」はどのように守られてきたか	BIOCITY	84	28-35	2020
蔵治光一郎・鶴見康幸・塚越剛史・阿達康真	房総半島清澄山系の降水特性(Ⅲ)ー清澄観測点における102年間の年降水量、月別・季節別降水量、大雨、少雨の長期変化傾向ー	東京大学農学部演習林報告	143	1-9	2020
水内佑輔・上田裕文	解題：社会・環境インフラストラクチャーとしての神社	ランドスケープ研究	84(3)	236-238	2020
水内佑輔	近代における公共造園空間としての神社と造園学の系譜	ランドスケープ研究	84(3)	246-249	2020
久本洋子	荒川河川敷におけるハチクの一斉開花枯死と生態系への影響	竹	144	21-24	2020
牧野結衣・平尾聡秀・梅木清	奥秩父山地におけるシカ不嗜好性植物2種の分布域拡大過程	環境情報科学論文集	34	156-161	2020
斉藤明子・村川功雄	東京大学千葉演習林の昆虫相の追加と訂正その5	房総の昆虫	67	82-83	2020
山田利博	樹木精密診断技術の進歩と課題	グリーン・エージ	564	7-11	2020
橋谷拓武・太田祐子・井道裕史・山下香菜・服部力・山田利博・柳澤賢一・戸田堅一郎・西岡泰久	カラマツカタワタケにより腐朽したカラマツ心材の生材状態における強度特性	樹木医学研究	25(1)	1-9	2021
齋藤暖生	アイヌ共用林は「アイヌの森」復権の決め手となるか	季刊 現代の理論	25		2021
米道学・軽込勉・塚越剛史・久本洋子・楠本大	Mスターコンテナを用いたアカマツ緑化苗生産の試み	日本緑化工学会誌	46(3)	334-336	2021

## 2020年度 資料

発表者全氏名	題目	誌名	巻一号	頁	発行年
丹羽悠二・三浦直子・山田晋・根本正之	高解像度で撮影した UAV データを用いたススキのバイオマス推定	ランドスケープ研究	84	154-157	2021
米道学・軽込勉・塚越剛史・久本洋子・楠本大	オーキシン処理の有無が密閉環境下でのアカマツ挿し木の根とシュートの成長に与える影響	関東森林研究	72(1)	69-72	2021
才木道雄・鈴木智之	東京大学秩父演習林で発生した森林火災が土壌無脊椎動物に与えた影響	関東森林研究	72(1)	73-76	2021
後藤晋・小川瞳・犬飼浩・鈴木智之	山火事後二次林におけるウダイカンバの天然更新施業の現状と課題	北海道の林木育種	63(2)	15-19	2021
小川 瞳・大川 あゆ子・笠原 久臣・鈴木 智之	36ha 大面積長期生態系プロットにおける北方針広混交林の 25 年間の動態	北方森林研究	69	31-34	2021
斉藤奈央子・立花敏・安村直樹	茨城県における林業用苗木生産の実態と安定供給に向けた課題	林業経済研究	67(1)	31-40	2021
鶴田燃海・相川美絵子・竹本周平・練春蘭	田無演習林維管束植物目録 (2019 年度改定版)	演習林 (東大)	63	1-22	2021
岸本光樹・澤田晴雄・高德佳絵・井上淳	生態水文学研究所におけるスギ品種別成長資料	演習林 (東大)	63	23-43	2021
蔵治光一郎・五名美江・加藤純子・黒木里香	生態水文学研究所赤津研究林白坂南北谷小流域日流出量観測報告 (I)	演習林 (東大)	63	45-57	2021
才木道雄・高德佳絵・吉田弓子・千嶋武	秩父山地の標高の異なる 5 地点における気温観測報告 (2003 年~2018 年)	演習林 (東大)	63	59-67	2021
辻和明・西山教雄	富士癒しの森研究所の苗畑の資料	演習林 (東大)	63	69-92	2021
高德佳絵・吉田弓子・才木道雄・原口竜成	秩父演習林イヌブナ天然林におけるリターフォールデータ (2007 年 4 月~2016 年 12 月)	演習林 (東大)	63	93-97	2021
吉田弓子・高德佳絵・才木道雄	秩父演習林シオジ天然林におけるリターフォールデータ (2013 年 4 月~2018 年 12 月)	演習林 (東大)	63	99-104	2021
小川瞳・芝野伸策・岡村行治・高橋康夫・大川あゆ子・笠原久臣・梶幹男・山本博一・鈴木智之	北海道演習林における前山大面積長期生態系プロットの林分成長資料(1992-2018)	演習林 (東大)	63	113-123	2021
福井大・小川瞳	北海道演習林山部地区における気象観測地点, 名称, 観測項目の変遷および新露場の設置について	演習林 (東大)	63	125-134	2021

発表者全氏名	題目	誌名	巻一号	頁	発行年
東京大学大学院農学 生命科学研究所附属 演習林基盤データ整 備委員会水文水質部 門	東京大学演習林水文観測・水質 分析報告(自 2018 年 1 月至 2018 年 12 月)	演習林 (東大)	63	135-164	2021
東京大学大学院農学 生命科学研究所附属 演習林基盤データ整 備委員会気象部門	東京大学演習林気象報告 (自 2018 年 1 月至 2018 年 12 月)	演習林 (東大)	63	165-188	2021

### 2020 年度より前に発表し、これまでの年報に未掲載の論文

発表者全氏名	題目	誌名	巻一号	頁	発行年
山田利博	街路樹の機器診断の精度を高める ための課題	TREE DOCTOR	27	8-16	2020

## 2) 学会発表等

発表者全氏名	題目	大会名	巻一 号	頁	発表年
Iida A, Nakamura S, Kuraji K	Building urban resilience with multifunctional productive landscapes	IALE - North America 2020 Annual Meeting			2020
Asano Y, Uchida T, Gomi T, Mizugaki S, Hiraoka M, Katsuyama M, Niwa S, Yokoo Y	Effect of spatial scales on runoff / sediment transport in mountain catchments	JpGU-AGU Joint Meeting 2020			2020
Hotta W, Haga C, Inoue T, Morimoto J, Matsui T, Suzuki SN, Owari T, Shibata H, Nakamura F	Simulating the long-term impacts of salvage logging after windthrow on forest carbon stocks and species composition in northern Japan	Abstracts of Ecological Society of America (ESA) 2020 Annual Meeting		LB 13	2020
Haga C, Hotta W, Morimoto J, Owari T, Inoue T, Shibata H, Aiba M, Matsui T	Simulation of recovery of above-ground biomass after windthrow damage under future climate change	Abstracts of Ecological Society of America (ESA) 2020 Annual Meeting		LB 19	2020
Kuraji K	Collaborative Research Activities within Asian University Forests: Interim Report by Research Group 1 (Water & Climate)	Abstracts of JSPS Core-to-Core Program Interim Symposium "A research hub of long-term forest monitoring field centers on environmental changes and ecosystem responses: Collaborating for data, knowledge and young researchers"		7	2021
Kamata N	Collaborative Research Activities within Asian University Forests: Interim Report by Research Group 2 (Biology & Ecology)	Abstracts of JSPS Core-to-Core Program Interim Symposium "A research hub of long-term forest monitoring field centers on environmental changes and ecosystem responses: Collaborating for data, knowledge and young researchers"		8	2021
Kamata N, Lardizabal MLT, Wong W, Selvester S, Rasiah A, George SG, Mojikon T, Gungot E, Wong H, Lucas JJ	Interim Report by Research Groups (RG) 2: Bark and ambrosia beetle project	Abstracts of JSPS Core-to-Core Program Interim Symposium "A research hub of long-term forest monitoring field centers on environmental changes and ecosystem responses: Collaborating for data, knowledge and young researchers"		9	2021
Li C-L, Wu L-W, Kamata N	Bark and ambrosia beetles survey using ethanol baited traps in a subtropical <i>Zelkova</i> plantation in central Taiwan	Abstracts of JSPS Core-to-Core Program Interim Symposium "A research hub of long-term forest monitoring field centers on environmental changes and ecosystem responses: Collaborating for data, knowledge and young researchers"		10	2021

発表者全氏名	題目	大会名	巻一 号	頁	発表年
Wu L-W, Li C-L, Tsai M-J, Kamata N	Species diversity of bark and ambrosia beetles in Asia	Abstracts of JSPS Core-to-Core Program Interim Symposium “A research hub of long-term forest monitoring field centers on environmental changes and ecosystem responses: Collaborating for data, knowledge and young researchers”		11	2021
Owari T	Collaborative research activities within Asian university forests: Interim report by Research Group 3 (Sustainable Management)	Abstracts of JSPS Core-to-Core Program Interim Symposium “A research hub of long-term forest monitoring field centers on environmental changes and ecosystem responses: Collaborating for data, knowledge and young researchers”		12	2021
Kamata N	Population dynamics of the beech caterpillar, <i>Syntypistis punctatella</i> (Motschulsky) in Northern Japan: Future collaboration with Hui Zhang at Hainan University	Abstracts of JSPS Core-to-Core Program Interim Symposium “A research hub of long-term forest monitoring field centers on environmental changes and ecosystem responses: Collaborating for data, knowledge and young researchers”		16	2021
Fukui D	Wild Mammal Monitoring Using Camera Traps	Abstracts of JSPS Core-to-Core Program Interim Symposium “A research hub of long-term forest monitoring field centers on environmental changes and ecosystem responses: Collaborating for data, knowledge and young researchers”		17	2021
Zhang H, Kamata N	Time-series data analyses on 35-year data of the beech caterpillar, <i>Syntypistis punctatella</i> (Motschulsky)	Abstracts of JSPS Core-to-Core Program Interim Symposium “A research hub of long-term forest monitoring field centers on environmental changes and ecosystem responses: Collaborating for data, knowledge and young researchers”		20	2021
Chandratilake GGT, Balasuriya VG, Tanaka N	Characteristics of Stemflow generation by Seven Urban Tree Species in University of Sri Jayewardenepura, Sri Lanka	Abstracts of JSPS Core-to-Core Program Interim Symposium “A research hub of long-term forest monitoring field centers on environmental changes and ecosystem responses: Collaborating for data, knowledge and young researchers”		23	2021
Chandratilake GGT, Kodithuwakku GKAL, Tanaka N	Paired watershed delineation and identification of its morphological features in Yagirala Forest Reserve, Sri Lanka	Abstracts of JSPS Core-to-Core Program Interim Symposium “A research hub of long-term forest monitoring field centers on environmental changes and ecosystem responses: Collaborating for data, knowledge and young researchers”		24	2021
Heim O, Fujioka E, Nakai G, Fukui D, Hiryu S	Light-weight GPS-loggers reveal the movement behavior of <i>Rhinolophus nippon</i> in semi-natural and anthropogenic landscapes of Japan.	6th International Berlin Bat Meeting			2021

## 2020 年度 資料

発表者全氏名	題目	大会名	巻一号	頁	発表年
米道学・軽込勉・塚越剛史・久本洋子・楠本大	マツ材線虫病抵抗性アカマツの挿し木床環境が根系に及ぼす影響	第 51 回日本緑化工学会大会			2020
鳥海夏葉・福井大・木村順平・小藪大輔・久保麦野・野尻太郎・鈴木 牧	日本産コウモリの骨盤形態の比較	日本進化学会			2020
清水元貴・長谷一磨・吉野寿紀・小藪大輔・福井大・Tu Vuong Tan・藤岡慧明・飛龍志津子	ベトナム産コウモリの耳介運動とエコーロケーションの関係について	日本音響学会 2020 年秋季研究発表会			2020
才木道雄・鈴木智之	東京大学秩父演習林で発生した森林火災が土壌無脊椎動物に与えた影響	第 10 回関東森林学会大会講演要旨集		25	2020
米道学・軽込勉・塚越剛史・久本洋子・楠本大	オーキシン処理の有無が密閉環境下でのアカマツ挿し木の根とシュートの成長に与える影響	第 10 回関東森林学会大会講演要旨集		25	2020
藤森悠菜・内山憲太郎・三須直也・後藤晋・高橋誠・鳥丸猛・戸丸信弘	産地試験林を用いたブナのゲノムワイド関連解析	森林遺伝育種学会第 9 回大会講演要旨集		10	2020
小川瞳・大川あゆ子・笠原久臣・鈴木智之	大面積長期生態系プロットにおける 25 年間の森林動態	第 69 回北方森林学会大会			2020
松岡佳奈・水口木綿花・藤岡慧明・福井大・飛龍志津子	コウモリの最適餌場利用戦略～モモジロコウモリは餌場を譲り合うのか！？～	動物行動学会 2020 年度大会			2020
藤岡慧明・仁賀佳史・福井大・依田憲・飛龍志津子	コウモリの音響 GPS バイオロギング	第 16 回日本バイオロギング研究会シンポジウム			2020
楠本大・久本洋子・村川功雄	ナラ枯れによるマテバシイの枯死の特徴	樹木医学会第 25 回大会			2020
坂上大翼・楠本大	暗色雪腐病菌 <i>Racodium therryanum</i> を接種したエゾマツ・スギ稚苗の解剖観察 (予報)	樹木医学会第 25 回大会			2020
橋谷拓武・太田祐子・井道裕史・山下香菜・服部力・山田利博・柳澤賢一・戸田堅一郎・西岡泰久	カラマツカタワタケにより腐朽したカラマツ心材の気乾状態における曲げ強度特性	樹木医学会第 25 回大会			2020

発表者全氏名	題目	大会名	巻一号	頁	発表年
山下香菜・小林明・梶野健・石澤伸彰・徳江泉・関敏之・山田利博	町田市におけるサクラ類街路樹の診断結果の検証－腐朽材密度との関係	樹木医学会第 25 回大会			2020
江口由典・中川雄治・福土憲司・平間睦樹・井口和信・松井理生・丹羽悠二	ミズナラが優占する山火再生林における葉節の発生状況	令和 2 年度技術職員等試験研究・研修会議報告		1-6	2020
吉田弓子・原口竜成	リター・シードトラップ調査における健全種子の選別手法の検討	令和 2 年度技術職員等試験研究・研修会議報告		7-11	2020
里見重成	70 年生キヨスミミツバツツジのさし木－迷走の日々と辿りついた先－	令和 2 年度技術職員等試験研究・研修会議報告		13-17	2020
相川美絵子・栗田直明	田無演習林の枝葉，木の実類の活用	令和 2 年度技術職員等試験研究・研修会議報告		19-22	2020
渡邊良広・千井野聡・辻 和明・村瀬一隆	樹芸研究所におけるアブラギリの歴史と現状	令和 2 年度技術職員等試験研究・研修会議報告		23-26	2020
軽込 勉・塚越剛史・村川功雄・鈴木祐紀・阿達康真・米道 学	UAV による森林モニタリングの試み－初期におけるナラ枯れ被害の事例－	令和 2 年度技術職員等試験研究・研修会議報告		27-29	2020
辻良子・西山教雄	Collector を使った危険木情報の管理システムづくり奮闘記	令和 2 年度技術職員等試験研究・研修会議報告		31-35	2020
澤田晴雄・井上淳・岸本光樹・梁瀬桐子	2019 年度に実施した森林現況調査から調査結果の集計まで	令和 2 年度技術職員等試験研究・研修会議報告		37-41	2020
澤田晴雄・井上淳・岸本光樹・梁瀬桐子	東京大学生態水文学研究所の天然林における約 20 年間の変化	第 10 回中部森林学会大会プログラム・講演要旨集		16	2020
小林啓悟・芳賀智宏・前川侑子・松井孝典・福井大・町村尚	物体検出モデル YOLOv3 を改良したエコロケーションコールによる日本産コウモリの音声モニタリングシステムの開発	日本生態学会近畿地区例会			2020
佐藤貴紀・田中延亮・Nainar Anand・蔵治光一郎・五名美江・鈴木春彦	ヒノキ人工林における土砂流出観測結果の MUSLE の適用	第 10 回中部森林学会研究発表会			2020
森本淳子・鈴木智之・尾張敏章	森林再生に有効な風倒後の管理施業はなにか？－中～長期的影響評価－	日本生態学会第 68 回全国大会			2021

## 2020 年度 資料

発表者全氏名	題目	大会名	巻一号	頁	発表年
芳賀智宏・松井孝典・井上貴央・堀田 亘・饗庭正寛・尾張敏章・鈴木智之・三島哲雄・森本淳子・柴田英昭	風倒後にできる適応策－将来気候下での森林保全－	日本生態学会第 68 回全国大会			2021
堀田亘・芳賀智宏・森本淳子・井上貴央・鈴木智之・松井孝典・尾張敏章・柴田英昭・中村太士	気候変動下で風倒後の管理が北方林の炭素収支に及ぼす長期的影響	日本生態学会第 68 回全国大会			2021
Li J, Morimoto J, Suzuki SN, Owari T, Nakane T	Combined impacts of windthrow and subsequent management on ecological resilience in cool temperate forests in Japan	日本生態学会第 68 回全国大会			2021
梅木清・一釣直也・平尾聡秀	秩父山地の飛翔性昆虫の多様性と種組成のパターン	日本生態学会第 68 回全国大会			2021
牧貴大・三宮望・平尾聡秀・福井大	日本列島における島間でのコウモリ群集構造の比較	日本生態学会第 68 回全国大会			2021
水口木綿花・松岡佳奈・藤岡慧明・Olga HEIM・福井大・飛龍志津子	完全野外環境下におけるモモジロコウモリの最適採餌戦略の検討	日本生態学会第 68 回全国大会			2021
Ang J, Suzuki M, Mitsugi M, Tsukagoshi T, Murakawa I	Soil macroinvertebrate: A 14 year study of the effects from deer enclosure and canopy gap treatments.	日本生態学会第 68 回全国大会			2021
五十嵐勇治・里見重成・近澤静恵	新型コロナがもたらした働き方の変化	農学生命科学研究技術職員研修会報告集 2020 年度		18-19	2021
三次充和・村川功雄・吉田明子・藤平晃司	千葉演習林における新型コロナ禍状況下での教育研究利用案件への対応体制	農学生命科学研究技術職員研修会報告集 2020 年度		20-21	2021
松井理	北海道演習林における新型コロナ対応とスマート化への取り組み	農学生命科学研究技術職員研修会報告集 2020 年度		22-23	2021
大村和也	コロナ禍の下での秩父演習林技術職員の業務-2020 年度の事例報告-	農学生命科学研究技術職員研修会報告集 2020 年度		24-25	2021
相川美絵子・栗田直明	オンラインによるリース作り体験会	農学生命科学研究技術職員研修会報告集 2020 年度		26-27	2021
澤田晴雄・井上淳・丹羽悠二・岸本光樹・梁瀬桐子	宿泊を伴って行われた「全学的技術職員研修」における感染防止対策	農学生命科学研究技術職員研修会報告集 2020 年度		28	2021

発表者全氏名	題目	大会名	巻一号	頁	発表年
西山教雄・辻良子	富士癒しの森研究所での新型コロナウイルス感染症予防の取り組み	農学生命科学研究科技術職員研修会報告集 2020 年度		29-30	2021
辻 和明・渡邊良広・千井野聡・村瀬一隆	演習林樹芸研究所における新型コロナウイルス感染症対策と業務のスマート化	農学生命科学研究科技術職員研修会報告集 2020 年度		31	2021
高橋尚也・高野 昶・根津郁実・石栗 太・横田信三・山田利博	サワラ腐朽材の抽出成分の分析	第 71 回日本木材学会大会			2021
渡部剣太・安部 久・久保島吉貴・鴨田重裕・須谷未菜・中井毅尚	国産早生樹 4 種の物理特性に関する研究	第 71 回日本木材学会大会			2021
齋藤暖生	農山村における森林資源利用と地域環境へのインパクト	第 132 回日本森林学会大会学術講演集		77	2021
後藤 晋	気候変動の時代における林木育種：今だからやれること、やるべきこと	第 132 回日本森林学会大会学術講演集		80	2021
竹内啓恵・藤原章雄・林潔・長井聡里・川畑真理子・上原巖	地域住民を対象に大学演習林で行った森林散策カ ウンセリングの 2 事例	第 132 回日本森林学会大会学術講演集		87	2021
藤原章雄・齋藤暖生・高山範理・森田えみ・竹内啓恵	森林空間を活用した音楽会の試みと自由記述アンケートから得られたこと	第 132 回日本森林学会大会学術講演集		88	2021
安村直樹・横田康裕・永田信・立花敏	宮崎県でのアンケート調査によるコンテナ苗生産・植林必要人工数の把握	第 132 回日本森林学会大会学術講演集		91	2021
山田祐亮・當山啓介	植栽を推進する地域の設定が伐採傾向に与える影響	第 132 回日本森林学会大会学術講演集		109	2021
當山啓介	森林の計画・計画学の特徴と目的：他分野の計画の視座を交えたレビュー	第 132 回日本森林学会大会学術講演集		109	2021
Ang J, Hisamoto Y, Kusumoto D, Mitsugi M, Karukome T, Fujihira K, Suzuki M	Effects of 14-year deer exclusion and gap creation on the recruitment process of lateseral species	第 132 回日本森林学会大会学術講演集		111	2021
澤田晴雄・佐藤貴紀・岸本光樹	モニ 1000 愛知赤津サイトにおけるヒノキ球果の落下特性	第 132 回日本森林学会大会学術講演集		120	2021
堀田 亘・芳賀智宏・森本淳子・井上貴央・鈴木智之・松井孝典・尾張敏章・柴田英昭・中村太士	気候変動下で風倒後の管理が北方林の種組成に及ぼす長期的影響	第 132 回日本森林学会大会学術講演集		121	2021

## 2020年度 資料

発表者全氏名	題目	大会名	巻一号	頁	発表年
鈴木智之	冷温帯における3年間の倒木材密度減少の樹種間比較	第132回日本森林学会大会学術講演集		122	2021
小南裕志・深澤遊・平田晶子・高木正博・鈴木智之・小林真・田中延亮・竹本周平・衣浦晴生・上村真由子・門脇浩明・山下聡・潮雅之	Yasso モデルを用いたナラ枯れ枯死木の分解 CO2 放出量の広域環境応答推定	第132回日本森林学会大会学術講演集		122	2021
浅野友子・内田太郎・友村光秀	大起伏山地の流域における斜面と河道のピーク伝播速度	第132回日本森林学会大会学術講演集		126	2021
中村和彦・藤原章雄・小林博樹・斎藤 馨	森と人とを紡ぎ直す方法論としての感性的アプローチの可能性	第132回日本森林学会大会学術講演集		141	2021
徐喬逸・石橋整司・安村直樹・當山啓介	中京地域における木材市場の変化	第132回日本森林学会大会学術講演集		143	2021
陳田・石橋整司・安村直樹・齋藤暖生	京都府と鹿児島県にみる竹林拡大対策の比較検討	第132回日本森林学会大会学術講演集		143	2021
劉立航・石橋整司・安村直樹・當山啓介	中国・神農架林区の森林管理組織	第132回日本森林学会大会学術講演集		144	2021
陸黎駿・石橋整司・齋藤暖生・當山啓介	喫食を伴う森林レクリエーションにおける事故防止策	第132回日本森林学会大会学術講演集		144	2021
歴園園・石橋整司・齋藤暖生・藤原章雄	森林散策におけるリラックス効果を考慮した森林管理のあり方	第132回日本森林学会大会学術講演集		144	2021
劉馨遥・石橋整司・齋藤暖生・藤原章雄	浮世絵に描かれた江戸の緑地環境	第132回日本森林学会大会学術講演集		145	2021
Pei H, Owari T, Tsuyuki S	Forest type classification based on deep learning technique with archival aerial photography	第132回日本森林学会大会学術講演集		147	2021
石橋整司・藤原章雄・齋藤暖生・西山教雄・辻良子	東京大学富士癒しの森研究所カラマツ系統別試験地の成長過程	第132回日本森林学会大会学術講演集		148	2021

発表者全氏名	題目	大会名	巻一号	頁	発表年
尾張敏章・大石 諭・軽込勉・鈴木 祐紀・鶴見康幸・ 米道学・塚越剛 史・阿達康眞・村 川功雄・藤平晃 司・三次充和・楠 本大・久本洋子・ 當山啓介	東京大学千葉演習林における天 然林資源の現状	第 132 回日本森林学会大会学術 講演集		149	2021
塚本宝・平尾聡秀	ライム病の原因菌と媒介者であ るシュルツェマダニの遺伝的 分化の解明	第 132 回日本森林学会大会学術 講演集		169	2021
Paing AMM, Chen S, Yoshida T, Tsumura Y, Kobayashi H, Iio A, Tomaru N, Hisamoto Y, Honma K, Nagamatsu D, Takagi M, Taneda H, Hirota M, Goto S	Effects of warming on survival and growth of <i>Betula ermanii</i> revealed by range-wide transplant experiments	第 132 回日本森林学会大会学術 講演集		169	2021
竹内虎輔・齊藤陽 子・平尾聡秀	分布境界におけるミネカエデ類 の遺伝構造	第 132 回日本森林学会大会学術 講演集		170	2021
Chen S, Ishizuka W, Kusunoki K, Unno Y, Uchiyama K, Goto S	Genetic dissection of wood properties in hybrid larch using SNP data.	第 132 回日本森林学会大会学術 講演集		171	2021
吉田拓矢・平尾聡 秀	花粉 DNA メタバーコーディン グによるシカ食害下の送粉ネッ トワークの解明	第 132 回日本森林学会大会学術 講演集		188	2021
野中佳祐・鎌田直 人	ブナ開葉時期の変異がブナカイ ガラタマバエのゴール形成数に 及ぼす影響	第 132 回日本森林学会大会学術 講演集		218	2021
森川周・谷川鴻 介・平尾聡秀	森林において同所的に生息する 中型食肉類の日周性と生息地選 択の解明	第 132 回日本森林学会大会学術 講演集		220	2021
三宮望・三浦直 子・小池伸介・福 井大	LiDAR を用いて定量化した森林 垂直構造とコウモリ類各種の活 動量の関係	第 132 回日本森林学会大会学術 講演集		221	2021
谷川鴻介・平尾聡 秀	植生衰退が土壤微生物機能の攪 乱を介して実生更新に及ぼす履 歴効果の解明	第 132 回日本森林学会大会学術 講演集		228	2021
平尾聡秀・原口竜 成・山田利博	サワラ人工林における腐朽病害 木と健全木の環境マイクロバイ オームの違い	第 132 回日本森林学会大会学術 講演集		229	2021
原口竜成・平尾聡 秀・山田利博	サワラ高齢級林分における溝腐 の発生状況と患部の菌類相の解 析	第 132 回日本森林学会大会学術 講演集		232	2021

## 3) 著書

著者名	題目	著書名	発行会社	頁	年
尾張敏章	コラム 3.5 UAV	森林計画学入門 田中和 博・吉田茂二郎・白石則 彦・松村直人(編)	朝倉書店	52	2020
當山啓介	5.7 森林経営計画	森林計画学入門 田中和 博・吉田茂二郎・白石則 彦・松村直人(編)	朝倉書店	112- 113	2020
齋藤暖生	生業の場としての富士山	古地図で楽しむ富士山 大 高康正(編著)	風媒社	172- 178	2020
東京大学富士癒しの森研究 所(編)		東大式癒しの森のつくり方 一森の恵みと暮らしをつな ぐ	築地書館	248pp	2020
明治神宮とランドスケープ 研究会(著)・上田裕文・水 内佑輔・寺田徹・高橋精一 郎(編)		『林苑計画書』から読み解 く 明治神宮一〇〇年の森	東京都公 園協会	128pp	2020
鈴木智之	2 森林の分布と構造・動態 ギ ャップ更新	森林学の百科事典 (一社) 日本森林学会(編)	丸善出版	50-51	2021
齋藤暖生・松浦俊也・江原 誠	10 森林の恵み 森林の恵み	森林学の百科事典 (一社) 日本森林学会(編)	丸善出版	356- 357	2021
松浦俊也・齋藤暖生・江原 誠	10 森林の恵み 特用林産物	森林学の百科事典 (一社) 日本森林学会(編)	丸善出版	358- 359	2021
江原誠・齋藤暖生・松浦俊 也	10 森林の恵み 非木材林産物	森林学の百科事典 (一社) 日本森林学会(編)	丸善出版	360- 361	2021
齋藤暖生	10 森林の恵み コラム：民俗 知	森林学の百科事典 (一社) 日本森林学会(編)	丸善出版	375	2021
浅野友子	13 森林と災害 森林流域にお ける降雨-流出の特性と洪水流 出	森林学の百科事典 (一社) 日本森林学会(編)	丸善出版	498- 499	2021
水内佑輔	14 森林を楽しむ 森林を楽し む歴史	森林学の百科事典 (一社) 日本森林学会(編)	丸善出版	516- 517	2021
齋藤暖生	2 食べ物・飲み物 菌類	世界の食文化百科事典 野 林厚志(編集委員長)	丸善出版	78-79	2021

## 4) 演習林を利用して行った論文等

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻-号	頁	年	演習林
Tsuruta M, Iwaki R, Lian C, Mukai Y	Decreased RNase activity under high temperature is related to promotion of self-pollen tube growth in the pistil of the Japanese flowering cherry, <i>Prunus × yedoensis</i> 'Someiyoshino'	The Horticulture Journal	89(3)	306-310	2020	田無
Tatsumi S	Tree diversity effects on forest productivity increase through time because of spatial partitioning	Forest Ecosystems	7	24	2020	北海道
Liu PY, Cheng AC, Huang SW, Lu HP, Oshida T, Liu W, Yu HT	Body-size scaling is related to gut microbial diversity, metabolism and dietary niche of arboreal folivorous flying squirrels	Scientific Reports	10	7809	2020	北海道
Fukui D, Tu VT, Thanh H T, Arai S, Harada M, Csorba G, Son NT	First record of the genus <i>Plecotus</i> from Southeast Asia with notes on the taxonomy, karyology and echolocation call of <i>P. homochrous</i> from Vietnam.	Acta Chiropterologica	22(1)	57-74	2020	北海道
Lai YJ, Tanaka N, Im S, Kuraji K, Tantasirin C, Tuankrua V, Majuakim L, Cleophas F, Mahali MB	Climate classification of Asian university forests under current and future climate	Journal of Forest Research	25(3)	136-146	2020	千葉・北海道・秩父・田無・生態水文・富士・樹芸
Kamata N, Igarashi Y, Nonaka K, Ogawa H, Kasahara H	Analyzing the leafing phenology of <i>Quercus crispula</i> Blume using the growing degree days model	Journal of Forest Research	25(3)	147-154	2020	北海道
Kamata N, Sanguansub S, Beaver RA, Saito T, Hirao T	Investigating the factors influencing trap capture of bark and ambrosia beetles using long-term trapping data in a cool temperate forest in central Japan	Journal of Forest Research	25(3)	163-173	2020	秩父
Hiroshima T, Toyama K, Suzuki SN, Owari T, Nakajima T, Ishibashi S	Long observation period improves growth prediction in old Sugi ( <i>Cryptomeria japonica</i> ) forest plantations	Journal of Forest Research	25(3)	183-191	2020	千葉
Morishima K, Nakano T, Aizawa M	Sika deer presence affects the host-parasite interface of a Japanese land leech	Ecology and Evolution	10	6030-6038	2020	千葉
Ishizuka W, Hikosaka K, Ito M, Morinaga S	Temperature-related cline in the root mass fraction in East Asian wild radish along the Japanese archipelago	Breeding Science	70(3)	321-330	2020	田無・生態水文
Hotta W, Morimoto J, Inoue T, N Suzuki N S, Umebayashi T, Owari T, Shibata H, Ishibashi S, Hara T, Nakamura F	Recovery and allocation of carbon stocks in boreal forests 64 years after catastrophic windthrow and salvage logging in northern Japan	Forest Ecology and Management	468	118169	2020	北海道
Tange T, Ge F	Topographic factors and tree heights of aged <i>Cryptomeria japonica</i> plantations in the Boso Peninsula, Japan	Forests	11(7)	771	2020	千葉

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年	演習林
Asano Y, Kawasaki M, Saito T, Haraguchi R, Takatoku K, Saiki M, Kimura K	An increase in specific discharge with catchment area implies that bedrock infiltration feeds large rather than small mountain headwater streams	Water Resources Research	56	10.1029/2019WR025658	2020	秩父
Im S, Lee J, Kuraji K, Lai YJ, Tuankrua V, Tanaka N, Gomyo M, Inoue H, Tseng CW	Soil conservation service curve number determination for forest cover using rainfall and runoff data in experimental forests	Journal of Forest Research	25(4)	204-213	2020	生態水文・樹芸
Jeong M-S, Kim H, Lee W-S	Spatio-temporal variation in egg-laying dates of nestbox-breeding varied tits ( <i>Poecile varius</i> ) in response to spring pre-breeding period temperatures at long-term study sites in South Korea and Japan	Journal of Forest Research	25(4)	232-241	2020	生態水文
Moe KT, Owari T	Predicting individual tree growth of high-value timber species in mixed conifer-broadleaf forests in northern Japan using long-term forest measurement data	Journal of Forest Research	25(4)	242-249	2020	北海道
Hotta W, Haga C, Inoue T, Morimoto J, Matsui T, Suzuki S, Owari T, Shibata H, Nakamura F	Simulating the long-term impacts of salvage logging after windthrow on forest carbon stocks and species composition in northern Japan	Ecological society of America 2020 Annual meeting		88584	2020	北海道
Oikawa S, Matsui Y, Oguro M, Okanishi M, Tanabe R, Tanaka T, Togashi A, Itagaki T	Species-specific nitrogen resorption proficiency in legumes and nonlegumes	Journal of Plant Research	133(5)	639-648	2020	千葉
Harada K, Ang J, Suzuki M	Legacy effects of sika deer overpopulation on ground vegetation and soil physical properties	Forest Ecology and Management	474	118346	2020	千葉
Fukuda S, Naruse H	Shape difference of mud clasts depending on depositional facies: application of newly modified elliptic Fourier analysis to hybrid event beds	Journal of Sedimentary Research	90(10)	1410-1435	2020	千葉
Kōbayashi K, Takagi E	Mating systems of the tree-killing bark beetle <i>Polygraphus proximus</i> (Coleoptera: Curculionidae: Scolytinae)	Journal of Insect Science	20(6)	38	2020	千葉・北海道
Urbisz AZ, Nakano T, Świątek P	Ovary cord micromorphology in the blood-sucking haemadipsid leech <i>Haemadipsa japonica</i> (Hirudinida: Arhynchobdellida: Hirudiniformes)	Micron	138	102929	2020	千葉
Takagi E, Matsuo K, Suzuki M, Adachi Y, Togashi K	Natural occurrence of oviposition and adult emergence of the seed parasitoid wasp <i>Macrodasyceas hirsutum</i> Kamijo (Hymenoptera, Torymidae) on <i>Ilex latifolia</i> Thunberg in Japan	Taiwania	65(4)	541-543	2020	千葉

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年	演習林
Osono T, Matsuoka S, Hirose D	Diversity and geographic distribution of ligninolytic fungi associated with <i>Castanopsis sieboldii</i> leaf litter in Japan	Frontiers in Microbiology	11	595427	2020	千葉
Wijenayake PR, Hiroshima T	Prediction of tree age distribution based on survival analysis in natural forests: a case study of preserved permanent plots in the University of Tokyo Hokkaido Forest, northern Japan	Environmental Sciences Proceedings	3(1)	50	2020	北海道
Nainar A, Tanaka N, Sato T, Mizuuchi Y, Kuraji K	A comparison of hydrological characteristics between a cypress and mixed-broadleaf forest: implication on water resource and floods	Journal of Hydrology	595	125679	2020	生態水文
Shigyo N, Hirao T	Saprotrophic and ectomycorrhizal fungi exhibit contrasting richness patterns along elevational gradients in cool-temperate montane forests	Fungal Ecology	50	101036	2020	秩父
Waki T, Ikezawa H, Umeda K, Shimano S	Natural history study on <i>Riccardoella tokyoensis</i> : life history with ontogeny and host distribution records	Experimental and Applied Acarology	83(1)	13-30	2021	千葉
Suzuki SN	Acceleration and deceleration of aboveground biomass accumulation rate in a temperate forest in central Japan	Forest Ecology and Management	479	7	2021	秩父
Egusa T, Kumagai T, Oda T, Ohte N	Effects of bedrock groundwater discharge on spatial variability of dissolved carbon, nitrogen, and phosphorous concentrations in stream water within a forest headwater catchment	Hydrological Processes	35	e13993	2021	千葉
Iwakiri A, Sakaue D, Matsushita N, Fukuda K	New microsatellite markers for population studies of <i>Racodium therryanum</i> , a causal agent of snow blight in Japan	Forest Pathology	51(2)	e12666	2021	北海道
Kobayashi K, Masuda K, Haga C, Matsui T, Fukui D, Machimura T	Development of a species identification system of Japanese bats from echolocation calls using convolutional neural networks	Ecological Informatics	62	101253	2021	北海道
Nainar A, Tanaka N, Sato T, Kishimoto K, Kuraji K	A comparison of the baseflow recession constant (K) between a Japanese cypress and mixed-broadleaf forest via six estimation methods	Sustainable Water Resource Management	7	6	2021	生態水文
Takei S-y, Kobayashi K, Takagi E	Distribution pattern of entry holes of the tree-killing bark beetle <i>Polygraphus proximus</i>	PLoS ONE	16(2)	e0246812	2021	千葉
Nojiri T, Wilson LAB, López-Aguirre C, Tu VT, Kuratani S, Ito K, Higashiyama H, Son NT, Fukui D, Sadier A, Sears KE, Endo H, Kamihori S, Koyabu D	Embryonic evidence uncovers convergent origins of laryngeal echolocation in bats	Current Biology	31(7)	1353-1365.e3	2021	北海道

2020 年度 資料

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻-号	頁	年	演習林
Tsuboike Y, Fujii M, Yoshida Y, Kamata N	An indirect impact of Sika deer overpopulation on eutrophication of an aquatic ecosystem via understory vegetation: an individual-based approach using nitrate reductase activity.	Frontiers in Ecology and Evolution	9	626905	2021	秩父
Moe KT	Application of remote sensing and resource assessment techniques for the single-tree management system of high-value hardwood species in northern Japan	東京大学 博士論文		91pp	2020	北海道
大井川和心	日本の森林の問題を伝える	東京大学教育学部附属中等教育学校卒業論文		96pp	2020	富士
藤田早紀	Responses of <i>Pinus thunbergii</i> seedlings to waterlogging	東京大学 博士論文		175pp	2021	田無
藤岡薫子	カエデ属 3 種の樹高成長に対する繁殖と光環境の影響	東京大学 修士論文		22pp	2021	千葉
宮本航雅	ニホンジカとイノシシの共存環境における生態系への影響	東京大学 修士論文		42pp	2021	千葉
田中宏明	上木の成長を考慮した人工二段林における下木成長モデルの開発～スギ・スギ・ヒノキ二段林を対象として～	東京大学 修士論文		46pp	2021	千葉
鳥海夏葉	三次元 CT モデルに基づく日本産コウモリの骨盤形態の比較	東京大学 修士論文		36pp	2021	北海道
谷川鴻介	ニホンジカによる森林下層植生の衰退が土壤微生物機能の改変を通じて樹木実生に与える履歴効果	東京大学 修士論文	80pp		2021	秩父
野中 佳祐	ブナの開葉時期の産地間変異がブナカイガラタマバエのゴール形成数に及ぼす影響	東京大学 修士論文		43pp	2021	秩父
原 巳美子	秩父山地亜高山帯林における倒木上イワダレゴケ群落に着生するシアノバクテリアの群集組成及び窒素固定能と環境要因	東京大学 修士論文		97pp	2021	秩父
太田 瞳	日本産ナミダタケモドキの分子系統学的位置と生理学的特徴	東京大学 修士論文		34pp	2021	秩父
竹内虎輔	太平洋側から日本海に沿ったミネカエデ類の遺伝的文化と遺伝構造	東京大学 卒業論文		51pp	2021	秩父
馬夕惟	山地溪流河畔域に生息するオサムシ科昆虫の生活史特性	東京大学 卒業論文		53pp	2021	秩父

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年	演習林
森川 周	人間活動が森林の中型食肉類の日周性と生息地選択に及ぼす影響	東京大学 卒業論文		2021	秩父	
Djotan Akotchiffor Kevin Geoffroy	The arbuscular mycorrhizal fungal communities associated with <i>Cryptomeria japonica</i> and <i>Chamaecyparis obtusa</i>	東京大学 修士論文		62pp	2021	千葉・秩父・田無
石田傑	<sup>13</sup> CO <sub>2</sub> パルスラベリングと同位体分布解析を用いたポプラあて材形成過程の追跡	東京大学 修士論文		60pp	2021	田無
須谷未菜	国産ユーカリの活用に向けた材の物理的特性の評価	東京大学 修士論文		66pp	2021	樹芸
三川裕一郎	内視鏡を用いた樹洞内部の3次元計測手法の開発	東京大学 卒業論文		47pp	2021	富士
村上輝起	昆虫におけるサイトカイニン合成に関する研究	茨城大学 修士論文		44pp	2021	千葉
荒川健太	ゴール形成ハバチにおけるインドール酢酸合成酵素 PonAAS2の活性阻害剤の探索	茨城大学 卒業論文		27pp	2021	千葉
二場一光	北海道山間部の天然針広混交林における蝦夷モモンガの巣箱利用に関する基礎研究	帯広畜産大学 卒業論文		23pp	2021	北海道
小林憲太	トドマツノキクイムシの繁殖様式	東京都立大学 修士論文		27pp	2021	千葉
武井進也	トドマツノキクイムシの穿入孔と母坑の分布様式	東京都立大学 修士論文		38pp	2021	千葉
柿崎健士	植生遷移における若木の分布戦略 - 微地形と若木生育適地の関係	東京都立大学 修士論文		52pp	2021	富士
堀田亘	気候変動と風倒後の管理が北方林の種組成と炭素収支に及ぼす影響—森林景観シミュレーションによる評価—	北海道大学 修士論文		107pp	2021	北海道
須藤蓮	自然林と都市内におけるトチノキの樹幹解析からわかること	名城大学 卒業論文		40pp	2021	生態水文
細井京太郎	森林河川における溶存有機炭素流出負荷量を推定するための蛍光回帰モデルの検討	豊田工業高等専門学校 卒業論文		28pp	2021	生態水文
小川武流	森林流域における水源涵養機能の水貯留機能の定量評価	豊田工業高等専門学校 卒業論文		27pp	2021	生態水文
杉本隆	森林河川における溶存有機物の質的特性の解明	豊田工業高等専門学校 卒業論文		17pp	2021	生態水文
千葉泰成	森林流域における溶存有機炭素の年間変動要因解析	豊田工業高等専門学校 卒業論文		29pp	2021	生態水文

2020 年度 資料

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻-号	頁	年	演習林
米道学・塚越剛史・軽 込勉・久本洋子・大森 良弘・練春蘭・佐藤光 彦・佐々木崇徳・松尾 歩・陶山佳久・後藤晋	クロマツ×アカマツ推定雑種か ら得られた実生苗の耐塩性-海 岸林再生に用いる材料としての 利用可能性-	日本森林学会誌	102 (2)	101- 107	2020	千葉
松村ゆかり・伊神裕 司・児嶋美穂・鴨田重 裕	国産ユーカリの鋸断特性と製材 品品質	木材工業	75(4)	156- 161	2020	樹芸
澤田晴雄・辻良子・渡 邊良広・千井野聡・井 上広喜・辻和明・小林 徹行・鎌田直人	伊豆半島南部暖温带二次林にお けるスダジイのナラ枯れ実態	中部森林研究	68	43-46	2020	樹芸
井上淳・澤田晴雄・佐 藤貴紀・村瀬一隆・鴨 田重裕・松井理生・鎌 田直人	暖温带二次林におけるコナラの ナラ枯れ実態 -愛知県瀬戸市 と静岡県南伊豆町の比較-	中部森林研究	68	47-50	2020	生態水 文・樹芸
尾崎煙雄・村川功雄	東京大学千葉演習林におけるカ エンタケの記録	千葉生物誌	70(1)	10-14	2020	千葉
齊藤明子・村川功雄	東京大学千葉演習林の昆虫相の 追加と訂正その4	房総の昆虫	66	36	2020	千葉
鎌田直人	東京大学北海道演習林の概要と 沿革・現状と課題	北方林業	71(3)	1-6	2020	北海道
広嶋卓也	林分施業法のこれまでとこれか ら	北方林業	71(3)	7-10	2020	北海道
笠原久臣・広嶋卓也・ 岡村行治・犬飼浩・福 士憲司・松井理生	東京大学北海道演習林が生産す る優良丸太の銘木販売	北方林業	71(3)	11-15	2020	北海道
鈴木智之	東京大学北海道演習林の天然林 継続観測の概要	北方林業	71(3)	16-21	2020	北海道
福井大	北海道演習林における長期観測	北方林業	71(3)	22-25	2020	北海道
尾張敏章	林分施業法における航空機Li DARとUAVの利用可能性	北方林業	71(3)	26-29	2020	北海道
後藤晋	北海道演習林の標高別試験地と その利用	北方林業	71(3)	110- 113	2020	北海道
齋藤暖生	生業の場としての富士山	古地図で楽しむ富士 山(大高康正編著: 風媒社)		172- 178	2020	富士
岩切鮎佳・坂上大翼・ 松下範久・福田健二	北海道の針葉樹苗畑における暗 色雪腐病菌 ( <i>Racodium therryanum</i> ) のジェネット分布	樹木医学研究	24(3)	153- 159	2020	北海道
高山範理・藤原章雄・ 横山勝樹・齋藤暖生・ 下田倫子・後藤晋	ダイバーシティを高めた状態で の共同作業がもたらす意識変容 傾向とその過程-山中湖村演習 林を対象とした東京大学と女子 美術大学の合同演習における調 査-	森林総合研究所研究 報告	19(2)	137- 151	2020	富士

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年	演習林
米道学・軽込勉・塚越剛史・久本洋子・楠本大	マツ材線虫病抵抗性アカマツの挿し木床環境が根系に及ぼす影響	日本緑化工学会誌	46(1)	99-102	2020	千葉
岩淵真理	月刊かがくのとも「ヤママユーまゆをつくる むしー」	福音館書店	618	28pp	2020	田無
齋藤暖生	富士山北側の植生環境	BIOCITY	84	28-35	2020	富士
岡本貴久子	第 13 章 東京帝國大學における林学教育の導入とその使命ー本多静六に即してー	「明治」という遺産ー近代日本をめぐる比較文明史ー(瀧井一博編著:ミネルバ書房)		231-250	2020	千葉
蔵治光一郎・鶴見康幸・塚越剛史・阿達康真	房総半島清澄山系の降水特性(Ⅲ)ー清澄観測点における 102 年間の年降水量, 月別・季節別降水量, 大雨, 少雨の長期変化傾向ー	東京大学農学部演習林報告	143	1-9	2020	千葉
斉藤明子・村川功雄	東京大学千葉演習林の昆虫相の追加と訂正その 5	房総の昆虫	67	82-83	2020	千葉
牧野結衣・平尾聡秀・梅木清	奥秩父山地におけるシカ不嗜好性植物 2 種の分布域拡大過程	環境情報科学論文集	34	156-161	2020	秩父
高村直也	375kbps でステレオ音声をリアルタイム・ストリーミング	インターフェース	46(12)	89-96	2020	富士
高木悦郎	樹皮下キクイムシの加害様式ートドマツノキクイムシの話題を中心にー	樹木医学研究	25(1)	22-25	2021	千葉
西川希一・奥山洋一郎・枚田邦宏	全国の大学演習林における「山の神」祭行事の現状	九州森林研究	74	9-12	2021	千葉・秩父・田無
米道学・軽込勉・塚越剛史・久本洋子・楠本大	M スターコンテナを用いたアカマツ緑化苗生産の試み	日本緑化工学会誌	46(3)	334-336	2021	千葉
小峰幸夫・篠崎(矢花)聡子・佐藤嘉則・原田正彦・斉藤明子・木川りか・藤井義久	文化財建造物を加害したシバンムシ科甲虫の DNA バーコーディングに基づく同定法	保存科学	60	19-26	2021	千葉
生方正俊・磯田圭哉・近藤禎二・山田浩雄・大塚次郎・鶴川 信・涌嶋智・坂田勉・渡辺靖崇・兼光修平	コウヨウザンの特性と増殖マニュアル	森林総合研究所林木育種センター第 4 期中長期計画成果 41 (育種・生物機能-6)		53pp	2021	千葉・樹芸
小穴純	漢方薬冬虫夏草の産地偽装を見抜くには? ~系統解析と安定同位体比解析の複合~	慶應義塾大学 経済学部研究プロジェクト最終成果論文		57pp	2021	千葉
多田陽	Mig-seq 解析で探る日本産ツクツクボウシタケの系統地理	慶應義塾大学 経済学部研究プロジェクト最終成果論文		41pp	2021	千葉
山本芳弥	蟬花の高精度産地識別手法の確立ー安定同位体比分析と系統解析の複合ー	慶應義塾大学 経済学部研究プロジェクト最終成果論文		51pp	2021	千葉

## 2020年度 資料

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻-号	頁	年	演習林
笠原悠二	系統解析による漢方薬冬虫夏草の真正性の評価	慶應義塾大学 経済学部研究プロジェクト最終成果論文		53pp	2021	千葉
米道学・軽込勉・塚越剛史・久本洋子・楠本大	オーキシン処理の有無が密閉環境下でのアカマツ挿し木の根とシュートの成長に与える影響	関東森林研究	72(1)	69-72	2021	千葉
才木道雄・鈴木智之	東京大学秩父演習林で発生した森林火災が土壌無脊椎動物に与えた影響	関東森林研究	72(1)	73-76	2021	秩父
後藤晋・犬飼浩・小川瞳・鈴木智之	山火事後二次林におけるウダイカンバの天然更新施業の現状と課題	北海道の林木育種	63(2)	15-19	2021	北海道
長坂有・長坂晶子・岩崎健太	山地溪流における硝酸態窒素流出の林相による違い—トマツ林, カラマツ林, 天然林流域の比較—	北方森林研究	69	21-24	2021	北海道
小川瞳・大川あゆ子・笠原久臣・鈴木智之	36ha 大面積長期生態系プロットにおける北方針広混交林の25年間の動態	北方森林研究	69	31-34	2021	北海道
鶴田燃海・相川美絵子・竹本周平・練春蘭	田無演習林維管束植物目録(2019年度改定版)	演習林(東大)	63	1-22	2021	田無
岸本光樹・澤田晴雄・高德佳絵・井上淳	生態水文学研究所におけるスギ品種別成長資料	演習林(東大)	63	23-43	2021	生態水文
蔵治光一郎・五名美江・加藤純子・黒木里香	生態水文学研究所赤津研究林白坂南北谷小流域日流出量観測報告(I)	演習林(東大)	63	45-57	2021	生態水文
才木道雄・高德佳絵・吉田弓子・千嶋武	秩父山地の標高の異なる5地点における気温観測報告(2003年~2018年)	演習林(東大)	63	59-67	2021	秩父
辻和明・西山教雄	富士癒しの森研究所の苗畑の資料	演習林(東大)	63	69-92	2021	富士
高德佳絵・吉田弓子・才木道雄・原口竜成	秩父演習林イヌブナ天然林におけるリターフォールデータ(2007年4月~2016年12月)	演習林(東大)	63	93-97	2021	秩父
吉田弓子・高德佳絵・才木道雄	秩父演習林シオジ天然林におけるリターフォールデータ(2013年4月~2018年12月)	演習林(東大)	63	99-104	2021	秩父
小川瞳・芝野伸策・岡村行治・高橋康夫・大川あゆ子・笠原久臣・梶幹男・山本博一・鈴木智之	北海道演習林における前山大面積長期生態系プロットの林分成長資料(1992-2018)	演習林(東大)	63	113-123	2021	北海道
福井大・小川瞳	北海道演習林山部地区における気象観測地点, 名称, 観測項目の変遷および新露場の設置について	演習林(東大)	63	125-134	2021	北海道

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年	演習林
東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林基盤データ整備委員会水文水質部門	東京大学演習林水文観測・水質分析報告(自 2018 年 1 月至 2018 年 12 月)	演習林 (東大)	63	135-164	2021	千葉・北海道・秩父・生態水文・樹芸
東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林基盤データ整備委員会気象部門	東京大学演習林気象報告 (自 2018 年 1 月至 2018 年 12 月)	演習林 (東大)	63	165-188	2021	千葉・北海道・秩父・田無・生態水文・樹芸
杉本隆・佐藤貴紀・松本嘉孝・井上隆信・江端一徳	森林流域における出水時の溶存有機物の質的特性を解明する	2020 年度先端的技術シンポジウム			2020	生態水文
佐竹祐紀・石井裕之	自ら形状を作りつつ伸展するソフトインフレーターロボットの開発 — ヨー軸回り屈曲による旋回動作とピッチ軸回り屈曲による壁登り動作について	ロボティクス・メカトロニクス講演会 2020 in Kanazawa 講演論文集			2020	田無
岩切鮎佳・松下範久・福田健二	<i>Herpotrichia</i> 属菌が引き起こすエゾマツの雪腐病	日本菌学会第 64 会大会			2020	北海道
米道学・軽込勉・塚越剛史・久本洋子・楠本大	マツ材線虫病抵抗性アカマツの挿し木床環境が根系に及ぼす影響	第 51 回日本緑化工学会大会			2020	千葉
米道学・軽込勉・塚越剛史・久本洋子・楠本大	オーキシン処理の有無が密閉環境下でのアカマツ挿し木の根とシュートの成長に与える影響	第 10 回関東森林学会大会講演要旨集		25	2020	千葉
才木道雄・鈴木智之	東京大学秩父演習林で発生した森林火災が土壌無脊椎動物に与えた影響	第 10 回 関東森林学会大会 講演要旨集		25	2020	秩父
藤森悠菜・内山憲太郎・三須直也・後藤晋・高橋誠・鳥丸猛・戸丸信弘	産地試験林を用いたブナのゲノムワイド関連解析	森林遺伝育種学会第 9 回大会講演要旨集		10	2020	北海道
藤岡慧明・仁賀佳史・福井大・依田憲・飛龍志津子	コウモリの音響 GPS バイオリギング	第 16 回日本バイオリギング研究会シンポジウム			2020	北海道
楠本大・久本洋子・村川功雄	ナラ枯れによるマテバシイの枯死の特徴	樹木医学会第 25 回大会			2020	千葉
岩切鮎佳・松下範久・福田健二	暗色雪腐病菌 <i>Racodium therryanum</i> と <i>Herpotrichia juniperi</i> の系統関係	樹木医学会第 25 回大会			2020	北海道
坂上大翼・楠本 大	暗色雪腐病菌 <i>Racodium therryanum</i> を接種したエゾマツ・スギ稚苗の解剖観察 (予報)	樹木医学会第 25 回大会			2020	北海道
江口由典・中川雄治・福士憲司・平間睦樹・井口和信・松井理生・丹羽悠二	ミズナラが優占する山火再生林における葉節の発生状況	令和 2 年度技術職員等試験研究・研修会議報告		1-6	2020	北海道

## 2020年度 資料

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻-号	頁	年	演習林
吉田弓子・原口竜成	リター・シードトラップ調査における健全種子の選別手法の検討	令和2年度技術職員等試験研究・研修会議報告		7-11	2020	秩父
里見重成	70年生キヨスミミツバツツジのさし木-迷走の日々と辿りついた先-	令和2年度技術職員等試験研究・研修会議報告		13-17	2020	千葉
相川美絵子・栗田直明	田無演習林の枝葉、木の実類の活用	令和2年度技術職員等試験研究・研修会議報告		19-22	2020	田無
渡邊良広・千井野聡・辻 和明・村瀬一隆	樹芸研究所におけるアブラギリの歴史と現状	令和2年度技術職員等試験研究・研修会議報告		23-26	2020	樹芸
軽込 勉・塚越剛史・村川功雄・鈴木祐紀・阿達康真・米道 学	UAVによる森林モニタリングの試み-初期におけるナラ枯れ被害の事例-	令和2年度技術職員等試験研究・研修会議報告		27-29	2020	千葉
辻良子・西山教雄	Collectorを使った危険木情報の管理システムづくり奮闘記	令和2年度技術職員等試験研究・研修会議報告		31-35	2020	富士
澤田晴雄・井上淳・岸本光樹・梁瀬桐子	2019年度に実施した森林現況調査から調査結果の集計まで	令和2年度技術職員等試験研究・研修会議報告		37-41	2020	生態水文
澤田晴雄・井上淳・岸本光樹・梁瀬桐子	東京大学生態水文学研究所の天然林における約20年間の変化	第10回中部森林学会大会プログラム・講演要旨集		16	2020	生態水文
Ang J, Suzuki M, Mitsugi M, Tsukamoto T, Murakawa I	Soil macroinvertebrate: A 14 year study of the effects from deer exclosure and canopy gap treatments.	日本生態学会第68回全国大会			2021	千葉
Li J, Morimoto J, Suzuki S, Owari T, Nakane T	Combined impacts of windthrow and subsequent management on ecological resilience in cool temperate forests in Japan.	日本生態学会第68回全国大会			2021	北海道
牧貴大・三宮望・平尾聡秀・福井大	日本列島における島間でのコウモリ群集構造の比較	日本生態学会第68回全国大会			2021	北海道
堀田亘・芳賀智宏・森本淳子・井上貴央・鈴木智之・松井孝典・尾張敏章・柴田英昭・中村太士	気候変動下で風倒後の管理が北方林の炭素収支に及ぼす長期的影響	日本生態学会第68回全国大会			2021	北海道
梅木清・一釣直也・平尾聡秀	奥秩父山地の飛翔性昆虫の多様性と種組成のパターン	日本生態学会第68回全国大会			2021	秩父
Sakio H, Nirei T	Is the <i>Fraxinus platypoda</i> androdioecy ?	日本生態学会第68回全国大会			2021	秩父
三次充和・村川功雄・吉田明子・藤平晃司	千葉演習林における新型コロナウイルス禍状況下での教育研究利用案件への対応体制	農学生命科学研究科技術職員研修会報告集 2020年度		20-21	2021	千葉

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年	演習林
松井理	北海道演習林における新型コロナ対応とスマート化への取り組み	農学生命科学研究科技術職員研修会報告集 2020年度		22-23	2021	北海道
大村和也	コロナ禍の下での秩父演習林技術職員の業務-2020年度の事例報告-	農学生命科学研究科技術職員研修会報告集 2020年度		24-25	2021	秩父
相川美絵子・栗田直明	オンラインによるリース作り体験会	農学生命科学研究科技術職員研修会報告集 2020年度		26-27	2021	田無
澤田晴雄・井上淳・丹羽悠二・岸本光樹・梁瀬桐子	宿泊を伴って行われた「全学的技術職員研修」における感染防止対策	農学生命科学研究科技術職員研修会報告集 2020年度		28	2021	生態水文
西山教雄・辻良子	富士癒しの森研究所での新型コロナウイルス感染症予防の取り組み	農学生命科学研究科技術職員研修会報告集 2020年度		29-30	2021	富士
辻 和明・渡邊良広・千井野聡・村瀬一隆	演習林樹芸研究所における新型コロナウイルス感染症対策と業務のスマート化	農学生命科学研究科技術職員研修会報告集 2020年度		31	2021	樹芸
高橋尚也・高野 赳・根津郁実・石栗 太・横田信三・山田利博	サワラ腐朽材の抽出成分の分析	第 71 回日本木材学会大会			2021	秩父
渡部剣太・安部久・久保島吉貴・鴨田重裕・須谷未菜・中井毅尚	国産早生樹 4 種の物理特性に関する研究	第 71 回日本木材学会大会			2021	樹芸
後藤晋	気候変動の時代における林木育種：今だからやれること、やるべきこと	第 132 回日本森林学会大会学術講演集		80	2021	千葉・北海道・秩父
竹内啓恵・藤原章雄・林潔・長井聡里・川畑真理子・上原巖	地域住民を対象に大学演習林で行った森林散策カウンセリングの 2 事例	第 132 回日本森林学会大会学術講演集		87	2021	富士
藤原章雄・齋藤暖生・高山範理・森田えみ・竹内啓恵	森林空間を活用した音楽会の試みと自由記述アンケートから得られたこと	第 132 回日本森林学会大会学術講演集		88	2021	富士
Ang J, Hisamoto Y, Kusumoto D, Mitsugi M, Karukome T, Fujihira K, Suzuki M	Effects of 14-year deer exclusion and gap creation on the recruitment process of lateseral species	第 132 回日本森林学会大会学術講演集		111	2021	千葉
澤田晴雄・佐藤貴紀・岸本光樹	モニ 1000 愛知赤津サイトにおけるヒノキ球果の落下特性	第 132 回日本森林学会大会学術講演集		120	2021	生態水文
堀田亘・芳賀智宏・森本淳子・井上貴央・鈴木智之・松井孝典・尾張敏章・柴田英昭・中村太士	気候変動下で風倒後の管理が北方林の種組成に及ぼす長期的影響	第 132 回日本森林学会大会学術講演集		121	2021	北海道

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻-号	頁	年	演習林
鈴木智之	冷温帯における 3 年間の倒木材密度減少の樹種間比較	第 132 回日本森林学会大会学術講演集		122	2021	秩父
小南裕志・深澤 遊・平田晶子・高木正博・鈴木智之・小林 真・田中延亮・竹本周平・衣浦晴生・上村真由子・門脇浩明・山下聡・潮 雅之	Yasso モデルを用いたナラ枯れ枯死木の分解 CO <sub>2</sub> 放出量の広域環境応答推定	第 132 回日本森林学会大会学術講演集		122	2021	秩父
浅野友子・内田太郎・友村光秀	大起伏山地の流域における斜面と河道のピーク伝播速度	第 132 回日本森林学会大会学術講演集		126	2021	秩父
Pei H, Owari T, Tsuyuki S	Forest type classification based on deep learning technique with archival aerial photography	第 132 回日本森林学会大会学術講演集		147	2021	千葉
石橋整司・藤原章雄・齋藤暖生・西山教雄・辻良子	東京大学富士癒しの森研究所カラマツ系統別試験地の成長過程	第 132 回日本森林学会大会学術講演集		148	2021	富士
尾張敏章・大石諭・軽込勉・鈴木祐紀・鶴見康幸・米道学・塚越剛史・阿達康真・村川功雄・藤平晃司・三次充和・楠本大・久本洋子・當山啓介	東京大学千葉演習林における天然林資源の現状	第 132 回日本森林学会大会学術講演集		149	2021	千葉
Paing AMM, Chen S, Yoshida T, Tsumura Y, Kobayashi H, Iio A, Tomaru N, Hisamoto Y, Honma K, Nagamatsu D, Takagi M, Taneda H, Hirota M, Goto S	Effects of warming on survival and growth of <i>Betula ermanii</i> revealed by range-wide transplant experiments	第 132 回日本森林学会大会学術講演集		169	2021	千葉
塚本宝・平尾聡秀	ライム病の原因菌と媒介者であるシュルツェマダニの遺伝的分化の解明	第 132 回日本森林学会大会学術講演集		169	2021	秩父
竹内虎輔・齊藤陽子・平尾聡秀	分布境界におけるミネカエデ類の遺伝構造	第 132 回日本森林学会大会学術講演集		170	2021	秩父
Chen S, Ishizuka W, Kusunoki K, Unno Y, Uchiyama K, Goto S	Genetic dissection of wood properties in hybrid larch using SNP data.	第 132 回日本森林学会大会学術講演集		171	2021	北海道
吉田拓矢・平尾聡秀	花粉 DNA メタバーコーディングによるシカ食害下の送粉ネットワークの解明	第 132 回日本森林学会大会学術講演集		188	2021	秩父
森川周・谷川鴻介・平尾聡秀	森林において同所的に生息する中型食肉類の日周性と生息地選択の解明	第 132 回日本森林学会大会学術講演集		220	2021	秩父
三宮望・三浦直子・小池伸介・福井大	Lidar を用いて定量化した森林垂直構造とコウモリ類各種の活動量の関係	第 132 回日本森林学会大会学術講演集		221	2021	北海道

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年	演習林
谷川鴻介・平尾聡秀	植生衰退が土壤微生物機能の攪乱を介して実生更新に及ぼす履歴効果の解明	第 132 回日本森林学会大会学術講演集		228	2021	秩父
平尾聡秀・原口竜成・山田利博	サワラ人工林における腐朽病害木と健全木の環境マイクロバイオームの違い	第 132 回日本森林学会大会学術講演集		229	2021	秩父
岩切鮎佳・松下範久・福田健二	天然林における暗色雪腐病菌の集団構造	第 132 回日本森林学会大会学術講演集		230	2021	北海道
原口竜成・平尾聡秀・山田利博	サワラ高齢級林分における溝腐の発生状況と患部の菌類相の解析	第 132 回日本森林学会大会学術講演集		232	2021	秩父

### 2020 年度より前に発表し、これまでの年報に未掲載の論文

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一 号	頁	年	演習林
Nosho K, Yasuhara K, Ikehata Y, Mii T, Ishige T, Yajima S, Hidaka M, Ogawa T, Masaki H	Isolation of colonization-defective <i>Escherichia coli</i> mutants reveals critical requirement for fatty acids in bacterial colony formation.	Microbiology	164(9)	1122-1132	2018	田無
Levia DF, Nanko K, Amasaki H, Giambelluca TW, Hotta N, Iida S, Mudd RG, Nullet MA, Sakai N, Shinohara Y, Sun X, Suzuki M, Tanaka N, Tantasirin C, Yamada K	Throughfall partitioning by trees	Hydrological Processes	33	1698-1708	2019	田無
Zhang S, Vaario L-M, Xia Y, Matsushita N, Geng Q, Tsuruta M, Kurokuchi H, Lian C	The effects of co-colonising ectomycorrhizal fungi on mycorrhizal colonisation and sporocarp formation in <i>Laccaria japonica</i> colonising seedlings of <i>Pinus densiflora</i>	Mycorrhiza	29(3)	207-218	2019	田無
Nakaji T, Oguma H, Nakamura M, Kachina P, Asanok L, Marod D, Aiba M, Kurokawa H, Kosugi Y, Kassim AR, Hiura T	Estimation of six leaf traits of East Asian forest tree species by leaf spectroscopy and partial least square regression	Remote Sensing of Environment	233	111381	2019	田無
三好伊織	広葉樹の樹液を巡る昆虫の干渉行動	東京大学 卒業論文		19pp	2020	田無
蓑島綾華	日本産植物寄生性ディアボルテ目菌類の病原性と分類	法政大学 博士論文		288pp	2020	田無
水上久雄	埼玉県初確認の蛾 23 種の記録	寄せ蛾記 (埼玉昆虫談話会誌)	173	50-52	2019	秩父
水上久雄	東京大学秩父演習林等にて 2016、2017 年に採集した蛾	寄せ蛾記 (埼玉昆虫談話会誌)	173	53-63	2019	秩父
丹下健	スギコンテナ苗の植栽後の葉量増加	森林立地	61(1)	39-41	2019	田無

## 2020年度 資料

発表者全氏名	題 目	誌 名	巻一号	頁	年	演習林
丹下健	樹木の生育状態と蒸散作用	日本ヒートアイランド学会誌	14	8-11	2019	田無
近藤禎二・山田浩雄・大塚次郎・磯田圭哉・山口秀太郎・生方正俊	わが国におけるコウヨウザンの成長	森林遺伝育種	9	1-11	2020	樹芸
野中佳祐・鎌田直人	産地試験を用いたブナとブナカイガラタマバエとのフェノロジカルカスケード	第131回日本森林学会大会学術講演集		188	2020	北海道
深沢遊・松倉君子・小林真・鈴木智之・小南裕志・高木正博・田中延亮・竹本周平・衣浦晴生・岡野邦宏・上村真由子・門脇浩明・山下聡・潮雅之	コナラ枯死木の分解初期に関わる菌類群衆の地理分布	第131回日本森林学会大会学術講演集		246	2020	生態水文
龍原哲・田中宏明	不成績造林地に侵入した広葉樹の成長予測	第131回日本森林学会大会学術講演集		248	2020	秩父
鶴田燃海・向井諒・練春蘭	RNA-seqを用いたサクラ属の生育不全実生で特異的に発現する遺伝子の探索	第131回日本森林学会大会学術講演集		270	2020	田無

項目「演習林」は利用した地方演習林を示す。

(千葉：千葉演習林，北海道：北海道演習林，秩父：秩父演習林，田無：田無演習林，生態水文：生態水文学研究所，富士：富士癒しの森研究所，樹芸：樹芸研究所)

## 5) 受賞・特許等

## 2020 年度第 34 回林業科学技術振興賞（研究支援功労賞）

受賞者氏名	受賞理由
大村和也	東京大学秩父演習林における天然林大面積長期生態系プロットでの研究支援

## 全国大学演習林協議会第 22 回森林管理技術賞

受賞者氏名	受賞理由
<b>特別功労賞</b>	
村川功雄	森林生物（昆虫）に関わるインベントリー調査と教育研究への貢献
<b>技術貢献賞</b>	
高德佳絵	ツリークライミングを活かした教育研究および社会活動への技術的な貢献
<b>学術貢献賞</b>	
木村徳志	フェノロジー調査および植物インベントリー調査による学術的貢献

## 2020 年度日本甲殻類学会賞

受賞者氏名	題目
Mitsukazu Mitsugi, Yoko Hisamoto, Hiroshi Suzuki	An invasive freshwater shrimp of the genus <i>Neocaridina</i> Kubo, 1938 (Decapoda: Caridea: Atyidae) collected from Boso Peninsula, Tateyama City, Chiba Prefecture, eastern Japan. (2017. Crustacean Research, 46; 83-94.)

## 水文・水資源学会論文賞

受賞者氏名	受賞理由
浅野友子、内田太郎、勝山正則、五味高志、平岡真合乃、水垣滋、横尾善之	水文・水資源学会誌に掲載された「山地流域の水・土砂流出における空間スケールの影響(1)～(3)」の論文 3 編の執筆

## 6) 外部資金によって行われた研究

## 科学研究費補助金

氏名	研究種目	研究課題	研究代表者	代表者所属
鎌田直人・楠本大・竹本周平	基盤研究 (A) (海外)	養菌性キクイムシが媒介する樹木萎凋病の発生リスクに影響する環境要因と系統的制約性	鎌田直人	東京大学
尾張敏章・鈴木智之	基盤研究 (A)	北方林における気候変動への適応：生態系レジリエンスの保全をめざした生態系管理	森本淳子	北海道大学
広嶋卓也	基盤研究 (A)	分布型水土流出モデルの長期解析に基づく流木被害軽減のための森林管理手法の検討	堀田紀文	東京大学
鎌田直人	基盤研究 (B)	環境 DNA を用いた森林葉食性昆虫の天敵微生物のモニタリング技術の開発	鎌田直人	東京大学
鎌田直人・後藤晋・藤原章雄・鈴木智之	基盤研究 (B)	次世代の自然風景地の保護と利用	齋藤馨	東京大学
山田利博・平尾聡秀	基盤研究 (B)	微生物群集機能に基づく樹木の材腐朽進展プロセスの解明	山田利博	東京大学
後藤 晋・久本洋子	基盤研究 (B)	長距離ゾーンフローが卓越する針葉樹でなぜ高標高エコタイプが存在しうるのか？	後藤 晋	東京大学
齋藤暖生	基盤研究 (B)	自然アクセス制度の国際比較－コモンズ論の新展開にむけて	三俣 学	同志社大学
齋藤暖生	基盤研究 (B)	里山における自然資本の意識化とネットワークのための地域参加型研究	深町加津枝	京都大学
浅野友子	基盤研究 (B)	気候変動により増大する災害リスク定量化のための洪水・土砂流出量予測手法の提案	内田太郎	筑波大学
鈴木智之・田中延亮・竹本周平	基盤研究 (B)	病虫害による大量枯死が森林生態系のCO <sub>2</sub> 放出におよぼす影響の解明	深澤 遊	東北大学
福井 大	基盤研究 (B)	インドシナ半島周縁海域に存在する小島嶼は"哺乳類固有種"の創出機関であるのか？	押田龍夫	帯広畜産大学
當山啓介	基盤研究 (B)	広葉樹林化のための人工林撤退戦略を経済性から考える	中島徹	東京大学
三浦直子	基盤研究 (B)	粗放管理時代における河川堤防の合理的な植生管理・生態緑化手法の開発	山田 晋	東京農業大学
藤原章雄・齋藤暖生	基盤研究 (B) 特設分野研究	地域の健康を支える資源としての森林資源のポテンシャルと住民のニーズの把握	藤原章雄	東京大学
尾張敏章・石橋整司・広嶋卓也・當山啓介	基盤研究 (C)	森林経営史料と旧空中写真を用いたスギ高齢人工林の長期成長過程の定量的復元	尾張敏章	東京大学

氏名	研究種目	研究課題	研究代表者	代表者所属
平尾聡秀	基盤研究 (C)	森林攪乱に伴う土壌の機能的コア微生物叢の改変が生態系修復に及ぼす影響の解明	平尾聡秀	東京大学
平尾聡秀	基盤研究 (C)	森林の急激な環境変化が野生植物の生態的・進化的変化に与える影響	森長真一	日本大学
広嶋卓也	基盤研究 (C)	天然林における樹齢構造と生存時間解析に基づく伐採木の選定	広嶋卓也	東京大学
齋藤暖生	基盤研究 (C)	Revitalising/Re-imagining the Commons in an era of social and environmental change: A Next step in Commons Research	Delaney Alyne	東北大学
浅野友子	基盤研究 (C)	豪雨時の山地河川における洪水の実態把握と予測精度向上	浅野友子	東京大学
久本洋子	基盤研究 (C)	長期の無性繁殖を行うタケ類における有性繁殖の適応的意義の解明	久本洋子	東京大学
久本洋子	基盤研究 (C)	日本におけるタケ類の開花現象の実態とその生態系影響	小林 剛	香川大学
鈴木 智之	基盤研究 (C)	景観スケールにおける亜高山帯針葉樹林の更新に及ぼす風倒攪乱と獣害の相互作用的影響	西村 尚之	東京大学
梅林利弘・山田利博	基盤研究 (C)	樹木における心材形成様式の種特性の解明と心材腐朽菌類の感染経路の特定	梅林利弘	東京大学
水内佑輔	若手研究	国立公園のアイデンティティの獲得に向けた昭和初期における国立公園成立史の拡充	水内佑輔	東京大学
山田利博・平尾聡秀	挑戦的研究 (萌芽)	マイクロバイオームに基づく森林環境の評価手法の開発	山田利博	東京大学
福井 大	国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 (B))	頭蓋骨解剖学体系の枠組みから外れた未知の新奇形質「耳舌骨」の多角的解明	小藪大輔	東京医科歯科大学
福井 大	新学術領域研究 (研究領域提案型)	コウモリのアクティブセンシングによるナビゲーション行動の包括的理解	飛龍志津子	同志社大学
米道 学	奨励研究	接ぎ木技術を活用した耐塩性を持つマツ材線虫病抵抗性アカマツの創出	米道 学	東京大学
原口竜成	奨励研究	ナミダタケモドキによるサワラ高齢級林分の根株心腐被害と立地・土壌条件との関係解明	原口竜成	東京大学

### その他補助金

氏名	研究課題	研究代表者	代表者所属
鎌田直人	研究拠点形成事業 (B アジアアフリ カ学術基盤形成 型) 環境変動と生態系応答の長期森林観測フ ィールド研究拠点：データ・知・人材の 協創	鎌田直人	東京大学

### 奨学寄付金

氏名	寄付目的	寄付者
鎌田直人	天然林におけるミズナラ優良木の単木管理及び 樽材適性評価法の開発	サントリースピリッツ株式 会社
山田利博	学術研究の経費	サントリーホールディング ス株式会社
山田利博	森林動態にかかる学術研究の経費	一般財団法人自然環境研究 センター
安村直樹	炭素循環動態にかかる学術研究の経費	一般財団法人自然環境研究 センター
安村直樹	森林動態にかかる学術研究の経費	一般財団法人自然環境研究 センター
尾張敏章	松くい虫防除に関する研究	(公社) ゴルフ緑化促進会

### 受託研究

氏名	研究課題名	委託機関
蔵治光一郎・田中 延亮・佐藤貴紀・ 安村直樹	水源かん養機能モニタリング研究委託	豊田市
蔵治光一郎	タイ国における統合的な気候変動適応戦略の共創推進 に関する研究	JST
鴨田重裕	国産早生樹種の用材利用に向けた材質・加工特性の解 明	森林研究・整備機構 森林総 合研究所
當山啓介	山地災害リスクを低減する技術の開発	農林水産省

### 共同研究

氏名	研究課題名	共同研究機関
鎌田直人	環境変動下における森林生態系攪乱に対する北海道演習林の 順応的管理に関する研究	王子木材緑化(株)北海道支店
後藤 晋	クリーンラーチ若齢木を用いた初期成長性の系統評価に関す る研究	住友林業株式会社
久本洋子	造園植栽地を用いた植物の域外保全に関する研究	箱根植木株式会社
三浦直子	樹木のハイスルーブットフェノタイピングにおける包括的課 題抽出	住友林業株式会社

## 3. 社会連携

## 1) 学外各種委員会等委員

氏名	委員会等名称	委員会等所属機関
尾張 敏章	千葉県森林審議会委員	千葉県
尾張 敏章	千葉県土石採取対策審議会委員	千葉県
尾張 敏章	鴨川市文化財保護審議会委員	鴨川市
尾張 敏章	鴨川市環境審議会委員	鴨川市
尾張 敏章	Journal of Forest Research 臨時編集委員	一般社団法人日本森林学会
尾張 敏章	理事	森林利用学会
尾張 敏章	Research Group 1.05.00: Uneven-aged silviculture, Deputy Coordinator	International Union of Forest Research Organizations (IUFRO)
尾張 敏章	Working Party 1.01.09: Ecology and silviculture of fir, Deputy Coordinator	International Union of Forest Research Organizations (IUFRO)
楠本 大	理事	樹木医学会
當山啓介	主事（林業遺産選定）	一般社団法人 日本森林学会
當山啓介	『森林科学』編集委員	一般社団法人 日本森林学会
當山啓介	企画運営委員会委員	森林計画学会
當山啓介	広報委員会委員	森林計画学会
當山啓介	幹事（事務局）	木材利用システム研究会
久本洋子	千葉県ヒメコマツ協議会委員	千葉県
久本洋子	理事（技術）	樹木医学会
久本洋子	日本樹木医会技術部会員	一般社団法人 日本樹木医会
久本洋子	運営委員	竹林景観ネットワーク
久本洋子	編集委員会	森林遺伝育種学会
鎌田直人	富良野市防災会議委員	富良野市
鎌田直人	富良野市総合戦略有識者会議委員	富良野市
鎌田直人	富良野市環境審議会委員	富良野市
鎌田直人	地域管理経営計画等に関する懇談会委員	北海道森林管理局
鎌田直人	日本昆虫学会英文誌編集部編集諮問委員	日本昆虫学会
鎌田直人	兼六園マツ等保全対策指導者	石川県
鎌田直人	北海道林木育種協会顧問	北海道林木育種協会
鎌田直人	北方森林学会評議会	北方森林学会
鎌田直人	事務局代表補佐	森林野生動物研究会
鎌田直人	代議員	日本森林学会
鎌田直人	2020 年度 静止工学衛星検討委員会委員	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構
広嶋卓也	カーボン・オフセット認証運営委員会委員	カーボンオフセット協会
広嶋卓也	広報担当理事	森林計画学会
広嶋卓也	プログラム編成委員会委員（経営部門）	日本森林学会

氏 名	委 員 会 等 名 称	委 員 会 等 所 属 機 関
福井 大	日本生態学会 Ecological Research 編集委員	一般社団法人 日本生態学会
福井 大	生物音響学会理事	一般社団法人 生物音響学会
福井 大	和歌山市専門技術委員	和歌山市
福井 大	日本哺乳類学会代議員	一般社団法人 日本哺乳類学会
福井 大	日本哺乳類学会保護管理専門委員	一般社団法人 日本哺乳類学会
福井 大	日本哺乳類学会保護管理専門委員会レッドデータ作業部会員	一般社団法人 日本哺乳類学会
福井 大	日本哺乳類学会分類群名・標本検討委員	一般社団法人 日本哺乳類学会
福井 大	日本哺乳類学会大会企画・将来構想委員長	一般社団法人 日本哺乳類学会
福井 大	日本哺乳類学会奨励賞選考委員	一般社団法人 日本哺乳類学会
福井 大	日本哺乳類学会国際交流委員	一般社団法人 日本哺乳類学会
福井 大	日本哺乳類学会英文誌編集委員	一般社団法人 日本哺乳類学会
福井 大	日本哺乳類学会常任理事（大会企画・将来構想委員会担当）	一般社団法人 日本哺乳類学会
福井 大	Member of the IUCN SSC Bat Specialist Group	IUCN
福井 大	道道きたひろしま総合運動公園線の整備における環境保全を考える協議会構成員	北海道空知総合振興局
鈴木智之	日本生態学会キャリア支援専門委員会	一般社団法人 日本生態学会
鈴木智之	北海道林木育種協会編集委員	北海道林木育種協会
鈴木智之	北海道林木育種協会評議員	北海道林木育種協会
鈴木智之	北海道林木育種協会地方連絡員	北海道林木育種協会
鈴木智之	日本森林学会ダイバーシティ推進委員	一般社団法人日本森林学会
山田利博	樹木医学会理事会／評議員会／表彰委員会／編集委員会（委員長）	樹木医学会
山田利博	埼玉県特定鳥獣保護管理検討委員会	埼玉県
山田利博	甲武信ユネスコエコパーク保全活用委員会	山梨県
山田利博	国指定名勝「おくのほそ道の風景地 草加松原」保存活用委員会	草加市
山田利博	（関東山地）特別天然記念物カモシカ保護対策事業通常調査指導委員会	埼玉県
山田利博	モニタリングサイト 1000（森林・草原調査）コアサイト・準コアサイト検討会	環境省／自然環境研究センター
山田利博	善養寺影向のマツ再生事業委員会	江戸川区／善養寺
山田利博	秩父地域森林林業活性化協議会	秩父市
山田利博	秩父地域鳥獣被害対策協議会	埼玉県
山田利博	美森の大ヤマツツジ樹勢回復検討委員会	山梨県
山田利博	善福寺のイチョウ再生事業検討委員会	港区／善福寺
山田利博	茨城県文化財保護審議会	茨城県
山田利博	森林総合研究所研究報告編集委員会	森林総合研究所
山田利博	東京都街路樹診断マニュアル改定検討委員会	東京都
浅野友子	東京都森林審議会委員	東京都
浅野友子	Hydrological Research Letter 編集委員	水文・水資源学会

氏名	委員会等名称	委員会等所属機関
浅野友子	Journal of Hydrology Guest Editor	Journal of Hydrology, Elsevier
平尾聡秀	JaLTER 代表者委員会	JaLTER
平尾聡秀	JaLTER 運営委員会	JaLTER
平尾聡秀	秩父地域森林林業活性化協議会幹事	秩父市
平尾聡秀	埼玉県環境科学国際センター客員研究員	埼玉県
坂上大翼	樹木医学会理事（編集）／編集委員会幹事	樹木医学会
大村和也	秩父地域鳥獣被害対策協議会幹事会	埼玉県
大村和也	秩父地域森林林業活性化協議会分科会	秩父市
石橋整司	愛知県犬山市環境審議会委員	愛知県犬山市
石橋整司	文部科学省教科書作成協力者	文部科学省
石橋整司	埼玉県河川整備計画策定専門会議委員	埼玉県
竹本周平	理事	樹木医学会
竹本周平	市民スタッフ	我孫子市鳥の博物館（教育委員会委嘱）
竹本周平	和文誌編集委員 ※2020年1月から	日本土壤微生物学会
竹本周平	和文誌編集委員	日本森林学会
相川美絵子	技術部会	一般社団法人 日本樹木医会
相川美絵子	広報委員	NPO 法人 樹の生命を守る会
安村直樹	愛知県瀬戸市環境審議会委員	愛知県瀬戸市
安村直樹	せと環境塾運営協議会員	愛知県瀬戸市
安村直樹	猿投の森づくりの会・理事	日本山岳会東海支部
安村直樹	全国林業グループコンクール審査委員長	一般社団法人全国林業改良普及協会
安村直樹	企画委員	一般財団法人林業経済研究所
水内佑輔	編集委員会	公益社団法人 日本造園学会
水内佑輔	論文集委員会 幹事	公益社団法人 日本造園学会
水内佑輔	学会賞等選考委員会 幹事	公益社団法人 日本造園学会
水内佑輔	関東支部運営委員会	公益社団法人 日本造園学会
水内佑輔	中部支部常任運営委員	公益社団法人 日本造園学会
水内佑輔	高等学校職業教育教科書「造園計画」審査協力委員	文部科学省
水内佑輔	林業遺産選定委員会 主事	一般社団法人森林学会
齋藤暖生	公募助成事業選考委員会	公益財団法人 粟井英朗環境財団
齋藤暖生	顧問	やまなし木質バイオマス協議会
嶋田重裕	南伊豆町再生可能エネルギー農山村活性化協議会委員	南伊豆町
嶋田重裕	理事	中部森林学会
嶋田重裕	南伊豆町総合計画等審議会アドバイザー	南伊豆町
蔵治光一郎	委員・地下水分科会長	水循環基本法フォローアップ委員会
蔵治光一郎	参与	水制度改革議員連盟
蔵治光一郎	矢作川流域圏懇談会副座長・山部会部会長	国土交通省中部地方整備局豊橋河川事務所

2020年度 資料

氏名	委員会等名称	委員会等所属機関
蔵治光一郎	大阪府森林環境整備事業評価審議会委員	大阪府
蔵治光一郎	長良川河口堰最適運用検討委員会委員	愛知県
蔵治光一郎	とよた森づくり委員会 委員	豊田市
蔵治光一郎	とよた森林学校 校長	豊田市
蔵治光一郎	水循環推進協議会 委員	岡崎市
蔵治光一郎	岡崎市森づくり協議会 副会長	岡崎市
蔵治光一郎	国際委員会 委員	水文・水資源学会
蔵治光一郎	理事・編集委員会 委員	不知火海・球磨川流域圏学会
蔵治光一郎	顧問	猿投の森づくりの会
蔵治光一郎	共同代表	矢作川森の研究者グループ
蔵治光一郎	理事	NPO 法人 才の木
蔵治光一郎	理事	公益財団法人 ニッセイ緑の財団
後藤 晋	交付金プロジェクト「スギの基盤遺伝情報の高精度化と有用遺伝子の機能解明」評価委員	国立研究開発法人 森林総合研究所
後藤 晋	農林総合研究センター研究等評価委員	埼玉県
前原 忠	日本土壌動物学会評議員会評議員	日本土壌動物学会

## 2) 小中高等学校への対応

教職員名	講演名	主催	開催場所	日程
梁瀬桐子 澤田晴雄	探鳥会	犬山市立今井小学校	犬山市	6/16
福井 大 及川 希	1年道内研修 (獣医・理数コース)	とわの森三愛高等学校	北海道演習林	10/8
石橋整司 竹本周平 相川美絵子 栗田直明	校外学習	西東京市立住吉小学校	田無演習林	10/9
栗田直明 相川美絵子	校外学習	自由学園初等部	田無演習林	10/22
田中延亮	水源かん養機能モニタリング現地案内	豊田市立小原中学校	豊田市大洞市有林	11/6
田中延亮 佐藤貴紀	水源かん養機能モニタリング現地案内	豊田市立旭中学校	豊田市大洞市有林	11/6
大石 諭 三次充和	君津市立坂畑小学校スクールミュージアム「演習林見学会」	君津市	千葉演習林	11/26
石橋整司 竹本周平 相川美絵子 栗田直明	校外学習	西東京市立田無小学校	田無演習林	11/26
梁瀬桐子 澤田晴雄	探鳥会	犬山市立今井小学校	犬山市	11/26
松井理生	冬の野鳥観察指導	富良野市立布部小学校	鳥沼公園	12/16
梁瀬桐子 澤田晴雄	探鳥会	犬山市立今井小学校	犬山市	1/27
石橋整司 竹本周平 相川美絵子 栗田直明	校外学習	西東京市立田無第二中学校	田無演習林	3/3

## 3) 公開講座・セミナー等

講座名	主催	開催場所	日程
ガイド練習会	秩父演習林しおじの会	秩父演習林	4/11 (中止)
「犬山の森」春のふれあい自然観察会	犬山市	生態水文学研究所	4/11 (中止)
休日公開	田無演習林	田無演習林	4/19 (中止)
教職員向け特別ガイド「春の彩りを訪ねて」	富士癒しの森研究所	富士癒しの森研究所	4/25 (中止)
休日公開	田無演習林	田無演習林	4/26 (中止)
鴨川市・東京大学交流事業「野鳥の巣箱をかけよう（観察会）」	鴨川市	千葉演習林	4月中旬 (中止)
被災演習林の復興に向けた報告会	千葉演習林・秩父演習林・企画部	弥生キャンパス	4/28 (中止)
春の一般公開	千葉演習林	千葉演習林	4月下旬 (中止)
新緑勉強会	秩父演習林しおじの会	秩父演習林	5/15 (中止)
ガイド練習会	秩父演習林しおじの会	秩父演習林	5/16 (中止)
とよた森林学校「森林セミナー」	豊田森林組合	生態水文学研究所	5/24 (中止)
神社山自然観察路一般公開	北海道演習林	北海道演習林	5/31 (中止)
利用者研究集会・尾張東部丘陵自然環境研究者の会	生態水文学研究所	生態水文学研究所	6/5 (中止)
第36回子ども樹木博士認定会	田無演習林	田無演習林	6/7 (中止)
休日公開	田無演習林	田無演習林	6/7 (中止)
しおじの会と東大秩父演習林を歩こう	秩父演習林しおじの会	秩父演習林	6/13 (中止)
キノコ観察会	シデコブシの会	生態水文学研究所	6/14 (中止)
お試しチェーンソー講座	富士癒しの森研究所	富士癒しの森研究所	6/25
ガイド練習会	秩父演習林しおじの会	秩父演習林	7/11 (中止)
公開講座「東大の森林で昆虫採集」	秩父演習林	秩父演習林	7/22 (中止)
高校生のための森と海のゼミナール ～大学の先生と考える環境問題と生物多様性～	千葉演習林・千葉大学海洋 バイオシステム研究センター	千葉演習林・千葉大学 海洋バイオシステム研究センター	7/28-30 (中止)
公開セミナー「親子向け」	北海道演習林	北海道演習林	7/30 (中止)
夏休み親子水生生物観察会	シデコブシの会	生態水文学研究所	8/2 (中止)

講座名	主催	開催場所	日程
ガイド練習会	秩父演習林しおじの会	秩父演習林	8/8 (中止)
造園学会中部支部サマースタジオ	造園学会中部支部	生態水文学研究所	8/25-28 (中止)
癒しの森の朝もや音楽会	癒しの森の会	富士癒しの森研究所	8/30
せと環境塾「発見！東大演習林の秘密と水辺のいきものたち」	瀬戸市	生態水文学研究所	9/5
ガイド練習会	秩父演習林しおじの会	秩父演習林	9/12 (中止)
大麓山ハイキング登山会	北海道演習林	北海道演習林	9/13 (中止)
キノコ観察会	シデコブシの会	生態水文学研究所	9/13 (中止)
菌類勉強会	秩父演習林しおじの会	秩父演習林	9/25 (中止)
東大こころのリトリート	東京大学医学部精神医学教室	富士癒しの森研究所 (オンライン開催)	9/26
お試しチェンソー講座	富士癒しの森研究所	富士癒しの森研究所	10/7
キノコ講座	山中湖おもてなしの会	富士癒しの森研究所	10/8
ガイド練習会	秩父演習林しおじの会	秩父演習林	10/10 (中止)
アリの観察と講義	シデコブシの会	生態水文学研究所	10/18
第37回「子ども樹木博士」認定会	田無演習林	田無演習林	10/25 (中止)
休日公開	田無演習林	田無演習林	10/25 (中止)
休日公開	田無演習林	田無演習林	10/25 (中止)
犬山市民総合大学現地講義	犬山市	生態水文学研究所	10/31 (中止)
東大教職員向け特別ガイド「キノコに親しむ」	富士癒しの森研究所	富士癒しの森研究所	10月 (中止)
鴨川市・東京大学交流事業「野鳥の巣箱をかけよう（巣箱作り）」	鴨川市	千葉演習林	11/7
ガイド練習会	秩父演習林しおじの会	秩父演習林	11/14
とよた森林学校「森林と災害～豪雨災害を忘れない～」	豊田森林組合	生態水文学研究所	11/15
「犬山の森」秋のふれあい自然観察会	犬山市	生態水文学研究所	11/15
君津市・東京大学交流事業 君津市立坂畑小学校スクールミュージアム「演習林見学会」	君津市	千葉演習林	11/26
鴨川市・東京大学交流事業 「東京大学・小石川植物園見学ツアー」	鴨川市	千葉演習林	11月下旬 (中止)
東大教職員向け「リース作り体験会」	田無演習林	田無演習林（オンライン開催）	12/5
休日公開	田無演習林	田無演習林	12/5 (中止)

## 2020年度 資料

講座名	主催	開催場所	日程
影森祭	秩父演習林	秩父演習林	12/6 (中止)
標石を探そうツアー	シデコブシの会	生態水文学研究所	12/6
ナラ枯れ被害拡大に伴う住民説明会	山中湖村・富士癒しの森研究所	富士癒しの森研究所	12/8
下田市共催事業公開講座「ふるさと文化財の森・林業遺産クスノキ林見学会」	樹芸研究所	樹芸研究所	12/12 (中止)
ガイド練習会	秩父演習林しおじの会	秩父演習林	12/12 (中止)
親子向けオンラインセミナー「北海道演習林の動物たち」	北海道演習林	北海道演習林（オンライン開催）	1/8
巣箱作成	シデコブシの会	生態水文学研究所	1/17
ぶらり 東大の森さんぽ「冬の樹木園を歩こう」	北海道演習林	北海道演習林	1/27 (中止)
森林博物資料館一般公開	千葉演習林	千葉演習林	2/2 (中止)
東大教職員向け特別ガイド「冬の散歩みち」	富士癒しの森研究所	富士癒しの森研究所	2/6 (中止)
公開講座「富士癒しの森研究所研究報告 2020」	富士癒しの森研究所	富士癒しの森研究所	3/15
長期生態系プロットの計測と林業遺産を含む研究林の見学	名古屋経済大学市邨高等学校	生態水文学研究所	3/26

## 4) 学会・研究・市民教育等における講師等（招待講演を含む）

教職員名	講演名	主催	開催場所	日程
犬飼 浩	記念樹訪問	NPO 法人富良野 自然塾	北海道演習林	4/30
山田利博	令和2年度第一回研修会「樹木腐朽の 生物学と腐朽診断機器」	日本樹木医学会埼 玉県支部	With You さいたま	6/28
蔵治 光一郎	東大水フォーラム 研究室紹介	東大水フォーラ ム	オンライン	7/29
蔵治光一郎	2020年「水の日」オンラインセミナー 「いま考える水」	水制度改革議員 連盟水循環基本 法フォローアッ プ委員会	オンライン	8/1
松井理生	富良野の高校生による水源探訪フィー ルドワーク	北海道立総合研 究機構	北海道演習林	8/4
松井理生	東大演習林の視察研修	上川農業改良普 及センター富良 野支所	北海道演習林	8/6
齋藤暖生	アイヌ文化振興に向けた観光学等の学 術的・多角的観点からの調査研究〈国 際森林認証制度〉〈国有林共用林野制 度〉合同ワークショップ 「共用林野 制度と地元住民の林野利用」	北海道大学観 光学高等研究セン ター／平取町ア イヌ施策推進課 ／アイヌ文化振 興公社	北海道平取町	8/19- 20
澤田晴雄・井 上 淳・丹羽 悠二・梁瀬桐 子・田中延亮	せと環境塾「発見！東大演習林の秘密 と水辺のいきものたち」	瀬戸市	生態水文学研究所 赤津研究林	9/5
田中延亮・水 内佑輔・澤田 晴雄・井上 淳・丹羽悠 二・岸本光樹 梁瀬桐子	せと環境塾「なぜ瀬戸市に？東京大学 の研究林を知ろう」	瀬戸市	生態水文学研究所 赤津研究林	9/5
犬飼 浩・小 池征寛	林静一郎川，林静一郎山の見学	林英樹（林静一 郎・元北演林長 ご令孫）	北海道演習林	9/15
三浦直子	「時系列 UAV データを用いた半自然草 地におけるススキのバイオマス推定」	令和2年度 第 2回動体計測研究 会	オンライン	9/16
齋藤暖生・藤 原章雄	東大こころのリトリート	東京大学医学部 精神医学教室	富士癒しの森研究 所(オンライン)	9/26
齋藤暖生	きこの観察会	山中湖おもてな しの会	富士癒しの森研究 所	10/8
齋藤暖生	自然環境保護活動報告会	公益財団法人山 口育英奨学会	公益財団法人山口 育英奨学会	10/22

## 2020年度 資料

教職員名	講演名	主催	開催場所	日程
犬飼 浩・松井理生	北海道林研 現場体験プログラム	北海道森林管理局 網走中部森林管理署 置戸森林事務所	北海道演習林	10/23
三次充和・阿達康真	鴨川市・東京大学交流事業「野鳥の巣箱をかけよう（巣箱作り）」	鴨川市	千葉演習林	11/7
蔵治光一郎	かわさき市民アカデミー環境とみどり講座（SDGs時代の環境・みどり・防災）「伊勢湾台風被害後に名古屋市が進めてきた防災策」	かわさき市民アカデミー	川崎市生涯学習プラザ 3F 301 会議室とオンラインのハイブリッド	11/12
田中延亮・水内佑輔・澤田晴雄	「犬山の森」秋のふれあい自然観察会	犬山市	生態水文学研究所 犬山研究林	11/15
蔵治光一郎・佐藤貴紀・梁瀬桐子	とよた森林学校（森林と災害～東海豪雨を忘れない～）第1回「森林の持つ公益的機能」	とよた森林学校（豊田市役所森林課・豊田森林組合）	生態水文学研究所 赤津研究林	11/15
田中延亮・梁瀬桐子・澤田晴雄	「犬山の森」秋のふれあい自然観察会	犬山市	生態水文学研究所 犬山研究林	11/15
田中延亮・岸本光樹	山地災害に関する研究スキームの革新に向けた現地観測の知と課題の共有	京都大学防災研究所	京都大学防災研究所・穂高砂防観測所	11/18-19
山田利博	令和2年度市町村専門能力育成研修（森林防除対策）「ナラ枯れの歴史と他県の情報」	埼玉県農林部	埼玉県農林公園	11/25
田中延亮・丹羽悠二	山地災害に関する研究スキームの革新に向けた現地観測の知と課題の共有	京都大学防災研究所	筑波大学井川演習林	11/26-27
蔵治光一郎	茶源郷和束ビジネスカレッジ2020 第6回「山主さんにとっての森林環境税譲与税の重要性を知る」	和束町雇用促進協議会	グリーンティ和束研修室	11/27
蔵治光一郎	NPO 法人の木のトークカフェ「森の維持と意地」	NPO 法人の木	オンライン	11/28
佐藤貴紀	第37回東海陸水談話会	日本陸水学会東海支部	名古屋大学	12/4
蔵治光一郎	とよた森林学校（森林と災害～東海豪雨を忘れない～）第2回「間伐すれば人工林はよみがえる」	とよた森林学校（豊田市役所森林課・豊田森林組合）	豊田市小原大平児童館・大洞市有林	12/5
齋藤暖生・三浦直子	ナラ枯れ被害説明会/ワークショップ	山中湖村・富士癒しの森研究所	山中湖村公民館	12/8
齋藤暖生	アイヌ共用林野等設定に関するワークショップ「コタンコロカムイの森とアイヌ共用林」	北海道大学観光学高等研究センター	オンライン	12/11

教職員名	講演名	主催	開催場所	日程
當山啓介	林業研究会～豊かな社会を創造する森林・林業・木材産業のあり方を考える～	日本経済調査協議会	オンライン	12/14
田中延亮・丹羽悠二・岸本光樹・澤田晴雄・佐藤貴紀	山地災害に関する研究スキームの革新に向けた現地観測の知と課題の共有	京都大学防災研究所	生態水文学研究所 赤津研究林	12/15
齋藤暖生・藤原章雄	QWS アカデミア「この地において、そもそも、何を研究すべきか？」	SHIBUYA QWS Innovation 協議会・国立大学法人東京大学	SHIBUYA QWS	12/17
久本洋子	千葉県林業普及指導員研修会	千葉県森林課	千葉演習林	12/21
蔵治光一郎	かわさき市民アカデミーオンライン特別公開講座「知の豊かさを楽しむ」シリーズ「環境とみどりー改めて学ぶ日本の国土ー」第2回「森と水ー「水循環」の視点から」	かわさき市民アカデミー	Youtube 公開放映	1/18 (収録日)
楠本 大	令和2年度関東甲信地区樹木医講演会	(一社)日本樹木医会 関東甲信地区協議会	オンライン	1/31
蔵治光一郎	令和2年度 気候変動適応における広域アクションプラン策定事業 流域圏での水資源管理分科会 ランチタイムセミナー	環境省中部地方環境事務所	オンライン	2/8
齋藤暖生	「学術機関が地域の一員になるということ：東京大学富士癒しの森研究所の10年」	水研究会	オンライン	2/20
浅野友子	東大水フォーラム公開シンポジウム 水害予測・防災・減災に関する最新研究動向「山地・森林流域における洪水流出の実態」	東大水フォーラム	オンライン	3/2
蔵治光一郎	7月4日豪雨災害による球磨川流域の森林状況現場検証オンライン報告会	不知火海・球磨川流域圏学会	オンライン	3/4
平尾聡秀	研究セミナー「森林管理の野生動物の日周性と生息地選択に及ぼす影響」	埼玉県環境科学国際センター	埼玉県環境科学国際センター	3/12
蔵治光一郎	オンラインシンポジウム「水循環基本法の課題と展望～第2期フォローアップ委員会の活動報告」	水循環基本法フォローアップ委員会	オンライン	3/13
齋藤暖生・藤原章雄・三浦直子	公開講座「富士癒しの森研究所研究報告 2020」	富士癒しの森研究所	山中湖村老人福祉しあわせセンター	3/15

## 2020年度 資料

教職員名	講演名	主催	開催場所	日程
坂上大翼	「北海道のトドマツ・エゾマツ類の苗木に発生する病害－東京大学演習林における事例－」	樹木病害研究会	オンライン	3/24
石橋整司・安村直樹・齋藤暖生・藤原章雄・當山啓介	「東大の研究室をのぞいてみよう！～多様な学生を東大に～」プログラム	東京大学	オンライン	3/25
當山啓介	森林計画学会 受賞者記念講演	森林計画学会	オンライン	3/26
當山啓介	2020年度森林計画学会春季シンポジウム「林業の成長産業化, SDGs と森林・林業の計画 ～森林計画学の系譜と展望～」講演	森林計画学会	オンライン	3/26

## 5) 演習林報告・演習林

## 演習林報告

第 143 号 (2020 年 10 月 27 日 発行)

開始頁	終了頁	著者	表題
1	9	蔵治光一郎・鶴見康幸・塚越剛史・阿達康眞	房総半島清澄山系の降水特性 (III) —清澄観測点における 102 年間の年降水量, 月別・季節別降水量, 大雨, 少雨の長期変化傾向—

## 演習林

第 63 号 (2021 年 3 月 31 日発行)

開始頁	終了頁	著者	表題
1	22	鶴田燃海・相川美絵子・竹本周平・練 春蘭	田無演習林雑管束植物目録 (2019 年度改訂版)
23	43	岸本光樹・澤田晴雄・高德佳絵・井上 淳	生態水文学研究所におけるスギ品種別成長資料
45	57	蔵治光一郎・五名美江・加藤純子・黒木里香	生態水文学研究所赤津研究林白坂南北谷小流域日流出量観測報告 (I)
59	67	才木道雄・高德佳絵・吉田弓子・千嶋 武	秩父山地の標高の異なる 5 地点における気温観測報告 (2003 年～2018 年)
69	92	辻 和明・西山教雄	富士癒しの森研究所の苗畑の資料
93	97	高德佳絵・吉田弓子・才木道雄・原口竜成	秩父演習林イヌブナ天然林におけるリターフォールデータ (2007 年 4 月～2016 年 12 月)
99	104	吉田弓子・高德佳絵・才木道雄	秩父演習林シオジ天然林におけるリターフォールデータ (2013 年 4 月～2018 年 12 月)
105	112	井出雄二	「伊豆林政史資料編」詳細目録
113	123	小川 瞳・芝野伸策・岡村行治・高橋康夫・大川あゆ子・笠原久臣・梶 幹男・山本博一・鈴木智之	北海道演習林における前山大面積長期生態系プロットの林分成長資料 (1992-2018)
125	134	福井 大・小川 瞳	北海道演習林山部地区における気象観測地点, 名称, 観測項目の変遷および新露場の設置について
135	164	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林基盤データ整備委員会水文水質部門	東京大学演習林水文観測・水質分析報告 (自 2018 年 1 月至 2018 年 12 月)
165	188	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林基盤データ整備委員会気象部門	東京大学演習林気象報告 (自 2019 年 1 月至 2019 年 12 月)

## 6) 科学の森ニュース

■第90号■ 2020年6月10日発行

【表紙記事】科学の森ニュース「演習林応援感謝号」特別企画（演習林林長 福田健二）

《災害復旧と皆さまからのご支援（千葉演習林・秩父演習林）》

- ・台風による被害状況、復旧に向けた状況、支援金の使い道
- ・皆様から届いた支援の声
- ・林長からのメッセージ

《記事》

- ・「砂出し実習」で土砂量の変化を実感（生態水文学研究所）
- ・千葉演習林が日本地質学会関東支部より「学生実習に対する貢献」で表彰（千葉演習林）
- ・総合研究実験棟建設中（田無演習林）

<クローズアップ>

サイバーフォレスト：自然音アーカイブの音源配信（富士癒しの森研究所 藤原章雄）

<四コマ漫画>

砂出し実習

<科学の森の動植物紹介>

エゾノリュウキンカ（北海道演習林）

<名所・名物紹介>

田無演習林事務所庁舎の昔と今（田無演習林）



■第91号■ 2020年9月10日発行

【表紙記事】新型コロナウイルス、演習林の教育活動に大きなインパクト

《記事》

中止や延期が相次いだ演習林の教育活動と社会連携活動

<クローズアップ>

下賀茂寮が下賀茂寮宿泊施設に生まれ変わります（樹芸研究所）

<四コマ漫画>

何だ今の音

<科学の森の動植物紹介>

ハクビシン（秩父演習林）

<コラム>

白鼻症候群の感染パターンを地球規模で解明（北海道演習林 福井 大）



■第92号■ 2020年12月10日発行

【表紙記事】「東大式 癒しの森のつくり方」出版と「癒しの森の朝もや音楽会」開催（富士癒しの森研究所）

＜記事＞

- ・森林科学基礎実習Ⅲの野外実習（田無演習林）
- ・演習林所属学生チョーさんの学位記授与式における修了生答辞（教育研究センター）
- ・技術職員3名が森林管理技術賞を受賞（企画部）

＜クローズアップ＞

秩父演習林とサントリー社の協定締結後のこれまでの取り組み（秩父演習林）

＜四コマ漫画＞

職員のちょっと

＜科学の森の動植物紹介＞

チョウセンゴヨウ（富士癒しの森研究所）

＜名所・名物紹介＞

湖畔広場の東屋（富士癒しの森研究所）



■第93号■ 2021年3月10日発行

【表紙記事】田無本館落成（田無演習林）

＜記事＞

- ・NHK「美の壺」で千葉演習林のキノコを紹介（千葉演習林）
- ・山中湖村と共催でナラ枯れ説明会&ワークショップを開催しました（富士癒しの森研究所）
- ・親子向けオンラインセミナー開催（北海道演習林）

＜クローズアップ＞

JSPS-C2C の成果が Journal of Forest Research 特集に掲載（JSPS-C2C ワーキンググループ）

＜四コマ漫画＞

ハゲ山の葛藤

＜科学の森の動植物紹介＞

アラビアコーヒー（樹芸研究所）

＜コラム＞

演習林から明治神宮への献木（生態水文学研究所 水内佑輔）



## 7) 新聞・雑誌・放送等

演習林名	メディア	日付	内容
北海道演習林	北海道新聞	2020.7.16	本年度最初の森林学習プログラム
企画部	日本下水道新聞	2020.7.29	今後の水循環政策に対するコメント（蔵治教授）
企画部	中日新聞	2020.8.1	リニア着工について有識者会議、各委員発言（蔵治教授）
企画部	矢作新報	2020.8.7	「水の日」セミナーオンライン開催（蔵治教授）
富士癒しの森研究所	Yahoo!ニュース	2020.8.10	山中湖合唱団メンバーオリジナルマスクで活動
富士癒しの森研究所	山中湖村公式ホームページ	2020.9.2	山中湖村内で発生したカエントケの情報
北海道演習林	北海道新聞	2020.9.4	森林学習プログラム
富士癒しの森研究所	YMS 山梨放送 「YBS ワイドニュース」	2020.9.4	猛毒「カエントケ」山中湖村で発生、注意呼びかけ
富士癒しの森研究所	UTY テレビ山梨 「スゴろく」	2020.9.9	カエントケのニュース
企画部	中日新聞	2020.10.5	川上流部での治水対策 矢作川流域圏懇談会山部会フィールドワークでのコメント（蔵治教授）
企画部	矢作新報	2020.11.20	とよた森林学校（蔵治教授） 猿投山に東大演習林がある理由
富士癒しの森研究所	山梨日日新聞	2020.12.8	書籍「癒しの森のつくり方」の紹介
富士癒しの森研究所	朝日新聞山梨版	2020.12.12	富士癒しの森研究所で富士山科学研究所の地層調査
富士癒しの森研究所	山梨日日新聞（1面）	2020.12.12	公開された地層調査の現場
富士癒しの森研究所	山梨日日新聞（26面）	2020.12.12	富士癒しの森研究所で富士山科学研究所の地層調査
企画部	矢作新報	2021.1.1	森林の公益的機能 蔵治教授現地案内とよた森林学校の写真
富士癒しの森研究所	認定 NPO 法人 富士山世界遺産国民会議ホームページ	2021.1.2	富士山インタビューvol.88（齋藤講師）
企画部	矢作新報	2021.1.8	「ぶんや日記」とよた森林学校大洞市有林見学
富士癒しの森研究所	山梨日日新聞	2021.1.10	「時標」森のある暮らしつむぎ出そう（齋藤講師）
企画部	静岡新聞	2021.2.2	「大井川とリニア 第5章 湯水から考える」観測に関するコメント（蔵治教授）
企画部	静岡新聞	2021.2.4	「大井川とリニア 第5章 湯水から考える」大井川の水量に関して論文の一部分掲載（蔵治教授）

演習林名	メディア	日付	内容
企画部	静岡新聞	2021.2.16	「大井川とリニア」環境保全連絡会議地質構造・水資源専門部会での意見（蔵治教授）
千葉演習林	農林水産省 aff2021年3月号	2021年3月	身近で不思議なタケの生態に迫る（久本助教）
富士癒しの森研究所	Coyote73	2021.3.12	上手な薪の使い方，サイバーフォレスト
企画部	静岡新聞	2021.3.13	「大井川とリニア」JR降水量推定値，国内屈指の多雨「屋久島」に匹敵 静岡県や専門家など妥当性疑問視（蔵治教授）
企画部	熊本日日新聞	2021.3.18	不知火海・球磨川流域圏被害状況検証（蔵治教授）
千葉演習林	セブーンイレブン 記念財団 みどりの風 2021年春号 (vol.65)	2021.3.19	特集タケと竹林 タケ類の一斉開花，枯死の研究（久本助教）

## 4. 環境安全

## 1) 安全・防災のための講習会等

研 修 名	開 催 機 関 等	開 催 月	参 加 人 数
教育研究安全衛生マネジメントシステム会議	田無演習林	毎月	6
労働安全衛生会議	生態水文学研究所	毎月	10
温泉管取り扱い講習	樹芸研究所	4月	5
教育研究安全衛生マネジメントシステム説明会 (Zoom)	農学生命科学研究科環境安全管理室	5月	2
交通安全講習会 (Zoom)	千葉演習林	5月, 11月	41
蜂対策講習会(Zoom)	北海道演習林	6月	40
教育研究安全衛生マネジメントシステム会議	秩父演習林	6月	16
2020年度農学生命科学研究科ライフサイエンス関連 講習(動物実験) オンライン講習	東京大学農学生命科学研究科	6月	13
2020年度農学生命科学研究科ライフサイエンス関連 講習(遺伝子組換え) オンライン講習	東京大学農学生命科学研究科	6月	2
チェンソー・ロープウインチ安全講習	富士癒しの森研究所	6月	5
環境安全講習会	環境安全研究センター (オンライン)	7月	1
刈払機取扱安全講習	樹芸研究所	7月	6
安全運転管理者講習	千葉県公安委員会	9月	1
運搬車, 三脚脚立, バッテリーチャージャー, 丸鋸の 安全実地講習	田無演習林	9月	6
クレーン付きトラック(フォワード)安全運転講習会	北海道演習林	10月	16
熊撃退スプレー発射体験会	北海道演習林	10月	16
建物火災避難訓練	北海道演習林	11月	33
交通安全講習会(各自動画を聴講)	北海道演習林	11月	42
環境安全講習会	環境安全研究センター (オンライン)	11月	1
環境安全見学会	環境安全研究センター柏支所	12月	1
令和2年度 第1回 化学物質管理者講習会	東京大学	12月	1
令和2年度第2回機器等(ドラフトチャンバー)管理者・点 検者講習会	東京大学	12月	1
除雪機安全講習	富士癒しの森研究所	12月	4
スノーモビル安全運転講習会	北海道演習林	1月	26
令和2年度高圧ガス取扱者講習会	東京大学	2月	4

## 2) 資格取得のための講習等

研 修 名	開 催 機 関 等	開催月	参加人数
車両系建設機械運転技能講習(整地・運搬・積み込み及び掘削用)	(株)芽室自動車学校	6月	1
車両系木材伐出機械等の運転業務特別教育(伐木等機械・走行集材機械)	林業・木材製造業労働災害防止協会北海道支部	6月	1
伐木機械等の運転作業特別教育(実技)	北海道演習林	6月	1
刈払機取扱作業安全衛生教育	コマツ教習所北海道センター	6月	3
伐木等業務(チェーンソー)に係る特別教育(補講イ)	林業・木材製造業労働災害防止協会埼玉県支部	6月	1
伐木等業務(チェーンソー)に係る特別1教育(補講イ)	コベルコ教習所 岐阜教習センター	6月	4
伐木等業務(チェーンソー)に係る特別1教育(補講イ)	北海道演習林	7月	25
伐木等業務(チェーンソー)に係る特別教育+(補講イ)	林業・木材製造業労働災害防止協会北海道支部	7月	1
伐木等業務(チェーンソー)に係る特別教育(補講エ)	PEO 建機教習センター埼玉教習所	7月	1
伐木等業務(チェーンソー)に係る特別1教育(補講イ)	林業・木材製造業労働災害防止協会山梨県支部	7月	2
走行集材機械の運転業務特別教育(実技)	北海道演習林	8月	1
令和2年度千葉県農薬管理指導士更新研修	千葉県農林水産部	8月	3
フルハーネス型安全帯特別教育	労働技能講習協会	10月	1
高所作業車運転技能講習	東海安全教習センター	10月	1
伐木等業務(チェーンソー)に係る特別1教育(補講イ)	コベルコ教習所 岐阜教習センター	10月	2
甲種防火管理者新規講習	富良野広域連合消防本部	11月	1
特定化学物質四アルキル鉛等作業主任者技能講習	静岡県労働基準協会連合会	3月	1

## 3) 災害発生状況

2020年度の災害は17件（千葉4件、北海道9件、秩父2件、富士2件）発生している。内訳は森林調査・管理作業中のハチ刺され7件（千葉2件、北海道5件）、ダニ刺され2件（千葉1件、北海道1件）、熱中症2件（北海道2件）、自転車および原動機付自転車での転倒2件（秩父2件）、公用車運転時の接触事故3件（千葉1件、北海道1件、富士1件）、給油時の燃料間違い1件（富士1件）であった。

災害種別	被災者		
	教職員（件）	学生（件）	その他（件）
重大災害			
設備災害			
通勤災害			
人的被害あり	13		
人的被害なし（設備災害でない機器・施設損傷あり）	4		
人的被害・機器・施設損傷なし			

## 東京大学安全衛生管理業務月報に基づく演習林災害統計

休業種別	被災者		
	教職員（件）	学生（件）	その他（件）
休業災害（4日以上）			
休業災害（4日未満）			
不休災害	17		
合計	17		

## 山火事予防運動

演習林名	名称	開催場所	日程	参加人数
北海道演習林	巡視及び注意喚起の幟、設置と撤去	北海道演習林一円	2020/4/21～ 2020/6/30	2
秩父演習林	消火訓練	秩父演習林	2020/8/24	全職員

## 5. 国際交流

## 1) 交流事業・国際シンポジウム・国際共同研究

交流事業 該当なし

## 国際シンポジウム

参加者氏名	シンポジウム名	主催	開催地	日程
鎌田直人・尾張敏章・ 楠本 大・當山啓介・ 久本洋子	JSPS Core-to-Core Program Interim Symposium “A research hub of long-term forest monitoring field centers on environmental changes and ecosystem responses: Collaborating for data, knowledge and young researchers”	The University of Tokyo Forests, The University of Tokyo	online	

## 国際共同研究

氏名	研究課題	共同研究者所属	氏名	国籍
蔵治光一郎	Impact of climate change on rainfall variability in Mae Chaem Watershed and Whole Mountainous Area in the Upper Chao Phraya River Basin	タイ王立灌漑局	Nilobol Aranyabhaga	タイ
蔵治光一郎	Hydrological Monitoring in Mount Alab and Inobong, Crocker Range Park, Sabah	マレーシアサバ大学	Maznah Mahali	マレーシア
後藤 晋	東南アジアにおけるヒノキ属の系統推定と産地試験	ソウル国立大学	Dr. Kyu-Suk Kang	韓国
		国立台湾大学	Dr. Fang-Hua Chu	台湾
鎌田直人	養菌性キクイムシが媒介する樹木萎凋病の国際的なリスク評価に必要な基礎データの収集	インド養蚕研究所	Rajesh Kumar	インド
		カセサート大学	Sunisa Sanguansub	タイ
		チェンマイ大学	Sawai Buranapanichpan	タイ
			Teerapong Saowaphak	タイ
		ガジャマダ大学	Sri Rahayu	インドネシア
		マレーシアサバ大学	Maria Lourdes	マレーシア
		チェコ農学生命科学大学	Roy Amit	チェコ
		カタール大学	Antonio Gugliuzzo Giovanna Tropea Garzia Antonio Biondi	イタリア
		パドバ大学	Andrea Battisti Davide Rassati	イタリア
		フロリダ大学	Jiri Hulcr	アメリカ合衆国
カリフォルニア大学リバーサイド校	Richard Stouthamer	アメリカ合衆国		

氏名	研究課題	共同研究者所属	氏名	国籍
鎌田直人	アジア森林圏の環境変動と生態系応答を把握する長期観測フィールドのネットワーク構築	国立台湾大学	Biing T. GUAN	台湾

## 2) 海外渡航

該当なし

## 3) 外国人研究者・学生等の来訪

演習林名	来訪目的	日程	国	人数
千葉演習林	温暖地に移植したダケカンバの成長・生理特性の解明	2020/8/3	ミャンマー	1
千葉演習林	スギと共生するアーバスキュラー菌根菌に関する研究	2020/8/4	ベナン	1
千葉演習林	シカの強度影響下における広葉樹二次林の修復可能性～土壌機能からの検証～	2020/8/6	ブルネイ	1
千葉演習林	シカの強度影響下における広葉樹二次林の修復可能性～土壌機能からの検証～	2020/10/12-17	ブルネイ	1
千葉演習林	シカの強度影響下における広葉樹二次林の修復可能性～土壌機能からの検証～	2020/11/10-20	ブルネイ	1
千葉演習林	森林圏生態社会学研究室ゼミ	2020/10/26-27	中国	5
千葉演習林	全国スケールでの相互移植による気候変動に対する北方樹木ダケカンバの応答解明	2020/10/28	ミャンマー・中国	2
千葉演習林	房総半島に分布する安野層のタービダイト単層解析に基づいた混濁流水理条件の逆解析(京都大学)	2020/11/16-20	中国	1
千葉演習林	生圏システム学特論	2020/10/22	中国・ミャンマー・韓国	4
千葉演習林	シカの強度影響下における広葉樹二次林の修復可能性～土壌機能からの検証～	2021/3/25-26	ブルネイ	1
北海道演習林	研究インターン	2020/4/1-7/31	マレーシア	2
北海道演習林	風倒攪乱とその後の管理法が北方林の回復力に与える複合的影響	2020/8/27-28	中国	1
北海道演習林	丸山沢量水量水堰のメンテナンスとデータ整理方法の確認	2020/10/15-16	マレーシア	1
秩父演習林	国際短期プログラム(インターンシップ)	2020/8/17-11/13	ブラジル	1
富士癒しの森研究所	演習林を利用した共同研究の打合せ	2020/10/13-14	英国	1
富士癒しの森研究所	OTOCARE Fuji Iyashi no Mori: 音を介した森林空間と人の関係性に関する実験	2020/11/14-15	英国	7

## 6. 管理

## 1) 管理面積集計表・林相別蓄積集計表・植栽樹種

演習林名	管理面積合計	立木地								無立木地	その他
		人工林				天然林					
		小計	針葉樹林	針広混交林	広葉樹林	小計	針葉樹林	針広混交林	広葉樹林		
千葉演習林	2,170	858	826	17	15	1,302		377	925	1	9
北海道演習林	22,714	3,452	3,136	164	152	18,394		14,394	3,999	21	847
秩父演習林	5,812	769	751		18	4,986	199	778	4,009		57
田無演習林	8	7	1	4	1						2
生態水文学研究所	1,292	296	279	13	3	956	34	61	861		40
富士癒しの森研究所	41	37	25	9	3						4
樹芸研究所	247	109	50		59	106			106		32
合計	32,284	5,527	5,068	208	252	25,744	233	15,611	9,900	22	991

但し、「立木地」は実験林、樹木園、採穂園、採種園を含む森林の合計面積、「無立木地」は竹林、伐採跡地、未立木地の合計面積、「その他」は道路敷、林道敷、集材路、土場、河川敷、水路敷、池敷、崩壊地、荒廃地、苗畑、苗畑跡地、圃場、圃場付帯地、庁舎構内、事務所構内、作業所構内、宿舎、建物敷、馬房、露場、湖畔広場、古在ヶ原、グラウンド、貸付地、鉄塔敷、送電線、鉸山跡、採石跡、鹿柵敷、林班外の土地の合計面積（誤差を含む）とした。

演習林名	計	人工林	天然林
千葉演習林	810,611	252,212	558,399
北海道演習林	5,545,829	775,833	4,769,996
秩父演習林	1,462,189	360,322	1,101,867
田無演習林	2,389	2,389	
生態水文学研究所	297,219	134,177	163,041
富士癒しの森研究所	16,159	16,159	
樹芸研究所	74,797	51,153	23,644
合計	8,209,193	1,592,246	6,616,947

## 植栽樹種

(本)

演習林名	樹種			
	本数			
千葉演習林	スギ			
	1,430			
北海道演習林	トドマツ	エゾマツ	アカエゾマツ	グイマツ F1
	4,074	4,817	3,163	831
秩父演習林				
田無演習林				
生態水文学研究所				
富士癒しの森研究所				
樹芸研究所				

## 2) 立木伐採量

m<sup>3</sup>

演習林名	主伐材積					小計	利用 間伐 材積	主伐, 間 伐合計
	人工林		天然林					
	針葉樹	広葉樹	針葉樹	広葉樹				
千葉演習林	立木販売							
	素材生産資材量	7						
	その他							
	合 計							
北海道演習 林	立木販売	1,923	227	5,892	5,267	13,309	7,286	20,595
	素材生産資材量			426	1,140	1,566		1,566
	その他							
	合 計	1,923	227	6,318	6,406	14,875	7,286	22,160
秩父演習林	立木販売							
	素材生産資材量							
	その他							
	合 計							
田無演習林	立木販売							
	素材生産資材量							
	その他							
	合 計							
生態水文学 研究所	立木販売							
	素材生産資材量							
	その他							
	合 計							
富士癒しの 森研究所	立木販売							
	素材生産資材量							
	その他							
	合 計							
樹芸研究所	立木販売							
	素材生産資材量							
	その他							
	合 計							
合 計	立木販売	1,923	227	5,892	5,267	13,309	7,286	20,595
	素材生産資材量			426	1,140	1,566		1,566
	その他							
	合 計	1,923	227	6,318	6,406	14,875	7,286	22,160

## 3) 育林実行量①-1 (地拵え, 新植および補植)

演習林名	地拵え			新植および補植					
	林小班	面積(ha)	備考	林小班	面積(ha)	植栽本数	備考		
千葉演習林	10C4-4	0.29		10C4-3	0.29	530			
				10C4-4	0.54	900			
北海道演習林	59	A	2.09	直営	59	A	1.87	1,012	請負
	59	D	1.14	直営	59	D	0.93	560	請負
	61	B	1.00	直営	61	B	0.34	224	請負
	62	A	1.69	直営	62	A	1.14	694	請負
	63	A	2.82	直営	63	A	1.85	1,216	請負
	73	C	9.70	請負	63	A	0.07	62	直営
	74	K	3.72	請負	73	C	6.50	7,510	請負
					73	C	0.06	227	直営
					74	K	1.22	700	請負
					74	K	0.06	60	直営
					74	K	0.32	518	直営
				74	H	-1.91	102	補植・直	
合計		22.45			15.19	14,213			

補植(枯れた苗木の植え替え)の面積は実行面積には含めない。

田無演習林

生態水文学研究所, 秩父演習林, 富士癒しの森研究所, 樹芸研究所では該当する業務はなかった。

## 育林実行量①-2 (下刈り, 除伐)

演習林名	下刈り			除伐		
	林小班	面積(ha)	備考	林小班	面積(ha)	備考
千葉演習林	44C11-1	0.29		22C7-4	0.50	
	44C11-2	0.07				
	44C11-3	0.27				
	44C11-4	0.16				
	10C4-3	0.44				
北海道演習林	3	E	0.84			直営 H27
	4	B	5.16			直営 H27
	4	C	1.27			直営 H27
	20	A	0.62			請負 H30
	20	A	0.49			直営 H30
	20	B	0.27			直営 H30
	23	B	0.61			請負 H30
	23	C	0.32			請負 H30
	74	H	2.21			直営 H29
	74	H	1.96			直営 H31
	74	C	2.34			直営 H28,29
	75	B	2.13			請負 H27
	75	B	2.64			直営 H27
	92	A	0.65			請負 H28
	92	B	17.82			請負 H26
	92	B	12.07			請負 H28
	92	C	0.05			請負 H26
	92	C	0.07			請負 H28
	101	A	1.13			請負 H27
	101	B	0.72			請負 H27
102	B	0.64			請負 H27	
請負の後の数字は植栽年						
田無演習林	1	1	0.08			延面積
	1	2	0.04			
	1	3	0.02			
	1	4	0.11			延面積
	1	6	0.12			延面積
	1	7	0.17			〃
	1	8	0.17			〃
	1	9	0.11			〃
	1	10	0.01			
	1	11	0.01			
	1	12	0.21			延面積
	1	13	0.08			〃
	1	14	0.03			
	1	16	0.08			
	1	19	0.06			延面積
	1	20	0.16			〃
	1	21	0.18			〃
	1	22	0.09			
	1	23	0.37			延面積

2020 年度 資料

演習林名	下刈り			除伐		
	林小班	面積(ha)	備考	林小班	面積(ha)	備考
田無演習林	1	24	0.14			
	1	25	0.10			
	1	26	0.05			
合 計		57.64			0.50	

生態水文学研究所, 秩父演習林, 富士癒しの森研究所, 樹芸研究所では該当する業務はなかった。

**育林実行量②-1 (枝打ち, 保育間伐)**

演習林名	枝打ち			保育間伐		
	林小班	面積(ha)	備考	林小班	面積(ha)	備考
千葉演習林				45C2-2	0.46	
北海道演習林			98	C	3.60	※1
			98	D	11.71	※1

※1 請負 (補助金)						
生態水文学 研究所			32	い2	0.34	愛知県小規模治山整備事業
			32	い4	0.50	〃
			40	い4	1.00	〃
			40	い5	1.22	〃
			40	い6	0.28	〃
			40	い7	0.20	〃
			40	い8	0.02	〃
			72	い1	0.20	ボランティア
合 計					19.53	

田無演習林, 生態水文学研究所, 樹芸研究所, 富士癒しの森研究所では該当する業務はなかった。

## 育林実行量②-2 (獣害対策, その他)

演習林名	獣害対策(シカ柵設置など)			その他		
	林小班	面積(ha)	備考	林小班	面積(ha)	備考
千葉演習林						
北海道演習林	18	B	0.38			野鼠毒餌
	51	C	0.73			野鼠毒餌
	71	D	2.63			野鼠毒餌
	72	D	4.53			野鼠毒餌
	73	D	2.85			野鼠毒餌
	74	C	2.66			野鼠毒餌
	74	H	4.74			野鼠毒餌
	74	J	0.91			野鼠毒餌
	74	K	0.92			野鼠毒餌
	74	P	0.23			野鼠毒餌
	74	D	1.12			野鼠毒餌
	75	B	3.09			野鼠毒餌
	87	J	0.81			野鼠毒餌
	87	C	1.80			野鼠毒餌
	87	K	0.56			野鼠毒餌
生態水文学 研究所						
合計			27.96			

田無演習林, 生態水文学研究所, 樹芸研究所, 富士癒しの森研究所では該当する業務はなかった。

## 4) 素材生産総括表・土木実行総括表・道路現況

## 素材生産総括表

演習林名	素材生産資材量			素材生産量			歩留 (%)		
	計	針葉樹	広葉樹	計	針葉樹	広葉樹	平均	針葉樹	広葉樹
千葉演習林	7.22	7.22		3.21	3.21		44.46	44.46	
北海道演習林	1,565.65	426.00	1,139.65	1,095.64	326.67	768.97	69.98	76.68	67.47
秩父演習林									
田無演習林									
生態水文学 研究所									
富士癒しの森 研究所									
樹芸研究所									
合計	1,572.87	433.22	1,139.65	1,098.85	329.88	768.97	57.22	60.57	67.47

## 土木実行総括表

演習林名	実行内容				
	実行数量				
千葉演習林	林道維持	歩道維持			
	8,566	550			
北海道演習林	車道手入	砂利敷均し	崩壊修繕	請負草刈り	請負砂利敷均し
	66,900	500	4箇所	192,950	1,500
秩父演習林	林道維持	作業道維持	歩道維持	モノレール維持	
	7,796	6,510	7,635	2,265	
田無演習林	歩道草刈				
	744				
生態水文学 研究所	林道維持	歩道維持			
	4,700	500			
富士癒しの森 研究所	車道草刈	歩道草刈			
	600	900			
樹芸研究所	車道草刈	車道整備	歩道草刈	歩道整備	
	1,979	1,203	1,708	550	

## 道路現況

演習林名	車道延長				歩道延長	
	林道延長	作業道延長	計	密度(m/ha)	延長	密度(m/ha)
千葉演習林	31,436		31,436	14.5	125,361	57.8
北海道演習林	484,500	448,890	933,390	41.0	7,800	0.3
秩父演習林	11,395	10,132	21,527	3.7	182,371	31.4
田無演習林					1,550	186.1
生態水文学 研究所	11,840	1,500	13,340	10.3	12,400	9.6
富士癒しの森 研究所	2,087		2,087	54.9	3,009	79.2
樹芸研究所	3,486	3,657	7,143	29.0	11,753	47.8
合計	544,744	464,179	1,008,923		344,244	

## 5) 運営費予算配分額, 収入, 外部資金

区分	内訳	金額(千円)
運営費予算配分額	年度当初配分額	243,315
	市町村交付金相当額予算	41,980
	追加配分・協力金	55,514
	その他の予算	975
	計	341,784
収入	演習林林産物収入	88,850
	刊行物販売等売払収入	230
	講習料収入	10
	その他の収入	11,636
	計	100,726
外部資金	科学研究費	37,892 *
	奨学寄附金	9,012
	受託研究費	10,325
	他機関との共同研究費	3,899
	その他補助金	6,336
	計	67,464
合計		509,974

\* 前年度からの繰越分を含む

## 6) 演習林林産物収入細分表

演習林名	立 木	素 材	そ の 他			合 計
			ヒサカキ	苗木	残材等,その他	
千葉演習林	m <sup>3</sup>	3.210 m <sup>3</sup>	24 束	本	m <sup>3</sup>	43,726 円
	円	29,726 円	14,000 円	円	円	
北海道演習林	20,594.550 m <sup>3</sup>	1,095.640 m <sup>3</sup>	束	本	m <sup>3</sup>	88,626,892 円
	49,042,110 円	39,584,782 円	円	円	円	
秩父演習林	m <sup>3</sup>	92.820 m <sup>3</sup>	束	本	m <sup>3</sup>	178,850 円
	円	178,850 円	円	円	円	
生態水文学研究所	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	束	本	0.110 m <sup>3</sup>	1,000 円
	円	円	円	円	1,000 円	
合計	m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	束	本	m <sup>3</sup>	88,850,468 円
	円	円	円	円	円	

## 7. 研修

## 1) 技術職員

研 修 名	開 催 機 関	開催月	参加人数
純水の最新技術と超純水の使い方のポイント (Webセミナー)	メルク株式会社	6月	1
2020年度(後期)教室系技術職員学外技術研修 (フルハーネス型墜落制止用器具)	一般社団法人労働技能講習協会	10月	1
2020年度(後期)教室系技術職員学外研修高所作業車運転技能講習	東海安全教習センター	10月	1
2020年度(後期)教室系技術職員学外研修 (伐木等業務(チェーンソー)に係る特別1教育(補講イ))	コベルコ教習所岐阜教習センター	10月	2
iOSハンズオンセミナー「iPadとFileMakerを利用した業務システム作成体験セミナー」	株式会社ジェネコム	11月	1
2020年度(後期)教室系技術職員学外研修 ESRI ジャパントレーニング 「ArcGIS Pro:空間解析(リモート)」	ESRI ジャパン	11月	1
2020年度(後期)教室系技術職員学外技術研修ドローン国土交通省10時間飛行証明コース	DSLドローンスクール千葉東葛練習場	12月	3
令和2年度技術職員等試験研究・研修会議	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林	12月	13
令和2年度 東京大学教室系技術職員研修「フィールド科学における水質分析研修(初級)」	東京大学	12月	3
情報システム人材育成研修～IT基礎～	東京大学(オンライン)	1月	2
基盤データ整備委員会 GIS部門研修会	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林	2月	5
令和2年度 東京大学教室系技術職員研修「イオンクロマトグラフィー研修」	東京大学	2月	3
第9回農学生命科学研究科技術職員研修会	東京大学大学院農学生命科学研究科	3月	13
第7回東京大学大学院農学生命科学研究科技術部分 分析技術グループ研修「バイオ取扱基礎技術(DNA)」	東京大学農学生命科学研究科技術部分 分析技術グループWG	3月	2

## 2) 事務職員

研 修 名	開 催 機 関	開催月	参加人数
ソフトウェア等利用者講習会(e-learning)2020年冬期・Office2016～ 基礎から学ぶWord・Excel・PowerPoint	本部情報戦略課	11月～ 2月	1
情報システム人材育成研修～IT基礎～	東京大学(オンライン)	1月	1
(基本編)教育従事者様向けトレーニング 0208	Zoom社	2月	1

## 8. 組織図

## 1) 千葉演習林

組織（主任職員）		配置職員（教職員）		配置職員（非常勤職員）	
林長	准教授	尾張敏章			
林長補佐	講師	楠本 大			
技術主任	技術専門職員	大石 諭			
技術副主任	技術専門員	鶴見康幸			
教育研究主任	助教	久本洋子			
		助教	當山啓介		
		准教授	尾張敏章（兼）		
		講師	楠本 大（兼）		
利用促進チーム主任	技術専門職員	村川功雄			
	（利用促進担当）	技術専門職員	三次充和		
	（資料管理担当）	技術専門職員	藤平晃司		
森林管理チーム主任	技術専門職員	米道 学			
	（森林管理担当）	技術専門職員	軽込 勉		
	（土木担当）	技術専門職員	塚越剛史		
		技術専門職員	阿達康眞		
作業所チーム主任	技術専門職員	鈴木祐紀			
	（清澄作業所）	技術専門員	鶴見康幸（兼）	特任専門職員	嶋崎 拓
		職域限定職員	岡田康則	特任専門職員	鈴木 愛
					（12/1 採用）
	（札郷・郷台作業所）			特任専門職員	富川勲
				臨時用務員	糟谷育代（兼）
事務主任	事務室係長	田山勝則			
	（総務担当）	事務室主任	野山 智	事務補佐員	藤後紗和子
		事務室主任	吉田明子		
	（資産管理担当）	係長	田山勝則		
	（施設（作業所）担当）	技術専門職員	鈴木祐紀（兼）		
	（宿泊管理担当）	事務室主任	吉田明子（兼）		
		（清澄担当）		特任専門職員	羽若部理會
		（札郷担当）		臨時用務員	糟谷育代

## 2) 北海道演習林

組織（主任職員）		配置職員（教職員）			配置職員（非常勤職員）	
林長	教授	鎌田直人				
林長補佐	講師	広嶋卓也 2020/12/31 まで				
教育研究主任	助教	福井 大				
	助教	鈴木智之				
主査	主査	加藤康洋				
技術主任	技術専門職員	松井理生				
技術副主任	技術専門員	犬飼 浩				
庶務チーム	係長	横山和宏	主任	天山 学	事務補佐員	穴澤三恵子
会計チーム	係長	米田久和	一般職員	橋場 唯		
資産管理チーム	係長	岡田教和				
企画調整係主任	技術専門職員	松井理生(兼)	技術専門職員	算用子麻未 (育児休業) 2020/4/24 まで		
調査資料係主任	技術専門員	井口和信	技術専門職員	小川 瞳	技能補佐員	犬飼雅子 2020/5/1 から 2020/10/31 まで
			技術専門職員	犬飼慎也	技能補佐員	中村朝子 2020/5/1 から 2020/10/31 まで
種苗造林係主任	技術専門職員	木村徳志	技術専門職員	岡平卓巳		
造林資料係主任	技術専門員	犬飼 浩(兼)	技術専門職員	宅間隆二		
生産販売係主任	技術専門員	犬飼 浩(兼)			特任専門職員	片平可奈
土木生産係 (土木担当) 主任	技術専門職員	及川 希	技術専門職員	遠國正樹		
土木生産係 (生産担当) 主任	技術専門職員	井上 崇	技術専門職員	高橋功一		
			技術職員	木村恒太		
			技術職員	小林徹行		
調査第一係主任	技術専門職員	中川雄治	技術専門職員	福士憲司		
			技術職員	江口由典		
			技術職員	平間睦樹		
調査第二係主任	技術専門職員	小池征寛	技術専門職員	笠原久臣		
			技術専門職員	大川あゆ子		
			特任専門職員	佐藤晴樹		
試験係			教授	鎌田直人		
			講師	広嶋卓也 2020/12/31 まで		
			助教	福井 大		
			助教	鈴木智之		
樹木園主任	技術専門職員	福岡 哲	技術職員	廣田善己	技能補佐員	中坪優子 2020/4/1 から 2020/11/30 まで
					技能補佐員	安藤佳子 2020/4/1 から 2020/11/30 まで
					技能補佐員	安藤雅恵 2020/4/1 から 2020/11/30 まで
セミナーハウス						
施設長	教授	鎌田直人	一般職員	横山和宏(兼)	特任専門職員	杉原時子
					技能補佐員	望月 睦
					技能補佐員	松村裕美 2020/5/1 から 2020/10/31 まで

## 3) 秩父演習林

組織（主任職員）			配置職員（教職員）		配置職員（非常勤職員）	
林長	教授	山田利博			特任研究員	梅林利弘
林長補佐	講師	平尾聡秀				
教育研究主任	講師	浅野友子				
試験係主任	助教	坂上大翼				
事務室	専門員	大村 栄	係長	三宅順一	特任専門職員	浅見美津子
					(2020/9/30 まで)	
			主任	渡邊幸司	事務補佐員	平沼かやの
			一般職員	亀原弥生		
技術主任	技術専門員	大村和也			特任専門職員	富沢貴志
森林管理 チーム主任	技術専門員	千嶋武	技術専門職員	高野充広		
			技術専門職員	原口竜成		
			技術専門職員	齋藤俊浩 (兼)		
			技術専門職員	磯崎靖雄 (兼)		
利用促進 チーム主任	技術専門職員	高德佳絵	技術専門職員	才木道雄	技術補佐員	新井容子
			技術専門職員	吉田弓子	技術補佐員	濱田邦子
作業所 チーム主任	技術専門職員	齋藤俊浩	技術専門職員	磯崎靖雄	特任専門職員	山中五郎
					特任専門職員	山中淑子
影森苗畑主任	技術専門員	大村和也 (兼)				

## 4) 田無演習林

組織（主任職員）			配置職員（教職員）		配置職員（非常勤職員）		
林長	教授	石橋整司					
林長補佐	助教	竹本周平					
教育研究主任	助教	竹本周平					
技術主任	技術専門職員	相川美絵子	技術専門員	栗田直明	技能補佐員	川村 啓	
						特任研究員	梅林利弘
						特任専門職員	石浦恭子

## 5) 生態水文学研究所

組織（主任職員）			配置職員（教職員）		配置職員（非常勤職員）	
所長	准教授	安村直樹				
所長補佐	助教	田中延亮				
教育研究主任	助教	水内佑輔	助教	田中延亮（兼）	特任専門職員	加藤敦美
教育研究係主任			特任助教	佐藤貴紀	学術支援職員	黒木里香（兼）
			技術専門職員	丹羽悠二	特任研究員	アナンナイナール (2020/12/31 まで)
			技術職員	岸本光樹	特任研究員	ファラナクランゲルディモイン (2021/1/1 から)
			技術職員	梁瀬桐子（兼）		
過去データ管理室	助教	田中延亮	助教	水内佑輔（兼）	学術支援職員	加藤純子
					学術支援職員	黒木里香
					特任専門職員	加藤敦美（兼）
事務主任	事務室係長	平野圭二			特任専門職員	加藤正勝
					学術支援職員	田中智子
技術主任	技術専門職員	澤田晴雄				
技術副主任	技術専門職員	井上 淳	技術職員	梁瀬桐子	学術支援職員	渡辺平和
研究林管理係主任			技術職員	岸本光樹（兼）	用務補佐員	橋本 聖
環境安全推進室	事務室係長	平野圭二	技術専門職員	井上 淳（兼）		

## 6) 富士癒しの森研究所

組織（主任職員）			配置職員（教職員）		配置職員（非常勤職員）	
所長	講師	齋藤暖生				
所長補佐	助教	藤原章雄				
		(2020/11/30 まで)				
	助教	三浦直子				
		(2020/12/1 から)				
教育研究主任	助教	藤原章雄				
		(2020/11/30 まで)				
	助教	三浦直子				
		(2020/12/1 から)				
技術主任	技術専門職員	西山教雄	技術専門職員	西山教雄（兼）	用務補佐員	高村史香
技術主任補佐	技術専門職員	辻 良子	技術専門職員	辻 良子（兼）	特任専門職員	齋藤純子

## 7) 樹芸研究所

組織（主任職員）		配置職員（教職員）		配置職員（非常勤職員）	
所長	准教授	鴨田重裕			
所長補佐	助教	井上広喜			
教育研究係					
教育研究主任	助教	井上広喜			
技術係					
技術主任	技術専門職員	村瀬一隆			
	教育研究支援チーム	技術専門職員	辻 和明	技能補佐員	大島浩子
				技能補佐員	須田常仁
	森林管理チーム	技術専門員	渡邊良広		
		技術職員	千井野聡		
事務係					
		技術専門職員	辻 和明（兼）	事務補佐員	進士真理子

## 8) 企画部・教育研究センター

組織（主任職員）		配置職員（教職員）		配置職員（非常勤職員）	
演習林長	教授	福田健二			
企画部					
部長	教授	蔵治光一郎		特任専門職員	柴田ゆう子
統括技術長	技術専門職員	五十嵐勇治			
教育研究センター					
センター長	准教授	後藤 晋	准教授	鴨田重裕(兼)	事務補佐員
			助教	前原 忠	小林ひとみ
			助教	三浦直子	
			(2020/11/30 まで)		
			助教	藤原章雄	
			(2020/12/1 から)		
技術主任	技術専門職員	里見重成	技術専門職員	近澤静恵	
農学系事務部					
事務部長	熊澤鉄也	研究支援チーム			
総務課長	服部 斎	副課長	藤田英子		
経理課長	吉泉浩二	係長	大溝真由美		
教務課長	瀧口昭江				
国際化推進支援 担当課長	青木一恵	他事務部各係			
学生等			氏名		
博士3年	サイフル・アムリ・サラギー				
博士3年	チョー・トゥー・モー				
博士3年	ヴィージェナイカ・パビトラ・ランガニー				
博士1年	陳 淑芬				
博士1年	牧 貴大				
博士1/2年	ペイ・フィチン				
修士2年	谷川 鴻介				
修士2年	野中 佳祐				
修士2年	林 子愷				
修士2年	須谷 未菜				
修士2年	陸 黎駿				
修士2年	厲 園園				
修士2年	劉 立航				
修士1年	塚本 宝				
修士1年	吉田 拓矢				
修士1年	パイン・エー・ミヤツ・ミヤツ				
修士1年	稲田 涼吾				
修士1年	三宮 望				
修士1年	徐 喬逸				
修士1年	陳 田				
修士1年	劉 馨遙				
修士1年	潘 濟楚				
学部4年	竹内 虎輔				
学部4年	森川 周				

---

学生	氏名
研究生	崔 惟怡
研究生	クリスティアン・アンドレアス・アデ
研究生	戴 健平
研究生	陳 悦如
研究生	蔡 寧馨
研究生	高 涵
研究生	查 世昊
研究生	関 樹仁
研究生	イブティサム・ビンティ・ムハンマド・ガウス
特別聴講学生	陳 方怡

---

## 9. 人事

日付	異動	新所属・職名		氏名	旧所属・職名	
2020.4.1	勤務換	田無演習林	林長	石橋整司	生態水文学研究所	所長
2020.4.1	勤務換	生態水文学研究所	所長	安村直樹	田無演習林	林長
2020.4.1	勤務換	秩父演習林	技術専門職員	磯崎靖雄	北海道演習林	技術専門職員
2020.4.1	勤務換	北海道演習林	技術専門職員	中川雄治	秩父演習林	技術専門職員
2020.4.1	勤務換	教育研究センター	技術専門職員	里見重成	生態水文学研究所	技術専門職員
2020.4.1	勤務換	生態水文学研究所	技術専門職員	丹羽悠二	教育研究センター	技術専門職員
2020.4.1	勤務換	樹芸研究所	技術専門職員	辻 和明	富士癒しの森研究所	技術専門職員
2020.4.1	勤務換	富士癒しの森研究所	技術専門職員	辻 良子	樹芸研究所	技術専門職員
2020.4.1	昇任	千葉演習林	技術専門員	鶴見 康幸	千葉演習林	技術専門職員
2020.4.1	昇任	秩父演習林	技術専門員	千嶋 武	秩父演習林	技術専門職員
2020.4.1	昇任	北海道演習林	技術専門職員	遠國 正樹	北海道演習林	技術職員
2020.4.1	昇任	千葉演習林	技術専門職員	吉田 明子	千葉演習林	技術職員
2020.4.25	育休復帰	北海道演習林	技術専門職員	算用子麻未		
2020.10.1	配置換	動物医療センター	係長	三宅順一	秩父演習林	係長
2020.10.1	配置換	秩父演習林	主任	渡邊幸司	動物医療センター	主任
2020.10.1	育休			三次充和	千葉演習林	技術専門職員
2020.11.1	育休復帰	千葉演習林	技術専門職員	三次充和		
2020.12.1	勤務換	教育研究センター	助教	藤原章雄	富士癒しの森研究所	助教
2020.12.1	勤務換	富士癒しの森研究所	助教	三浦直子	教育研究センター	助教
2021.1.1	昇任	農学国際専攻	准教授	廣嶋卓也	北海道演習林	講師
2021.2.5	育休			木村恒太	北海道演習林	技術職員
2021.3.1	育休復帰	北海道演習林	技術職員	木村恒太		
2021.3.31	免			福田健二	演習林長	教授
2021.3.31	定年退職	(2021.4.1～) 千葉演習林	(2021.4.1～) 一般職員 (再雇用)	野山 智	千葉演習林	主任

## 10. 委員会・会議等

### 1) 演習林規則に則って開催された委員会・会議

運営委員会	演習林規則第5条により設置されている演習林の管理および運営に関する最高議決機関である。委員は演習林の教授・准教授のほか研究科長が推薦する研究科の教授または准教授（10名以内）と演習林統括技術長、研究科事務部長であり、演習林長が委員長を務める。今年度は2021年3月17日（水）にオンラインで開催し、地方演習林と常置委員会を軸とする演習林の管理および運営に関する重要事項の審議を行った。
演習林会議	演習林規則第6条により設置されている演習林の管理および運営の実務に関する事項を審議決定する機関である。議員は演習林長、演習林長補佐、演習林所属の教授、准教授、講師、演習林統括技術長のほか演習林長が必要と認めた者となる（今年度は研究科総務附属施設担当副課長が指名された）。演習林長が議長を務める。原則として毎月1回（8月を除く）教授会開催日の前日に開催する。今年度は11回オンラインまたはハイブリッドで開催した。

### 2) その他委員会・会議

技術主任会議	統括技術長と地方演習林技術主任により、森林管理・技術主任組織等に関する諸問題を検討する。今年度は7月31日（金）にオンラインで開催し、同日に事務担当者・技術主任合同会議を開催した。
事務担当者連絡会議	大学院農学生命科学事務担当者による会議であり、地方演習林事務担当者を含めて事務処理遂行上の問題点等について報告、意見交換を行う。隔年（偶数年度）に開催され、今年度は開催される年に当たっていたが、開催されず、その理由についても説明されなかった。
技術職員等試験研究・研修会議	技術職員等による研究報告と情報交換、技術研修等を目的に年1回開催する。今年度は12月1日（火）にオンラインで開催した。
演習林編集委員会	「東京大学農学部演習林報告」と「演習林」の編集発行を行っている。委員は演習林の教授・准教授のほか関連専攻から推薦された教授・准教授と編集委員長が指名する者となる。原則として奇数月に開催し、今年度は6回開催した。
科学の森ニュース編集委員会	広報誌「科学の森ニュース」の編集に当たっている。必要に応じて電子メールのやり取りを中心に編集作業を行ってきたが、今年度は科学の森ニュースの編集のタイミングに合わせ3ヵ月に1回合計4回のオンライン会議を開催した。
ネットワーク委員会	演習林内のネットワークに関する問題の対応、メールアドレス管理等のほか、研究科マルチメディア委員会の対応等を行っている。

## 11. 利用状況

## 1) 千葉演習林

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
1	4	13	鴨川市有害鳥獣対策協議会				13	13	有害鳥獣捕獲	日帰り
2	4	3	千葉県環境生活部大気保全課				4	4	化学物質大気環境調査	日帰り
3	4	1	千葉大学大学院理学研究院	1				1	地震に関連する電磁気現象の観測学的研究（観測点の視察）	日帰り
4	4	1	鴨川市役所市民交流課				4	4	地域おこし協力隊着任挨拶	日帰り
5	4	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科						シカの強度影響下における広葉樹二次林の修復可能性～土壌機能からの検証～	
6	4	2	千葉県立中央博物館生態学・環境研究科						カシノナガキクイムシの生態調査、房総丘陵における清澄山系の昆虫相の特異性	
7	5	2	千葉県環境生活部大気保全課				2	2	化学物質大気環境調査	日帰り
8	5	16	鴨川市有害鳥獣対策協議会				16	16	有害鳥獣捕獲	日帰り
9	5	2	千葉県立中央博物館生態学・環境研究科						カシノナガキクイムシの生態調査、房総丘陵における清澄山系の昆虫相の特異性	
10	5	1	森林総合研究所林木育種センター遺伝資源部探索収集課分類同定研究室						コウヨウザンの遺伝変異解析のための新葉のサンプリング	
11	6	20	鴨川市有害鳥獣対策協議会				20	20	有害鳥獣捕獲	日帰り
12	6	2	千葉県環境生活部大気保全課				2	2	化学物質大気環境調査	日帰り
13	6	1	千葉大学大学院理学研究院	1				1	地震に関連する電磁気現象の観測学的研究（観測点の視察）	日帰り
14	6	3	千葉県立中央博物館生態学・環境研究科	6				6	カシノナガキクイムシの生態調査、房総丘陵における清澄山系の昆虫相の特異性	日帰り
15	6	1	慶応義塾大学・生物学教室	1				1	森林性両生類の生息モニタリングおよび生態特性に関する調査	日帰り
16	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻	1				1	酢酸溶液施用によるスギ苗の乾燥耐性機構の解明とコンテナ育苗技術への応用	日帰り
17	7	14	鴨川市有害鳥獣対策協議会				14	14	有害鳥獣捕獲	日帰り
18	7	2	千葉県環境生活部大気保全課				2	2	化学物質大気環境調査	日帰り
19	7	11	千葉県環境生活部大気保全課				11	11	ダイオキシン類に係る大気環境調査	日帰り
20	7	3	千葉県立中央博物館生態学・環境研究科	8				8	カシノナガキクイムシの生態調査、房総丘陵における清澄山系の昆虫相の特異性	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
21	7	14	東京大学大学院新領域創成科学研究科			14		14	マダニ媒介感染症の制御に向けた新戦略-感染症生態学によるリスクの特定と予測-	清澄宿泊施設2
22	7	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科			1		1	マダニ媒介感染症の制御に向けた新戦略-感染症生態学によるリスクの特定と予測-	
23	7	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科			1		1	絶滅危惧樹木のための菌根菌活用型育苗技術の開発-ヤクタネゴヨウの事例から-	
24	7	1	箱根植木株式会社				3	3	造園植栽地を用いた植物の域外保全技術に関する研究	日帰り
25	7	1	日本大学文理学部生命科学科	1				1	ヒメコマツの実生定着に寄与する外生菌根菌種の解明	日帰り
26	7	1	森林総合研究所木育種センター遺伝資源部・探索収集課				4	4	コウヨウザン及びユリノキの成長・遺伝変異の解明、優良系統の選抜	日帰り
27	7	1	東京大学森林科学専攻森林理水及び砂防工学研究室	2		1		3	新田・袋山沢における水文観測	日帰り
28	7	1	茨城大学農学部食生命科学科	1				1	シバヤナギに形成される虫えい（ゴール）の形成機構の解明	日帰り
29	7	1	千葉大学大学院理学研究院	1				1	地震に関連する電磁気現象の観測学的研究（観測点の視察）	日帰り
30	8	18	鴨川市有害鳥獣対策協議会				18	18	有害鳥獣捕獲	日帰り
31	8	2	千葉県環境生活部大気保全課				2	2	化学物質大気環境調査	日帰り
32	8	6	東京大学理学研究科・地球惑星科学専攻	15	80	5		100	東京大学地球環境科学科野外調査実習(1)	清澄宿泊施設
33	8	1	東京大学理学研究科・地球惑星科学専攻	3	16	1		20	東京大学地球環境科学科野外調査実習(1)	日帰り
34	8	1	演習林教育研究センター	1		1		2	温暖地に移植したダケカンバの成長・生理特性の解明	日帰り
35	8	1	演習林教育研究センター	1				1	温暖地に移植したモミ属樹木の乾燥ストレスに対する形態性応答と遺伝子発現	日帰り
36	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科・森林植物学研究室	1		1		2	スギと共生するアーバスキュラー菌根菌に関する研究	日帰り
37	8	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科			1		1	シカの強度影響下における広葉樹二次林の修復可能性～土壌機能からの検証～	日帰り
38	8	2	グリーン航業株式会社				6	6	林野庁の委託事業である森林生態系多様性基礎調査の現地調査	日帰り
39	8	2	千葉県立中央博物館生態学・環境研究科	5				5	カシノナガキイムシの生態調査、房総丘陵における清澄山系の昆虫相の特異性	日帰り
40	8	1	慶応義塾大学・生物学教室	1				1	千葉演習林内に発生するきのご類の多様性の解明とDNAデータベースの構築	清澄宿泊施設2
41	8	1	慶応義塾大学・生物学教室	1				1	千葉演習林内に発生するきのご類の多様性の解明とDNAデータベースの構築	日帰り

## 2020年度 資料

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
2	8	5	国立環境研究所/生物・生態系環境研究センター				10	10	温暖化に伴う植物の分布シフトの実態を明らかにする	清澄宿泊施設2
43	8	1	国立環境研究所/生物・生態系環境研究センター				2	2	温暖化に伴う植物の分布シフトの実態を明らかにする	日帰り
44	8	1	住化エンバイロメンタルサイエンス((株))研究開発本部				1	1	研究成果報告	日帰り
45	8	1	箱根植木株式会社				2	2	造園植栽地を用いた植物の域外保全技術に関する研究	日帰り
46	8	1	千葉大学大学院理学研究院	1				1	地震に関連する電磁気現象の観測学的研究(保守作業)	日帰り
47	8	1	茨城大学農学部食生命科学科	1				1	シバヤナギに形成される虫えい(ゴール)の形成機構の解明	日帰り
48	9	16	鴨川市有害鳥獣対策協議会				16	16	有害鳥獣捕獲	日帰り
49	9	2	千葉県環境生活部大気保全課				2	2	化学物質大気環境調査	日帰り
50	9	1	東京大学森林科学専攻森林理水及び砂防工学研究室	1				1	新田・袋山沢における水文観測と測量	日帰り
51	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林						農学部 生物素材科学専修「バイオマス科学実習」・木質構造科学専修「自然科学実習」	
52	9	1	千葉県立中央博物館生態学・環境研究科	2				2	房総丘陵における清澄山系の昆虫相の特異性	日帰り
53	9	1	千葉県立中央博物館生態学・環境研究科	3				3	カシノナガキイムシの生態調査、房総丘陵における清澄山系の昆虫相の特異性	日帰り
54	9	3	京都大学大学院理学研究院地球惑星科学専攻	5		3		8	房総半島中部に分布する中部更新統長南層に見られる多重逆級化構造の形成過程復元	清澄宿泊施設
55	9	7	京都大学大学院理学研究院地球惑星科学専攻	3		7		10	房総半島中部に分布する中部更新統長南層に見られる多重逆級化構造の形成過程復元	清澄宿泊施設2
56	9	3	京都大学大学院理学研究院地球惑星科学専攻			1		1	房総半島中部に分布する中部更新統長南層に見られる多重逆級化構造の形成過程復元	日帰り
57	9	1	千葉大学大学院理学研究院	1				1	地震に関連する電磁気現象の観測学的研究(保守作業)	日帰り
58	9	2	森林総合研究所木育種センター遺伝資源部・探索収集課				6	6	千葉演習林のカギカズラの栽培と利用	日帰り
59	9	4	千葉大学理学研究院地球科学	4	29	6		39	理学部地球科学科選択必修科目(地質学野外実験2、地殻構造学野外実験1)	日帰り
60	10	17	鴨川市有害鳥獣対策協議会				18	18	有害鳥獣捕獲	日帰り
61	10	1	千葉演習林ボランティア会 Abies				2	2	どんぐり・ハーバリウム活動	日帰り
62	10	11	東京大学大学院新領域創成科学研究科			11		11	マダニ媒介感染症の制御に向けた新戦略-感染症生態学によるリスクの特定と予測-	清澄宿泊施設2

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
63	10	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科			1		1	マダニ媒介感染症の制御に向けた新戦略-感染症生態学によるリスクの特定と予測-	日帰り
64	10	1	岩手大学人文社会科学部			1		1	研究下見（木質バイオマス生産などの可能性検討）	日帰り
65	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科・森林植物学研究室	1				1	スギと共生するアーバスキュラー菌根菌に関する研究	日帰り
66	10	2	森林総合研究所木育種センター遺伝資源部・探索収集課				6	6	コウヨウザン及びユリノキの成長・遺伝変異の解明、優良系統の選抜	日帰り
67	10	2	千葉県立中央博物館生態学・環境研究科	5				5	カシノナガキクイムシの生態調査、房総丘陵における清澄山系の昆虫相の特性	日帰り
68	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林	1				1	研究利用の相談と下見（ナラ枯れが甲虫相、主にカミキリムシ類に及ぼす影響を明らかにするため、ナラ枯れの履歴の異なる3演習林（千葉・生水・樹芸）で比較研究	日帰り
69	10	5	東京大学大学院新領域創成科学研究科	3		4 (4)		7 (4)	シカの強度影響下における広葉樹二次林の修復可能性～土壌機能からの検証～	清澄宿泊施設2
70	10	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科	1		2 (2)		3 (2)	シカの強度影響下における広葉樹二次林の修復可能性～土壌機能からの検証～	日帰り
71	10	6	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻森圏管理学研究室			6		6	温帯から亜寒帯域における木本性つる植物の葉と木質形質の変異の解明	清澄宿泊施設
72	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻森圏管理学研究室			1		1	温帯から亜寒帯域における木本性つる植物の葉と木質形質の変異の解明	日帰り
73	10	1	箱根植木株式会社				3	3	造園植栽地を用いた植物の域外保全技術に関する研究	日帰り
74	10	3	有限会社コモエスタ				9	9	NHK「美の壺」キノコ撮影	日帰り
75	10	2	千葉県環境生活部大気保全課				2	2	化学物質大気環境調査	日帰り
76	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻	3		18 (4)		21 (4)	生圏システム学特論	日帰り
77	10	1	大成建設技術センター都市基盤技術研究部環境研究室修復保全チーム				1	1	種内倍数性を持つ緑化植物の遺伝的多様性保全に関する研究	日帰り
78	10	1	千葉県立中央博物館庶務部企画調整課				1	1	千葉演習林の大型菌類（きのこ類）相	日帰り
79	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林	6		5 (5)		11 (5)	森林圏生態社会学研究室ゼミ	清澄宿泊施設
80	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林	6		5 (5)		11 (5)	森林圏生態社会学研究室ゼミ	日帰り
81	10	1	附属演習林教育研究センター			2 (2)		2 (2)	全国スケールでの相互移植による気候変動に対する北方樹木ダケカンバの応答解明	日帰り

2020年度 資料

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
82	10	1	グリーン航業株式会社				2	2	林野庁から受託した令和2年度森林吸収源インベントリ情報整備事業「森林経営」象森林調査（現地調査業務）（関東ブロック）の現地調査として、立木の本数、樹高、直径等の計測を行うことを目的とする。	日帰り
83	10	1	東京農業大学生命科学部分子生命科学科	2			1	3	演習林内に産するキヒダキワタゲテングタケ（仮）の生理活性成分に関する研究とコウヤクタケ科のきのこの成分に関する研究	日帰り
84	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	3	9			12	全学体験ゼミ「森のエネルギーをつかひこなす」	日帰り
85	11	16	鴨川市有害鳥獣対策協議会				17	17	有害鳥獣捕獲	日帰り
86	11	1	千葉大学大学院理学研究院	1	1			2	地震に関連する電磁気現象の観測学的研究（保守作業）	日帰り
87	11	2	千葉県環境生活部大気保全課				2	2	化学物質大気環境調査	日帰り
88	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	3	8			11	全学体験ゼミ「森のエネルギーをつかひこなす」	日帰り
89	11	2	千葉県立中央博物館生態学・環境研究科	5				5	カシノナガキクイムシの生態調査、房総丘陵における清澄山系の昆虫相の特異性	日帰り
90	11	1	鴨川市教育委員会生涯学習課				14	14	鴨川市・東京大学交流事業「野鳥の巣箱をかけよう！（巣箱作り編）」	日帰り
91	11	1	千葉県立中央博物館庶務部企画調整課	1			2	3	千葉演習林の大型菌類（きのこ類）相	日帰り
92	11	10	東京大学大学院新領域創成科学研究科			8 (8)		8 (8)	シカの強度影響下における広葉樹二次林の修復可能性～土壌機能からの検証～	清澄宿泊施設2
93	11	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科	2		5 (3)		7 (3)	シカの強度影響下における広葉樹二次林の修復可能性～土壌機能からの検証～	日帰り
94	11	4	京都大学大学院理学研究院	8		4 (4)		12 (4)	房総半島に分布する安野層のタービダイト単層解析に基づいた混濁流水利条件の逆解析	清澄宿泊施設
95	11	1	京都大学大学院理学研究院	2		1 (1)		3 (1)	房総半島に分布する安野層のタービダイト単層解析に基づいた混濁流水利条件の逆解析	日帰り
96	11	2	森林総合研究所木育種センター遺伝資源部・探索収集課	6				6	コウヨウザン及びユリノキの成長・遺伝変異の解明、優良系統の選抜	日帰り
97	11	1	東京大学大学院農学生命圏システム学専攻	2	7			9	フィールド科学専修・森林管理学実習	日帰り
98	11	1	君津市教育委員会生涯学習文化課	5			18	23	君津市立坂畑小学校スクールミュージアム自然観察会	日帰り
99	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林						農学基礎科学「森林環境科学汎論」	

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
100	12	20	鴨川市有害鳥獣対策協議会				20	20	有害鳥獣捕獲	日帰り
101	12	1	箱根植木株式会社				3	3	造園植栽地を用いた植物の域外保全技術に関する研究	日帰り
102	12	2	千葉県立中央博物館生態学・環境研究科	4				4	カシノナガキクイムシの生態調査、房総丘陵における清澄山系の昆虫相の特異性	日帰り
103	12	2	千葉県環境生活部大気保全課				2	2	化学物質大気環境調査	日帰り
104	12	2	国立研究開発法人産総研地質調査総合センター 地質情報研究部門	2				2	国の基本図5万分の1地質図幅「大多喜」作成のための地質調査	日帰り
105	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部	1				1	教養学部総合科目「森林環境資源学」現地実習	清澄宿泊施設2
106	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部	1	24			25	教養学部総合科目「森林環境資源学」現地実習	日帰り
107	12	1	千葉大学大学院理学研究院	1				1	地震に関連する電磁気現象の観測学的研究（保守作業）	日帰り
108	12	1	千葉大学大学院理学研究院	4				4	地震に関連する電磁気現象の観測学的研究（保守作業および実験）	日帰り
109	12	2	森林総合研究所木育種センター遺伝資源部・探索収集課				10	10	コウヨウザン及びユリノキの成長・遺伝変異の解明、優良系統の選抜	日帰り
110	12	2	東京大学理学系研究科附属植物園	1	1			2	物理的構造によって青色を発色する果実の適応的意義の解明	日帰り
111	12	2	東京大学大学院農学生命科学研究科・森林植物学研究室	2				2	スギと共生するアーバスキュラー菌根菌に関する研究（立木位置の測量）	
112	12	1	農学生命科学研究科森林科学専攻森林理水及び砂防工学研究室	2		1		3	森林流域における流量・水質の形成要因についての研究	日帰り
113	12	1	株式会社 野生動物保護管理事務所本社調査事業部				3	3	千葉県発注「令和2年度ニホンジカ・キョン生息状況調査業務委託」のための糞粒調査	日帰り
114	12	1	千葉県農林水産部森林課				10	10	40年生コウヨウザンの成長量の観察とモミ・ツガ林の観察	日帰り
115	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林						オンライン実習	
116	12	1	清澄地区地域おこし協力隊				2	2	地域協力活動として実施するワークショップのリース作りや工房きよすみ&カフェで販売するリースの材料として木の実を採集。	日帰り
117	12	1	日本森林技術協会				2	2	林野庁委託事業協議	日帰り
118	12	1	株式会社セブンオクス・パブリッシング				2	2	農水省WEBマガジン制作に関わる久本先生への取材	日帰り
119	1	15	鴨川市有害鳥獣対策協議会				22	22	有害鳥獣捕獲	日帰り
120	1	8	千葉県環境生活部大気保全課				10	10	ダイオキシン類に係る大気環境調査	日帰り

## 2020年度 資料

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
121	1	2	千葉県環境生活部大気保全課				2	2	化学物質大気環境調査	日帰り
122	1	1	千葉大学大学院理学研究院	1				1	地震に関連する電磁気現象の観測学的研究（保守作業）	日帰り
123	1	1	株式会社弘旬館「みどりの風」						セブーン・イレブン記念財団広報誌「みどりの風」2021年春号取材のため	
124	1	1	東京大学理学系研究科附属植物園						物理的構造によって青色を発色する果実の適応的意義の解明	
125	2	14	鴨川市有害鳥獣対策協議会				15	15	有害鳥獣捕獲	日帰り
126	2	2	千葉県環境生活部大気保全課				2	2	化学物質大気環境調査	日帰り
127	2	1	千葉大学大学院理学研究院	1				1	地震に関連する電磁気現象の観測学的研究（保守作業）	日帰り
128	2	1	慶応義塾大学・生物学教室						森林性両生類の長期生息モニタリングおよび生態特性に関する研究	
129	3	17	鴨川市有害鳥獣対策協議会				17	17	有害鳥獣捕獲	日帰り
130	3	1	千葉大学大学院理学研究院	1				1	地震に関連する電磁気現象の観測学的研究（保守作業）	日帰り
131	3	2	千葉県環境生活部大気保全課				2	2	化学物質大気環境調査	日帰り
132	3	2	森林総合研究所木育種センター遺伝資源部・探索収集課				4	4	コウヨウザンの成長・遺伝変異の解明、優良系統の選抜	日帰り
133	3	2	東京大学大学院新領域創成科学研究科						シカの強度影響下における広葉樹二次林の修復可能性～土壌機能からの検証～	
134	3	1	千葉演習林	2			5	7	ボランティア会 Abies 役員会	日帰り
135	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林						オンライン授業	
136	3	2	東京大学大学院新領域創成科学研究科			2		2	シカの強度影響下における広葉樹二次林の修復可能性～土壌機能からの検証～	日帰り
137	3	1	東京大学農学系経理課施設整備チーム	6				6	千葉演習林際学復旧工事・清澄学生宿舎改修工事完成検査	清澄宿泊施設
138	3	1	東京大学農学系経理課施設整備チーム	6				6	千葉演習林際学復旧工事・清澄学生宿舎改修工事完成検査	日帰り

※括弧内の数値は外国人利用数を示す

利用者数合計 859  
(41)  
利用件数 138

## 2) 北海道演習林

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
1	4	30	東京大学農学部（マレーシア サバ大学）		60			60	研究インターン（科研費研究補助：マレーシアで採集したサンプルの解析）	山部国際宿泊施設
2	4	3	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物研究室			3		3	暗色雪腐病菌の伝播・繁殖様式の解明	山部宿泊施設
3	4	20	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター			20 (20)		20 (20)	樹木に寄生するアブノミヤドリ類の攻撃性に関する研究	山部宿泊施設
4	4	3	北海道地方環境事務所				4	4	猛禽類の保護増殖事業に関わる猛禽類生息状況調査及び巣箱の状況調査・保守	日帰り
5	4	1	北海道旭川建設部富良野出張所				19	19	「麓郷山部停車場線地道債（交安）工事環境調査」委託業務における環境調査	日帰り
6	4	1	東京大学農学部（マレーシア サバ大学）		2			2	研究インターン（科研費研究補助：マレーシアで採集したサンプルの解析）	山部国際宿泊施設
7	5	31	東京大学農学部（マレーシア サバ大学）		62			62	研究インターン（科研費研究補助：マレーシアで採集したサンプルの解析）	山部国際宿泊施設
8	5	31	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター			31 (31)		31 (31)	樹木に寄生するアブノミヤドリ類の攻撃性に関する研究	山部国際宿泊施設
9	6	30	東京大学農学部（マレーシア サバ大学）		60			60	研究インターン（科研費研究補助：マレーシアで採集したサンプルの解析）	山部国際宿泊施設
10	6	30	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター			30 (30)		30 (30)	樹木に寄生するアブノミヤドリ類の攻撃性に関する研究	山部国際宿泊施設
11	6	1	富良野市生涯学習センター				17	17	森林学習プログラム推進事業	日帰り
12	6	1	北海道立総合研究機構 林業試験場	3		1		4	水資源開発・管理のための支援システム「水資源 Navi」の開発	宿泊なし
13	7	31	東京大学農学部（マレーシア サバ大学）		62			62	研究インターン（科研費研究補助：マレーシアで採集したサンプルの解析）	山部国際宿泊施設
14	7	31	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター			31 (31)		31 (31)	樹木に寄生するアブノミヤドリ類の攻撃性に関する研究	山部国際宿泊施設
15	7	2	北海道立総合研究機構 林業試験場	2				2	コノハズクの生息調査	山部宿泊施設
16	7	3	東京大学大学院新領域創成科学研究科自然環境学専攻	3			4	7	次世代の自然風景地の保護	山部宿泊施設
17	7	3	富良野市生涯学習センター	6	2		27	35	森林学習プログラム推進事業	日帰り
18	7	1	北海道新聞社富良野支局				1	1	樹海小森林学習の取材	日帰り
19	7	3	名古屋大学大学院生命農学研究科		3	6		9	RAD シーケンシングを用いたブナのゲノムワイド関連解析	山部宿泊施設

2020年度 資料

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
20	8	31	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター			31 (31)		31 (31)	樹木に寄生するアブノミキイムシ類の攻撃性に関する研究	山部国際宿泊施設
21	8	1	北海道立総合研究機構建築研究本部	13			8	21	富良野の高校生による水源探訪フィールドワーク	日帰り
22	8	1	北海道大学農学部生態系管理学研究室	3	1	1		5	気候変動下における河川生態系のレジリエンス	日帰り
23	8	8	北海道大学地球環境科学院			24		24	河川環境が水族寄生虫相に及ぼす影響についての研究	山部宿泊施設
24	8	1	上川農業改良普及センター富良野支所	13				13	東大演習林の視察研修	日帰り
25	8	1	北海道立総合研究機構林業試験場	2				2	水資源開発・管理のための支援システム「水資源 Navi」の開発	日帰り
26	8	3	(株)三共コンサルタント				9	9	森林生態系多様性基礎調査	日帰り
27	8	1	北海道立総合研究機構林業試験場	3				3	水資源開発・管理のための支援システム「水資源 Navi」の開発	日帰り
28	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	1	1	2	6	10	ワン・アソロジー I	宿泊なし
29	8	2	北海道大学大学院環境フロンティアコース	2		4 (2)		6 (2)	風倒撓乱とその後の管理法が北方林の回復力に与える複合的影響	山部宿泊施設
30	9	30	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター			30 (30)		30 (30)	樹木に寄生するアブノミキイムシ類の攻撃性に関する研究	山部国際宿泊施設
31	9	2	富良野市生涯学習センター	18		2	35	55	森林学習プログラム推進事業	日帰り
32	10	31	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター			31 (31)		31 (31)	樹木に寄生するアブノミキイムシ類の攻撃性に関する研究	山部国際宿泊施設
33	10	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林	6				6	キクイムシと共生菌及び植物ストレスに関する研究	山部宿泊施設
34	10	1	富良野市生涯学習センター	4			12	16	森林学習プログラム推進事業	日帰り
35	10	1	酪農学園とわの森三愛高校	2			17	19	道内研修	日帰り
36	10	1	はやし内科医胃腸科小児科医院				2	2	林静一郎川、林静一郎山の見学	日帰り
37	10	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	6				6	丸山沢水量堰のメンテナンスとデータ整理方法の確認	山部宿泊施設
38	10	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター	3		2	2	7	長距離ジーンフローが卓越する針葉樹でなぜ高標高エコタイプが存在しうるのか	山部宿泊施設
39	10	3	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物研究室		3			3	暗色雪腐病菌の伝播・繁殖様式の解明	山部宿泊施設

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
40	10	1	北海道森林管理局網走中部森林管理署	11				11	北海道林研 現場体験プログラム	日帰り
41	10	3	北海道立総合研究機構 林業試験場	15				15	水資源開発・管理のための支援システム「水資源 Navi」の開発	宿泊なし
42	11	30	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター			30 (30)		30 (30)	樹木に寄生するアブラコキムシ類の攻撃性に関する研究	山部国際 宿泊施設
43	11	3	東京大学大学院新領域創成科学研究科			3 (3)		3 (3)	シナノキ属の菌根共生に関する研究	山部宿泊 施設
44	11	3	東京大学大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻	4		3 (3)	1	8 (3)	グイマツ雑種 F1 (クリーンラーチ) のゲノム選抜	山部宿泊 施設
45	12	31	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター			31 (31)		31 (31)	樹木に寄生するアブラコキムシ類の攻撃性に関する研究	山部国際 宿泊施設
46	12	1	森林総合研究所	1				1	カバノキ類の着花結実動態に関する研究調査	日帰り
47	1	31	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター			31 (31)		31 (31)	樹木に寄生するアブラコキムシ類の攻撃性に関する研究	山部国際 宿泊施設
48	1	2	北海道地方環境事務所				3	3	猛禽類の保護増殖事業に関わる猛禽類生息状況調査及び巣箱の状況調査・保守	日帰り
49	2	25	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター			25 (25)		25 (25)	樹木に寄生するアブラコキムシ類の攻撃性に関する研究	山部国際 宿泊施設
50	2	2	富良野市生涯学習センター	2				2	森林学習プログラム推進事業	日帰り
51	2	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所	3				3	GNSS 測位機とタブレット端末の技術手法の習得	山部宿泊 施設
52	3	2	北海道地方環境事務所				4	4	猛禽類の保護増殖事業に関わる猛禽類生息状況調査及び巣箱の状況調査・保守	日帰り
53	3	31	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林	31				31	異動にかかる教育研究・管理運営の引き継ぎ打合せ	山部国際 宿泊施設
54	3	1	富良野市役所	3			1	4	「こども木育スタート事業」に係る現地取材	日帰り
55	3	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	4				4	異動にかかる教育研究・管理運営の引き継ぎ打合せ	山部宿泊 施設

※過去内の数値は外国人利用者数を示す

利用者数合計 964  
(329)  
利用件数 55

## 3) 秩父演習林

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
1	4	30	東京大学農学部生圏システム学専攻森林圏生態学研究室			30		30	地球温暖化がブナとゴール形成性タマバエのフェノロジカルミスマッチに及ぼす影響	影森自炊宿舎
2	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			1		1	シカによる植生衰退が森林の地上部-地下部相互作用に及ぼす影響	影森自炊宿舎
3	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			1		1	シカによる植生衰退が森林の地上部-地下部相互作用に及ぼす影響	日帰り
4	4	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科	1				1	サイバーフォレスト	テント・幕営
5	4	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科	2				2	サイバーフォレスト	日帰り
6	4	1	埼玉県立川の博物館	1		1		2	ヒガシヒダサンショウウオ Hynobius fossigenus の生息調査	
7	4	1	秩父宮記念三峯博物館	1			1	2	野生動物調査	
8	4	25	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			25		25	シカによる植生衰退が森林の地上部-地下部相互作用に及ぼす影響	影森自炊宿舎
9	4	1	埼玉県環境科学国際センター	1				1	オゾン濃度計の設置およびミヤマスカシユリの鉢の確認	
10	4	1	埼玉県立川の博物館	1		1		2	ヒガシヒダサンショウウオ Hynobius fossigenus の生息調査	
11	4	1	埼玉県茶業研究所	5				5	茶の山間冷涼地育種	
12	4	1	なし				1	1	鳥類・生態系調査(温度ロガー調査、録音機設置)	
13	5	7	東京大学農学部生圏システム学専攻森林圏生態学研究室			7		7	地球温暖化がブナとゴール形成性タマバエのフェノロジカルミスマッチに及ぼす影響	影森自炊宿舎
14	5	1	東京大学農学部生圏システム学専攻森林圏生態学研究室			1		1	地球温暖化がブナとゴール形成性タマバエのフェノロジカルミスマッチに及ぼす影響	日帰り
15	5	31	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			31		31	シカによる植生衰退が森林の地上部-地下部相互作用に及ぼす影響	影森自炊宿舎
16	5	4	特定非営利活動法人バードリサーチ	6				6	モニタリングサイト1000 鳥類調査	入川コンテナハウス1
17	5	1	埼玉県寄居林業事務所森林研究室	2				2	低コスト広葉樹林更新技術の確立	
18	5	1	埼玉県立川の博物館	2		1		3	ヒガシヒダサンショウウオ Hynobius fossigenus の生息調査	
19	6	18	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			18		18	シカによる植生衰退が森林の地上部-地下部相互作用に及ぼす影響	影森自炊宿舎
20	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			1		1	シカによる植生衰退が森林の地上部-地下部相互作用に及ぼす影響	日帰り
21	6	1	東京大学農学生命科学研究科附属演習林田無演習林	1				1	自動撮影カメラのメディア交換、メンテナンス	
22	6	1	埼玉県寄居林業事務所森林研究室	2				2	低コスト広葉樹林更新技術の確立	

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
23	6	1	なし				1	1	鳥類・生態系調査（録音機の回収）	
24	6	2	埼玉県環境科学国際センター			3		3	オゾン濃度計の設置およびミヤマスカシユリの鉢の確認	
25	6	13	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		3	13		16	シカによる植生衰退が森林の地上部－地下部相互作用に及ぼす影響	影森自炊宿舎
26	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		1	2		3	シカによる植生衰退が森林の地上部－地下部相互作用に及ぼす影響	影森自炊宿舎
27	7	31	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			31		31	シカによる植生衰退が森林の地上部－地下部相互作用に及ぼす影響	影森自炊宿舎
28	7	2	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻	2		4		6	倒木更新におけるコケ植物－シアノバクテリア－菌根菌共生系の窒素供給機構の解明	日帰り
29	7	1	埼玉県寄居林業事務所森林研究室	2				2	低コスト広葉樹林更新技術の確立	
30	7	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		3	3		6	シエルツェマダニの集団遺伝構造と宿主動物の解明／カエデ属の多様化機構と分布境界の形成過程	日帰り
31	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			1		1	花蜜資源となる木本種が送粉者を介して林床植物ソバナの繁殖に与える影響	影森自炊宿舎
32	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			1		1	花蜜資源となる木本種が送粉者を介して林床植物ソバナの繁殖に与える影響	日帰り
33	7	1	千葉大学真菌医学研究センター 微生物資源分野 パイロシス管理室	1				1	昆虫病原糸状菌の分類学的研究	外部宿泊
34	7	1	千葉大学真菌医学研究センター 微生物資源分野 パイロシス管理室	1				1	昆虫病原糸状菌の分類学的研究	日帰り
35	7	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			2		2	シエルツェマダニの集団遺伝構造と宿主動物の解明	影森自炊宿舎
36	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			1		1	シエルツェマダニの集団遺伝構造と宿主動物の解明	日帰り
37	7	1	新潟大学佐渡自然共生科学センター演習林	1				1	シオジの開花結実特性	
38	7	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			2		2	花蜜資源となる木本種が送粉者を介して林床植物ソバナの繁殖に与える影響	影森自炊宿舎
39	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			1		1	花蜜資源となる木本種が送粉者を介して林床植物ソバナの繁殖に与える影響	日帰り
40	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			1	1	2	シエルツェマダニの集団遺伝構造と宿主動物の解明／カエデ属の多様化機構と分布境界の形成過程	外部宿泊
41	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			1	1	2	シエルツェマダニの集団遺伝構造と宿主動物の解明／カエデ属の多様化機構と分布境界の形成過程	日帰り

## 2020年度 資料

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
42	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻	1		1		2	スギとヒノキに共生するアーバスキュラー菌根菌の種構成と共生機能の解明	
43	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			1		1	花蜜資源となる木本種が送粉者を介して林床植物ソバナの繁殖に与える影響	外部宿泊
44	7	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			4		4	花蜜資源となる木本種が送粉者を介して林床植物ソバナの繁殖に与える影響	影森自炊宿舍
45	8	16	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			16		16	シカによる植生衰退が森林の地上部-地下部相互作用に及ぼす影響	影森自炊宿舍
46	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			1		1	シカによる植生衰退が森林の地上部-地下部相互作用に及ぼす影響	日帰り
47	8	11	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			11		11	花蜜資源となる木本種が送粉者を介して林床植物ソバナの繁殖に与える影響	影森自炊宿舍
48	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			1		1	花蜜資源となる木本種が送粉者を介して林床植物ソバナの繁殖に与える影響	影森自炊宿舍
49	8	1	埼玉県環境科学国際センター	2				2	オゾンデータの回収、アサガオ被害調査およびミヤマスカシユリの鉢の確認	
50	8	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	2	4	2		8	シカ植食圧下における不嗜好性植物の急速な個体数増加が集団構造に及ぼす影響	外部宿泊
51	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	1	1	2		4	シカ植食圧下における不嗜好性植物の急速な個体数増加が集団構造に及ぼす影響	日帰り
52	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター	1				1	温暖地に移植したモミ属樹木の乾燥ストレスに対する形態生理応答と遺伝子発現	
53	8	1	千葉大学真菌医学研究センター	1		1		2	昆虫病原糸状菌の分類学的研究	
54	8	1	埼玉県茶業研究所	2				2	茶の山間冷涼地育種	
55	8	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			3		3	シュルツェマダニの集団遺伝構造と宿主動物の解明	影森自炊宿舍
56	8	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			2		2	シュルツェマダニの集団遺伝構造と宿主動物の解明	日帰り
57	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			1		1	シュルツェマダニの集団遺伝構造と宿主動物の解明	外部宿泊
58	8	1	埼玉県寄居林業事務所森林研究室	2				2	低コスト広葉樹林更新技術の確立	
59	8	1	新潟大学佐渡自然共生科学センター演習林	1				1	シオジの開花結実特性	
60	8	1	なし				1	1	鳥類調査（標識調査）	テント・幕営
61	8	1	なし				1	1	鳥類調査（標識調査）	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
62	8	8	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			8		8	シエルツェマダニの集団遺伝構造と宿主動物の解明	影森自炊宿舎
63	8	11	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			13		13	花蜜資源となる木本種が送粉者を介して林床植物ソバナの繁殖に与える影響	影森自炊宿舎
64	8	1	埼玉県環境科学国際センター				1	1	オゾンデータの回収	
65	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻	1		2		3	倒木更新におけるコケ植物-シアノバクテリア-菌根菌共生系の窒素供給機構の解明	外部宿泊
66	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻	1		2		3	倒木更新におけるコケ植物-シアノバクテリア-菌根菌共生系の窒素供給機構の解明	日帰り
67	8	14	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		14			14	国際短期プログラム	
68	9	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			4		4	シエルツェマダニの集団遺伝構造と宿主動物の解明	影森自炊宿舎
69	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			1		1	シエルツェマダニの集団遺伝構造と宿主動物の解明	影森自炊宿舎
70	9	10	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			10		10	花蜜資源となる木本種が送粉者を介して林床植物ソバナの繁殖に与える影響	影森自炊宿舎
71	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			1		1	花蜜資源となる木本種が送粉者を介して林床植物ソバナの繁殖に与える影響	日帰り
72	9	16	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		16			16	国際短期プログラム	
73	9	14	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		14			14	国際短期プログラム	影森自炊宿舎
74	9	11	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		11			11	カエデ属の多様化機構と分布境界の形成過程	影森自炊宿舎
75	9	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		3			3	カエデ属の多様化機構と分布境界の形成過程	外部宿泊
76	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		1			1	カエデ属の多様化機構と分布境界の形成過程	日帰り
77	9	5	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		2	5		7	シエルツェマダニの集団遺伝構造と宿主動物の解明/カエデ属の多様化機構と分布境界の形成過程	外部宿泊
78	9	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		2	2		4	シエルツェマダニの集団遺伝構造と宿主動物の解明/カエデ属の多様化機構と分布境界の形成過程	日帰り

## 2020年度 資料

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
79	9	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			4		4	シカによる植生衰退が森林の地上部-地下部相互作用に及ぼす影響	
80	9	1	千葉大学真菌医学研究センター	1		1		2	昆虫病原系状菌の分類学的研究	
81	9	1	なし				1	1	鳥類調査(標識調査)	テント・幕営
82	9	1	なし				1	1	鳥類調査(標識調査)	日帰り
83	9	10	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			10		10	シェルツェマダニの集団遺伝構造と宿主動物の解明	影森自炊宿舎
84	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			1		1	シェルツェマダニの集団遺伝構造と宿主動物の解明	影森自炊宿舎
85	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		1	1		2	シカによる植生衰退が森林の地上部-地下部相互作用に及ぼす影響・自動撮影カメラによる哺乳類の個体群動態と空間分布の解明	
86	9	1	東京大学農学部生圏システム学専攻森林圏生態学研究室			1		1	地球温暖化がブナとゴール形成性タマバエのフェノロジカルミスマッチに及ぼす影響	
87	9	1	埼玉県寄居林業事務所森林研究室	2				2	低コスト広葉樹林更新技術の確立	
88	10	31	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		31			31	国際短期プログラム	日帰り
89	10	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			2		2	花蜜資源となる木本種が送粉者を介して林床植物ソバナの繁殖に与える影響	日帰り
90	10	8	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			8		8	花蜜資源となる木本種が送粉者を介して林床植物ソバナの繁殖に与える影響	影森自炊宿舎
91	10	11	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			11		11	シェルツェマダニの集団遺伝構造と宿主動物の解明	影森自炊宿舎
92	10	1	森林総合研究所立地環境研究領域養分動態研究室	3				3	森林の落葉多様性が分解速度を促進するプロセスの解明	外部宿泊
93	10	1	森林総合研究所立地環境研究領域養分動態研究室	3				3	森林の落葉多様性が分解速度を促進するプロセスの解明	日帰り
94	10	16	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		16			16	カエデ属の多様化機構と分布境界の形成過程	影森自炊宿舎
95	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		1			1	カエデ属の多様化機構と分布境界の形成過程	日帰り
96	10	5	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	5	2	13		20	ニホンジカの植食圧が森林動態に及ぼす影響	川俣自炊宿舎

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
97	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	1		3		4	ニホンジカの植食圧が森林動態に及ぼす影響	日帰り
98	10	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			4		4	シカによる植生衰退が森林の地上部-地下部相互作用に及ぼす影響	日帰り
99	10	1	埼玉県環境科学国際センター	1				1	オゾンデータの回収及びミヤマスカシユリの鉢の確認	日帰り
100	10	1	新潟大学佐渡自然共生科学センター演習林	1				1	シオジの開花結実特性	日帰り
101	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻	1		1		2	倒木更新におけるコケ植物-シアノバクテリア-菌根菌共生系の窒素供給機構の解明	外部宿泊
102	10	2	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻	2		1		3	倒木更新におけるコケ植物-シアノバクテリア-菌根菌共生系の窒素供給機構の解明	日帰り
103	10	1	埼玉県寄居林業事務所森林研究室	2				2	低コスト広葉樹林更新技術の確立	日帰り
104	10	3	森林総合研究所立地環境研究領域養分動態研究室	6				6	森林の落葉多様性が分解度を促進するプロセスの解明	外部宿泊
105	10	1	森林総合研究所立地環境研究領域養分動態研究室	2				2	森林の落葉多様性が分解度を促進するプロセスの解明	日帰り
106	10	6	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			6		6	花蜜資源となる木本種が送粉者を介して林床植物ソバナの繁殖に与える影響	影森自炊宿舎
107	10	6	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		6			6	カエデ属の多様化機構と分布境界の形成過程	影森自炊宿舎
108	10	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		8			8	全学体験ゼミナール「秋の奥秩父を巡る」現地講義	日帰り
109	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		1			1	ニホンジカの植食圧が森林動態に及ぼす影響	影森自炊宿舎
110	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		1			1	ニホンジカの植食圧が森林動態に及ぼす影響	日帰り
111	10	13	東京大学大学院農学生命科学研究科			13		13	シカによる植生衰退が森林の地上部-地下部相互作用に及ぼす影響	日帰り
112	11	13	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		13			13	国際短期プログラム	
113	11	10	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			10		10	花蜜資源となる木本種が送粉者を介して林床植物ソバナの繁殖に与える影響	影森自炊宿舎
114	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			1		1	花蜜資源となる木本種が送粉者を介して林床植物ソバナの繁殖に与える影響	日帰り
115	11	22	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		22			22	カエデ属の多様化機構と分布境界の形成過程	影森自炊宿舎

2020年度 資料

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
116	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		1			1	カエデ属の多様化機構と分布境界の形成過程	日帰り
117	11	12	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		12			12	カエデ属の多様化機構の分布境界の形成過程	影森自炊宿舎
118	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		4			4	全学体験ゼミナール「秋の奥秩父を巡る」現地講義	日帰り
119	11	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	3	9			12	二ホンジカの植食圧が森林動態に及ぼす影響	川俣自炊宿舎
120	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	1	3			4	二ホンジカの植食圧が森林動態に及ぼす影響	日帰り
121	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			1		1	自動撮影カメラによる哺乳類の個体群動態と空間分布の解明	テント・幕営
122	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			1		1	自動撮影カメラによる哺乳類の個体群動態と空間分布の解明	日帰り
123	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	1		2		3	倒木更新におけるコケ植物-シアノバクテリア-菌根菌共生系の窒素供給機構の解明	外部宿泊
124	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	1		2		3	倒木更新におけるコケ植物-シアノバクテリア-菌根菌共生系の窒素供給機構の解明	日帰り
125	11	1	新潟大学佐渡自然共生科学センター演習林	1				1	シオジの開花結実特性	日帰り
126	11	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	2				2	スギとヒノキに共生するアーバスキュラー菌根菌の種構成と共生機能の解明	日帰り
127	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			1		1	自動撮影カメラによる哺乳類の個体群動態と空間分布の解明	テント・幕営
128	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			1		1	自動撮影カメラによる哺乳類の個体群動態と空間分布の解明	日帰り
129	11	1	埼玉県環境科学国際センター	3				3	オゾンデータの回収及びミヤマスカシユリの鉢の回収	日帰り
130	11	2				2		2	ミズナラの結実動態調査	日帰り
131	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター	1				1	温暖地に移植したモミ属樹木の乾燥ストレスに対する形態生理応答と遺伝子発現	日帰り
132	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		1			1	自動撮影カメラによる哺乳類の個体群動態と空間分布の解明	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
133	11	17	東京大学大学院農学生命科学研究科			17		17	シカによる植生衰退が森林の地上部-地下部相互作用に及ぼす影響	日帰り
134	12	28	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		28			28	カエデ属の多様化機構の分布境界の形成過程	影森自炊宿舎
135	12	24	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			24		24	シェルツェマダニの集団遺伝構造と宿主動物の解明	影森自炊宿舎
136	12	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		3			3	自動撮影カメラによる哺乳類の個体群動態と空間分布の解明	日帰り
137	12	18	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			18		18	花蜜資源となる木本種が送粉者を介して林床植物ソバナの繁殖に与える影響	影森自炊宿舎
138	12	1	埼玉県川の博物館	1		1	2	4	ヒガシヒダサンショウウオ <i>Hynobius fossigenus</i> の生息調査	日帰り
139	12	1	東京大学大学院総合文化研究科国際環境科学機構	1	6			7	国際環境科学コース「環境科学ワールドワーク2」	日帰り
140	12	1	新潟大学佐渡自然共生科学センター演習林	1				1	シオジの開花結実特性	日帰り
141	12	1	埼玉県環境科学国際センター	2				2	オゾンデータの回収及びミヤマスカシユリの鉢の設置	日帰り
142	12	21	東京大学大学院農学生命科学研究科			21		21	シカによる植生衰退が森林の地上部-地下部相互作用に及ぼす影響	日帰り
143	1	1	特定非営利活動法人バードリサーチ	1				1	モニタリングサイト1000 鳥類調査	川俣自炊宿舎
144	1	1	特定非営利活動法人バードリサーチ	1				1	モニタリングサイト1000 鳥類調査	日帰り
145	1	15	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林		15			15	カエデ属の多様化機構と分布境界の形成過程	影森自炊宿舎
146	1	26	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			26		26	シェルシェマダニの集団遺伝構造と宿主動物の解明	影森自炊宿舎
147	1	26	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林			26		26	花蜜資源となる木本種が送粉者を介して林床植物ソバナの繁殖に与える影響	影森自炊宿舎
148	1	1	奥秩父山塊イヌワシ調査グループ				1	1	奥秩父地域における大型猛禽類の生息実態調査	日帰り
149	1	1	新潟大学佐渡自然共生科学センター演習林	1				1	シオジの開花結実特性	日帰り
150	1	1	秩父宮記念三峯山博物館				2	2	野生動物調査	日帰り
151	1	2	東京大学大学院農学生命科学研究科			2		2	シカによる植生衰退が森林の地上部-地下部相互作用に及ぼす影響	日帰り
152	2	1	特定非営利活動法人バードリサーチ	1				1	モニタリングサイト1000 鳥類調査	川俣自炊宿舎

2020年度 資料

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
153	2	1	特定非営利活動法人 パードリサーチ	1				1	モニタリングサイト 1000 鳥類調査	日帰り
154	2	28	東京大学大学院農学生 命科学研究科附属演習 林秩父演習林			28		28	シエルツェマダニの集団遺伝構造と 宿主動物の解明	影森自炊宿舎
155	2	28	東京大学大学院農学生 命研究科附属演習林秩 父演習林			28		28	花蜜資源となる木本種が粉送者を介 して林床植物ソバナの繁殖に与える 影響	影森自炊宿舎
156	2	19	東京大学大学院農学生 命科学研究科附属演習 林秩父演習林		19			19	カエデ属の多様化機構と分布境界の 形成過程	影森自炊宿舎
157	2	1	奥秩父山塊イヌワシ調 査グループ				1	1	奥秩父地域における大型猛禽類の生 息実態調査	日帰り
158	2	1	埼玉県環境科学国際セ ンター	2				2	オゾン濃度計の回収及びミヤマスカ シユリの鉢の確認	日帰り
159	2	6	東京大学大学院農学生 命科学研究科		6			6	シカによる植生衰退が森林の地上部 ー地下部相互作用に及ぼす影響	日帰り
160	3	11	東京大学大学院農学生 命科学研究科附属演習 林秩父演習林		11			11	シエルツェマダニの集団遺伝構造と 宿主動物の解明	影森自炊宿舎
161	3	11	東京大学大学院農学生 命研究科附属演習林秩 父演習林		11			11	花蜜資源となる木本種が粉送者を介 して林床植物ソバナの繁殖に与える 影響	影森自炊宿舎
162	3	1	東京大学大学院農学生 命研究科附属演習林秩 父演習林		1			1	花蜜資源となる木本種が粉送者を介 して林床植物ソバナの繁殖に与える 影響	日帰り
163	3	19	東京大学大学院農学生 命科学研究科附属演習 林秩父演習林			19		19	カエデ属の多様化機構と分布境界の 形成過程	影森自炊宿舎
164	3	1	森林総合研究所 きの こ・森林微生物研究境 域 微生物生態研究室	3				3	造林樹種の腐朽被害に関わる菌種と その侵入門戸の特性	日帰り
165	3	1	東京大学大学院新領域 創成科学研究科	2			3	5	サイバーフォレスト、次世代の自然 風景地の保護と利用	日帰り
166	3	1	新潟大学佐渡自然共生 科学センター演習林	1				1	シオジの開花結実特性	日帰り
167	3	5	東京大学大学院農学生 命科学研究科附属演習 林秩父演習林			5		5	カエデ属の多様化機構と分布境界の 形成過程	影森自炊宿舎
168	3	1	東京大学大学院農学生 命科学研究科附属演習 林秩父演習林				1	1	カエデ属の多様化機構と分布境界の 形成過程	日帰り
169	3	4	東京大学大学院農学生 命科学研究科附属演習 林秩父演習林		4			4	花蜜資源となる木本種が送粉者を介 して林床植物ソバナの繁殖に与える 影響	影森自炊宿舎
170	3	1	東京大学大学院農学生 命科学研究科附属演習 林秩父演習林		1			1	花蜜資源となる木本種が送粉者を介 して林床植物ソバナの繁殖に与える 影響	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
171	3	1	奥秩父山塊イヌワシ調査グループ				1	1	奥秩父地域における大型猛禽類の生息実態調査	日帰り
172	3	12	東京大学大学院農学生命科学研究科				12	12	シカによる植生衰退が森林の地上部ー地下部相互作用に及ぼす影響	日帰り

※カッコ内の数値は外国人利用数を示す

利用者数合計 1,047

利用件数 172

## 4) 田無演習林

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
1	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林	1				1	針葉樹苗の熱傷害に関する研究	
2	4	3	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室		3			3	クロマツ苗の湛水ストレス応答	
3	4	5	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林	3		5		8	ナラ枯れがカミキリムシ相に及ぼす影響	
4	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター	1				1	日本産ヒノキと韓国産ヒノキによる生育比較	
5	4	1	いであ株式会社				1	1	東京大学田無キャンパス整備計画モニタリング調査	
6	4	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林	2				2	針葉樹苗の熱傷害に関する研究	
7	4	2	東京大学アジア生物資源環境研究センター森林共生生物学研究室	2			2	4	サクラ属における交雑不適合性に関する遺伝子の探索	
8	4	5	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室			5		5	クロマツ苗の湛水ストレス応答	
9	4	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林			2		2	ナラ枯れがカミキリムシ相に及ぼす影響	
10	4	1	いであ株式会社				1	1	東京大学田無キャンパス整備計画モニタリング調査	
11	5	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター	1				1	田無演習林におけるアカボシゴマダラの発生状況について	
12	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林	1				1	針葉樹苗の熱傷害に関する研究	
13	6	1	学習院大学理学部生命科学科生物遺伝資源学研究室	4	1			5	天蚕・柞蚕の飼料樹としてのクヌギの植栽と利用	
14	6	1	東京大学アジア生物資源環境研究センター森林共生生物学研究室	1	1			2	サクラ属における交雑不適合性に関する遺伝子の探索	
15	6	3	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室			3		3	クロマツ苗の湛水ストレス応答	
16	6	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林			2		2	ナラ枯れがカミキリムシ相に及ぼす影響	
17	6	1	いであ株式会社				1	1	東京大学田無キャンパス整備計画モニタリング調査	
18	6	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター	2				2	田無演習林におけるアカボシゴマダラの発生状況について	

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
19	7	7	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	4		7		11	クロマツ苗の湛水ストレス応答	
20	7	6	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林	2		6		8	ナラ枯れがカミキリムシ相に及ぼす影響	
21	7	1	いであ株式会社				1	1	東京大学田無キャンパス整備計画 モニタリング調査	
22	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室	1	1 (1)			2 (1)	スギと共生するアーバスキュラー菌根菌に関する研究	
23	7	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林	6				6	フウ樹の果実から発生するクロサイワイタケ属菌の生態解明	
24	7	5	東京大学大学院農学生命科学研究科森林動物学研究室			5		5	修士論文「局在する高価値資源を巡る昆虫の群集構造」	
25	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	1				1	マツ材線虫病における通水阻害域発生要因特定	
26	7	1	法政大学生命科学部応用植物化学科	1				1	もち病菌の探索と採集	
27	7	1	法政大学生命科学部応用植物化学科	1				1	マツ類に発生する Lophodermium 属およびその関連菌の分類学的研究	
28	8	1	学習院大学理学部生命科学科生物遺伝資源学研究室	1				1	天蚕・柞蚕の飼料樹としてのクヌギの植栽と利用	
29	8	10	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	3		9		12	クロマツ苗の湛水ストレス応答	
30	8	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林			2		2	ナラ枯れがカミキリムシ相に及ぼす影響	
31	8	1	いであ株式会社				1	1	東京大学田無キャンパス整備計画 モニタリング調査	
32	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林	1				1	病害虫による大量枯死が森林生態系のCO2放出におよぼす影響の解明(分担)	
33	8	6	東京大学大学院農学生命科学研究科森林動物学研究室			6		6	修士論文「局在する高価値資源を巡る昆虫の群集構造」	
34	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室	1		1		2	博士論文「時間的視点を考慮した外生菌根性樹木における根圏バクテリア群集決定要因の検討」	
35	8	6	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター	6		2		8	温暖地に移植したダケカンバの整理に関する研究	
36	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター	1				1	生物材料のオンライン実習における樹種同定に使用する枝の採取	
37	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林動物学研究室	4				4	森林科学基礎実習Ⅲ(8/27下見, 9/8, 9実習)	

## 2020年度 資料

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
38	9	2	学習院大学院理学部生命科学科生物遺伝資源学研究室	2				2	天蚕・柞蚕の飼料樹としてのクスギの植栽と利用	
39	9	2	東京大学アジア生物資源環境研究センター森林共生生物学研究室		2			2	林床のリターの有無が菌根菌子実体の出現に与える影響	
40	9	7	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	2		7		9	クロマツ苗の湛水ストレス応答	
41	9	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林			2		2	ナラ枯れがカミキリムシ相に及ぼす影響	
42	9	3	東京大学大学院農学生命科学研究科森林動物学研究室			3		3	修士論文「局在する高価値資源を巡る昆虫の群集構造」	
43	9	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター	2				2	温暖地に移植したダケカンバの整理に関する研究	
44	9	2	東京大学大学院農学生命科学研究科森林動物学研究室	13	12			25	森林科学基礎実習Ⅲ (8/27 下見, 9/8, 9 実習)	
45	9	1	西東京市立住吉小学校	3				3	生活科見学 (下見, 打合せ, 見学) 10/9 雨天延期→10/23	
46	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター	1				1	撮影技術指導	
47	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室			1		1	博士論文「クロマツ苗の湛水ストレス応答」博士3年藤田 早紀	
48	10	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林			3		3	修士論文「ナラ枯れがカミキリムシ相に及ぼす影響」修士1年稲田 涼梧	
49	10	1	いであ株式会社				2	2	東京大学田無キャンパス整備計画 モニタリング調査	
50	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林	1				1	フウ樹の果実から発生するクロサイワイタケ属菌の生態解明	
51	10	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター	4				4	修士論文「温暖地に移植したダケカンバの整理に関する研究」PAIN AYE MYAT MYAT	
52	10	1	西東京市立住吉小学校	7			123	130	生活科見学 (下見, 打合せ, 見学) 10/9 雨天延期→10/23	
53	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林	1				1	教育環境素材の開発	
54	10	1	東大農場・演習林の存続を願う会				7	7	演習林の動植物観察・調査・記録	
55	10	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科生物圏機能学分野			1		1	修士論文「都市近郊の残存林の生態系機能～林相・管理状況・空間構造によるサービスとディサービスの評価」(仮題) 修士1年竹井 通隆	

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
56	10	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科人間環境学専攻小竹・二瓶研究室	1				1	修士論文「VRを用いた高齢者の自律神経活動調整に関する研究」修士2年浜田 佳歩	
57	10	1	鹿児島大学農学部農林環境科学科森林政策学研究室			1		1	卒業論文「九州地方の林業事業体における「山の神」信仰の現状と大学演習林の事例について	
58	10	1	株式会社パルコひばりが丘店広報担当				2	2	ひばりが丘パルコの展示用パネルの撮影(街歩きパネル展)	
59	10	2	自由学園初等部	5			38	43	生活科見学(10/6 下見), 10/22	
60	10	1	西東京市立田無小学校1年 若葉学級	4				4	生活科見学(10/23 下見), 11/26	
61	10	1	(株)自由が丘フラワーズ				2	2	市場出荷物の下見と林内見学	
62	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林	1				1	研究打合せ	
63	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林生態水文学研究所	1				1	研究打合せ	
64	11	1	学習院大学理学部生命科学科生物遺伝資源学研究室			1		1	天蚕・柞蚕の飼料樹としてのクヌギの植栽と利用	
65	11	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林			3		3	修士論文「ナラ枯れがカミキリムシ相に及ぼす影響」修士1年稲田 涼悟	
66	11	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林	2				2	病害虫による大量枯死が森林生態系のCO2放出におよぼす影響の解明(分担)	
67	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター	1				1	修士論文「温暖地に移植したダケカンバの整理に関する研究」PAIN AYE MYAT MYAT	
68	11	1	自由学園最高学部(大学部)	2				2	集中講義「野外生物・農芸演習」	
69	11	1	東大農場・演習林の存続を願う会				8	8	演習林の動植物観察・調査・記録	
70	11	1	水循環基本法フォローアップ委員会				8	8	①田無演習林と都市農業の関わり②田無演習林と周辺地域の水循環の関わり	
71	11	3	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター	3				3	トドマツのイオノーム分析による成長解析	
72	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	1				1	酢酸溶液施用によるスギ苗の乾燥耐性機構の解明	
73	11	1	西東京市立田無小学校1年 若葉学級	5			122	127	生活科見学(10/23 下見), 11/26	
74	12	1	学習院大学理学部生命科学科生物遺伝資源学研究室			1		1	天蚕・柞蚕の飼料樹としてのクヌギの植栽と利用	
75	12	2	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室	1		1		2	博士論文「時間的視点を考慮した外生菌根性樹木における根圏バクテリア群集決定要因の検討」白川 誠	

## 2020年度 資料

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
76	12	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター	4				4	トドマツのイオノーム分析による成長解析	
77	12	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科生物圏機能学分野	1		1		2	修士論文「都市近郊の残存林の生態系機能～林相・管理状況・空間構造によるサービスとディサービスの評価」(仮題) 修士1年竹井 通隆	
78	12	2	自由学園最高学部(大学部)	6	1			7	卒業研究「向山緑地の若返りについて」と関連するナラ枯れ調査	
79	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	1	7			8	森林土壌学実験	
80	12	1	株式会社バルコひばりヶ丘店				1	1	Google マップ 360 度撮影	
81	12	4	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林田無演習林	17			4	21	2020 年度教職員リースづくり体験会 (ZOOM 開催, 材料のみ参加あり)	
82	1	1	自由学園最高学部(大学部)	3	1			4	卒業研究「向山緑地の若返りについて」と関連するナラ枯れ調査	
83	1	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構	4	5			9	緑地環境実地実習	
84	1	1	東京大学大学院工学系研究科総合研究機構	1				1	樹木における二酸化炭素同化産物の輸送と材形成に関する研究	
85	2	1	学習院大学理学部生命科学科生物遺伝資源学研究室			1		1	天蚕・柞蚕の飼料樹としてのクスギの植栽と利用	
86	2	1	法政大学生命科学部応用植物化学科			1		1	もち病菌の探索と採集 博士後期課程 1年 柴田紗帆	
87	2	1	自由学園最高学部(大学部)	6	2			8	卒業研究「向山緑地の若返りについて」と関連するナラ枯れ調査	
88	2	1	西東京市立田無第二中学校	2				2	校外学習	
89	2	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	1				1	マツ材線虫病萎凋枯死機構の解明	
90	2	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林	1				1	樹木の成長特性の解明	
91	2	1	株式会社総合環境計画				1	1	東京都委託 希少猛禽類調査	
92	2	1	東京都環境局委託				1	1	井戸調査	
93	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林植物学研究室	1				1	博士論文「時間的視点を考慮した外生菌根性樹木における根圏バクテリア群集決定要因の検討」白川 誠	
94	3	1	東大農場・演習林の存続を願う会				1	1	演習林の動植物観察・調査・記録	
95	3	2	自由学園最高学部(大学部)	6	3			9	卒業研究「向山緑地の若返りについて」と関連するナラ枯れ調査	
96	3	1	西東京市立田無第二中学校	9			90	99	校外学習	

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
97	3	5	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林秩父演習林				5	5	サワラに接種されたナミダケモドキの分布特性	
98	3	1	一般社団法人日本木文化学会				12	12	ワールド・ウッド・デー2021 植樹活動 実施	
99	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科造林学研究室	1				1	取り壊し予定建物の下見と打合せ	
100	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属アジア生物資源環境研究センター	2				2	取り壊し予定建物の下見と打合せ	
101	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林動物学研究室	1				1	取り壊し予定建物の下見と打合せ	

※カッコ内の数値は外国人利用数を示す

利用者数合計 736  
(1)  
利用件数 101

## 5) 生態水文学研究所

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
1	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部	1				1	水源涵養機能モニタリング研究委託	日帰り
2	4	1	犬山研究林利用者協議会				2	2	蝶モニター	日帰り
3	4	2	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	3				3	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
4	4	1	犬山研究林利用者協議会				2	2	ギフチョウ産卵調査	日帰り
5	5	2	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	2				2	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
6	5	1	犬山研究林利用者協議会				3	3	ギフチョウ産卵調査	日帰り
7	5	1	犬山研究林利用者協議会				3	3	蝶モニター	日帰り
8	6	1	シデコブシの会				7	7	シデコブシの会 定例会	日帰り
9	6	1	犬山研究林利用者協議会				7	7	蝶モニター	日帰り
10	6	1	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	1				1	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
11	6	10	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			10 (10)		10 (10)	科研調査補助・修士論文計画の相談	五位塚宿泊施設
12	6	1	京都大学霊長類研究所	1				1	森林のナトリウム利用可能性についての研究の下見	日帰り
13	6	1	瀬戸市役所市民生活部環境課				2	2	せと環境塾下見	日帰り
14	6	1	犬山研究林利用者協議会				12	12	定例活動	日帰り
15	6	1	ボーイスカウト瀬戸第6団				3	3	研究林下見	日帰り
16	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部	1				1	水源涵養機能モニタリング研究委託	日帰り
17	7	3	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	3				3	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
18	7	1	犬山研究林利用者協議会				7	7	蝶モニター	日帰り
19	7	12	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			12 (12)		12 (12)	科研調査補助・修士論文計画の相談	五位塚宿泊施設
20	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			1 (1)		1 (1)	科研調査補助・修士論文計画の相談	五位塚宿泊施設
21	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			1 (1)		1 (1)	科研調査補助・修士論文計画の相談	日帰り
22	8	1	愛知県瀬戸市教育委員会	1				1	副読本「せと」編集のための取材	日帰り
23	8	1	ボーイスカウト瀬戸第6団		3			3	研究林下見	日帰り
24	8	1	愛知県瀬戸市教育委員会	1				1	副読本「せと」編集のための取材	日帰り
25	8	1	日本山岳会東海支部	2				2	調査候補地下見	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
26	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科砂防工学研究室	1		1		2	森林流域への土壌侵食モデルの適用	赤津宿泊施設
27	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科砂防工学研究室	1		1		2	森林流域への土壌侵食モデルの適用	日帰り
28	8	1	シデコブシの会				7	7	シデコブシの会 定例会	日帰り
29	8	1	犬山研究林利用者協議会				4	4	蝶モニター	日帰り
30	8	1	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	1				1	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
31	8	8	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			8 (8)		8 (8)	科研調査補助・修士論文計画の相談	五位塚宿泊施設
32	8	1	名城大学生物環境科学科ランドスケープ・デザイン学研究室	1	1			2	トチノキの成長解析（成長錘調査）に向けた下見調査	日帰り
33	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部	1				1	水源涵養機能モニタリング研究委託	日帰り
34	8	1	犬山研究林利用者協議会				10	10	定例活動	日帰り
35	9	6	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			6 (6)		6 (6)	科研調査補助・修士論文計画の相談	五位塚宿泊施設
36	9	1	国立研究開発法人産業技術総合研究所	5				5	猿投山断層の地形地質調査の下見	日帰り
37	9	1	シデコブシの会				7	7	シデコブシの会 定例会	日帰り
38	9	1	国立研究開発法人産業技術総合研究所	5				5	猿投山断層の地形地質調査の下見	日帰り
39	9	1	犬山研究林利用者協議会				7	7	定例活動	日帰り
40	9	1	犬山研究林利用者協議会				6	6	蝶モニター	日帰り
41	9	1	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	2				2	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
42	9	1	東邦ガス株式会社技術研究所京都大学霊長類研究所				5	5	現地地下見	日帰り
43	9	1	京都大学霊長類研究所	1				1	森林のナトリウム利用可能性についての研究	日帰り
44	9	13	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			13 (13)		13 (13)	科研調査補助・修士論文計画の相談	五位塚宿泊施設
45	9	1	犬山研究林利用者協議会				13	13	定例活動	日帰り
46	9	1	国立研究開発法人産業技術総合研究所	1				1	猿投山断層の地形地質調査の下見	日帰り
47	9	1	瀬戸市役所市民生活部環境課				13	13	せと環境塾「なぜ瀬戸市に？東京大学の演習林を知ろう」	日帰り
48	9	1	猿投の森づくりの会				2	2	間伐区域現地調査	日帰り
49	10	7	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			7 (7)		7 (7)	科研調査補助・修士論文計画の相談	五位塚宿泊施設
50	10	3	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	3				3	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り



No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
76	12	1	国立研究開発法人産業技術総合研究所活断層・火山研究部門	5				5	猿投山断層のトレンチ調査現場の下見	日帰り
77	12	1	犬山研究林利用者協議会				1	1	定例活動	日帰り
78	12	1	瀬戸市役所市民生活部環境課	2				2	間伐材の引き取り	日帰り
79	12	1	猿投の森づくりの会				10	10	間伐	日帰り
80	12	1	筑波大学生命環境系山岳科学センター井川演習林	6				6	研究会「現地観測の知と課題の共有（一部省略）」開催	日帰り
81	12	8	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			8 (8)		8 (8)	修士論文計画の相談・外国人特別選抜試験の対策	長期滞在者用 宿舎
82	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			1 (1)		1 (1)	修士論文計画の相談・外国人特別選抜試験の対策	日帰り
83	12	13	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			13 (13)		13 (13)	科研調査補助・修士論文計画の相談	五位塚 宿泊施設
84	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			1 (1)		1 (1)	科研調査補助・修士論文計画の相談	日帰り
85	1	1	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	1				1	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
86	1	1	犬山研究林利用者協議会				1	1	センサーカメラデータ回収	日帰り
87	1	1	シデコブシの会				12	12	シデコブシの会 巣箱作り	日帰り
88	1	1	猿投の森づくりの会				10	10	間伐	日帰り
89	1	9	国立研究開発法人産業技術総合研究所活断層・火山研究部門				35	35	猿投山断層のトレンチ調査	日帰り
90	1	1	犬山研究林利用者協議会				9	9	定例活動	日帰り
91	2	5	国立研究開発法人産業技術総合研究所活断層・火山研究部門				16	16	猿投山断層のトレンチ調査	日帰り
92	2	2	豊田工業高等専門学校環境都市工学科	2				2	森林流域における生元素流出負荷量の変動要因解析	日帰り
93	2	1	シデコブシの会				7	7	シデコブシの会 定例会	日帰り
94	2	11	国立研究開発法人産業技術総合研究所活断層・火山研究部門	10	5	4	18	37	猿投山断層のトレンチ調査	日帰り
95	2	2	犬山研究林利用者協議会				17	17	定例活動	日帰り
96	2	1	猿投の森づくりの会				10	10	間伐	日帰り
97	3	10	国立研究開発法人産業技術総合研究所活断層・火山研究部門	3	7		15	25	猿投山断層のトレンチ調査	日帰り
98	3	1	シデコブシの会				7	7	シデコブシの会 定例会	日帰り
99	3	9	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			9 (9)		9 (9)	大洞サイトでの調査と準備	赤津宿 泊施設

## 2020年度 資料

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
100	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			1 (1)		1 (1)	大洞サイトでの調査と準備	日帰り
101	3	12	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			12 (12)		12 (12)	修士論文計画の相談・豊田市大洞・御内試験地の定期観測参加	長期滞在 者用宿舎
102	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			1 (1)		1 (1)	修士論文計画の相談・豊田市大洞・御内試験地の定期観測参加	日帰り
103	3	15	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			15 (15)		15 (15)	科研調査補助・修士論文計画の相談	五位塚宿 泊施設
104	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林			1 (1)		1 (1)	科研調査補助・修士論文計画の相談	日帰り
105	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部	1				1	水源涵養機能モニタリング研究委託	日帰り
106	3	2	犬山研究林利用者協議会				24	24	定例活動	日帰り
107	3	1	猿投の森づくりの会				6	6	間伐	日帰り
108	3	1	名古屋経済大学市邨高等学校	6	1		35	42	長期生態系プロットの計測と林業遺産を含む研究林の見学	日帰り

※カッコ内の数値は外国人利用数を示す

利用者数合 807  
計 (137)  
利用件数 108

## 6) 富士癒しの森研究所

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
1	4	1	公益財団法人亀岡市環境事業公社				1	1	森林環境の活用に関する意見交換と所内見学	日帰り
2	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	4			10	14	癒しの森の会第10回例会	日帰り
3	6	1	山梨県富士山科学研究所富士山火山防災研究センター	1			2	3	掘削調査の候補地の下見	日帰り
4	6	2	コールふじまりも				23	23	コーラスの練習	日帰り
5	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	2				2	カラマツ品種試験地生長調査	富士山中宿泊施設
6	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	2				2	カラマツ品種試験地生長調査	日帰り
7	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	4			8	12	癒しの森の会活動話し合い	日帰り
8	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部	1				1	富士癒しの森研究所の降水量データの解析	日帰り
9	6	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	4			3	7	お試しセンサー講習	日帰り
10	7	3	コールふじまりも				35	35	コーラスの練習	日帰り
11	7	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	4				4	カラマツ品種試験地生長調査	富士山中宿泊施設
12	7	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	4				4	カラマツ品種試験地生長調査	日帰り
13	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	3			3	6	イベントの下見および打合せ	日帰り
14	7	2	フラウトドルチェ				7	7	RecorderEnsamble 練習	日帰り
15	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	4			9	13	癒しの森の会打合せ	日帰り
16	7	1	山梨県富士山科学研究所富士山火山防災研究センター	1				1	掘削調査の候補地の写真撮影	日帰り
17	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	1				1	森林生態圏管理学の講義（オンライン中継）*オンライン受講者35名	日帰り
18	7	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	1				1	ドローン飛行練習	日帰り
19	8	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	2				2	ドローン飛行練習	日帰り

2020年度 資料

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
20	8	1					2	2	見学	日帰り
21	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生物・環境工学専攻 生物環境情報工学研究室	2	1			3	樹洞の計測に関する研究（卒業論文）の実地調査を行うため	外部宿泊施設
22	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生物・環境工学専攻 生物環境情報工学研究室	2	1			3	樹洞の計測に関する研究（卒業論文）の実地調査を行うため	日帰り
23	8	1	フラウトドルチェ				3	3	RecorderEnsamble 練習	日帰り
24	8	3	コールふじまりも				32	32	コーラスの練習	日帰り
25	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	1				1	環境教育学会オンライン大会自主課題研究プレゼンのため	日帰り
26	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	1			1	2	森林科学基礎実習IVのインタビュー調査演習（オンライン）*オンライン受講者 20名	日帰り
27	8	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科	1			1	2	朝もや音楽会への参加、および景観記録	外部宿泊施設
28	8	1	東京大学大学院新領域創成科学研究科	1			1	2	朝もや音楽会への参加、および景観記録	日帰り
29	8	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	8			15	23	癒しの森の朝もや音楽会スタッフ作業	日帰り
30	8	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所				200	200	癒しの森の朝もや音楽会	日帰り
31	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	1				1	生物素材科学専修「バイオマス科学実習」/木質構造科学専修「森林科学実習」（オンライン）*オンライン受講者 名	日帰り
32	9	2	株式会社 NT システム				2	2	測定器設置	日帰り
33	9	1	山中湖村役場観光産業課				2	2	カエントケ及びナラ枯れの取材対応のため	日帰り
34	9	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	2				2	ドローン飛行練習	日帰り
35	9	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	4	10 (10)			14 (10)	森林圏生態社会学演習の代わりにの個別指導	富士山中宿泊施設
36	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	2	5 (5)			7 (5)	森林圏生態社会学演習の代わりにの個別指導	日帰り
37	9	1	昭和大学	1				1	ハチの巣採取の下見	日帰り
38	9	1	昭和大学	1				1	ハチの巣採取	日帰り
39	9	2	コールふじまりも				22	22	コーラスの練習	日帰り
40	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	2		1		3	国際開発農学専修「国際農学実験・実習Ⅰ個別実験」	山中寮 内藤セミナー ハウス

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
41	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	2		1		3	国際開発農学専修「国際農学実験・実習Ⅰ個別実験」	日帰り
42	9	3	東京大学大学院農学生命科学研究科生物・環境工学専攻 生物環境情報工学研究室	4	3			7	樹洞の計測に関する研究（卒業論文）の実地調査を行うため	山中寮 内藤セミナー ハウス
43	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生物・環境工学専攻 生物環境情報工学研究室		1			1	樹洞の計測に関する研究（卒業論文）の実地調査を行うため	日帰り
44	9	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	2			7	9	癒しの森の会打合せ	日帰り
45	9	1	東京都立大学都市環境科学研究科地理学域	1	1	2		4	修論研究のための植生調査 微地形から見る若木分布と植生更新	日帰り
46	9	1	山中湖村役場観光産業課				2	2	カエントケ及びナラ枯れの取材対応のため	日帰り
47	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	4			3	7	お試しセンサー講座	日帰り
48	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	4			4	8	きのこ研修	日帰り
49	10	2	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻	2			2	4	自然体験と気候変動学習を定点連続写真・録音で繋ぐ省察プロセスの解明	山中寮 内藤セミナー ハウス
50	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻	1			1	2	自然体験と気候変動学習を定点連続写真・録音で繋ぐ省察プロセスの解明	日帰り
51	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	1				1	全学体験ゼミナール「森のエネルギーを使いこなす」オンライン授業	日帰り
52	10	2	コールふじまりも				21	21	コーラスの練習	日帰り
53	10	1	東京大学生産技術研究所	2				2	演習林を利用した共同研究の打合せ	山中寮 内藤セミナー ハウス
54	10	1	東京大学生産技術研究所	3			2	5	演習林を利用した共同研究の打合せ	日帰り
55	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻	1			1	2	自然体験と気候変動学習を定点連続写真・録音で繋ぐ省察プロセスの解明	日帰り
56	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	2				2	環境教育素材の開発	山中寮 内藤セミナー ハウス
57	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	2				2	環境教育素材の開発	日帰り

## 2020年度 資料

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
58	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	1				1	「森林政策学演習」オンライン講義	日帰り
59	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	4			6	10	癒しの森の会打合せ	日帰り
60	10	1	東京都立大学都市環境科学研究科地理学域	1	1	2	1	5	修論研究のための植生調査 微地形から見る若木分布と植生更新	日帰り
61	10	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	8	17			25	全学体験ゼミナール「森のエネルギーを使いこなす」現地講義	日帰り
62	10	1	東京都立大学都市環境科学研究科地理学域	1	1	2		4	修論研究のための植生調査 微地形から見る若木分布と植生更新	日帰り
63	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻	1		2		3	アカマツ林とアカマツの生育状況の見学およびブミの果実採集	日帰り
64	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	4			6	10	癒しの森の会作業日	日帰り
65	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	2				2	環境教育素材の開発	山中寮 内藤セミナーハウス
66	10	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林風致計画学研究室	2				2	森林風景計画実習（オンライン受講者8名）	日帰り
67	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	2				2	環境教育素材の開発	日帰り
68	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	1				1	ドローン飛行練習	日帰り
69	11	1	東京都立大学都市環境科学研究科地理学域	1		2		3	修論研究のための植生調査 微地形から見る若木分布と植生更新	日帰り
70	11	1	山梨県富士山科学研究所富士山火山防災研究センター	1			2	3	掘削調査の予定地の下見と打ち合わせ	日帰り
71	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所			1		1	実証林研究現地検討	富士山中宿泊施設
72	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	2		1		3	実証林研究現地検討	日帰り
73	11	3	茨城大学理学部	6	89	9		104	茨城大学地球環境科学コース特別野外実習	山中寮 内藤セミナーハウス
74	11	1	茨城大学理学部	2	44	3		49	茨城大学地球環境科学コース特別野外実習	日帰り

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
75	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	4		8	1	13	森林政策学演習	山中寮 内藤セミナーハウス
76	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	4		8	1	13	森林政策学演習	日帰り
77	11	1	東京大学生産技術研究所森下研究室	1			13	14	OTOCARE Fuji Iyashi no Mori：音を介した森林空間と人の関係性に関する実験	山中寮 内藤セミナーハウス
78	11	1	東京大学生産技術研究所森下研究室	3		2	33	38	OTOCARE Fuji Iyashi no Mori：音を介した森林空間と人の関係性に関する実験	日帰り
79	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻	1			1	2	自然体験と気候変動学習を定点連続写真・録音で繋ぐ省察プロセスの解明	日帰り
80	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部	1				1	富士癒しの森研究所の降水量データの解析	日帰り
81	11	1	山梨県富士山科学研究所富士山火山防災研究センター	2				2	掘削予定地の確認（杭とロープで印をつける作業）	日帰り
82	11	1	東京都立大学都市環境科学研究科地理学域	1	1	2		4	修論研究のための植生調査 微地形から見る若木分布と植生更新	日帰り
83	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	4			8	12	癒しの森の会作業会	日帰り
84	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	4			8	12	癒しの森の会例会・総会	日帰り
85	11	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	1				1	「森林政策学演習」オンライン講義	日帰り
86	11	4	山梨県富士山科学研究所富士山火山防災研究センター	14			3	17	掘削調査（重機による掘削と、掘削後の調査・サンプリング）	日帰り
87	11	1	コールふじまりも				11	11	コーラスの練習	日帰り
88	12	4	山梨県富士山科学研究所富士山火山防災研究センター	23				23	掘削調査（重機による掘削と、掘削後の調査・サンプリング）	日帰り
89	12	1	山梨県富士山科学研究所富士山火山防災研究センター	9			5	14	掘削調査	日帰り
90	12	1	山梨県富士山科学研究所富士山火山防災研究センター	2			3	5	掘削調査(埋め戻し作業)	日帰り
91	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター	1				1	森林圏管理システム学 現地講義（リモート）の準備および当日	外部宿泊施設
92	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター	1				1	森林圏管理システム学 現地講義（リモート）の準備および当日	日帰り

2020年度 資料

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
93	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林風致計画学研究室	2	8	5		15	散策, 森林管理施業と風景管理に関する現地視察	山中寮 内藤セミナーハウス
94	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻森林風致計画学研究室	2	8	5		15	散策, 森林管理施業と風景管理に関する現地視察	日帰り
95	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林企画部	1				1	富士癒しの森研究所の降水量データの解析	日帰り
96	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科生物・環境工学専攻生物環境情報工学研究室	1				1	紛失したドローン捜索	日帰り
97	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	2		5 (5)		7 (5)	落葉焚き	山中寮 内藤セミナーハウス
98	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	2		5 (5)		7 (5)	落葉焚き	日帰り
99	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	10	1	6	1	18	落葉焚きによる森林管理	日帰り
100	12	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	3				3	海南大学特別講義(オンライン)	日帰り
101	12	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	10		29		39	総合科目「森林環境資源学」フィールドワーク「森と癒し」	日帰り
102	12	1	山梨県富士山科学研究所富士山火山防災研究センター				7	7	取材	日帰り
103	1	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	4			4	8	サウナを用いた森林空間の新たな活用策の検討	日帰り
104	2	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	4			3	7	山口育英奨学会による研修	山中寮 内藤セミナーハウス
105	2	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	1			2	3	山口育英奨学会による研修	日帰り
106	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属田無演習林	2				2	染色実験(「環境教育素材の開発」)	日帰り
107	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	2				2	林内視察	日帰り
108	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	5			7	12	樹木のハイスループットフェノタイピング方法の開発	山中寮 内藤セミナーハウス

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
109	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	5			9	14	樹木のハイスループットフェノタイピング方法の開発	日帰り
110	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	1				1	ドローン飛行練習	日帰り
111	3	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林教育研究センター	20		6	6	32	サイバーフォレスト国際シンポジウム&斎藤馨教授最終講義	山中寮 内藤セミナーハウス
112	3	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林富士癒しの森研究所	1				1	オンライン研究室訪問のインターネット中継	日帰り

※カッコ内の数値は外国人利用数を示す

利用者数合計	1156 (25)
利用件数	112

## 7) 樹芸研究所

No	月	日数	利用者所属	教職員	学生	院生	その他	計	利用目的	宿泊施設
1	4	2	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林	2		2		4	ナラ枯れがカミキリムシ相に及ぼす影響の解明	外部施設泊
2	4	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林	1		1		2	ナラ枯れがカミキリムシ相に及ぼす影響の解明	日帰り
3	7	1	JA 三井リース株式会社				1	1	温室によるカカオ栽培の見学	日帰り
4	7	1			1		2	3	熱帯・亜熱帯植物を見学するため	日帰り
5	7	1	国立環境研究所・環境計測研究センター・動態化学研究室	1				1	フタバガキによるハロゲン化メチル放出過程の研究	日帰り
6	8	1	一般				3	3	温室植物見学	日帰り
7	8	1	一般				1	1	温室植物見学	日帰り
8	8	1	静岡県立下田高校	1				1	温室見学	日帰り
9	8	1	青野櫻会事務局				2	2	下賀茂寮宿泊施設の物品整理	下賀茂寮宿泊施設
10	8	1	青野櫻会事務局				2	2	下賀茂寮宿泊施設の物品整理	日帰り
11	8	1	一般				2	2	温室植物見学	日帰り
12	9	1	一般				2	2	温室植物見学	日帰り
13	10	1	鹿児島大学農学部農林環境科学科	1		1		2	木材強度と成長性に優れた早生樹「コウヨウザン」の優良種苗生産技術の開発	日帰り
14	10	4	伝統工芸木炭生産技術保存会				24	24	駿河炭製炭研修会	外部施設泊
15	10	1	伝統工芸木炭生産技術保存会				6	6	駿河炭製炭研修会	日帰り
16	11	11	一般				66	66	狩猟	日帰り
17	11	1	森林総合研究所林木育種センター遺伝資源部探索取捨課				4	4	コウヨウザンの遺伝資源収集及び遺伝変異の解析	外部施設泊
18	11	1	森林総合研究所林木育種センター遺伝資源部探索取捨課				4	4	コウヨウザンの遺伝資源収集及び遺伝変異の解析	日帰り
19	11	1	一般				3	3	温室植物見学	日帰り
20	11	1	一般				2	2	温室植物見学	日帰り
21	12	10	一般				60	60	狩猟	日帰り
22	1	1	一般				2	2	温室植物見学	日帰り
23	1	11	一般				66	66	狩猟	日帰り
24	2	1	東京大学農学部国際開発農学専修3年		1			1	卒論打ち合わせ	日帰り
25	2	1	東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林	1				1	温室内試験植物の管理業務と各試験地の管理業務の指導を受ける	日帰り
26	2	10	一般				60	60	狩猟	日帰り
27	3	4	一般				24	24	狩猟	日帰り

※カッコ内の数値は外国人利用数を示す

利用者数合計 349

利用件数 27

## 1 2. 各演習林所在地および連絡先

演習林名 作業所名	郵便番号	住所	電話	FAX
企画部・ 教育研究センター	113-8657	東京都文京区弥生 1-1-1 農学部 1 号館 116 号室	03-5841-5497	03-5841-5494
千葉演習林	299-5503	千葉県鴨川市天津 770	04-7094-0621	04-7094-2321
清澄作業所	299-5505	千葉県鴨川市清澄 135	04-7094-0585	
札郷作業所	292-0537	千葉県君津市黄和田畑字前沢 1442-1	0439-39-3122	
郷台作業所	292-0533	千葉県君津市折木沢字相ノ沢 1542-1		
北海道演習林	079-1563	北海道富良野市山部東町 9 番 61 号	0167-42-2111	0167-42-2689
山部樹木園	079-1582	北海道富良野市字山部第一苗圃	0167-39-6017	
セミナーハウス	076-0161	北海道富良野市字麓郷市街地 1	0167-42-2111	
秩父演習林	368-0034	埼玉県秩父市日野田町 1-1-49	0494-22-0272	0494-23-9620
栃本作業所	369-1901	埼玉県秩父市大滝 3450-2	0494-55-0355	0494-55-0355
大血川作業所	369-1901	埼玉県秩父市大滝 5198	0494-54-1220	
影森苗畑	369-1871	埼玉県秩父市下影森 764	0494-23-9768	
田無演習林	188-0002	東京都西東京市緑町 1-1-8	042-461-1528	042-461-2302
生態水文学研究所	489-0031	愛知県瀬戸市五位塚町 11-44	0561-82-2371	0561-85-2838
赤津作業所	489-0014	愛知県瀬戸市北白坂町 1-1	0561-21-1185	
犬山作業所	484-0094	愛知県犬山市塔野地字大畔 178-2		
富士癒しの森研究所	401-0501	山梨県南都留郡山中湖村山中 341-2	0555-62-0012	0555-62-4798
樹芸研究所	415-0304	静岡県賀茂郡南伊豆町加納 457	0558-62-0021	0558-62-3170
青野作業所	415-0327	静岡県賀茂郡南伊豆町青野 851	0558-62-0254	

演習林年報

令和3年9月30日

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林  
文京区弥生1丁目1番1号